取扱説明書 アプリケーション編

FOMA® N900i

'04.4

ドコモ
W-CDMA方式

●このたびは、FOMA N900iをご利用いただきまして、まことにありがとうございます。この取扱説明書『アプリケーション編』では、iモードやメールをご利用になる際や静止画・動画などを閲覧・編集する際の操作方法、カメラ機能の利用方法、パソコンを利用したデータ通信の手順などを説明しています。FOMA N900iの取扱い方法、および電話機能の利用方法については、別冊の『基本編』をお読みください。

●ご利用の前に、あるいはご利用中に、この取扱説明書『アプリケーション編』および別冊の『基本編』をよくお読みいただき、FOMA N900iを正しく、効果的にお使いくださいますようお願いいたします。

FOMA端末のご使用にあたって

- FOMAは無線を使用しているため、トンネル・地下・建物の中などで電波の届かない所、屋外でも電波の弱い所およびサービスエリア外ではご使用になれません。また、高層ビル・マンション等の高層階で見晴らしのよい場所であってもご使用になれない場合があります。なお、電波が強くアンテナマークが3本たっている場合で、移動せずに使用している場合でも通話が切れる場合がありますので、ご了承ください。
- 公共の場所、人の多い場所や静かな場所などでは、まわりの方のご迷惑にならないようご使用ください。
- FOMA端末は電波を利用している関係上、第三者により通話を傍受されるケースもないとはいえません。しかし、W-CDMA方式では秘話機能をすべての通話について自動的にサポートしますので、第三者が受信機で傍受したとしても、ただの雑音としか聞きとれません。
- FOMA端末は、音声をデジタル信号に変換して無線による通信を行っていることから、電波状態の悪いところへ移動するなど送信されてきたデジタル信号を正確に復元することができない場合には、実際の音声と異なって聞こえる場合があります。
- お客様ご自身でFOMA端末に登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いします。万一、登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- お客様はSSLをご自身の判断と責任においてご利用することを承諾するものとします。お客様によるSSLのご利用にあたり、ドコモおよび別掲の認証会社はお客様に対しSSLの安全性等に関し何ら保証を行うものではなく、万一何らかの損害が発生したとしても一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
  認証会社：日本ベリサイン株式会社、日本ボルチモアテクノロジーズ株式会社
- このFOMA端末は、ドコモの提供するFOMAネットワーク以外ではご使用になれません。
  The FOMA terminal can be used only via the FOMA network provided by DoCoMo.

FOMA端末、FOMAカードをお使いになる前に、この取扱説明書をよくお読みの上、ご使用ください。また、電池パックおよびアダプタ(充電器含む)をお使いになる前には、機器に添付の個別の取扱説明書をよくお読みの上、ご使用ください。なお、取扱説明書にご不明な点がございましたら、下記にお問い合わせください。

○お問い合わせ先(ドコモグループ各社)

ドコモの携帯電話、PHSからの場合

(局番なしの) 151 (無料)

※一般電話からはご利用になれません。

一般電話等からの場合

0120-800-000

※ドコモの携帯電話、PHSからもご利用になれます。

※ダイヤルの番号をよくご確認の上、お間違いないようおかけください。

この『**FOMA N900i**取扱説明書アプリケーション編』の本文中においては、『**FOMA N900i**』を『FOMA端末』と表記させていただいております。あらかじめご了承ください。

著作権について／商標について

著作権・肖像権について

FOMA端末を利用して撮影または録音等したもの、またサイト（番組）やインターネットホームページの情報は、個人で楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。利用者自身が複製対象物について著作権を有しているか、あるいは複製等について著作権者等から許諾を受けている等の事情がないにもかかわらず、この範囲を超えて複製や編集、および複製物・編集物を使用した場合には、著作権法等を侵害することになり、著作権者等から損害賠償請求等を請求されることとなりますので、そのような利用はお控えください。
FOMA端末を利用して撮影または録音等したものを複製、編集等する場合は、上記著作権侵害にあたる利用方法はお控えいただくことはもちろん、他人の肖像を勝手に使用、改変等すると肖像権を侵害することとなりますので、そのような利用方法もお控えください。
なお、実演や興行、展示物などのなかには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影または録音等が禁止されている場合がありますので、ご注意ください。
また、撮影または録音等したものをインターネットホームページなどで公開する場合も、著作権や肖像権に十分ご注意ください。

商標・登録商標について

本書に記載している会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

・「FOMA／フォーマ」「mova／ムーバ」「iモード」「iアプリ／アイアプリ」「iアプリDX」「mopera／モペラ」「ドライブモード」「XWave／エックスウェーブ」「マルチアクセス」「iメロディ／アイメロディ」「iエリア／アイエリア」「iモーション／アイモーション」「iモーションメール／アイモーションメール」「着モーション」「デコメール／デコレーションメール」「キャラ電」「iアニメ／アイアニメ」「iアプリサーチ／アイアプリサーチ」「iショット／アイショット」「musea／ミュゼア」「Dopa／ドゥーパ」「ショートメール」および「FOMA」「i-mode」ロゴはドコモの商標または登録商標です。
・miniSD™はSDアソシエーションの商標です。
・JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標です。
・QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
・本製品はMacromedia, Inc.のMacromedia® Flash™ テクノロジーを搭載しています。
Copyright© 1995-2004 Macromedia, Inc. All rights reserved.
Macromedia、Flash、Macromedia FlashはMacromedia, Inc.の米国内外における商標または登録商標です。
・MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
・Windows® Meは、Microsoft® Windows® Millennium Edition operating systemの略です。
・Windows® 98は、Microsoft® Windows® 98 operating systemの略です。
・Windows® 98 SEは、Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating systemの略です。
・Windows® 2000 Professionalは、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating systemの略です。
・Windows® XPは、Microsoft® Windows® XP Professional operating system、またはMicrosoft® Windows® XP Home Edition operating systemの略です。
・"Dimo" はBuena Vista Internet Groupの商標または登録商標です。
・© 1986-2004 ARMOR PROJECT/BIRD STUDIO/CHUNSOFT/SQUARE ENIX All Rights Reserved.
・© 2004 DEVILROBOTS

取扱説明書の見かた

『アプリケーション編』(本書)では次のことについて説明しています。

「はじめに」：

iモードやマルチメディア機能を利用する前に知っていただきたいことを説明しています。

・各部の名称や機能のご紹介
・FOMAカードの動作制限について
・iモードパスワードなどの暗証番号について

など

「iモード編」：

iモードのサイト(番組)の利用のしかたやiアプリのソフトの利用のしかた、メッセージサービス(メッセージリクエスト／フリー)の利用のしかたなどについて説明しています。

「メール編」：

iモードメールの利用のしかたやショートメッセージサービス(SMS)の利用のしかたなどについて説明しています。

「マルチメディア編」：

カメラ機能での撮影方法や静止画、動画／iモーションの利用のしかた、キャラ電の操作のしかたなどについて説明しています。

「FOMA端末データ交換編」：

赤外線などを使ったデータの送受信やminiSDメモリーカードの利用のしかたについて説明しています。

「データ通信編」：

パソコンを利用したFOMA端末のパケット通信機能や64Kデータ通信について説明しています。

「付録」：

用語の一覧などを記載しています。

「困ったときには」：

故障と思われたときなどの対処のしかたなどを記載しています。

●ご使用の前に、『基本編』の「安全上のご注意」および「取扱い上のお願い」を必ずお読みの上、正しくお使いください。

●『基本編』ではFOMA端末の基本的な操作方法を説明していますので、はじめてFOMA端末をご利用になる場合は必ず『基本編』をお読みになってから本書をお読みください。

『アプリケーション編』のほかにも、FOMA端末には次の取扱説明書が添付されています。

『基本編』

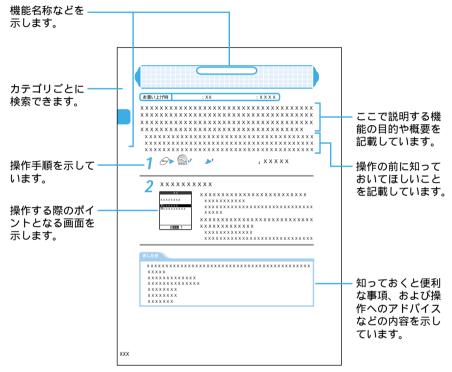
・FOMA端末の基本機能やネットワークサービスについて説明しています。

これらの取扱説明書はなくさないよう大切に保管してください。

本書の見かた

本書の記載について

本書では次のような記載をしています。
それぞれの記載の意味を十分に理解され、本書をより有効にご活用ください。

本書ではメニュー機能からの操作手順などは「Menu ▶ アクセサリ ▶「カメラ」の順に選ぶ」というように説明しています。実際の操作方法については「メニューについて」内の「メニュー操作の表記について」(『基本編』のP.49)を参照してください。

ディスプレイの表示について

- 本書では、画面を見やすくするために「待受画面」の設定を「OFF」(『基本編』のP.177)にした状態で記載しています。また、操作説明の画面は説明に必要な部分をクローズアップして記載していることがあります。
- 本書は、主にお買い上げのときの設定をもとに説明していますので、お買い上げ後の設定の変更によってFOMA端末の表示が本書での記載と異なる場合があります。
- 本書で掲載している画面はイメージであるため、実際の画面とは異なる場合があります。

Windowsの表記について

- 本書では、Windows® 98とWindows® 98 SEをWindows 98と記載しています。
- 本書では、Windows® 2000 ProfessionalをWindows 2000と記載しています。

目　次

はじめに

iモード編

インターネット接続サービス

iアプリ

キャラ電

iモーション

メッセージサービス

便利な機能

iモード設定

アプリケーション通信設定

メール編

メール機能

iモードメールの作成/送信

iモードメールの受信/返信/転送

SMSの作成/送信

SMSの受信/返信/転送

メールの応用機能

メール設定

メール通信設定

オプション設定

マルチメディア編

カメラ

アクセスリーダー

バーコードリーダー

フォルダについて

イメージビューア

FOMA端末データ交換編

データ通信編

付録

付録

困ったときには

困ったときには

はじめに

各部の名称と機能

本書では、各ボタンを次のようなアイコンで表しています。

●本書で利用する機能を中心に記載しています。各部の機能については『基本編』の「各部の名称と機能」（P.32）もご覧ください。

マルチファンクションボタン

上ボタン

- カーソルまたは反転表示を上方向（逆方向）へ移動させます。
- 表示内容を上方向へスクロールさせます。押し続けると連続スクロールになります。

左ボタン

- カーソルを左方向へ移動させます。
- 表示内容を画面単位で前の画面へスクロールさせます。
- メールの詳細画面を表示中に1秒以上押すと、本文の文字が縮小表示されます。→P.149

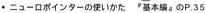
右ボタン

- カーソルを右方向へ移動させます。
- 表示内容を画面単位で次の画面へスクロールさせます。
- メールの詳細画面を表示中に1秒以上押すと、本文の文字が拡大表示されます。→P.149

下ボタン

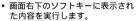
- カーソルまたは反転表示を下方向へ移動させます。
- 表示内容を下方向へスクロールさせます。押し続けると連続スクロールになります。

ニューロポインターボタン※

- ニューロポインターの使いかた→『基本編』のP.35

ファンクションボタン1※

- 画面左下のソフトキーに表示された内容を実行します。

マルチボタン

- タスクメニューを表示します。
- マルチタスク中に1秒以上押すと、タスク（機能）を切り替えられます。

開始ボタン※

＊／ドライブモードボタン※

- 「＊」や「http://」などの文字列を入力します。

テレビ電話ボタン※

ファンクションボタン2※

- 画面右下のソフトキーに表示された内容を実行します。

メニューボタン※

- メインメニューを表示します。

電源／応答保留／終了ボタン

- iモードメニューやメールメニュー、iアプリメニューを終了します。

戻る（クリア）ボタン※

- ページの読み込みを中止します。
- メッセージリクエスト／フリーの受信中、iモードメールの送受信中、iモード問い合わせ中に1秒以上押すと、各操作を中止します。

＃／マナーボタン※

- 「＃」や記号を入力します。

ダイヤルボタン※ 0 〜 9

- 文字や数字を入力します。

※：これらのボタンの説明については、『基本編』の「各部の名称と機能」（P.32）もご覧ください。

ディスプレイ表示部の見かた

■ディスプレイ

1、2、7、14、16

self

→『基本編』のP.37

3 未読メールあり→P.177
受信BOX満杯→P.178
FOMAカードのSMS満杯→P.216
未読メールあり／FOMAカードのSMS満杯→P.216
受信BOX満杯／FOMAカードのSMS満杯→P.178、P.216

4 未読メッセージリクエストあり→P.102
メッセージリクエスト満杯→P.103

5 未読メッセージフリーあり→P.102
メッセージフリー満杯→P.103

6 iモードセンターにメールあり→P.180
iモードセンターのメール満杯→P.180
「メール選択受信設定」が「ON」に設定されているときにiモードセンターにメールあり→P.179
iモードセンターにメッセージリクエストあり→P.104
iモードセンターのメッセージリクエスト満杯→P.104
iモードセンターにメッセージフリーあり→P.104
iモードセンターのメッセージフリー満杯→P.104

8 iモード中→P.32
iモード通信中→P.32
パケット通信中→P.414
パケット通信中（発信）→P.414
パケット通信中（着信）→P.414
パケット通信中（データ送信中）→P.414
パケット通信中（データ受信中）→P.414

9 SSL対応のページを表示中→P.47

10 USBケーブル接続中→P.383
miniSDリーダライタ(miniSDモード)使用中→P.467

11 赤外線通信中→P.341
赤外線リモコン操作中→P.349

12 miniSDメモリーカード取り付け時→P.363
miniSDメモリーカード(不正)取り付け時→P.363
miniSDリーダライタ使用中→P.467

13 64Kデータ通信中→P.378、P.414
→『基本編』のP.37

15 iアプリ実行中→P.72
iアプリ待受画面表示中→P.85
iアプリDX実行中→P.72
iアプリDX待受画面表示中→P.85

17 マルチファンクションボタンそれぞれのボタンが使えるときに表示

18 サイトのページやメール、メッセージリクエスト／フリー、メニューなどを表示します。

■イルミネーション・ウィンドウ

1 →『基本編』のP.38
2 →『基本編』のP.38
3 未読メールあり→P.177
受信BOX満杯→P.178
FOMAカードのSMS満杯→P.216
未読メールあり／FOMAカードのSMS満杯→P.216
受信BOX満杯／FOMAカードのSMS満杯→P.216
4 iモードセンターにメールあり→P.180
iモードセンターのメール満杯→P.180
「メール選択受信設定」が「ON」に設定されているときにiモードセンターにメールあり→P.179
iモードセンターにメッセージリクエストあり→P.104
iモードセンターのメッセージリクエスト満杯→P.104
iモードセンターにメッセージフリーあり→P.104
iモードセンターのメッセージフリー満杯→P.104

5 →『基本編』のP.38
6 iモード中→P.32
iモード通信中→P.32
パケット通信中→P.414
パケット通信中(発信)→P.414
パケット通信中(着信)→P.414
パケット通信中(データ送信中)→P.414
パケット通信中(データ受信中)→P.414
7 SSL対応のページを表示中→P.47
→『基本編』のP.38
8 miniSDメモリーカード取り付け時→P.363
miniSDメモリーカード(不正)取り付け時→P.363
miniSDリーダライタ使用中→P.467
9 USBケーブル接続中→P.383
miniSDリーダライタ(miniSDモード)使用中→P.467
10 赤外線通信中→P.341
赤外線リモコン操作中→P.349
11 64Kデータ通信中→P.378、P.414
→『基本編』のP.38

イルミネーション・ウィンドウ(背面ディスプレイ)の見かた

イルミネーション・ウィンドウには、電話やメールなどの着信やアラーム通知などが、メッセージやアニメーションで表示されます。

●イルミネーション・ウィンドウは、メールを受信したときなどに、次のような表示になります(メール表示を「ON」に設定している場合)。

●イルミネーション・ウィンドウの詳細およびこれ以外の表示例については、『基本編』のP.38、P.40をご覧ください。

■ 新しいメールを受信したとき

■ 受信したメールの題名と送信元を確認するとき

[ホーム]を押すと送信者名(またはメールアドレス)、題名の順にテロップ表示されます。

■ 不在着信と新着メールがあるとき

[ホーム]を押すごとに、相手の電話番号、メールの送信元などを順に確認できます。

■ パケット通信中/64Kデータ通信中表示

パケット通信中または64Kデータ通信中に、通信の種類を表示します。

パケット通信中　　64Kデータ通信中

■ カメラ動作中

カメラ動作中　　動画撮影中

■ FOMA端末データ交換(赤外線通信、OBEX)使用中

★赤外線通信中★

マルチアクセス／マルチタスク

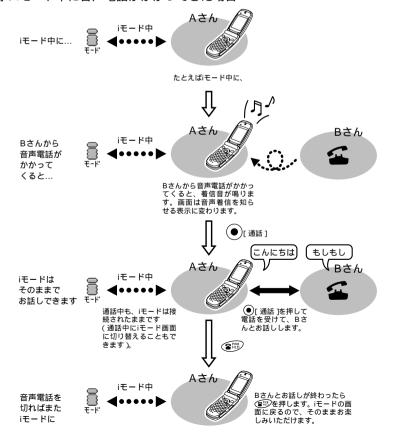
FOMA端末に、複数の通信を同時に利用したり(マルチアクセス)、複数のタスクを同時に起動させたり(マルチタスク)することができます。

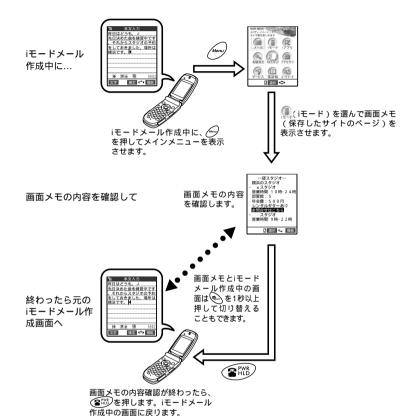
● マルチアクセス、マルチタスクについて詳しくは『基本編』のP.261、P.265をご覧ください。

マルチアクセス

音声電話とパケット通信(iモードの通信やパソコンをつないだデータ通信)の複数の通信を同時にご利用いただけます。
音声通話中にメールの送信や受信をしたり、iモード中に音声電話をかけたり受けたりすることができます。

● iアプリはマルチアクセスに対応していません。
● マルチアクセスとは別に、SMSも使用することができます。

<例：iモード中に音声電話がかかってきた場合>

マルチタスク

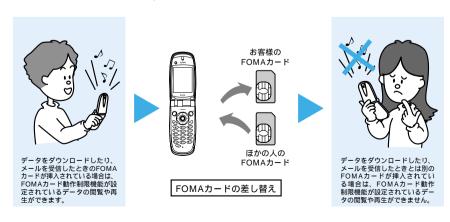
音声電話とほかのタスクを3つまで、同時に起動させることができます。
音声電話やiモードの通信をしたままでメールを編集したり、電話帳を編集・確認したりできます。

FOMAカード動作制限機能

FOMAカード動作制限機能とは、お客様のデータやファイルを保護するためのセキュリティ機能です。サイトやインターネットホームページからダウンロードしたり、iモードメールに添付されているデータやファイルを取得すると、FOMAカード動作制限機能が自動的に設定されます。FOMAカード動作制限機能が設定されたデータやファイルは、取得時に挿入していたFOMAカードが挿入されているときのみ、閲覧／再生／編集／メールへの添付／赤外線通信機能によるデータの送信などを行うことができます。
別のFOMAカードに差し替えると、FOMAカード動作制限機能が設定されたデータやファイルには「」が表示され、上記の操作ができなくなります。

●FOMAカード動作制限機能の対象となるデータやファイルは次のとおりです。
- サイトやインターネットホームページからダウンロードしたiアプリ／メロディ／画像／キャラ電／ダウンロード辞書
- サイトやインターネットホームページから取り込んだiモーション
- メロディ／画像／iモーション／キャラ電／ダウンロード辞書が含まれている画面メモ
- 受信BOX内のiモードメールに添付されている、または貼り付けられているファイル(メロディ／画像／動画やiモーション)
- 送信BOX／保存BOX内のiモードメールに添付されているファイル(メロディ／画像／iモーション。ただし、本FOMA端末で作成または撮影したデータは除く)
- ファイル(メロディ／画像)が添付されている、または貼り付けられているメッセージリクエスト／フリー

●FOMAカード動作制限機能が設定されたデータやファイルは、別のFOMAカードを挿入した状態でも移動したり削除することはできます。

●赤外線通信機能やデータの送受信(OBEX)機能、miniSDメモリーカードを使って受信したデータ、内蔵カメラで撮影した写真(静止画)／連続写真／動画には、FOMAカード動作制限機能は設定されません。

おしらせ

- FOMAカード動作制限機能が設定されたデータやファイルを「画面表示設定」や「着信音選択」などに設定した場合、ほかの人のFOMAカードに差し替えたり、FOMAカードを抜いたままFOMA端末の電源を入れるとお買い上げのときの設定で動作します。たとえば、FOMAカード動作制限機能が設定されている「メロディA」を着信音に設定した場合、「着信音選択」で表示される設定内容は「メロディA」になりますが、実際に着信があったときにはお買い上げのときに設定されていた着信音が鳴ります。お客様のFOMAカードを挿入し直すと、「メロディA」の着信音に戻ります。
- あらかじめ登録されているiアプリでも、一度削除して再度サイトからダウンロードしたり、バージョンアップすると、本機能の対象になります。
- iモードメールのメール詳細画面からiアプリを起動したりiモーションを取り込む場合も、FOMAカード動作制限機能が設定されていると、起動や取り込みができません。
- 別のFOMAカードに差し替えると、イメージビューアおよびムービープレーヤーではFOMAカード動作制限機能が設定された画像や動画は右のように表示されます。

FOMAカードのバージョンについて

FOMAカードには2種類のバージョンがあります。本FOMA端末で「FOMAカード(青色)」をご使用になる場合、「FOMAカード(緑色)」と次のような機能差分がありますのでご注意ください。

機能	FOMAカード(青色)	FOMAカード(緑色)	参照ページ
FOMAカードの電話帳に登録できる電話番号の桁数	最大20桁	最大26桁	『基本編』のP.106
FirstPassを利用するためのユーザ証明書操作	利用不可	利用可	P.48
WORLD WING	利用不可	利用可	下記

WORLD WINGについて

WORLD WINGとは、FOMAカード(緑色)をサービス対応の海外用携帯電話(GSM方式)に差し替えることにより、海外でのご利用時も、日本で契約している携帯電話番号のままで発信や着信ができる、ドコモのFOMA国際ローミングサービスです。WORLD WINGのご利用にはお申し込みが必要です。詳しくは、下記にお問い合わせください。

○お問い合わせ先(ドコモグループ各社)

ドコモの携帯電話、PHSからの場合

(局番なしの) 151 (無料)

※一般電話からはご利用になれません。

一般電話等からの場合

0120-800-000

※ドコモの携帯電話、PHSからもご利用になれます。

※ダイヤルの番号をよくご確認の上、お間違いないようおかけください。

暗証番号について

FOMA端末には、便利にお使いいただくための各種機能に次のような暗証番号の必要なものがあります。

種　類	説　明
iモードパスワード	iモードセンターに接続して操作する機能を利用するときに必要な暗証番号です。
端末暗証番号	FOMA端末の機能を操作するときに必要な暗証番号です。
ネットワーク暗証番号※	ドコモのネットワークサービスを利用するときに必要な暗証番号です。
PIN1コード※ PIN2コード※	FOMAカードを不正に使用されないための4～8桁の暗証番号(コード)です。

※：ネットワーク暗証番号、PIN1コード、PIN2コードについては『基本編』のP.195をご覧ください。

●これらの暗証番号を万一お忘れになったときは、FOMA端末、およびご契約されたご本人であるかどうかが確認できるもの(運転免許証など)を当社窓口までご持参いただくことが必要になりますのでご注意ください。

端末暗証番号について

端末暗証番号とは、セキュリティ機能の設定、データの削除、設定のリセットなどを行うときに必要となる4～8桁の暗証番号です。お買い上げのときは、「0000」(数字のゼロ4つ)に設定されています。お客様のお好みで、FOMA端末から自由に端末暗証番号を変更できます。→『基本編』のP.194

FOMA端末の保存／登録および保護件数

FOMA端末に、iモードメールやSMS、メッセージリクエスト／フリー、ブックマーク、画面メモ、URL履歴、iアプリのソフト、iモーションなどを保存・登録、保護することができます。

● 次の表は、それぞれの保存・登録、保護できる最大件数を示しています。各機能の詳細については、表中の参照ページをご覧ください。

		保存・登録件数	保護件数	参照ページ
メール (iモードメール、SMS)	受信メール※1	21～1,000※2、※3	最大500※2	P.177、P.196
	送信メール	20～400※2、※3	最大200※2	P.152、P.193
	保存メール	10	―	P.155、P.193
	受信BOXフォルダ	30 (お買い上げのときのフォルダ含む)	―	P.146、P.201
	送信BOXフォルダ	6※4 (お買い上げのときのフォルダ含む)	―	P.146

		保存・登録件数	保護件数	参照ページ
メール（iモードメール、SMS）	冒頭文	1	－	P.161、P.222
	署名	1	－	P.161、P.222
	引用符	1	－	P.222
メッセージ	リクエスト	20～100※2	最大50※2	P.102
	フリー	10～100※2	最大50※2	P.102
ブックマーク	ブックマーク	100	－	P.53
	ブックマークフォルダ	10（お買い上げのときのフォルダ含む）	－	P.55
画面メモ		3～100※2	最大50※2	P.57
URL履歴		10	－	P.64
iアプリのソフト		10～200※2	－	P.68
キャラ電		6（あらかじめ登録されているキャラ電を含む）	－	P.92
動画／iモーション	INBOX	合計3～100※2	－	P.95、P.190
	カメラ		－	P.246
	ユーザ作成フォルダ		－	P.287
メロディ（iメロディ）	INBOX	合計20～160※2	－	P.115、P.188
	ユーザ作成フォルダ			P.287
画像（フレーム画像を含む）、アニメーション	INBOX	合計3～400※2	－	P.114、P.187
	カメラ		－	P.246
	ユーザ作成フォルダ		－	P.286

※1：受信メールには、取り込んだ動画／iモーションも含まれます。
※2：保存・登録、保護できる最大件数は、データ量によって変わります。ファイルサイズの大きなデータを保存・登録したときは、保存・登録、保護できる件数が少なくなります。
※3：SMSは、受信SMSと送信SMSを、FOMAカードにさらに合計20件まで保存することができます。→P.215
※4：メール連動型iアプリをダウンロードすると追加されます。手動での追加はできません。

お願い

送受信したSMSやiモードメール、受信したメッセージリクエスト／フリー、ブックマーク、画面メモ、URL履歴、冒頭文、署名や電話帳などに登録した内容は、必要に応じて別にメモを取り、保存してくださるようお願いします。登録された内容は電池パックを外した状態および空の状態でも約1ヶ月間は持ちますが、それ以上経過すると内容が消失してしまう可能性があります。また、FOMA端末の故障・修理・電話機の変更やその他取扱いによって登録内容が消失してしまう場合もあります。

万一、登録した内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

●iモード編

この取扱説明書で掲載している画面はイメージであるため、実際の画面とは異なる場合があります。

iモードとは

iモードでは、iモードメールやiモード対応FOMA端末（以下iモード端末）のディスプレイを利用して、サイト（番組）接続、インターネット接続などのオンラインサービスをご利用いただけます。

■ サイト（番組）接続

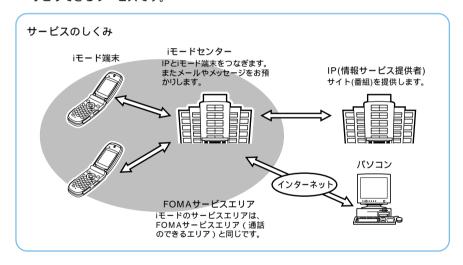
簡単なボタン操作で、IP（情報サービス提供者）が提供するさまざまなサイトを利用できるサービスです。

■ インターネット接続

iモード端末からインターネットに接続し、iモード対応のホームページにアクセスできるサービスです。

■ iモードメール

iモード端末はもちろん、インターネットを経由してe-mail（電子メール）ともメールをやりとりできるサービスです。

サービスのしくみ

iモードはお申し込みが必要な有料サービスです。お申し込みに関するお問い合わせは

○**お問い合わせ先（ドコモグループ各社）**

ドコモの携帯電話、PHSからの場合

（局番なしの）151（無料）

※一般電話からはご利用になれません。

一般電話等からの場合

携帯・PHS OK 0120-800-000

※ドコモの携帯電話、PHSからもご利用になれます。

※ダイヤルの番号をよくご確認の上、お間違いないようおかけください。

おしらせ

- FOMAサービスをご契約いただきますと、当日よりすべてのサービスがご利用になれます。
- movaサービス（iモードをご契約）からFOMAサービスへ契約を変更された場合、movaサービスでご利用いただいていた「マイメニュー」の内容は引き継がれます。ただし、サイトによってはFOMAに「マイメニュー」が引き継がれない場合もありますので、その場合は再登録をしてください。なお、「マイメニュー」引継対応サイトについては、iMenu内の「お知らせ＆ヘルプ」で確認できます。
- movaサービス（iモードをご契約）からFOMAサービスへ契約を変更された場合、iモードメールアドレスはそのままご利用になれます。
- iモードは、送受信した情報量（パケット数）に応じて課金されるサービスです。本書では、料金に関する情報は記載しておりません。利用料金については、iモードご契約時にお渡しする『FOMA iモード操作ガイド』をご覧ください。
- iモードのサービス内容は変更することがありますので、詳しくは『FOMA iモード操作ガイド』をご覧ください。

メインメニューのメールグループとiモードグループについて

アイコン	アイコン名	説　明	参照ページ
メール	メール	メールメニューを表示します。	P.141
iモード	iモード	iモードメニューを表示します。	下記
iアプリ	iアプリ	iアプリメニューを表示します。	P.67

iモードメニューについて

iモードメニュー
1 iMenu
2 Bookmark
3 画面メモ
4 ラストURL
5 Internet
6 メッセージ
7 iモード問い合わせ
8 ユーザ証明書操作
9 iモード設定
選択

項　目	説　明	参照ページ
1 iMenu	iモードセンターへ接続すると、最初に表示されるページです。ここから各サイト（番組）や「週刊iガイド」などへアクセスします。	P.26、P.43
2 Bookmark	お気に入りのホームページアドレスをiモード端末に登録しておくと、次回から直接アクセスできます。	P.53
3 画面メモ	iモード端末に保存されたiモードの画面を見ることができます。	P.57
4 ラストURL	最後に表示したサイトやインターネットホームページを表示します。	P.61
5 Internet	ホームページアドレスを直接入力することでインターネットのiモード対応ホームページに接続することができます。	P.62
6 メッセージ	受信したメッセージリクエスト／フリーを表示します。メッセージサービスは、欲しい情報が自動的にiモード端末に届くサービスです。	P.105
7 iモード問い合わせ	iモードセンターにiモードメールやメッセージリクエスト／フリーが保管されているかどうか問い合わせをします。	P.104
8 ユーザ証明書操作	FirstPassセンターに接続して、ユーザ証明書の発行申請やダウンロードなどを行います。	P.48
9 iモード設定	iモードに関係するFOMA端末の設定を行います。	P.117

サイト(番組)接続サービス

簡単なボタン操作でサイトに接続して、IP(情報サービス提供者)が提供する各種オンラインサービスをご利用いただけます。
たとえば、銀行の残高照会・振込、チケット予約、ニュース、辞書検索、着信メロディのダウンロードなど、さまざまなオンラインサービスがあります。

■サイトを表示するには

iモードセンターに接続すると、最初にiMenuが表示されます。ここから各サイトや「週刊iガイド」などへアクセスします。
サイトの表示方法は→P.42

画面はイメージです。設定によっては、表示が異なる場合があります。

項　目	説　明
1マイメニュー	よく利用するサイトを登録しておくと、次回から簡単にサイトに接続できます(P.52、P.53)。有料サイトなどは申し込み時に自動的に登録され、合わせて45件まで登録できます。
2週刊iガイド	新着サイトやおすすめサイトなど、最新のサイト情報を月〜金曜日の毎日更新して掲載します。
3メニューリスト	すべてのサイトをジャンル別・地域別に紹介するリストです。ここから見たいサイトを選んで接続できます。
4とくするメニュー	楽しいキャンペーン情報、プレゼントやお得な割引クーポン情報などが掲載されています。毎週情報が更新されます。(提供:D2コミュニケーションズ)
5iエリア	場所やその周辺に関する天気・地図・タウン情報などを簡単にご利用になれます。
6かんたん検索	・iアプリサーチ iアプリを情報料が無料のものやゲームができるものなど、利用シーン別に紹介しています。 ・便利サイトサーチ メニューリストの中から、日常的に利用できる便利な実用系サイトを利用シーン別にピックアップして掲載します。
7マイボックス	サービスを提供するお店やサイトにあらかじめ登録することにより簡単にアクセスする会員向けのサービスです。一度登録すると簡単にアクセスできるようになります。
8オプション設定	iモードメールの設定やiモードパスワードの変更などを行います。
9お知らせ&ヘルプ	ドコモからのお知らせや、iモードの利用方法やご利用規則を掲載しています。
English	iMenuを英語表記に変更します。

おしらせ

- サイトによっては、ご利用になるために情報料が必要なもの(iモード有料サイト)があります。
- IPが提供するサービスには、ご利用の際に別途お申し込みが必要なものがあります。
- iモードアイコンが点滅していても、iモードセンターとの通信中以外は、パケット通信料はかかりません。
- デュアルネットワークサービスご契約の場合、iMenu画面などが一部異なります。

こんなこともできます

■ iモーション

iモードのサイトから映像や音をiモード端末に取り込み、再生したり、待受画面として楽しむことができます。

- iモーションを取り込むには→P.95
- iモーションを再生するには→P.95
- iモーションを自動再生設定するには→P.119

iモーションを取り込むには、iモードセンターを経由するパケット通信と、経由しないデジタル通信の2種類があります。

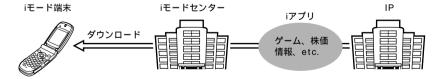
■ 着モーション

iモードのサイトからiモーションをiモード端末に取り込み、着信音に設定できます。メロディだけではなくお好きな歌手などの歌声なども着信音としてご利用いただけます。
一部の対応していないiモーションは着モーションに設定できません。

- 着モーションを設定するには→『基本編』のP.163

■ iアプリ

iアプリをサイトからダウンロードする（取り込む）ことにより、iモード端末をより便利に活用いただけます。たとえば、iモード端末にいろいろなゲームをダウンロードして楽しんだり、株価情報のiアプリをダウンロードすることにより、株価を定期的に自動チェックすることなどが可能です。また、地図のiアプリでは必要なデータだけをダウンロードするため、スムーズなスクロールが可能です。

- iアプリをダウンロードするには→P.68
- iアプリを実行するには→P.72
- iアプリを自動起動するには→P.78

■ iアプリ待受画面

iアプリ待受画面では、iアプリを待受画面として利用することができ、そのままメールを受信したり、電話をかけることも可能です。ニュースや天気の最新情報を待受画面に表示させたり、お好みのキャラクタがメール受信やアラームを知らせてくれたり、より便利な待受画面にすることも可能です。

- iアプリ待受画面を設定するには→P.85、『基本編』のP.177

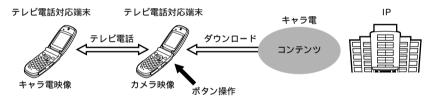
■ iアプリDX

iアプリDXでは、iモード端末の情報（メールや発着信履歴、電話帳データなど）と連動することにより、お好みのキャラクタ画面でメールを作成したり、着信時にキャラクタのコメントで誰からの着信かを知らせたり、メールと連動して株価などの欲しい情報やゲームの進行がよりリアルタイムに更新されるなど、iアプリをより便利に楽しく利用することが可能です。

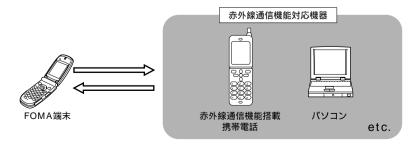
・iアプリDXとは→P.65

■ キャラ電

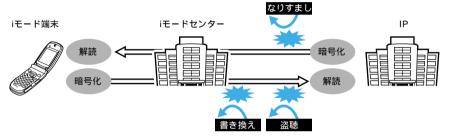
テレビ電話利用時に相手のテレビ電話対応端末に自分の映像を映す代わりにキャラクタを表示させ、キャラクタが音に反応して口を動かしたり、ボタン操作でキャラクタを動作させたりできます。お好きなキャラクタをダウンロードし、そのキャラ電を撮影した静止画・動画ファイルを待受画面に設定したり、メールに添付して送ることもできます。
メール添付やFOMA端末外への出力が禁止されている画像ファイル・動画ファイルは送信できません。

・キャラ電をダウンロードするには→P.93
・キャラ電を確認するには→P.324
・キャラ電を設定するには→P.324
・キャラ電を操作するには→P.325
・キャラ電を撮影するには→P.327

■ 赤外線通信機能

赤外線通信機能が搭載された携帯電話、パソコンなどと電話帳やメール、ブックマークなどを送受信することができます。※
また、iアプリで赤外線通信を利用することにより、赤外線通信機能が搭載された機器と連動して、より広がった使いかたができます。
※：相手の機器によっては、赤外線通信機能が搭載されていても通信できないデータがあります。

赤外線通信機能を利用するには→P.340

■ **SSL通信**

SSLとはSecure Sockets Layerの略で、認証／暗号技術を使用して、プライバシーを守ってより安全にデータ通信を行う方式のことです。SSLページではデータを暗号化して送受信することにより、通信途中での盗聴、なりすまし※や書き換えを防止し、クレジットカード番号や住所などお客様の個人情報をより安全にやり取りできるようにしています。SSL通信には、iモード端末から特別な操作なしに、端末内に保存されているCA（Certification Authority）証明書（以降「SSL証明書」）を利用してSSLに対応したサイト（SSLページ）を表示するものと、FirstPassセンターからダウンロードしたユーザ証明書を利用してSSLに対応したサイト（SSLページ）を表示するものと2つあります。なお、サイトによって使用する証明書は異なります。

・iモード端末に保存されているSSL証明書を利用してページを表示するには→P.46
・FirstPassのユーザ証明書を利用するには→P.48

※なりすまし：第三者がサイトになりすまして、不正にお客様の情報を入手したりすることです。

■ **FOMAカード動作制限機能**

お客様の情報（電話番号、電話帳（一部）など）を保存しているFOMAカードを、iモード端末に挿入して、サイトからダウンロードしたりメールから取得したメロディ・静止画・動画などのファイルを動作制限します。また、別のFOMAカードに差し替えたり、またはFOMAカードを挿入していない状態で電源を入れた場合、取得したファイルの再生や表示をできなくする機能です。

FOMAカード動作制限機能については→P.19

■ **iメロディ**

サイトから最新の曲やお好みの曲をiモード端末にダウンロードし、着信音として利用できます。→P.115

iモーションも着モーションとして設定でき、メロディだけではなくお好きな歌手の歌声と動画なども着信音、着信画像としてご利用いただけます。→P.94

■ **画像、アニメーション**

サイトからお好みの画像やアニメーションをiモード端末にダウンロードして、待受画面やウェイクアップ表示などに設定できます。→P.113

■ ダウンロード辞書

サイトから方言や専門用語などの辞書をiモード端末にダウンロードして、変換用辞書として設定できます。→P.113

■ メッセージサービス

メッセージサービスを提供するサイトにお申し込みいただくことにより、欲しい情報(メッセージ)が自動的にお客様のiモード端末に届くサービスです。

メッセージサービスには、メッセージリクエストとメッセージフリーがあります。

メッセージリクエスト	メッセージサービスを提供するサイトでお申し込みいただくと、欲しい情報が自動的に届けられるメッセージです。
メッセージフリー	オプション設定で受信設定をすると、パケット通信料無料で届けられるメッセージです。

メッセージサービスの受信方法は→P.102、P.104

電源が入っていない場合や「圏外」が表示されている場合などで受信できないときは、メッセージリクエスト／フリーはiモードセンターに保管されます。

・iモードセンターでのメッセージの保管件数、保管期間は次のとおりです。最大保管件数、最大保管期間を超えた場合は、最も古いメッセージから順に削除されます。

	最大保管件数	最大保管期間
メッセージリクエスト	300件	72時間
メッセージフリー	300件	72時間

・iモードセンターに保管されたメッセージリクエスト／フリーは、iモード問い合わせにより受信できます。→P.104

■iモードパスワード

有料サイトの申し込みやマイメニューの登録・解除、iモードメールの設定などを行うときには「iモードパスワード」が必要になります。ご契約時は「0000」(数字のゼロ4つ)に設定されていますので、お客様のお好みでFOMA端末から自由にiモードパスワードを変更してください。→P.51

iモードパスワードは他人に知られないように十分にご注意ください。

インターネット接続

インターネットホームページのアドレス(URL)を入力することにより、インターネットに接続し、iモード対応のインターネットホームページを表示することができます。

インターネットホームページの表示方法は→P.63

おしらせ

- iモード対応のインターネットホームページ以外は正しく表示されない場合があります。iモード対応のインターネットホームページとは、iモード対応のタグなどで作成されたホームページのことです。
- パソコン上での表示とは異なる場合があります。
- URLが半角256文字を超えるインターネットホームページは、表示できない場合があります。
- データ量の大きいページに接続した場合などは、読み込み中止操作により通信を中断できます。

便利な機能

サイトのページやメールに表示されている電話番号やメールアドレス、URLなどの情報を利用して、簡単な操作で音声電話やテレビ電話をかけたりメールを送信したりすることができます。

機能	説明	参照ページ
Phone To 機能	電話番号が表示されている各サイト、メッセージリクエスト／フリー、メールの画面などから簡単な操作で音声電話やテレビ電話をかけることができます。	P.111
Mail To 機能	メールアドレスが表示されている各サイト、メッセージリクエスト／フリー、メールの画面などから新規メール画面を表示することができます。	P.112
Web To 機能	URLが表示されている各サイト、メッセージリクエスト／フリー、メールの画面などからインターネットホームページに接続できます。ただし、一部ご利用になれないサイトがあります。	P.113

●その他にも、メロディや辞書の取り込みと保存、画像の保存、iアプリの起動、iモーションの取り込みと保存、電話番号やメールアドレスの電話帳への登録などができます。→P.113

キャッシュに記憶されたページを表示するときは

・キャッシュとは、表示したサイトやインターネットホームページなどのデータを一時的に記憶する端末内の場所です。サイトやインターネットホームページなどを表示中にを押してページを移動すると、通信を行わずにキャッシュとして記憶されたページを表示します。ただし、端末のキャッシュサイズをオーバーしていたり、必ず最新情報を読み込むように設定(作成)されたページを表示するときは、を押した場合でも通信を行います。また、ページがキャッシュに記憶されていても、そのページの日付時刻情報が更新されている場合は通信を行って最新情報を表示します。
・キャッシュから読み込んだ場合でも、以前接続したときに入力した文字や設定は表示されません。
・iモードを終了すると、キャッシュはクリアされます。
・SSL対応のページをキャッシュから読み込んだときは、「SSLページを表示します」というメッセージが表示されます。

iモードのご使用にあたって

・サイト(番組)やインターネット上のホームページ(インターネットホームページ)の内容は一般に著作権法で保護されています。これらのサイト(番組)やインターネットホームページからFOMA端末に取り込んだ文章や画像などのデータを、個人として楽しむ以外に、著作権者の許可なく一部あるいは全部をそのまま、または改変して販売、再配布することはできません。
・FOMA端末に保存されている内容(メール、メッセージリクエスト／フリー、画面メモ、iアプリ、iモーション)やブックマークなどの登録内容は、電池パックを外したままの状態でも約1ヶ月は記憶されていますが、それ以上経過すると消失する可能性があります。また、FOMA端末の故障、修理やその他の取扱いによっても消失する場合がありますので、登録内容や重要な内容は控えをとっておくことをおすすめします。万一、保存されている内容や登録した内容が消失した場合、当社としては責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
・FOMA端末の修理などを行った場合、iモード、iアプリ、iモーションにて取り込んだ情報は、著作権法により新しい携帯電話への移行を行っておりません。また、別のFOMAカードに差し替えたり、FOMAカードを未挿入のまま電源を入れた場合、サイトから取り込んだメロディ、画像、iモーションなどや、iモードメールに添付または貼り付けられているファイル(メロディ、画像、動画やiモーション)、メロディ、画像、iモーションを含んだ画面メモ、メロディ、画像が添付または貼り付けられているメッセージリクエスト／フリーなどの表示や再生ができません。

iモードの基本操作について

iモードの基本操作について説明します。

iモードとは→P.24

iモードを開始します

1 待受画面表示中に [imode] を押す

iモードメニュー
1 Menu
2 Bookmark
3 画面メモ
4 ラストURL
5 Internet
6 メッセージ
7 iモード問い合わせ
8 ユーザ証明書操作
9 iモード設定
選択

iモードメニュー画面が表示されます。iモードメニューは9項目あります。iモードの主な操作はこの画面からはじめます。

Menu→ を選んでもiモードメニューを表示することができます。

「圏外」が表示されているとき

サービスエリア外または電波が届かないところにいます。iモードのサービスエリアはFOMAのサービスエリア（通話のできるエリア）と同じです。「」など電波の受信レベル表示が点灯するところまで移動してください。

- iモードは通信を使ったサービスのため、「圏外」が表示されているときはご利用になれません。
- 「圏外」が表示されているときでも、iモードメニューを表示することはできます。

「」が点滅するとき

サービスエリア内でiモードのサービスを受けていないときに、サイト（P.42）やインターネット（P.63）への接続やiモードメールの送信（P.152）などをしようとしたときは「」が点滅し、iモード開始まで時間がかかることがあります。

「」が点滅しているとき

iモードのサービスを受けているとき（iモード中）は「」が点滅します。

iモードを終了します

1 iモード中に PWR HLD を押し、「YES」を選ぶ

「」が点滅した後、「」が消灯します。

おしらせ

- iモードメールやメッセージリクエスト／フリーの送受信中や問い合わせ中にCLRを1秒以上押すと、iモードメールやメッセージリクエスト／フリーの送受信を中止します。ただし、中止したタイミングにより送受信してしまうことがあります。
- PWR HLDを2秒以上押したときは、電源が切れます。
- 「圏外」が表示されているときや、FOMA端末の電源が入っていないときにiモードメールやSMS、メッセージリクエスト／フリーが送られてきた場合は、iモードセンターでiモードメールとメッセージリクエスト／フリーを、SMSセンターでSMSを、それぞれ保管します。

メニュー項目の選びかた

メニュー項目の選びかたには次の2種類の方法があります。

- ここでは例として、iMenuから「メニューリスト」を選ぶ操作を説明します。

■ダイヤルボタンで項目番号を押して選ぶ方法（ダイレクトキー選択）

1 **項目番号と同じ数字のダイヤルボタンを押す**

ダイレクトキー選択については、一部ご利用になれないサイトがあります。

■マルチファンクションボタンで項目を選ぶ方法

1 **を押して選びたい項目を反転表示し、[選択]を押す**

機能メニューが複数ページあるときは

次のような操作で前後のページを表示することができます。

(または[ホーム])…前のページを表示します。

(または[メモ／確認])…次のページを表示します。

一番下の項目が反転表示のときに…次のページを表示します(一番上の項目が反転します)。

一番上の項目が反転表示のときに…前のページを表示します(一番下の項目が反転します)。

※：機能メニューが1ページだけの場合は、一番上の項目が反転表示のときにを押すと一番下の項目へ、一番下の項目が反転表示のときにを押すと一番上の項目へ移動します。

サイトやホームページでの文字入力などのしかた

サイトやインターネットホームページでアンケートや申し込みなどをするときに、入力する枠や選択するボタンなどが表示されることがあります。

「OK」や「Cancel」などのボタン

画面に「OK」や「Cancel」などのボタンが表示されることがあります。それらを選ぶときは、を押して「OK」や「Cancel」を選びます。ボタンが選ばれている状態で[選択]を押すと、選んだ内容の動作をします。

「OK」「Cancel」とも選ばれていない状態

「OK」が選ばれている状態

■ラジオボタン

選択肢の中から1つだけ選ぶことができます。◉が選ばれた状態です。

<例：「文京区」を選ぶとき>

を3回押して「文京区」を選び、◉[選択]を押す

■チェックボックス

選択肢の中から複数の項目を選ぶことができます。☑が選ばれた状態です。

<例：「ショッピング」を追加で選ぶとき>

を2回押して「ショッピング」を選び、◉[選択]を押す

選択を解除する場合

☑を選んで◉[選択]を押す

□に戻ります。

■テキストボックス

文字を入力することができます。テキストボックスを選ぶと文字入力の画面が表示されます。

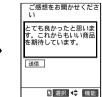
テキストボックスを選んで◉[選択]を押す

●ご感想をお聞かせください

送信

選択　機能

2 文字を入力して◉[確定]を押す

➡

文字の入力のしかた→『基本編』のP.298

■プルダウンメニュー

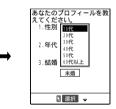
選択肢の一覧から項目を選ぶことができます。選択肢の一部のみが見えている状態で表示され、プルダウンメニューを選ぶと隠れている複数の選択肢が一覧で表示されます。

<例：「年代」を設定するとき>

1 設定したいプルダウンメニューを選んで◉[選択]を押す

➡

2 ◎を押して項目を選び、◉[選択]を押す

➡

選んだ項目が表示されます。

プルダウンメニュー内に□が表示された場合

複数の項目を選ぶことができます。◎で□を移動させ、◉[選択]を押すごとに□内の項目の選択／選択解除を繰り返します。項目を選び終わった後に◐[完了]またはCLRを押すと選択操作が完了します。

■セレクトボックス

選択肢の一覧から項目を選ぶことができます。サイトによっては選択肢の一部のみ表示されている場合もあります。

1 **設定したいセレクトボックスを選んで◉［選択］を押す**

2 **⦿を押して項目を選び、◉［選択］を押す**

選んだ項目は反転表示されます。

セレクトボックス内に□が表示された場合

複数の項目を選ぶことができます。⦿で□を移動させ、◉［選択］を押すごとに□内の項目の選択／選択解除を繰り返します。項目を選び終わった後に◑［完了］またはCLRを押すと選択操作が完了します。

User IDやPasswordを入力します

サイトによっては認証画面が表示されることがあります。サイトによって表示される画面は異なります。

1 **「User ID」のテキストボックスを選ぶ**

2 User IDを入力して◉[確定]を押す

3 「Password」のテキストボックスを選ぶ

4 Passwordを入力して◉[確定]を押す

入力したPasswordは「*」で表示されます。
「文字入力方式」を「モード2(2タッチ方式)」に設定しているときは、Passwordを入力するときも「モード2(2タッチ方式)」の方法で入力してください。→『基本編』のP.333

5 「OK」を選ぶ

User ID、Passwordの認証がはじまります。

操作を中止する場合

「Cancel」を選ぶ

認証に失敗した場合は、「パスワードをご確認ください(401)」というメッセージが表示されます。もう一度認証するときは「YES」を選びます。

画面の続きを見ます 〈スクロール〉

サイトのページやメッセージリクエスト／フリー、iモードメール、SMSなどを表示している場合に、文章や一覧が画面内におさまらず続きがあるときは、スクロールすることにより続きを見ることができます。

■ 行単位でスクロールするとき

(下)･･･行単位で下方向にスクロールされ、文章や一覧の続きが表示されます。
(上)･･･行単位で上方向にスクロールされ、前の文章や一覧が表示されます。

(上)または(下)を押したときにスクロールする行数を、1行、3行、5行に設定できます。
→P.118

■ 画面単位でスクロールするとき

(▼)［メモ／確認］… 画面単位で下方向にスクロールされ、文章や一覧の続きが表示されます。
(▲)［ホーム］……… 画面単位で上方向にスクロールされ、前の文章や一覧が表示されます。

サイト機能一覧

サイト機能の画面および機能メニューから可能な操作の一覧を示します。

<待受画面>

<iモードメニュー>

<Bookmarkフォルダ一覧画面>

機能メニュー
1フォルダ追加…………新しいフォルダを追加します。→P.55
2フォルダ名編集………追加したフォルダの名前を編集します。→P.55
3登録件数確認…………すべてのフォルダ内のブックマークの件数を表示します。→P.56
4フォルダ削除…………追加したフォルダを削除します。→P.55
5Bookmark全削除……ブックマークをすべて削除します。→P.55

で選んで
[選択]

<Bookmark一覧画面>

機能メニュー　1/2
1フォルダ移動…………ブックマークを別のフォルダへ移動します。→P.56
2タイトル編集…………ブックマークのタイトルを編集します。→P.56
3デスクトップ貼付……ブックマークのURLをデスクトップアイコンとして貼り付けます。→『基本編』のP.170
4iモードメール作成……ブックマークのURLを本文に貼り付けたiモードメールを作成します。→P.168
5赤外線送信……………ブックマークを赤外線送信します。→P.354
6エクスポート…………ブックマークをminiSDメモリーカードへエクスポートします。→P.380
7ホーム登録……………ブックマークのURLをホームURLに登録します。→P.60

機能メニュー　2/2
1URLコピー……………ブックマークのURLをコピーします。→P.56
2登録件数確認…………フォルダ内のブックマークの件数を表示します。→P.56
31件削除 ………………ブックマークを1件削除します。→P.56
4選択削除………………ブックマークを選んで削除します。→P.56
5全削除…………………フォルダ内のブックマークをすべて削除します。→P.56

<iモードメニュー>

<画面メモ一覧画面>

で選んで
[選択]

機能メニュー
1タイトル編集…………画面メモのタイトルを編集します。→P.59
2保護／保護解除………画面メモを保護／保護解除します。→P.59
3保存件数確認…………保存されている画面メモの件数を表示します。→P.59
41件削除………………画面メモを1件削除します。→P.59
5選択削除………………画面メモを選んで削除します。→P.59
6全削除…………………画面メモをすべて削除します。→P.59

<画面メモ詳細画面>

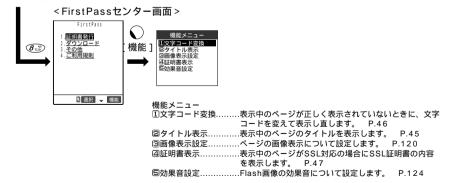
機能メニュー1/2
1画像保存…………………画面メモに表示されている画像を保存します。→P.115
2電話帳登録………………画面メモに表示されている電話番号やメールアドレスを電話帳に登録します。→P.117
3タイトル編集……………画面メモのタイトルを編集します。→P.59
4URL表示…………………画面メモのURLを表示します。→P.58
5証明書表示………………画面メモがSSL対応ページの場合にSSL証明書の内容を表示します。→P.47
6保護／保護解除…………画面メモを保護／保護解除します。→P.59
7リトライ…………………画面メモに表示されているFlash画像やアニメーションを最初から再生します。

機能メニュー2/2
1効果音設定………………Flash画像の効果音について設定します。→P.124
2スケジュール参照登録…画面メモを参照しながらスケジュールを登録します。→『基本編』のP.337
3削除………………………画面メモを削除します。→P.59

<iモードメニュー>

<FirstPassセンター画面>

機能メニュー
1文字コード変換…………表示中のページが正しく表示されていないときに、文字コードを変えて表示し直します。→P.46
2タイトル表示……………表示中のページのタイトルを表示します。→P.45
3画像表示設定……………ページの画像表示について設定します。→P.120
4証明書表示………………表示中のページがSSL対応ページの場合にSSL証明書の内容を表示します。→P.47
5効果音設定………………Flash画像の効果音について設定します。→P.124

＜サイトのページ画面＞

機能メニュー　1/3

1Bookmark登録……表示中のページのURLをブックマークに登録します。→P.53
2画面メモ……表示中のページを画面メモに保存します。→P.57
3iMenu……iMenu画面を表示します。→P.43
4Bookmark一覧……登録されているブックマークの一覧を表示し、ブックマークを選んでページを表示します。→P.40
5URL入力……URLを入力してサイトに接続します。→P.63
6再読み込み……表示中のページを新しい情報に更新します。→P.45
7画像保存……表示中のページに表示されている画像を保存します。→P.115

機能メニュー　2/3

1電話帳登録……表示中のページに表示されている電話番号やメールアドレスを電話帳に登録します。→P.117
2デスクトップ貼付……表示中のページのURLをデスクトップアイコンとして貼り付けます。→『基本編』のP.170
3iモードメール作成……表示中のページのURLを本文に貼り付けたiモードメールを作成します。→P.168
4文字コード変換……表示中のページが正しく表示されていないときに、文字コードを変えて表示し直します。→P.46
5ホーム登録……表示中のページのURLをホームURLに登録します。→P.60
6ホーム表示……ホームURLに登録されているページを表示します。→P.61
7タイトル表示……表示中のページのタイトルを表示します。→P.45

機能メニュー　3/3

1URL表示……表示中のページのURLを表示します。→P.45
2証明書表示……表示中のページがSSL対応の場合にSSL証明書の内容を表示します。→P.47
3画像表示設定……ページの画像表示について設定します。→P.120
4iモーションタイプ設定……取り込むiモーションタイプを設定します。→P.121
5リトライ……表示中のページのFlash画像やアニメーションを最初から再生します。
6効果音設定……Flash画像の効果音について設定します。→P.124
7スケジュール参照登録……表示中のページを参照しながらスケジュールを登録します。→『基本編』のP.337

サイトを利用します

IP(情報サービス提供者)が提供する各種サービスをご利用いただけます。FOMA端末のディスプレイ上で、銀行の残高照会や各種チケットの予約などができます。

●サイトによりサービス内容が異なります。また、別途お申し込みが必要なことがあります。
●サイトによっては、ご利用になるために情報料が必要なもの(iモード有料サイト)があります。

サイトに接続します

1 [imode]▶「iMenu」の順に選ぶ

iモードを開始します→P.32
ページ取得中のアニメーションが表示されます。

ページの取得を中止する場合

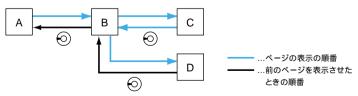
[中止]を押す

2 「メニューリスト」を選び、利用したいサイトを選ぶ

➡

おしらせ

- 表示したサイトの画面で下線が表示されている項目があるときは、その項目を選ぶことができます。選ぶと反転表示されます。
- 現在表示しているページの前のページに戻るときはを押します。いったん戻って、また次のページを表示するときはを押します。
- を続けて押すことにより、これまで表示したページをさかのぼって表示することができます。ただし、途中でを押して前のページに戻り（「C」から「B」に戻る）、そのページからほかのページ（「B」から「D」）を表示させたときは、「D」からを2回押しても「C」は表示されません。「D」→「B」→「A」の順で前のページを表示します。

画面「A」→「B」→「C」→「B」→「D」の順番でページを表示させたとき

- Flash画像が表示されている場合は、表示動作が異なることがあります。
- サイトによっては、サイトの画面の表示色数がFOMA端末の最大表示色数を超えるため、実際のサイトの画面と表示が異なることがあります。
- スケジュール参照登録を実行すると、表示しているページを見ながらスケジュールを登録できます。→『基本編』のP.335

携帯電話情報について

サイトやインターネットホームページの画面を表示しているときに項目を選ぶと、携帯電話情報通知画面が表示されることがあります。

●携帯電話情報が送信される前には必ず、「携帯電話情報通知」をするかしないかの選択画面が表示されます。自動的に送信されることはありません。

携帯電話情報を送信してもよい場合
「YES」を選ぶ

携帯電話情報を送信したくない場合
「NO」を選ぶ

操作を中止する場合
CLRを押す
携帯電話情報通知画面を表示する前の画面に戻ります。

おしらせ

●送信するお客様の携帯電話情報（FOMA端末の製造番号、FOMAカードの識別番号）は、インターネットを経由してIP（情報サービス提供者）に送信されるため、場合によっては第三者に知得されることがあります。

サイトなどでの画像表示について

サイトやインターネットホームページの画面に、画像が表示されることがあります。

・本端末では、GIF形式、JPEG形式の各画像と、Flash画像（P.45）を表示します。ただし、画像によってはそれらの形式であっても表示できない場合があります。
・画像の取得中は「」が表示され、取得が終わると画像を表示します。
・画像を表示するかしないかを「画像表示設定」（P.119）で設定できます。サイトなどのページを表示中に、機能メニューの「画像表示設定」で「表示しない」から「表示する」に切り替えた場合、「再読み込み」（P.45）をすると「」の画像が表示されます。なお、「表示する」から「表示しない」に切り替えた場合は、取得済みの画像は表示されたままです。

表示される画像のアイコンについて

：画像を取得中、または「画像表示設定」を「表示しない」に設定している場合に表示されます。
：画像を取得できなかった場合や画像が表示できない形式の場合に表示されます。
：取得できない画像の場合に表示されます。

Flash画像の操作をします

絵や音によるアニメーション技術を用いたFlash画像に対応しており、多彩なアニメーションや表現力豊かなサイトを利用することができます。また、Flash画像を取り込み、待受画面などに設定することもできます。

●項目を選んでほかのページを表示したり、メニューを選んで各種の操作をすることができます。また、情報の部分を選んでリンク先のページを表示するなどの操作をすることができます。
●画像保存(P.114)で保存したFlash画像を再生したとき、サイトでの見えかたと異なる場合があります。
●Flash画像が表示されていても、正しく動作しない場合があります。
●画面下部に「◀◆▶」が表示されていなくても、Flash画像の操作ができることがあります。また、Flash画像を利用した画面によっては、ニューロポインターが利用できない場合があります。この場合、画面の下に「 」は表示されません。
●「画像表示設定」を「表示しない」に設定した場合、Flash画像も表示されません。

おしらせ

● Flash画像を再度動作させたい場合は、機能メニューから「リトライ」を選んでください。→P.42
● Flash画像によっては効果音が鳴るものがあります。効果音を鳴らさない場合は、機能メニューから「効果音設定」を選んで「OFF」に設定してください。また、バイブレータ設定中は、効果音が鳴っていても振動しません。
● 再生中に120秒以上操作しなかった場合は、一時停止します。再開するには、いずれかのボタンを押してください。
● 保存したFlash画像は、サイトでの見え方と異なる場合があります。

ページの情報を更新します 〈再読み込み〉

表示中のページを新しい情報に更新します。

1 ページを表示中に、機能メニューから「再読み込み」を選ぶ

サイト機能一覧→P.40

おしらせ

● アンケートの回答などの送信完了画面で「再読み込み」を行った場合、再度送信するかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと、一度送信した内容と同じものが再び送信されますのでご注意ください。

ページのURLやタイトルを表示します〈URL表示/タイトル表示〉

表示中のページのURLやタイトルを表示して確認することができます。

●URL表示は半角で512文字まで、タイトル表示は半角で128文字まで、それぞれ表示できます。タイトルがない場合は「無題」と表示されます。
●URLやタイトルの編集はできません。

1 ページを表示中に、機能メニューから確認したい項目を選ぶ

サイト機能一覧→P.40

タイトルを確認したい場合

「タイトル表示」を選ぶ

URLを確認したい場合

「URL表示」を選ぶ

表示画面にすべてのタイトルまたはURLが表示されていないときは、●を押してカーソルを表示し、◎でカーソルを移動して確認します。
カーソルを表示した場合は、もう一度●を押すとカーソルが消えます。
「OK」を選ぶとページの画面に戻ります。

文字を正しく表示します 〈文字コード変換〉

ページの文字が正しく表示されていないときに、文字コードを変えて表示し直します。

1 ページを表示中に、機能メニューから「文字コード変換」を選ぶ

サイト機能一覧→P.40

正しく表示されないときは、操作を繰り返します。

おしらせ

- 文字コード変換の操作を繰り返しても正しく表示できないことがあります。
- 文字コード変換の操作を4回繰り返すと、元の表示に戻ります。
- 正しく表示されているときに文字コード変換の操作を行うと、正しく表示されなくなることがあります。

SSL通信

SSL対応のページを表示します

FOMA端末は、SSL通信に対応したサイトや「https://」からはじまるインターネットホームページ(SSLページ)を表示できます。
SSL通信で使用する証明書には、次のものがあります。

証明書の種類	説　明	証明書の保存場所	参照ページ
CA証明書	認証会社が発行した証明書	FOMA端末内 (お買い上げ時)	P.47
ドコモCA証明書	FirstPassセンターへ接続するために必要な証明書	FOMAカード(緑色)内 (ご契約時)	P.48
ユーザ証明書	iモードメニューから「ユーザ証明書操作」を選択することにより、FirstPassセンターからダウンロードした証明書	FOMAカード(緑色)内 (ダウンロード時)	P.48

SSL対応のページに接続します

SSL対応のページに接続するときと、SSL対応のページから通常のページを表示するときにメッセージが表示されます。

SSL対応のページを表示する

➡

SSL対応のページを表示しているときは、ディスプレイに「SSL」が表示されます。

認証中に中止する場合

◉[選択]を押す

認証後のページを取得中に中止する場合

◑[中止]を押す

---

2 SSL対応のページから通常のページを表示する

SSL通信を終了するかどうかの確認メッセージが表示されます。

通常のページを表示する

「YES」を選ぶ

SSL通信が終了し、通常のページが表示されて「SSL」の表示が消えます。

おしらせ

● SSL対応のページを表示するときに「このサイトの安全性が確認できません　接続しますか?」などのメッセージが表示されることがあります。これらは、ページのSSL証明書が期限切れになっている場合や、サポートしていない場合などに表示されます。接続する場合は「YES」を選ぶと続けてページを表示できますが、これらのサイトではお客様の個人情報(クレジットカード番号、連絡先など)を安全に送信できない可能性がありますのでご注意ください。接続しない場合は「NO」を選びます。「SSL通信を切断しました」というメッセージが表示され、◉[選択]を押すと元の画面に戻ります。

表示中のページのSSL証明書を確認します

SSL対応のページを表示しているとき、そのページのSSL証明書を確認することができます。

● サイトのページからだけでなく、画面メモからでも同じ手順で証明書を確認できます。

1 証明書を確認したいページを表示する

サイトのページの場合

SSL対応のページを表示します→P.46

画面メモの場合

保存した画面メモを表示します→P.58

2 機能メニューから「証明書表示」を選ぶ

SSL証明書が表示され、証明書の所有者、発行元、有効期限、シリアル番号を確認できます。
証明書が複数枚あるときは、Ⓞを押すと前の証明書や次の証明書を確認できます。

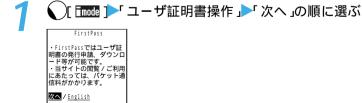
ユーザ証明書を利用します

ユーザ証明書は、お客様がFOMAサービスを契約されていることを証明するものです。ダウンロードしたユーザ証明書はFOMAカードに保存され、FirstPass対応サイトを表示できるようになります。

FirstPassセンターを利用します

■ユーザ証明書を操作する<ユーザ証明書操作>

- FirstPassセンターからユーザ証明書の発行要求や、ダウンロードができます。
- FOMAカード(青色)ではご利用になれません。
- FOMAデータプランではご利用になれません。(ISP接続通信でご利用の場合は料金プランに関わらずご利用いただけます)
- FirstPassセンターに接続するには、日付・時刻設定が必要です。→『基本編』のP.65
- FirstPassセンターで表示される画面や操作方法は、変更されることがあります。
- FirstPassセンターに接続中は、メールの送受信やメッセージリクエスト／フリーの受信ができません。

1 Ⓜ [imode]▶「ユーザ証明書操作」▶「次へ」の順に選ぶ

2 操作したい項目を選ぶ

FirstPassを利用する前に

「ご利用規則」を選び、内容をよくお読みください。

発行申請をする場合

「証明書発行」を選び、画面の指示に従って操作する

PIN2コード入力画面でPIN2コードを入力する

PIN2コードについて→『基本編』のP.195

ダウンロードする場合

「ダウンロード」を選び、画面の指示に従って操作する

ダウンロードしたユーザ証明書の確認→P.129

失効申請をする場合

「その他」を選び、「証明書失効」を選ぶ

PIN2コードを入力後、画面の指示に従って操作する

3 各操作完了画面で(PWR HLD)を押し、終了する

おしらせ

- FirstPassセンターへ接続中は、次の機能が利用できません。
  - ・テレビ電話（音声電話は利用可）
  - ・iモードメールの送受信（SMSの送受信は利用可）
  - ・スピードフォトメールの送信
  - ・メッセージリクエスト／フリーの受信
  - ・Web To機能
- ユーザ証明書を新規で発行する場合も更新で発行する場合も、必ず発行申請をした後にダウンロードを行ってください。発行の申請をしていないユーザ証明書はダウンロードすることができません。
- ユーザ証明書の失効申請が完了すると、そのユーザ証明書が必要なFirstPass対応サイトを表示できなくなります。

ユーザ証明書を使って接続します

1 サイトの画面でユーザ証明書の送信を確認する

ユーザ証明書を送信する場合

「YES」を選ぶ

ユーザ証明書の送信を中止する場合

「NO」を選ぶ

2 PIN2コードを入力する

PIN2コードについて→『基本編』のP.195
PIN2コードが正しく入力されると、認証中の画面が表示された後、サイトの画面が表示されます。

認証中に中止する場合

◉[選択]を押す

おしらせ

- ユーザ証明書がない状態でFirstPass対応サイトに接続した場合や、ユーザ証明書の有効期限が切れている場合、そのことを通知するメッセージが表示されます。接続を継続する場合は「YES」を選ぶと続けてページを表示できますが、これらのサイトではお客様の個人情報(クレジットカード番号、連絡先など)を安全に送信できない可能性がありますのでご注意ください。接続を切断する場合は「NO」を選ぶと「SSL通信を切断しました」というメッセージが表示され、◉[選択]を押すと元の画面に戻ります。FirstPassセンターからユーザ証明書をダウンロードした後、再度接続してください。

FirstPassご使用にあたって

- FirstPassとはドコモの電子認証サービスです。FirstPassを利用することにより、サイト側とFOMA端末側がお互いの証明書を送付し合い、受け取った相手の証明書を検証してお互いの認証を行うクライアント認証が可能となります。
- ユーザ証明書の発行要求をする際は、画面に表示される「FirstPassご利用規則」をよくお読みになり、ご同意の上、要求してください。
- ユーザ証明書のご利用にはPIN2コード(『基本編』のP.195)の入力が必要です。PIN2コード入力後になされたすべての行為がお客様によるものとみなされますので、FOMAカードまたはPIN2コードが他人に使用されないよう十分ご注意ください。
- FOMAカードの紛失、盗難にあった場合などは、当社窓口にてユーザ証明書の失効を行うことができます。
- FirstPass対応サイトによって提供されるサイトや情報については、ドコモは、何らの義務もないものとし、一切の責任を負いません。お客様とFirstPass対応サイトとの間で解決をお願いいたします。
- FirstPass及びSSLのご利用にあたり、ドコモ及び認証会社は安全性等に関し保証を行うものではありませんので、お客様ご自身の判断と責任においてご利用ください。

iモードパスワードを変更します

マイメニューの登録／削除、メッセージサービスやiモード有料サイトの申し込み／解約、メール設定などを行うときには4桁の「iモードパスワード」が必要になります。

●ご契約時は「0000」（数字のゼロ4つ）に設定されています。お客様のお好みで、FOMA端末から自由にiモードパスワードを変更してください。
●iモードパスワードは他人に知られないよう十分にご注意ください。
●iモードパスワードを万一お忘れになったときは、FOMA端末、およびご契約されたご本人であるかどうかが確認できるもの（運転免許証など）を当社窓口までご持参いただき、iモードパスワードを「0000」にリセットさせていただくことになります。

1 [imode]▶「iMenu」▶「オプション設定」▶「iモードパスワード変更」の順に選ぶ

iMenu→P.43

2 「現在のパスワード」を選び、現在のiモードパスワードを入力する

入力したiモードパスワードは「*」で表示されます。

3 「新パスワード」を選び、新しく設定するiモードパスワードを入力する

iモードパスワードは4桁の数字で入力してください。

4 「新パスワード確認」を選び、新しく設定するiモードパスワードを再度入力する

操作3で入力した数字と同じものを入力します。

5 「決定」を選ぶ

iモードパスワードが変更され、変更したことを通知するメッセージが表示されます。

「現在のパスワード」が間違っている場合

iモードパスワードが間違っていることを通知するメッセージが表示されます。

「新パスワード」と「新パスワード確認」が違っている場合

iモードパスワードが一致しないことを通知するメッセージが表示されます。

マイメニューを利用します

よく利用するサイトをマイメニューに登録することで、次回からそのサイトに簡単に接続できます。

- ●マイメニューは最大45件まで登録できます。
- ●マイメニューに登録できないサイトもあります。
- ●有料サイトに利用申し込みをすると自動的にマイメニューに登録されます。
- ●マイメニュー登録にはiモードパスワードが必要です。

マイメニューに登録します

1 登録したいサイトのページを表示し、「マイメニュー登録」を選ぶ

各サイトによってページ構成が異なります。

2 「iモードパスワード入力」のボックスを選び、4桁のiモードパスワードを入力する

入力したiモードパスワードは「*」で表示されます。

iモードパスワードについて→P.30

3 「決定」を選ぶ

マイメニューへの登録が完了します。

マイメニューに登録したサイトを表示します

マイメニューに登録したサイトは、iMenuの「マイメニュー」内に一覧で表示されます。

1 ◐ [imode] ▶[iMenu] ▶「マイメニュー」の順に選ぶ

ページの取得を中止する場合
◐[中止]を押す

2 表示したいサイトを選ぶ

ブックマークを利用します

よく見るサイトにすぐに接続できるようにしたいときは、ブックマークに登録します。

●登録したページは、タイトルを変更したり、フォルダに分けるなどして管理することができます。
●ブックマークにはお買い上げのときにすでに「アドレス確認」のページが登録されています。→P.236

ブックマークに登録します 〈Bookmark登録〉

●ブックマークは100件まで登録できます。
●登録できる1件あたりのURLの文字数は半角で256文字までです。URLの文字数が半角で256文字を超えるページは、ブックマークに登録できません。
●サイトによってはブックマークに登録できないことがあります。

1 登録したいページを表示し、機能メニューから「Bookmark登録」を選ぶ

登録を確認するメッセージが表示されます。

2 「YES」を選び、登録するフォルダを選ぶ

登録したことを通知するメッセージが表示されます。

登録を確認する画面で登録を中止する場合

「NO」を選ぶ

フォルダ選択時に登録を中止する場合

CLRを押す

すでに100件登録されている場合

削除してから登録するかどうかのメッセージが表示されます。
登録するときは「YES」を選び、フォルダを選んで削除するブックマークを選びます。
登録を中止するときは「NO」を選びます。

おしらせ

● ブックマークのタイトルは全角で12文字、半角で24文字までが登録され、超えた部分は削除されます。

ブックマークに登録したページを表示します

登録したブックマークはBookmark一覧画面にタイトルが表示されます。

●一覧からブックマークを選んで登録したページを表示できます。

1 Bookmark一覧画面を表示する

Bookmark一覧画面→P.40
タイトルがない場合や「タイトル編集」(P.56)でタイトルを入力せずに●[確定]を押した場合は、「http://」または「https://」を除いたURLが表示されます。

---

2 表示したいブックマークを選ぶ

ページの取得を中止する場合

◐[中止]を押す

おしらせ

● Bookmark一覧から表示したページのタイトルは、次回Bookmark一覧画面を表示したとき1ページ目の一番目に表示されます。

ブックマークをフォルダで管理します

ブックマークはフォルダに分けて管理することができます。

●新しいフォルダは9個まで追加することができます。
●お買い上げのときにすでにある「Bookmark」フォルダは、削除やフォルダ名の変更はできません。

1 Bookmarkフォルダ一覧画面を表示する

Bookmarkフォルダ一覧画面→P.40

2 操作したいフォルダを反転表示して機能メニューを表示し、項目を選ぶ

フォルダを追加する場合

「フォルダ追加」を選び、フォルダ名を入力する
フォルダ名は全角で10文字、半角で20文字まで入力できます。

フォルダ名を変更する場合

「フォルダ名編集」を選んでフォルダ名を変更する
フォルダ名は全角で10文字、半角で20文字まで入力できます。

フォルダを削除する場合

「フォルダ削除」を選ぶ
端末暗証番号(P.21)の入力が必要です。

ブックマークのみをすべて削除する場合

「Bookmark全削除」を選ぶ
フォルダは残したまますべてのブックマークを削除します。端末暗証番号(P.21)の入力が必要です。

おしらせ

● ブックマークのフォルダにはセキュリティをかけることはできません。

ブックマークを管理します

ブックマークは機能メニューからさまざまな操作をすることができます。

1 Bookmark一覧画面を表示する

Bookmark一覧画面→P.40

2 操作したいタイトルを反転表示して機能メニューを表示し、項目を選ぶ

別のフォルダへ移動する場合

「フォルダ移動」を選ぶ
移動先のフォルダを選び、移動するブックマークを選んで[完了]を押します。

タイトルを変更する場合

「タイトル編集」を選び、新しいタイトルを入力する
タイトルは全角で12文字、半角で24文字まで入力できます。

ブックマークを削除する場合

削除方法を選ぶ
・「1件削除」：ブックマークを1件削除します。
・「選択削除」：ブックマークをチェックボックスで選んで削除します。
・「全削除」　：フォルダ内のすべてのブックマークを削除します。端末暗証番号(P.21)の入力が必要です。

ブックマークのURLをコピーする場合

「URLコピー」を選ぶ
始点を指定した後で範囲を選び、終点を指定します。

おしらせ

● 「Bookmark」フォルダの中の「アドレス確認」も別のフォルダに移動したり、タイトルを変更したり、削除することができます。
● ほかの電話機から電話帳データなどをコピーすると、ブックマークに登録されている「アドレス確認」は削除されます。

ブックマークの登録件数を確認するときは

すべてのフォルダの登録件数を確認する場合
Bookmarkフォルダ一覧画面を表示

フォルダごとの登録件数を確認する場合
確認したいフォルダのBookmark一覧画面を表示

→ **機能メニューから「登録件数確認」を選ぶ**

画面メモ

表示しているページを保存します

乗り換え案内など情報の検索結果やメロディ・iモーションの取得完了画面など、一度表示したページを画面メモとしてFOMA端末に保存しておくことができます。ページを表示したときの画面をそのまま保存するので、あとで情報を確認したい場合などに便利です。

- 画面メモは最大100件まで保存できます。保存可能件数は、保存するページのデータ量により3～100件と変動します。
- スケジュール参照登録を実行して、画面メモを見ながらスケジュールを登録できます。→『基本編』のP.335
- 別のFOMAカードに差し替えたり、FOMAカードを抜いたままFOMA端末の電源を入れた場合は、メロディ、画像、iモーション、キャラ電、ダウンロード辞書が含まれている画面メモを表示できなくなります。元のFOMAカードを挿入し直すと、それらの画面メモを表示できるようになります。→P.19

ページを画面メモとして保存します

1 **保存したいページを表示し、機能メニューから「画面メモ」を選ぶ**

保存を確認するメッセージが表示されます。

2 **「YES」を選ぶ**

保存したことを通知するメッセージが表示されます。

保存を中止する場合

「NO」を選ぶ

保存されている画面メモがいっぱいの場合

削除してから保存するかどうかのメッセージが表示されます。
保存するときは「YES」を選び、削除する画面メモを選びます。
保存を中止するときは「NO」を選びます。

おしらせ

- サイトなどで入力した文字や設定は画面メモには保存されません。
- SSL対応のページの画面を保存すると、そのページのSSL証明書も保存されます。→P.47
- 画面メモのタイトルは全角で11文字、半角で22文字までが保存され、超えた部分は削除されます。
- 画面メモには、文字情報だけでなく画像やFlash画像などのデータや、iモーションやメロディ、キャラ電などのデータ取得画面なども保存できます。ただし、再生制限が設定されているiモーション、ストリーミングタイプのiモーション、データが不完全なiモーションの取得完了画面は保存することができません。
- 画面メモに保存した画像などをFOMA端末に保存できます。→P.113
- 同じページを保存したときは、上書きされずに別の画面メモとして保存されます。

保存した画面メモを表示します

保存した画面メモは画面メモ一覧画面にタイトルが表示されます。

1 画面メモ一覧画面を表示する

画面メモ一覧画面→P.41
タイトルがない場合や「タイトル編集」(P.59)でタイトルを入力せずに◉[確定]を押した場合は、「無題」と表示されます。

2 表示したいタイトルを選ぶ

画面メモ詳細画面が表示されます。画面メモを表示しているときに◎を押すと、前の画面メモや次の画面メモを表示することができます。

保存したページのURLを確認する場合
機能メニューを表示し、「URL表示」を選ぶ
データ取得完了画面などでは「URL表示」を選ぶことはできません。

おしらせ

- 画面メモに保存したページを表示しても、iモードには接続しません。保存したときの情報のため、最新の情報とは異なる場合があります。
- SSL対応ページの画面メモを表示したときは、画面に「SSL」が表示されます。→P.47

画面メモを管理します

大切な画面メモを保護したり、タイトルを変更したりすることができます。

●保護できる画面メモは最大50件までです。保護できる最大件数は画面メモのデータ量により変動します。

＜例：画面メモ一覧画面から操作します＞

1 画面メモ一覧画面を表示する

画面メモ一覧画面→P.41

2 操作したいタイトルを反転表示して機能メニューを表示し、項目を選ぶ

保護／保護解除する場合

「保護／保護解除」を選ぶ

保護されていない画面メモは保護され、保護されている画面メモは保護解除されます。

保護されると、画面メモのタイトルの左に「🔑」が表示されます。

タイトルを変更する場合

「タイトル編集」を選び、新しいタイトルを入力する

タイトルは全角で11文字、半角で22文字まで入力できます。

画面メモを削除する場合

削除方法を選ぶ

1件削除 ：画面メモを1件削除します。

選択削除 ：画面メモをチェックボックスで選んで削除します。

全削除 ：すべての画面メモを削除します。端末暗証番号（P.21）の入力が必要です。

保存件数を確認する場合

「保存件数確認」を選ぶ

画面メモ詳細画面から操作する場合

「保護／保護解除」、「タイトル編集」、「削除」は、画面メモ詳細画面（P.41）の機能メニューから操作することもできます。

・操作したい画面メモを表示して機能メニューを表示し、項目を選びます。
・「削除」を選ぶと、表示中の画面メモを削除します。

ホームURL

よく見るサイトを簡単に表示できます

よく見るサイトのページを、ホームURLに1件登録できます。登録したページを簡単な操作で表示できる「ホーム表示」を利用することができます。

●「ホーム表示」を利用するには、ホームURLを登録し、「ホームURL設定」を「有効」に設定します。
●ホームURLに登録できるURLの文字数は、半角で256文字までです。

ホームURLを登録します

1 登録したいページを表示し、機能メニューから「ホーム登録」を選ぶ

登録を確認するメッセージが表示されます。

すでにホームURLが登録されている場合

上書きするかどうかのメッセージが表示されます。

2 「YES」を選ぶ

登録したことを通知するメッセージが表示されます。

登録を中止する場合

「NO」を選ぶ

ブックマークから登録する場合

Bookmark一覧画面(P.40)で登録したいブックマークを反転表示する

URL履歴から登録する場合

URL入力画面(P.62)で登録したいURL履歴を反転表示する

➡ **機能メニューから「ホーム登録」を選ぶ**

ホームURLを設定します

ホーム表示を利用するための設定をします。

1 ◐ [imode] ▶「iモード設定」▶「ホームURL設定」の順に選ぶ

ホームURL欄に、ホームURLに登録されているURLが表示されます。

ホームURLを登録していない場合

ホームURL欄を選んで、登録したいURLを入力する

・URLは半角で256文字まで入力できます。
・登録していないときは、ホームURL欄に「http://」のみが表示されています。

2 「有効」を選ぶ

ホーム表示を利用しない場合
「無効」を選ぶ

ホームURLに登録したページを表示します 〈ホーム表示〉

1 待受画面表示中に[ホーム]を押す

ページの取得を中止する場合
[中止]を押す

ページを表示中にホームURLのページを表示するとき
サイトのページで機能メニューから「ホーム表示」を選びます。

Internet画面（P.62）からホームURLのページを表示するとき
Internet画面で「ホーム表示」を選びます。

おしらせ

- 「ホームURL設定」が「無効」に設定されているときは、ホーム表示は利用できません。

ラストURL
最後に見たページを表示します

サイトやインターネットで最後に見ていたページを表示したいときは、ラストURLが役に立ちます。ラストURLには、最後に表示していたページのURLが記憶されています。

- データ取得完了画面など、ページによってはラストURLに記憶されない場合があります。

1 iモードメニューから「ラストURL」を選ぶ

iモードメニュー→P.25

ページの取得を中止する場合
[中止]を押す

おしらせ

- お買い上げのときや「ラストURL初期化」（P.124）を行った後は、「ラストURL」を選ぶとiMenu画面が表示されます。
- ページを表示するたびにラストURLには表示中のページのURLが上書きされます。

インターネット接続サービス機能一覧

インターネット接続サービス機能の画面および機能メニューから可能な操作の一覧を示します。

＜待受画面＞

＜iモードメニュー＞

＜Internet画面＞

Internet画面
1URL入力………URLを新たに入力するか、またはこれまでに入力したURL履歴から選んで、インターネットに接続します。→P.63
2ホーム表示 ……ホームURLに登録されているページを表示します。→P.61

＜URL入力画面＞

[機能]

機能メニュー
1デスクトップ貼付………URL履歴のURLをデスクトップアイコンとして貼り付けます。→『基本編』のP.170
2iモードメール作成………URL履歴のURLを本文に貼り付けたiモードメールを作成します。→P.168
3ホーム登録………………URL履歴のURLをホームURLに登録します。→P.60
41件削除…………………URL履歴を1件削除します。→P.64
5選択削除…………………URL履歴を選んで削除します。→P.64
6全削除……………………URL履歴をすべて削除します。→P.64

インターネットホームページに接続します

任意のURLを入力してインターネットホームページを表示できます。

● URLは、半角の英数字や記号で256文字まで入力できます。
● iモード対応のインターネットホームページ以外は正しく表示されない場合があります。

URLを入力してページを表示します

1 Internet画面を表示し、「URL入力」を選ぶ

Internet画面→P.62

2 「新規入力」を選び、URLを入力する

あらかじめ「http://」が入力されています。
文字の入力のしかた→『基本編』のP.298

3 「OK」を選ぶ

「指定サイトを表示できない場合があります」というメッセージが表示されます。
◉[選択]または CLR を押すと、入力したURLのページに接続します。

操作を中止する場合

「Cancel」を選ぶ

ページの取得中に中止する場合

[中止]を押す

「http://」や「https://」以外ではじまるURLを入力したり、何も入力されていない場合は、URLが間違っていることを通知するメッセージが表示されます。

ページを表示中にURLを入力する場合

サイトやインターネットホームページを表示中に、機能メニューから「URL入力」を選んでURLを入力し、別のページを表示することができます。
Internetアドレスの入力欄には、現在表示されているページのURLが表示されます。入力欄を選んで表示したいページのURLを入力してください。

おしらせ

● 表示したページのURLを「ブックマーク」(P.53)や「ホームURL」(P.60)に登録したり、表示したページを「画面メモ」として保存する(P.57)など、機能メニューからさまざまな操作をすることができます。

URL履歴を使ってページを表示します

これまでに入力したURLをURL履歴として10件まで記録し、一覧で表示します。一覧から選んでページを表示することができます。

1 Internet画面を表示し、「URL入力」を選ぶ

Internet画面→P.62

2 表示したいURLを選ぶ

選んだURLを編集したい場合

Internetアドレスの入力欄を選んで、URLを編集する

3 「OK」を選ぶ

「指定サイトを表示できない場合があります」というメッセージが表示されます。
◉[選択]またはCLRを押すと、選んだURLのページに接続します。

操作を中止する場合

「Cancel」を選ぶ

ページの取得中に中止する場合

[中止]を押す

おしらせ

- 履歴が10件を超えたときは、古いものから順に自動的に上書きされます。
- URLを入力して接続したときは、同じURLでも別の履歴として記録されます。

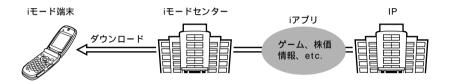
URL履歴を削除します

1 削除したいURL履歴を反転表示し、機能メニューから削除方法を選ぶ

URL入力画面→P.62

1件削除　：URL履歴を1件削除します。
選択削除：URL履歴をチェックボックスで選んで削除します。
全削除　：すべてのURL履歴を削除します。端末暗証番号（P.21）の入力が必要です。

iアプリとは

iアプリをサイトからダウンロードする(取り込む)ことにより、iモード対応FOMA端末(以下、iモード端末)を便利に活用いただけます。たとえばiモード端末にいろいろなゲームを取り込んで楽しんだり、株価情報のiアプリを取り込むことにより、株価を定期的に自動チェックできます。さらに、地図のiアプリでは必要なデータだけを取り込むため、スムーズなスクロールが可能です。また、iアプリから電話帳やスケジュールに直接登録できるものや、画像保存・画像取得などマルチメディアと連動できるiアプリもあります。

●iアプリをダウンロードするには→P.68
●iアプリを実行するには→P.72
●iアプリを自動起動するには→P.78

おしらせ

- ソフトによってはiモード端末の携帯電話情報(FOMA端末の機種や製造番号、FOMAカードの識別番号など)を利用する場合があります。
- ソフトによっては実行時に通信を行うものがあります。通信を行わないように設定することもできます。

登録データを利用する

iアプリのソフトには、お客様のiモード端末の登録データ(電話帳、ブックマーク、スケジュール、画像、アイコン情報)を参照、登録、操作できるものがあります。登録データを利用してできることは次のとおりです。

・電話帳登録
・アイコン情報利用
・ブックマーク登録
・スケジュール登録
・マルチメディアからの画像取得
・マルチメディアへの画像保存

■iアプリDXとは

iアプリDXでは、iモード端末の情報(メールや発着信履歴、電話帳のデータなど)と連動することにより、お好みのキャラクタ画面でメールを作成したり、着信時にキャラクタのコメントで誰からの着信か知らせたり、メールと連動して、株価などの欲しい情報やゲームの進行がよりリアルタイムに更新されるなど、iアプリをより便利に楽しく利用することが可能です。→P.74

登録データを利用する

iアプリDXのソフトでは、通常のiアプリで利用できる登録データ(電話帳、ブックマーク、スケジュール、画像、アイコン情報)に加えて、メール、リダイヤル、着信履歴、着信音などの登録データを参照、登録、操作できるものがあります。登録データを利用してできることは次のとおりです。

・電話帳登録
・電話帳参照
・アイコン情報利用
・ブックマーク登録
・スケジュール登録
・メールメニューの利用
・iモードメール作成画面利用
・最新の発信履歴参照
・最新の着信履歴参照
・最新の未読メール参照
・メロディ保存
・着信音変更(電話、メール、メッセージ)
・マルチメディアからの画像取得
・マルチメディアへの画像保存
・画面設定の変更(待受画面、電話発着信、メール送受信、メッセージリクエスト/フリー受信)

おしらせ

●iアプリDXでは、ソフトの有効性を確認するため、ソフトの通信設定にかかわらず自動的に通信する場合があります。通信回数やタイミングはソフトによって異なります。
●iアプリDXを起動するには日付・時刻の設定が必要です。→『基本編』のP.65

メール連動型iアプリとは

メール連動型iアプリはiアプリDXの一種で、iモードメールで情報をやり取りすることにより、株価などの欲しい情報やゲームの進行がリアルタイムに更新されるなど、ソフトをより便利に楽しく利用することができます。
・メール連動型iアプリで利用されるiアプリメールは、正しく表示できない場合があります。

こんなこともできます

■ iアプリ待受画面

iアプリ待受画面ではiアプリを待受画面として利用することができ、そのままメールを受信したり、電話をかけることも可能です。ニュースや天気の最新情報を待受画面に表示させたり、お好みのキャラクタがメール受信やアラームを知らせてくれたり、より便利な待受画面にすることも可能です。→P.85、『基本編』のP.177
iアプリ待受画面に対応したソフトで利用できる機能です。

■ iアプリの自動起動

時刻や日付、曜日などを指定して、ソフトを自動起動できます。あらかじめソフトに設定されている時間間隔で自動起動できるソフトもあります。→P.78

■ カメラ撮影

ソフトからiモード端末のカメラを使って撮影できます。→P.246
カメラ撮影機能に対応したソフトで利用できる機能です。

■ 赤外線通信

ソフトから赤外線通信機能が搭載された機器と通信できます。赤外線通信機能搭載機器と連動してより幅広い使いかたができます。→P.340
・赤外線通信機能に対応したソフトで利用できる機能です。
・相手の機器によっては、赤外線通信機能が搭載されていても通信できないデータがあります。

■ **赤外線リモコン**

ソフトから赤外線リモコンに対応した家電機器など各種機器を操作できます。→P.349
赤外線リモコン機能に対応したソフトで利用できる機能です。相手の機器に対応したソフトが必要です。

ソフト機能一覧

iアプリに関する画面および機能メニューから可能な操作の一覧を示します。

iアプリメニュー
1ソフト一覧……………ソフトの一覧を表示します。→P.72
2自動起動設定…………指定した日時にiアプリを自動的に起動するかどうかを設定します。→P.78
3iアプリ実行情報………iアプリ待受画面の強制終了や自動起動の日時など、iアプリの実行情報を確認します。

機能メニュー　1/2
1iアプリTo設定……………サイトやメールからiアプリを起動するかどうかを設定します。→P.77
2自動起動時刻設定…………iアプリが自動的に起動する日時を設定します。→P.79
3ソフト設定…………………ソフトの各種設定を行います。→P.81
4ソフト情報…………………ソフトに関する情報を表示します。→P.70
5バージョンアップ…………ソフトを最新のバージョンに更新します。→P.88
6デスクトップ貼付…………ソフトを起動するアイコンをデスクトップアイコンとして貼り付けます。→『基本編』のP.170
71件削除……………………ソフトを1件削除します。→P.89

機能メニュー　2/2
1選択削除……………………ソフトを選んで削除します。→P.89
2全削除………………………ソフトをすべて削除します。→P.89

＜iアプリメニュー＞

＜iアプリ実行情報＞

iアプリ実行情報
1待受画面終了情報
2セキュリティエラー履歴
3自動起動情報
4トレース情報
選択

iアプリ実行情報
1待受画面終了情報…………iアプリ待受画面が解除されてしまうエラーの内容を確認します。→P.88
2セキュリティエラー履歴…iアプリのセキュリティエラーの履歴を確認します。→P.90
3自動起動情報………………iアプリが自動起動したかどうかを確認します。→P.80
4トレース情報………………iアプリのトレース情報を確認します。→P.91

ソフトをダウンロードします

サイトからソフトをダウンロードして、FOMA端末で実行できます。

- ダウンロードしたソフトは最大200件まで（メール連動型iアプリは5件まで）保存できます。保存可能件数はソフトのデータ量により10～200件と変動します。
- メール連動型iアプリをダウンロードした場合、送信フォルダおよび受信フォルダ一覧にiアプリメール用フォルダが自動的に作成されます。フォルダ名はダウンロードしたメール連動型iアプリ名がつき、変更できません。
- メール連動型iアプリ専用のフォルダが5件ある場合、または同じ受信フォルダ、送信フォルダを利用するメール連動型iアプリがすでに保存されている場合は、メール連動型iアプリをダウンロードできません。
- メールセキュリティの設定中は、メール連動型iアプリをダウンロードできません。
- メール連動型iアプリを利用して送受信したメールは、メール連動型iアプリをダウンロードするときに作成されるフォルダに自動的に振り分けられます。また、受信したメールを手動で振り分けることもできます。
- フォルダを残して削除したメール連動型iアプリをもう一度ダウンロードした場合は、残していたフォルダを利用することができます。また、残していたフォルダを削除して新規のフォルダを作成することもできます。残していたフォルダを利用せずに、新規のフォルダも作成していない場合は、メール連動型iアプリがダウンロードできません。

■保存件数やメモリに空きがある場合

1 サイトの画面などからソフトを選んでダウンロードする

➡

ダウンロードが完了すると、「完了しました」というメッセージが表示されます。ただし、サイトからすぐに起動するソフト（P.70）の場合、メッセージは表示されずにソフトが起動します。

データの受信中にダウンロードを中止する場合

◉［選択］を押す

2 「YES」を選んでソフトを起動する

ソフトを起動すると画面下に「」が表示されます。

ソフトを起動しない場合

「NO」を選ぶ

ソフトの起動を中止する場合

ソフトの起動中に◉［選択］を押す

おしらせ

- ダウンロード中に電波の状況などにより失敗した場合には、ダウンロードしたソフトは登録されません。
- ダウンロード中はタスクの切り替えができません。
- iアプリDXや登録データまたは携帯電話情報を利用するiアプリをダウンロードする場合は、登録データや携帯電話情報を利用することを通知するメッセージが表示されます。
- SSL対応のサイトからソフトの情報やソフトをダウンロードする場合は、「」が表示されます。→P.47
- 通信して利用するソフトや待受画面に設定できるソフトをダウンロードした場合は、ソフト設定画面が表示されます。ダウンロードしたソフトに応じて設定したあと、CLRを押してください。
- ソフトの起動中に通信を許可するかどうかのメッセージが表示される場合があります。
- メール連動型iアプリ名とiアプリメール用フォルダ名は異なることがあります。

■保存されているソフトがいっぱいの場合

すでにソフトが200件保存されている場合やメモリの空きが不足している場合は、ソフトがいっぱいであることを通知するメッセージが表示されます。すでに保存されているソフトを削除して新しいソフトをダウンロードする容量を確保してください。

1 「YES」を選ぶ

ソフトを削除しない場合

「NO」を選ぶ

2 削除するソフトを選ぶ

メモリの空きが不足している場合

ソフトを選ぶたびに「不足バイト数」とバーの目盛りが減ります。「不足バイト数」とバーの目盛りが0になるまで削除するソフトを選んでください。

3 [完了]を押して「YES」を選ぶ

ダウンロードが再開されます。

おしらせ

- ダウンロードを行う際に、電波の状況などにより失敗した場合には、ダウンロードしたソフトは登録されず、削除しようとしたソフトも削除されません。
- iアプリ待受画面に設定されているソフト（「★」のついているソフト）や自動起動するように設定されているソフトを削除しようとすると、設定中のソフトを削除して保存するかどうかのメッセージが表示されます。
- iアプリ待受画面に設定されているソフトを削除すると、「画面表示設定」（『基本編』のP.177）の「待受画面」で設定されている待受画面になります。
- メール連動型iアプリを削除する場合は、対応するメール連動型iアプリ専用フォルダを削除するかどうかのメッセージが表示されます。メール連動型iアプリのみを削除する場合は「NO」を選びます。メール連動型iアプリと対応するメール連動型iアプリ専用の送信／受信フォルダおよびフォルダ内のすべてのメールを削除する場合は「YES」を選びます。ただし、メール連動型iアプリ専用の送信／受信フォルダが使用中の場合、フォルダにセキュリティが設定されている場合、保護メールがある場合は削除できません。
- フォルダを残してメール連動型iアプリを削除した場合は、機能メニューからフォルダ内のメール本文を確認できます。
- メール連動型iアプリを削除すると、削除するソフトを選んでいる間に受信した新着メールが削除されることがあります。

すぐに起動するソフトについて

通常のiアプリのソフトとは異なり、ダウンロードを開始するとすぐに起動するiアプリのソフトがあります。ダウンロードが完了しても「完了しました」の画面が表示されず、すぐにソフトが起動します。

- ソフトの実行中に、通信するかどうかのメッセージが表示される場合があります。
- FOMA端末に保存できるソフトとできないソフトがあります。すぐに起動するソフトはダウンロードが完了して起動しても、FOMA端末にはまだ保存できていません。

  FOMA端末に保存できるソフトの場合

  ソフトを終了した後、保存するかどうかのメッセージが表示されます。FOMA端末に保存するときは「YES」を選びます。保存しないときは「NO」を選びます。

  FOMA端末に保存できないソフトの場合

  ソフトを終了するとサイト画面に戻ります。もう一度ソフトを起動する場合は、ダウンロードからやり直します。
- 保存したソフトは通常のiアプリのソフトと同様に実行することができます。

ダウンロード時にソフトの情報を確認します <ソフト情報表示設定>

お買い上げ時	表示しない

ソフトをダウンロードするときにソフトの情報を確認できるように設定できます。ソフトの情報を確認したあと、ダウンロードを継続するか中止するかを選べるので便利です。

1 Menu ▶ 各種設定 ▶「iアプリ設定」▶「ソフト情報表示設定」の順に選ぶ

ソフト情報を表示する場合

「表示する」を選ぶ

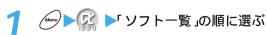
ダウンロード時にソフト情報画面が表示されます。ソフト情報を確認したら●[確定]を押し、ダウンロードするかどうかを選んでください。

ソフト情報を表示しない場合

「表示しない」を選ぶ

ソフトの情報を確認します <ソフト情報>

FOMA端末に保存されているソフトの情報を見ることができます。

1 Menu ▶ iアプリ ▶「ソフト一覧」の順に選ぶ

2 情報を確認するソフトを反転表示して機能メニューから「ソフト情報」を選ぶ

3 ソフト情報を確認する

またはを押すとページが切り替わります。
を押すとソフト一覧画面に戻ります。

おしらせ

- SSL対応のページからダウンロードしたソフトの場合は、「SSL通信」の欄に「使用」と表示されます。
- 本機能で表示されるソフトのソフト名は変更できません。

ソフトの一覧画面のアイコン表示について

ソフト一覧画面では次のようなアイコンでソフトの種類や設定を確認できます。

：iアプリDXであることを示しています。→P.28、P.65
：メール連動型iアプリであることを示しています。
：「iアプリTo設定」(P.77)や「iアプリ待受画面設定」(P.85、『基本編』のP.179)、「自動起動時刻設定」(P.79)を設定できるソフトであることを示します。ただし、「自動起動時刻設定」が設定できるソフトでも、「自動起動設定」(P.78)が「許可しない」に設定されている場合は「」は表示されません。
：「自動起動時刻設定」が設定されていることを示しています。→P.79
：「iアプリ待受画面設定」に設定されていることを示しています。
：「自動起動時刻設定」が設定され、「iアプリ待受画面設定」に設定されていることを示しています。
：SSL対応のページからダウンロードしたソフトであることを示しています。

ソフトを起動します

ソフト一覧画面からソフトを選んで起動します。

●ソフトによって操作するボタンは変わります。
●ソフトの実行中に再生されるメロディは、「着信音量」の「電話／TV電話」で設定した音量で鳴ります。→『基本編』のP.79
●ソフトの配色は「配色パターン」を変更しても変わりません。→『基本編』のP.182
●iアプリからカメラを起動した場合、撮影した画像は「イメージビューア」(P.294)には保存されず、iアプリの一部として保存されます。
●iアプリからバーコードリーダーを起動した場合、読み取ったデータはソフトで利用される場合があります。「バーコードリーダー」(P.281)には保存されません。
●iアプリからカメラを起動した場合は、画像サイズの変更はできません。画像サイズが240×240の場合、「i-αppli」が表示されます。

1 ▶「ソフト一覧」の順に選ぶ

2 起動するソフトを選ぶ

ソフトを起動すると画面下に「」が表示されます。iアプリDXを起動したときは「」が表示されます。

ソフトの起動を中止する場合

ソフトの起動中に◉[選択]を押す

■ソフトを終了するには

1 CLRを1秒以上押して「YES」を選ぶ

PWR/HLDを押して「YES」を選んでもソフトを終了できます。

ソフトを終了しない場合

「NO」を選ぶ

ソフトキーの使いかた

ソフトによっては、ディスプレイの最下段に[EXIT][BACK]など、設定や操作に関するガイダンスが表示されます。これをソフトキーといいます。ソフトキーを実行するには、対応するファンクションボタンを押してください。

おしらせ

- 「自動起動設定」を「許可する」に設定し、「自動起動時刻設定」を設定すると、ソフトを自動で起動できます。→P.78
- ソフトによってはダウンロードした後も自動的に通信するものがありますが、このサービスを利用するにはあらかじめFOMA端末での設定が必要です。
- ソフトの実行中にiモードメールを受信した場合は、「」が表示されます。受信したメールを表示するには、ソフトを終了するか、またはマルチタスク機能をご利用ください。
- ソフトの起動中に通信を許可するかどうかのメッセージが表示される場合があります。→P.81
- ソフト実行中(自動起動時も含む)に自動的に通信を行うには、あらかじめ「通信設定」(P.81)を「通信する」に設定しておく必要があります。また、iアプリ待受画面に設定したソフトから自動的に通信を行うようにするには、あらかじめ「iアプリ待受画面通信設定」(P.86)を「通信する」に設定しておく必要があります。
- ソフトの実行中にiモーション(映像や音のデータ)が再生される場合があります。→P.95
- 3Dポリゴン※エンジン搭載により、iアプリで立体画像を表示できます。
  ※:多角形(三角形や四角形など)を組み合わせることにより、立体的で奥行きがある画像を表現します。
- ソフトの実行中は電池パックを外さないでください。それまでのデータや情報が保存されません。
- iアプリで利用する画像※やお客様が入力したデータなどは、自動的にインターネットを経由し、サーバに送信される可能性があります。
  ※:iアプリで利用する画像とは、カメラ連携(連動)のiアプリからカメラを起動して撮影した画像、iアプリの赤外線通信機能を利用して取得した画像、iアプリがサイトやインターネット経由で取得した画像、iアプリがマルチメディアから取得した画像を指します。

あらかじめ登録されているソフトを利用します

本FOMA端末には「Dimo 絵文字メール」「ドラゴンクエスト1」「ミニゲームアイランド」「TVリモコン」のソフトがあらかじめ登録されています。

●長時間ディスプレイを見ていると、目が疲れる場合がありますのでご注意ください。
●「Dimo 絵文字メール」と「ミニゲームアイランド」は、iアプリ待受画面、通常のiアプリのどちらでも起動できます。起動する方法によって操作できるメニューや内容が一部異なります。
●「TVリモコン」については「赤外線リモコン機能を利用します」(P.349)を参照してください。
●FOMA端末にあらかじめ登録されているiアプリのソフトを削除した場合、元に戻したいときは「ケータイ電話メーカー」サイト内の「みんなNらんど」からダウンロードしてください。
「みんなNらんど」への接続のしかたは以下のとおりです。
待受画面表示中に [imode] ー 1 (iMenu) ー 3 (メニューリスト) ー「ケータイ電話メーカー」ー「みんなNらんど」を選ぶ

Dimo 絵文字メールを楽しみます

メール内の絵文字に反応して、キャラクタ達が愉快に動き回り、楽しいメールのやりとりができます。
また、相手がDimo対応の機種の場合は、キャラクタ達が電話やメールの着信を教えてくれたり、FOMAの未読メール情報などを伝えてくれます。

1 「Dimo 絵文字メール」を起動し、● を押して自分のデータを設定する

ソフトを起動する→P.72

©BVIG

2 メニューから項目を選ぶ

メール	：	メールを利用します
グループチャット	：	グループチャットを利用します。
ペアチャット	：	ペアチャットを利用します。
メンバー登録	：	自分のデータや送信先のメンバーを設定します。
背景の設定	：	画面の背景を設定します。
Dimoとお話	：	キャラクタ達の部屋を表示します。

詳しい使い方と最新の情報を表示する場合

[HELP]を押して見たいメニューにカーソルを合わせてから ● を押す
[HELP]を押して [接続]を押すと、サイトに接続して最新の情報を見ることができます。

iアプリ

あらかじめ登録されているソフト

おしらせ

- 「Dimo 絵文字メール」はメール連動型iアプリ（P.66）でiアプリDX（P.65）の一種です。
- ほかのメール連動型iアプリで利用されるiアプリメールは正しく表示できない場合があります。
- 「Dimo 絵文字メール」を楽しむ場合は、あらかじめ「時計設定」（『基本編』のP.65）で日付・時刻を設定しておいてください。
- 詳しい使い方は、『別冊iモード操作ガイド』をご覧ください。

ドラゴンクエスト1を楽しみます

大人気ロールプレイングゲームのシリーズ第1作目、「ドラゴンクエスト1」です。あなた自身が勇者となって剣と魔法の世界を冒険できます。

1 「ドラゴンクエスト1」を起動し、◉を押す

ソフトを起動する→P.72

2 「ぼうけんのしょをつくる」を選ぶ

3 使用する「ぼうけんのしょ」を選び、「なまえ」「ひょうじそくど」「おとのおおきさ」を設定する

ゲームがはじまります。

詳しい操作方法を表示する場合

ゲーム画面から◐［オプション］を押し、「たびのこころえ」を選ぶ

ミニゲームアイランドを楽しみます

マップ上を動き回るキャラクタを捕まえて、いろいろなミニゲームを楽しむことができます。

1 「ミニゲームアイランド」を起動し、◉を押す

ソフトを起動する→P.72

ゲームがはじまります。

詳しい操作方法を表示する場合

それぞれのゲーム画面から◑［メニュー］を押し、「ヘルプ表示」を選ぶ

iアプリ To

サイトやメールなどからソフトを起動します

サイトやメールなど、iアプリ以外の機能からiアプリを起動できます。iアプリを起動できる機能は次のとおりです。

機能	内容
サイト表示中	選んだ項目にiアプリの起動が指定されている場合は、iアプリが起動します。
iモードメール表示中	iモードメールの本文からiアプリの起動が指定されている項目を選ぶと、iアプリが起動します。
赤外線通信機能	赤外線通信中にiアプリの起動信号を受信すると、iアプリが起動します。
バーコードリーダー機能	認識したバーコードがiアプリの起動を指定している場合は、iアプリが起動します。

●「iアプリTo設定」で各機能から起動するかどうかを設定できます。→P.77

■サイトまたはメールからiアプリを起動します

＜例：サイトからiアプリを起動する＞

1 ソフトにリンクしている項目を選ぶ

2 「YES」を選ぶ

iアプリが起動します。

ソフトを起動しない場合

「NO」を選ぶ

おしらせ

●該当するソフトがない場合は、指定されたソフトがないことを通知するメッセージが表示されます。サイトからiアプリを起動するときに該当するiアプリがない場合は、メッセージが表示されません。

■赤外線通信機能でiアプリを起動します

1 Menu ▶ アクセサリ ▶「赤外線通信」の順に選ぶ

赤外線通信を利用する→P.340

2 「1件受信」を選ぶ

通信が終了したことを通知するメッセージが表示された後、iアプリが起動します。

おしらせ

- 該当するソフトがない場合は、指定されたソフトがないことを通知するメッセージが表示されます。

■バーコードリーダー機能でiアプリを起動します

1 iアプリを起動する情報を含んだバーコードを読み取る

バーコードの読み取りについて→P.281

2 バーコードリーダーの詳細画面で「iアプリ起動」を選んで「YES」を選ぶ

iアプリが起動します。

ソフトを起動しない場合

「NO」を選ぶ

おしらせ

- 該当するソフトがない場合は、指定されたソフトがないことを通知するメッセージが表示されます。

ソフトの起動について設定します　<iアプリTo設定>

お買い上げ時	すべて起動する

サイト、メール、赤外線通信、バーコードからソフトを起動するように設定します。

- ソフトごとにそれぞれ設定できます。
- 設定できない項目は選べません。

1 Menu ▶ iアプリ ▶「ソフト一覧」の順に選ぶ

2 設定するソフトを反転表示して機能メニューから「iアプリTo設定」を選ぶ

3 設定する項目を選ぶ

項目を選ぶたびに☑(起動する)と☐(起動しない)が切り替わります。

4 [完了]を押す

自動起動設定

iアプリを自動起動します

お買い上げ時	許可しない

ソフトが自動起動するように設定できます。

●自動起動を許可した場合は、自動起動させたいソフトの起動日時を設定してください。
→P.79

●「時計設定」(『基本編』のP.65)で日付・時刻を設定していない場合は、自動起動時刻を設定できません。

●ソフトによっては自動起動設定を行わなくても自動起動するものがあります。

1 ▶「自動起動設定」の順に選ぶ

ソフトを自動起動する場合

「許可する」を選ぶ

ソフトを自動起動しない場合

「許可しない」を選ぶ

自動起動の条件を設定します ＜自動起動時刻設定＞

お買い上げ時	すべてOFF

ソフトが自動起動する日時を設定します。自動起動する時間間隔が設定されているソフトの場合は、ソフトに設定されている時間間隔を有効にするかしないかを設定できます。

●自動起動を設定できるソフトは最大3件までです。
●「自動起動設定」を「許可する」に設定していないと、自動起動時刻設定を設定できません。
●「自動起動設定」を「許可する」に設定していないと、ソフトは自動起動しません。
●次のような場合、ソフトは自動起動しません。

・電源を切っている場合
・通話中
・めざまし時計、スケジュール、ToDoの設定時刻が自動起動の時刻と同じ場合
・ほかの機能が起動している場合
・iアプリメニューが起動している場合
・ソフトウェア更新の予約時刻が自動起動の時刻と同じ場合

1 Menu ▶ iアプリ ▶「ソフト一覧」の順に選ぶ

2 設定するソフトを反転表示して機能メニューから「自動起動時刻設定」を選ぶ

3 設定する項目を選ぶ

ソフトに設定されている時間間隔を有効にする場合

「時間間隔設定」を選ぶ

起動日時を設定する場合

「起動時刻設定」を選ぶ

「起動時刻設定」を選ばずに [完了]を押すと、ソフト一覧画面に戻ります。

4 ◐[完了]を押して起動日時を設定する

起動日時を設定する場合

表示されている日時を選んで、起動日時を入力する
起動日時の設定のしかたは、スケジュールの登録(『基本編』のP.218)と同様の操作です。

自動起動の繰り返しを設定する場合

表示されている繰り返し設定を選んで、「毎日」または「曜日指定」の繰り返しを設定する
繰り返しの設定しかたは、スケジュールの登録(『基本編』のP.218)と同様の操作です。

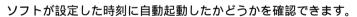
5 ◐[完了]を押す

自動起動を設定したソフトには「」が表示されます。
すでに待受画面に設定されているソフトに自動起動を設定した場合は、「」が表示されます。

おしらせ

- すでに「自動起動」が3件設定されている場合は、すでに3件設定済みであることを通知するメッセージが表示されます。
- すでにほかのソフトで同じ時刻が設定されている場合は、すでに同じ時刻に設定済みであることを通知するメッセージが表示されます。違う時刻に設定し直してください。
- 自動起動の時間間隔が設定されていないソフトの場合は、「時間間隔設定」を選べません。

ソフトが自動起動したことを確認します　<自動起動情報>

ソフトが設定した時刻に自動起動したかどうかを確認できます。

●「自動起動時刻設定」を設定しているソフトが1件もない場合、「自動起動情報」は利用できません。

1 ▶「iアプリ実行情報」▶「自動起動情報」の順に選ぶ

ソフト名、自動起動時刻、起動したかどうかの情報が表示されます。
自動起動した場合は「起動○」、自動起動しなかった場合は「起動×」、自動起動実行前の場合は「未起動」と表示されます。
確認した後はCLRを押すとiアプリ実行情報画面に戻ります。

おしらせ

- 自動起動できなかった場合は、待受画面に「」(未起動ソフトあり)というデスクトップアイコンが表示されます。アイコンを選ぶと、自動起動情報画面が表示されます。デスクトップアイコンについては、『基本編』のP.170をご覧ください。
- 「自動起動時刻設定」を解除すると、自動起動情報は消去されます。

ソフト利用時の設定をします

ソフトを利用するときの条件を設定できます。

通信するようにします　<通信設定>

ソフトの実行中に通信できるように設定します。

●通信を利用しないソフトの場合は、本機能を設定できません。

1 Menu ▶ iアプリ ▶「ソフト一覧」の順に選ぶ

2 設定するソフトを反転表示して機能メニューから「ソフト設定」－「通信設定」を選ぶ

➡

3 設定する項目を選ぶ

ソフトを起動するたびに通信するかしないかを選ぶ場合

「起動ごとに確認」を選ぶ

ソフト実行中に自動で通信する場合

「通信する」を選ぶ

ソフト実行中に通信しない場合

「通信しない」を選ぶ

ソフトの起動時に通信が許可されていないことを通知するメッセージが表示されます。

おしらせ

●「通信しない」に設定した場合、タイムリーな情報提供を受けられない場合がありますのでご注意ください。

●「セルフモード」(『基本編』のP.207)の設定中またはデュアルネットワークでムーバを有効にしている場合は、通信を行うソフトを起動できないことがあります。

アイコン情報をソフトで利用できるようにします <アイコン情報>

未読メールやマナーモードなどのアイコン情報をiアプリで利用できるように設定します。

●アイコン情報を利用できないソフトの場合は、本機能を設定できません。

1

▶「ソフト一覧」の順に選ぶ

2 設定するソフトを反転表示して機能メニューから「ソフト設定」−「アイコン情報」を選ぶ

➡

3 設定する項目を選ぶ

アイコン情報を利用する場合

「利用する」を選ぶ

アイコン情報を利用しない場合

「利用しない」を選ぶ

おしらせ

●iアプリ待受画面に設定されているソフトの本機能を「利用する」に設定すると、未読のメール・メッセージ、電池残量、マナーモード、圏内・圏外のアイコンの有無がお客様の携帯電話情報(FOMA端末の製造番号、FOMAカードの識別番号)と同じようにインターネットを経由してIP(情報サービス提供者)に送信される場合があるため、第三者に知得されることがあります。

着信音や画像をソフトから変更できるようにします <着信音/画像変更>

iアプリDXを実行するときに、電話やメールの着信音および待受画面やメール送受信時などの画像を自動的に変更できるように設定します。

●着信音や画像を変更できないソフトの場合は、本機能を設定できません。

1

▶「ソフト一覧」の順に選ぶ

2 設定するソフトを反転表示して機能メニューから「ソフト設定」－「着信音／画像変更」を選ぶ

➡

3 設定する項目を選ぶ

ソフトが自動変更しようとするたびに変更するかどうかを確認する場合

「変更ごとに確認」を選ぶ

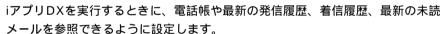
自動変更を許可する場合

「許可する」を選ぶ

自動変更を許可しない場合

「許可しない」を選ぶ

電話帳や履歴をソフトから参照できるようにします <電話帳／履歴参照>

iアプリDXを実行するときに、電話帳や最新の発信履歴、着信履歴、最新の未読メールを参照できるように設定します。

●シークレットデータの電話帳は、シークレットモードまたはシークレット専用モードに設定しないと参照できません。

●履歴は「履歴表示設定」(『基本編』のP.206)で「着信履歴」または「リダイヤル／発信履歴」が「OFF」に設定されていると参照できません。

●電話帳や履歴を参照できないソフトの場合は、本機能を設定できません。

1 ▶▶「ソフト一覧」の順に選ぶ

2 設定するソフトを反転表示して機能メニューから「ソフト設定」－「電話帳／履歴参照」を選ぶ

➡

3 設定する項目を選ぶ

参照を許可する場合
「許可する」を選ぶ

参照を許可しない場合
「許可しない」を選ぶ

照明やバイブレータの設定をします <α照明設定/αバイブレータ/αイルミネーション・ウィンドウ>

お買い上げ時	すべてシステム依存

iアプリ実行中にバックライト、バイブレータ、イルミネーション・ウィンドウの動作を、FOMA端末の設定(システム依存)に従わせるかソフトの設定(ソフト依存)に従わせるかを設定します。

動作箇所	iアプリ設定項目	動作内容	
		システム依存	ソフト依存
バックライト	α照明設定	「照明設定」→『基本編』のP.183	iアプリの設定に依存します。
バイブレータ	αバイブレータ	動作しません※	
イルミネーション・ウィンドウ	αイルミネーション・ウィンドウ	「イルミネーション・ウィンドウ」→『基本編』のP.38	

※:「αバイブレータ」をシステム依存に設定した場合は、「バイブレータ」(『基本編』のP.167)の設定にかかわらず動作しません。

<例:バックライトの動作を設定する場合>

1 ▶▶「iアプリ設定」▶「α照明設定」の順に選ぶ

バックライトの動作をFOMA端末の設定に従わせる場合
「システム依存」を選ぶ

バックライトの動作をソフトの設定に従わせる場合
「ソフト依存」を選ぶ

iアプリ待受画面を利用します

iアプリのソフトを待受画面として設定できます。よく使用するソフトを待受画面に設定しておくと、待受画面から直接ソフトを起動できるので便利です。

ソフトを待受画面に設定します

選んだiアプリのソフトを待受画面として設定します。iアプリ待受画面の表示中は、画面下に「」が表示されます。

●iアプリ待受画面に設定できるiアプリは1件のみです。
●iアプリ待受画面からWeb To機能（P.113）は利用できません。
●別のFOMAカードに差し替えたり、FOMAカードを抜いたままFOMA端末の電源を入れた場合は、iアプリ待受画面が設定されていても「画面表示設定」の「待受画面」で設定された画面が表示されます。元のFOMAカードを挿入し直すと、設定したiアプリ待受画面が表示されます。
●待受画面に設定できないソフトもあります。

1 ▶「ソフト一覧」の順に選ぶ

2 設定するソフトを反転表示して機能メニューから「ソフト設定」－「待受画面設定」を選ぶ

➡

3 設定する項目を選ぶ

ソフトを待受画面に設定する場合
「設定する」を選ぶ
待受画面に設定したソフトには「」が表示されます。

ソフトを待受画面に設定しない場合
「設定しない」を選ぶ

おしらせ

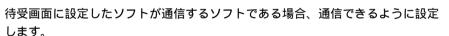
- 通信するソフトをiアプリ待受画面に設定した場合は、電波状況などにより正しく動作しない場合があります。
- iアプリ待受画面が設定されている場合、「画面表示設定」(『基本編』のP.177)の「待受画面」で設定した画像は待受画面に表示されません。ただし、マルチタスクの状態で待受画面を表示した場合は、iアプリ待受画面を設定していても「画面表示設定」の「待受画面」で設定されている画像が表示されます。また、iアプリとして起動したあとに待受画面の状態に戻す機能を持つソフトであっても、待受画面から起動したあと、ほかのタスク(機能)が動作している間は待受画面の状態に戻すことはできません。ソフトによっては、待受画面の状態に戻す際、継続動作できないことを通知するメッセージが表示されてソフトが終了し、待受画面設定も解除される場合があります。
- 次の場合には、iアプリ待受画面が終了します。
  - 「メガピクセルフォト」モードでカメラ機能を起動したとき
  - ソフトをバージョンアップしたとき
  - iアプリ待受画面がメール連動型iアプリの場合、メール機能からそのメール連動型iアプリのフォルダを参照したとき

  など
- iアプリ待受画面を設定している状態で電源を入れ直した場合、iアプリ待受画面を起動するかどうかのメッセージが表示されます。
- iアプリ待受画面表示中に「オールロック」(『基本編』のP.200)または「PIMロック」(『基本編』のP.204)を設定すると、iアプリ待受画面は終了し、「画面表示設定」の「待受画面」で設定した画像が表示されます。「オールロック」または「PIMロック」を解除すると、iアプリ待受画面が表示されます。
- iアプリ待受画面と通常の待受画面を設定した場合、iアプリ待受画面が優先して表示されます。

iアプリ待受画面から通信するようにします <iアプリ待受画面通信設定>

待受画面に設定したソフトが通信するソフトである場合、通信できるように設定します。

●通信を利用しないソフトの場合は、本機能を設定できません。

1

▶**「ソフト一覧」の順に選ぶ**

2 **設定するソフトを反転表示して機能メニューから「ソフト設定」−「待受画面通信」を選ぶ**

→

3 **設定する項目を選ぶ**

ソフト実行中に自動で通信する場合

「通信する」を選ぶ

ソフト実行中に通信しない場合

「通信しない」を選ぶ

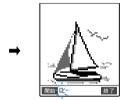
おしらせ

●「通信しない」に設定した場合、タイムリーな情報提供を受けられない場合がありますのでご注意ください。

iアプリ待受画面を起動します

iアプリ待受画面に設定したソフトを起動して、ソフト一覧から起動したときと同じ状態にできます。

1 iアプリ待受画面表示中にCLRを押す

iアプリが起動し、画面下の「」が「」の点滅表示に変わります。

iアプリ待受画面を解除します

iアプリ待受画面の設定を解除して、待受画面を「画面表示設定」の「待受画面」で設定された画像に戻します。

■iアプリ待受画面の起動中に解除します

1 iアプリ待受画面の起動中にCLRを1秒以上押す

2 「解除する」を選ぶ

iアプリ待受画面を解除したことを通知するメッセージが表示されます。

iアプリ待受画面の解除をキャンセルする場合

「キャンセル」を選ぶ

iアプリを終了してiアプリ待受画面表示に戻る場合

「終了する」を選ぶ

終了したことを通知するメッセージが表示され、iアプリ待受画面に戻ります。

■iアプリ待受画面の表示中に解除します

1 ▶ ▶ 「iアプリ設定」▶「待受画面終了」の順に選ぶ

2 「設定解除」を選ぶ

iアプリ待受画面を解除したことを通知するメッセージが表示されます。

iアプリ待受画面表示に戻る場合

「終了」を選ぶ

iアプリ待受画面の終了情報を確認します <待受画面終了情報>

iアプリ待受画面が解除されてしまうようなエラーが発生した場合、エラーが発生したソフト名、発生時刻、発生理由が記憶され、その内容を確認できます。

●終了したときにエラーが発生しなかった場合は記憶されません。

1 ▶「iアプリ実行情報」▶「待受画面終了情報」の順に選ぶ

待受画面終了情報
[アニメ1]
2004/ 7/15 12:00
ソフトに継続動作できない障害が発生しました
機能

ソフト名、エラーの発生日時と発生理由が表示されます。
画面の右下に「機能」と表示されている場合は、機能メニューを呼び出せます。

待受画面終了情報をコピーする場合

機能メニューから「情報コピー」を選ぶ

待受画面終了情報を削除する場合

機能メニューから「情報削除」を選ぶ

iアプリを管理します

iアプリをバージョンアップしたり、不要なiアプリを削除できます。

ソフトをバージョンアップします

ダウンロードしたソフトがサイトでより新しいソフトに更新されている場合は、ソフトをバージョンアップできます。

●次のような場合、メールフォルダ名を変更するメール連動型iアプリをバージョンアップできません。

・メールセキュリティの設定中
・フォルダセキュリティの設定中
・バージョンアップするメール連動型iアプリ専用の送信／受信フォルダの使用中

1 「ソフト一覧」の順に選ぶ

2 バージョンアップするソフトを反転表示して機能メニューから「バージョンアップ」を選ぶ

3 「YES」を選ぶ

ソフトがバージョンアップされます。

バージョンアップしない場合

「NO」を選ぶ

おしらせ

- ソフトが更新されていない場合は、ソフト情報を取得したあとに現在のソフトが最新であることを通知するメッセージが表示されます。
- SSL対応ページの場合は、SSL通信を開始することを通知するメッセージが表示されます。そのあと、クライアント認証を行う必要がある場合はユーザ証明書を送信するかどうかのメッセージが表示されます。
- 「ソフト情報表示設定」を「表示する」に設定している場合は、バージョンアップする前にソフトの情報を確認できます。→P.70
- バージョンアップの前に、携帯電話の製造番号およびFOMAカードの識別番号を利用することを通知するメッセージが表示される場合があります。
- 同じソフトを再度ダウンロードするときに、ソフトが新しいバージョンに更新されていることを確認した場合は、バージョンアップするかどうかのメッセージが表示されます。
- ソフトによっては、自動的にバージョンアップを実行する場合があります。その場合、バージョンアップするかどうかのメッセージが表示されます。

ソフトを削除します

保存されているソフトを1件ずつ削除したり、すべて削除したりできます。

1 Menu ▶ iアプリ ▶「ソフト一覧」の順に選ぶ

2 削除するソフトを反転表示して機能メニューから「1件削除」を選ぶ

複数のソフトを選んで削除する場合

「選択削除」を選んで削除するソフトを選ぶ

すべてのソフトを削除する場合

「全削除」を選んで端末暗証番号を入力する

端末暗証番号について→P.21

3 「YES」を選ぶ

ソフトが削除されます。

削除しない場合

「NO」を選ぶ

おしらせ

●iアプリ待受画面に設定されているソフト（「★」のついているソフト）や自動起動するように設定されているソフトを削除しようとすると、ソフトの設定状態と削除するかどうかのメッセージが表示されます。
●iアプリ待受画面に設定されているソフトを削除すると、「画面表示設定」（『基本編』のP.177）の「待受画面」で設定されている待受画面になります。
●「全削除」すると、あらかじめ登録されているソフト（P.74）も削除されます。
●メール連動型iアプリを削除する場合は、対応するメール連動型iアプリ専用フォルダを削除するかどうかのメッセージが表示されます。メール連動型iアプリのみを削除する場合は「NO」を選びます。メール連動型iアプリと対応するメール連動型iアプリ専用の送信／受信フォルダおよびフォルダ内のすべてのメールを削除する場合は「YES」を選びます。ただし、メール連動型iアプリ専用の送信／受信フォルダが使用中の場合、フォルダにセキュリティが設定されている場合、保護メールがある場合は削除できません。
●メール連動型iアプリを削除すると、削除するソフトを選んでいる間に受信したiアプリに対応している新着メールが削除されることがあります。
●メール連動型iアプリを削除した後にiアプリに対応したメールを受信すると、受信BOXに保存されます。

ソフトの実行情報を確認します

セキュリティエラーやソフトのトレース情報などを確認できます。

セキュリティエラーの履歴を表示します <セキュリティエラー履歴>

iアプリやiアプリDXで許可されていない動作を実行しようとした場合は、セキュリティエラーが発生してソフトを終了し、その内容がセキュリティエラー履歴に記憶されます。また、iアプリ待受画面でセキュリティエラーが発生した場合は、iアプリ待受画面を強制終了します。

●セキュリティエラー履歴は10件まで記憶されます。
●FOMA端末にセキュリティエラー情報が保存されていない場合は、履歴を表示できません。

1 Menu ▶ iアプリ ▶「iアプリ実行情報」▶「セキュリティエラー履歴」の順に選ぶ

ソフト名、セキュリティエラーの発生日時と発生理由が表示されます。

セキュリティエラー履歴をコピーする場合

機能メニューから「情報コピー」を選ぶ

セキュリティエラー履歴を削除する場合

機能メニューから「情報削除」を選ぶ

おしらせ

- 待受iアプリが起動していないときにセキュリティエラーが発生した場合は、待受画面に「」というデスクトップアイコンが表示されます。アイコンを選ぶと、セキュリティエラー履歴画面が表示されます。デスクトップアイコンについては、『基本編』のP.170をご覧ください。
- iアプリ待受画面でセキュリティエラーが発生した場合は、セキュリティエラー履歴のほかに「待受画面終了情報」(P.88)にも記憶されます。

■ソフトを作成される方へ

ソフトを作成して正常に動作しないときは、トレース情報が参考になる場合があります。

- トレース情報のメモリの空きがなくなると、古い情報から順番に上書きされます。
- FOMA端末にトレース情報が記憶されていない場合は、トレース情報を表示できません。

1 Menu ▶ iアプリ ▶「iアプリ実行情報」▶「トレース情報」の順に選ぶ

ソフトのトレース情報が発生した順番で表示されます。

トレース情報をコピーする場合

機能メニューから「情報コピー」を選ぶ

トレース情報を削除する場合

機能メニューから「情報削除」を選ぶ

キャラ電とは

テレビ電話をお使いのときに、相手のFOMA端末に自分側のカメラ映像を送る代わりにキャラクタを代替画像として送ることができます。

●キャラクタにいろいろなアクションを与えたり、音声に合わせてキャラクタの口を動かし、キャラクタも話しているような動作をすることができます。→P.325

●キャラ電プレーヤーで撮影(P.327)した静止画や動画を待受画面に設定したり、iモードメールに添付して送ることができます。

●キャラクタは内蔵キャラクタのほかに、サイトからお好きなキャラクタをダウンロードして登録することができます。→P.93

キャラ電をダウンロードします

お好きなキャラ電を3件までダウンロードして保存できます。

●保存したキャラ電はキャラ電プレーヤーで再生できます。→P.324

●ダウンロードしたキャラ電の詳細情報を確認できます。→P.324

1 ダウンロードしたいキャラ電のサイトのページを表示する

2 キャラ電を選んでダウンロードする

データの取り込みが完了すると、データ取得完了画面が表示されます。

中止する場合

[中止]を押す

3 データ取得完了画面で「保存」を選ぶ

保存するかどうかのメッセージが表示されます。

「再生」を選ぶと保存する前にキャラ電プレーヤーで確認できます。

キャラ電の操作方法→P.325

保存する場合

「YES」を選ぶ

保存したことを通知するメッセージが表示されます。

保存を中止する場合

「NO」を選ぶ

保存せずにデータ取得完了画面に戻ります。

保存されているキャラ電がいっぱいの場合

不要なキャラ電を削除してから保存するかどうかのメッセージが表示されます。

保存するときは「YES」を選び、削除するキャラ電を選びます。保存を中止するときは「NO」を選びます。「NO」を選ぶと保存せずにデータ取得完了画面に戻ります。

iモーションとは

iモーションは、映像や音声、音楽のデータで、iモーション対応サイトからFOMA端末に取り込み、再生したり、待受画面や着信音に設定して楽しむことができます。

●iモーション対応サイトは、iMenuの「メニューリスト」から探すことができます。

・ iモーションを取り込むには→P.95
・ iモーションを再生するには→P.95
・ iモーションの自動再生設定をするには→P.120
・ 待受画面として設定するには→『基本編』のP.177
・ 着モーションとして設定するには→『基本編』のP.163

iモーションのタイプ

iモーションには、大きく分けて次の2つのタイプがあります。取得したiモーションがどのタイプであるかは、サイトやデータにより異なります。

■ 標準タイプ

FOMA端末に最大300Kバイトまで保存することができ、次の2つの形式があります。
iモーションによっては、標準タイプでも保存できない場合があります。

①取り込んだ後に再生可能な形式（最大300Kバイトまで）
②取り込みながら再生可能な形式（最大300Kバイトまで）

■ ストリーミングタイプ

FOMA端末に保存することはできません。データを取り込みながら同時に再生するタイプで、最大2Mバイトまで再生できます。再生し終わったデータは破棄されるため、再生させるたびにデータを取り込みます。
ストリーミングタイプのiモーションのデータを取り込みながら再生することを「ストリーミング再生」と呼びます。

おしらせ

●再生できるiモーションはMP4（Mobile MP4）形式です。
●iモーションを待受画面に設定した場合、その再生画面から「Phone To機能」、「Mail To機能」、「Web To機能」を利用することはできません。

iモーションを楽しみます

サイトからiモーションを取り込み再生します

1 取り込みたいiモーションのサイトのページを表示する

2 iモーションを選んで取り込む

データの取り込みが完了すると、データ取得完了画面が表示されます。

中止する場合

[中止]を押す

標準タイプのiモーションのとき

「iモーション設定」の「自動再生設定」(P.120)で取り込みながら自動再生するかどうかを設定できます。ただし、iモーションによっては自動再生されない場合があります。

ストリーミングタイプのiモーションのとき

「iモーションタイプ設定」が「標準タイプ」に設定されている場合は取り込むことができません。

「このiモーションを再生するためにはiモーションタイプ設定を変更してください」と表示されたとき

- 「iモーション設定」の「iモーションタイプ設定」(P.120)が「標準タイプ」に設定されています。[選択]を押してサイトの画面に戻り、機能メニューから「iモーションタイプ設定」を選んで「標準・ストリーミング」に設定を変更してから、再度iモーションを取り込んでください。

「ストリーミング再生しますか?」と表示されたとき

- 「YES」を選ぶと再生がはじまります。「NO」を選ぶとサイトの画面に戻ります。
- 「YES」を選んだ後、再生中に中止したい場合は、[中止]を押します。

3 データ取得完了画面で「再生」を選ぶ

取り込んだiモーションを再生します。

「もう一度データを取得してストリーミング再生しますか？」と表示された場合

ストリーミングタイプのiモーションのときに表示されます。「YES」を選ぶとデータを取り込み、再生がはじまります。「NO」を選ぶとデータ取得完了画面に戻ります。

---

iモーション再生中の操作について

iモーションを再生中には次の操作を行うことができます。

操作ボタン	iモーションの動作
●	再生一時停止／再開
↑(▲)、↓(▼)	音量調節
◢	早送り再生
◣	消音(ミュート)(音声や音楽がないときは無効になります)
→を1秒以上	スキップ送り※
●で再生一時停止後◢	コマ送り(押すごとにコマが進みます)
●で再生一時停止後、機能メニューから「スロー再生」	スロー再生
CLR	終了

※：iモーションによっては利用できない場合があります。

・標準タイプのiモーションを取り込みながら再生している場合(初回再生時のみ)は、早送り・コマ送り・スロー再生の操作はできません。ストリーミング再生の場合は、これらの操作のほかに一時停止の操作もできません。◢[中止]を押すと中止します。

おしらせ

- データを取り込みながら再生する場合、電波状況等によりデータを取り込むことができなくなったときでも、取り込んだところまでは再生されます。データは途中までしか取り込まれていないため、データ取得完了画面が表示されない場合があります。すべて再生するには、再度データを取り込んでください。
- データを取り込みながら再生する場合、電波状況等により再生が停止したり、画像が乱れたりすることがあります。
- iモーションには、次のような再生制限が設定されている場合があり、次の条件のときには再生できません。

再生制限の種類	再生できない条件
再生期間（開始日と終了日の指定あり）	再生期間前および再生期間後
再生期限（終了日のみ指定あり）	再生期限後
再生回数（再生可能回数の指定あり）	再生回数の残りが0回

- 再生制限の設定されているiモーションの場合は、データ取得完了画面のタイトルの左に「🕒」が表示されます。
- 再生期間制限、再生期限制限が設定されているiモーションを再生しようとすると、その制限についてのメッセージが表示されます。メッセージが消えると再生が始まります。
- 再生回数制限が設定されているiモーションを再生しようとすると、その制限についてのメッセージが表示されます。再生するときは「YES」を選びます。再生を中止するときは「NO」を選びます。
- iモーションを再生するときに、「このデータは2MBの場合があります　再生しますか？」というメッセージが表示される場合があります。「YES」を選ぶと再生をはじめますが、最大サイズを超えたストリーミングタイプのiモーションのときは再生が中断される可能性があります。また、このiモーションをもう一度取り込んだ場合でも、再生が途中で中断され、データの最後まで再生することはできません。
- 取り込んだiモーションによっては、正しく再生できないことがあります。
- iモーションによっては取り込むことができないものがあります。
- データ取得完了画面のURLは「ラストURL」（P.61）に記憶されません。この場合、ラストURLはデータ取得完了画面の前に表示していたページのURLになります。
- iモーションを再生すると表示されるテロップに記載されている、iモーションの文字情報を用いて、「Phone To 機能」（P.111）、「Mail To 機能」（P.112）、「Web To 機能」（P.113）を利用できるものがあります。また、表示される電話番号やメールアドレスは電話帳に登録することができます。

iモーションを保存します

データ取得完了画面で「保存」を選べるiモーションは、FOMA端末に保存することができます。

●保存したiモーションは「ムービープレーヤー」(P.308)で再生やプログラム編集などさまざまな操作をすることができます。

●iモーションはカメラでの撮影動画と合わせて100件まで保存できます。iモーションの保存可能件数は、iモーションのデータ量によって5～100件に変動します。

1 データ取得完了画面で「保存」を選ぶ

保存するかどうかのメッセージが表示されます。

保存する場合

「YES」を選ぶ

保存したことを通知するメッセージが表示されます。

保存を中止する場合

「NO」を選ぶ

保存せずにデータ取得完了画面に戻ります。

保存されているiモーションがいっぱいの場合

不要なiモーションを削除してから保存するかどうかのメッセージが表示されます。

保存するときは「YES」を選び、削除するiモーションを選びます。

保存を中止するときは「NO」を選びます。「NO」を選ぶと保存せずにデータ取得完了画面に戻ります。

おしらせ

- 保存したiモーションは、「ムービープレーヤー」のフォルダ内で一覧の一番目に表示されます。また、タイトルがないiモーションは、一覧で「無題」と表示されます。
- 次のiモーションは保存することができません。
  - ・保存不可に設定されているiモーション
  - ・ストリーミングタイプのiモーション
  - ・取り込みながら再生を中止したiモーション
  - ・正常に取り込みが完了しなかったiモーション
  - ・再生可能期間、再生可能期限が過ぎたiモーション
  - ・データ取得完了画面で連続して保存しようとしたiモーション
- iモーションは、データ取得完了画面を「画面メモ」(P.57)として保存し、画面メモから再生することもできます。画面メモに保存する場合は、データ取得完了画面で機能メニューから「画面メモ」を選びます。
  ただし、次のiモーションのデータ取得完了画面は「画面メモ」に保存することができません。
  - ・再生制限が設定されているiモーション
  - ・ストリーミングタイプのiモーション
  - ・データが不完全なiモーション
- 画面メモに保存したiモーションは、「ムービープレーヤー」のフォルダ内の一覧には含まれません。そのため、プログラム再生や待受画面設定などの機能は利用できません。
- iモーションによっては、再生終了後にほかのページへのリンクが表示されることがあります。このリンクを選ぶと、見ていたiモーションを保存するかどうかのメッセージが表示される場合があります。保存したいときは、メッセージに従って保存してからほかのページを表示してください。

iモーションの詳細情報を表示します

iモーションのタイトル、再生制限の有無、ファイルサイズなどの詳しい情報を確認することができます。

データ取得完了画面で「情報表示」を選ぶ

データ情報表示画面が表示されます。で画面をスクロールし、情報を確認します。
情報を確認したらを押します。

メッセージサービス機能一覧

メッセージサービス機能の画面および機能メニューから可能な操作の一覧を示します。

<待受画面>

<iモードメニュー>

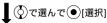
メッセージメニュー
1 メッセージリクエスト……メッセージリクエスト一覧画面を表示します。
2 メッセージフリー…………メッセージフリー一覧画面を表示します。

1 または 2

<メッセージリクエスト／フリー一覧画面>

機能メニュー　1/2
1 全表示………………ソート表示またはフィルタ機能による表示を元の表示（すべてを新しい順に表示）に戻します。
2 ソート………………指定した条件に従ってメッセージリクエスト／フリーを並べ替えます。→P.108
3 フィルタ……………指定した条件に従って読みたいメッセージリクエスト／フリーのみを表示します。→P.108
4 保護／保護解除……メッセージリクエスト／フリーを保護／保護解除します。→P.109
5 保護全解除…………保護されているメッセージリクエスト／フリーの保護をすべて解除します。→P.109
6 保存件数確認………保存されているメッセージリクエスト／フリーの件数および未読件数、保護件数を表示します。→P.111
7 1件削除……………メッセージリクエスト／フリーを1件削除します。→P.110

機能メニュー　2/2
1 選択削除……………メッセージリクエスト／フリーを選んで削除します。→P.110
2 既読削除……………すでに読んだメッセージリクエスト／フリーをすべて削除します。→P.110
3 全削除………………メッセージリクエスト／フリーをすべて削除します。→P.110

＜メッセージリクエスト／フリー一覧画面＞

＜メッセージリクエスト／フリー詳細画面＞

機能メニュー

1電話帳登録…………メッセージリクエスト／フリーに表示されている電話番号やメールアドレスを電話帳に登録します。→P.117

2メロディ保存………メッセージリクエスト／フリーに添付または貼り付けられているメロディを保存します。→P.116

3画像保存……………メッセージリクエスト／フリーに添付されている画像を保存します。→P.115

4画像再読み込み……取得に失敗した画像を再度読み込みます。→P.107

5保護／保護解除……メッセージリクエスト／フリーを保護／保護解除します。→P.109

6削除…………………メッセージリクエスト／フリーを削除します。→P.110

メッセージリクエスト／フリー画面の見かた

メッセージリクエスト／フリー画面は、次のように表示されます。

●メッセージリクエスト／フリー一覧画面で表示されるアイコンは、メッセージリクエスト／フリー詳細画面でも表示されます。表示されないアイコンもあります。

一覧画面（2行表示）

一覧画面（1行表示）

詳細画面

① メッセージリクエスト／フリーの状態を示しています。
- ：未読のメッセージリクエスト／フリー
- ：既読のメッセージリクエスト／フリー
- ：未読で保護されているメッセージリクエスト／フリー
- ：既読で保護されているメッセージリクエスト／フリー

② 受信した時刻や日付を示しています。
- ②-1 当日受信したメッセージリクエスト／フリーは時刻が表示されます。
- ②-2 前日までに受信したメッセージリクエスト／フリーは日付が表示されます。

③ 添付または貼り付けられているファイルを示しています。
- ：メロディが添付または貼り付けられていることを示しています。
- ：複数のメロディが添付または貼り付けられていて、そのうちの一部のデータが正しくないことを示しています。
- ：添付または貼り付けられているすべてのメロディのデータが正しくないことを示しています。
- ：画像が添付されていることを示しています。
- ：複数の画像が添付されていて、そのうちの一部のデータが正しくないことを示しています。
- ：添付されているすべての画像のデータが正しくないことを示しています。また、「画像表示設定」（P.119）が「表示しない」に設定されているときに表示されます。
- ：複数のデータが貼り付けられていることを示しています。

次のアイコンは、一覧画面が1行表示の場合に表示されます。
- ：添付または貼り付けられているデータがあることを示しています。
- ：添付または貼り付けられているデータのうちの一部のデータが正しくないことを示しています。
- ：添付または貼り付けられているすべてのデータが正しくないことを示しています。

④ 題名を示しています。

メッセージリクエスト／フリーを自動的に受信します

FOMA端末が圏内にあるときは、メッセージリクエスト／フリーがiモードセンターから自動的に送られてきます。

●受信したメッセージリクエスト／フリーは、FOMA端末にそれぞれ最大100件まで保存できます。メッセージリクエスト／フリーの保存可能件数はデータ量により、メッセージリクエストが20〜100件、メッセージフリーが10〜100件と変動します。

●メッセージリクエスト／フリーを受信したときの着信音を「着信音選択」（『基本編』のP.163）でお好みの音に設定したり、着信ランプの点滅パターンを「着信イルミネーション」（『基本編』の P.185）で変更できます。

メッセージリクエスト／フリーを受信した場合

■自動表示する場合（お買い上げ時）

●自動表示しないときは、「メッセージ自動表示設定」（P.121）を「自動表示しない」に設定してください。

●通話中やiモード中などの操作中にメッセージリクエスト／フリーを受信したときに、着信音が鳴り、受信中画面が表示されるようにも設定できます。→P.224

「R」や「F」のアイコンが点滅し「メッセージリクエスト受信中…」または「メッセージフリー受信中…」と表示されます。

・受信が終わると、アイコンは点灯に変わります。

・受信中にCLRを1秒以上押すと、受信を中止します。ただし、中止したタイミングによりメッセージを受信することがあります。

・受信が終わると、受信結果画面に受信したメールやメッセージリクエスト／フリーの件数が約15秒間表示されます。表示される時間は「メール／メッセージ鳴動」（P.233）の設定によって変わります。

・「メッセージリクエスト」または「メッセージフリー」を選んで●［選択］を押すと、メッセージリクエスト一覧画面またはメッセージフリー一覧画面が表示されます。

・待受画面表示中に受信した場合、受信したメッセージリクエスト／フリーの内容が約15秒間表示されます。ただし、待受画面でも、iモードグループ（iモード、iアプリ）の機能が起動しているときは自動表示されません。
　待受画面表示中以外で受信したメッセージリクエスト／フリーは自動表示されません。
・メッセージリクエスト／フリー表示中に画面スクロールなどの操作をすると、メッセージリクエスト／フリーの内容が表示され続けます。
・何も操作しないで約15秒経過すると待受画面に戻ります。

■自動表示しない場合

FOMA端末の操作中にメッセージリクエスト／フリーを受信したときは、受信中画面は表示されず、そのまま操作を続けられます。着信音、着信ランプ点灯、バイブレータ、バックライトの点滅は行わず、「R」や「F」のアイコン表示によって、メッセージリクエスト／フリーを受信したことが通知されます。

メッセージリクエスト／フリーのアイコン表示について

「R」（または「F」）のアイコンが表示されたときは、FOMA端末はこれ以上メッセージリクエスト／フリーを受信できません。これらのアイコンが表示されなくなるまで未読のメッセージリクエスト／フリーを読むか、保護を解除（P.108）してください。読んだり、保護を解除したメッセージリクエスト／フリーは、受信時に古いものから順に上書きされます。

おしらせ

● FOMA端末に保存されているメッセージリクエスト／フリーが最大保存件数（P.102）を超えた場合は、受信時に古いメッセージリクエスト／フリーから順に自動的に上書きされます。ただし、未読のメッセージと保護されているメッセージは上書きされません。必要なメッセージは保護しておくことをおすすめします。
● メッセージリクエスト／フリーの一覧画面または詳細画面で表示中のメッセージは、ほかのタスクに切り替えを行っても上書きされません。メッセージリクエスト／フリーの一覧画面または詳細画面を表示中にメッセージリクエスト／フリーを受信したときは、表示中や未読のメッセージ、保護されているメッセージ以外の古いメッセージから順に上書きされます。
● 自動表示後も、メッセージリクエスト一覧またはメッセージフリー一覧画面の表示では未読になります。ただし、自動表示中に画面スクロールなどの操作を行ったときは、メッセージリクエスト一覧またはメッセージフリー一覧画面では既読となります。
● 自動表示したときは、メロディは自動再生されません。
● メッセージリクエストとメッセージフリーを同時に受信したときは、「着信音選択」（『基本編』のP.163）の「メッセージリクエスト」で設定されている着信音が鳴ります。
● 着信音の音量は「着信音量」（『基本編』のP.79）の「メール／メッセージ」で設定した音量になります。

iモード問い合わせ

メッセージリクエスト／フリーがあるかどうか問い合わせます

●iモードセンターに届いたメッセージリクエスト／フリーは自動的にFOMA端末へ送信されますが、FOMA端末の電源が入っていないとき、「圏外」が表示されているとき、メモリがいっぱいのとき、テレビ電話中のとき、遠隔監視中のときなどで受信できないときはiモードセンターに保管されます。iモードセンターにメッセージリクエスト／フリーが保管され、「R」「F」のアイコンが表示されたときは、「iモード問い合わせ」を行って受信します。「iモード問い合わせ」を行うと、iモードセンターに保管されているiモードメールとメッセージリクエスト／フリーを受信します。
●メールメニューから「iモード問い合わせ」を選んだり、待受画面表示中に[MAIL]を1秒以上押しても、iモード問い合わせができます。
●問い合わせる項目は「iモード問い合わせ設定」(P.127)で設定します。

1 [imode]▶「iモード問い合わせ」の順に選ぶ

「✉」と「R」「F」が点滅して「問い合わせ中…」と表示され、iモードメールやメッセージリクエスト／フリーを受信します。

問い合わせを中止する場合

CLRを1秒以上押す

問い合わせを中止したときでも、中止したタイミングによりメッセージを受信することがあります。

2 新しく受信したiモードメールとメッセージリクエスト／フリーの件数を確認する

メッセージリクエスト／フリーのアイコン表示について

「R」(または「F」)のアイコンが表示されたときは、iモードセンターにメッセージリクエストまたはフリーが保管されています。iモードセンターに保管されているメッセージリクエストまたはフリーがいっぱいになると「R」(または「F」)のアイコンの表示になります。

おしらせ

- 「圏外」が表示されているときは問い合わせできません。
- 「」「R」「F」「」などのアイコンが表示されたときは、FOMA端末はこれ以上iモードメールやメッセージリクエスト／フリーを受信できません。これらのアイコンが表示されなくなるまで、不要なメールやメッセージリクエスト／フリーを削除するか、未読のメールやメッセージリクエスト／フリーを読むか、保護を解除(P.108)してください。読んだり、保護を解除したメールやメッセージリクエスト／フリーは、受信時に古いものから順に上書きされます。
- iモードセンターでのメッセージリクエスト／フリーの保管件数、保管期間は次のとおりです。

	最大保管件数	最大保管期間
メッセージリクエスト	300件	72時間
メッセージフリー	300件	72時間

最大保管件数を超えた場合は、各メッセージの最も古いものから順に削除されます。

- iモードセンターにメッセージリクエスト／フリーが保管されていても、FOMA端末の電源が入っていないときや「圏外」が表示されているときにセンターに届いた場合などは、「」や「」のアイコンが表示されないことがあります。
- iモード問い合わせ中にセンターでお預りしたiモードメールやメッセージリクエスト／フリーは、件数に反映されないことがあります。

受信したメッセージリクエスト／フリーを見ます

受信したメッセージリクエスト／フリーはiモードメニューの「メッセージ」内に保存されます。

- iモードセンターからFOMA端末にメッセージリクエスト／フリーが届くと画面の上部に「R」や「F」が表示されます。
- 別のFOMAカードに差し替えたり、FOMAカードを抜いたままFOMA端末の電源を入れた場合は、メロディや画像が添付または貼り付けられているメッセージリクエスト／フリーの詳細画面を表示できなくなります。元のFOMAカードを挿入し直すと、それらのメッセージリクエスト／フリーを表示できるようになります。→P.19

<例：メッセージリクエストを見るとき>

1 imode ▶「メッセージ」▶「メッセージリクエスト」の順に選ぶ

メッセージフリーを見る場合

「メッセージフリー」を選ぶ

2 表示したいメッセージを選ぶ

メッセージリクエスト詳細画面で前または次のメッセージリクエストを表示させるときは⊙を押します。
メッセージリクエスト詳細画面でCLRを押すと、メッセージリクエスト一覧画面に戻ります。

おしらせ

- メッセージリクエスト／フリーに「OK」や「Cancel」などのボタン、ラジオボタン、チェックボックス、テキストボックス、プルダウンメニュー、セレクトボックスなどが表示されることがあります。表示されたときは、サイトなどと同じ操作を行ってください。→P.34
- FOMA端末を開いたときやボタンを押したとき、メッセージリクエスト／フリーを受信したときなどにバックライトを約15秒間点灯します（点灯時間は「メール／メッセージ鳴動」（P.233）の設定によって変わります）。ただしメッセージリクエスト／フリーの本文を表示させたときは、本文の長さにより点灯時間が異なります。なお、「照明設定」（『基本編』の P.183）の「通常時」を「OFF」に設定しているときは点灯しません。

メッセージリクエスト／フリーの画像を再度読み込みます <画像再読み込み>

メッセージリクエスト／フリー本文内の画像が取り込まれずに「」が表示されている場合、画像を再読み込みすると表示されます。

サイトなどでの画像表示について→P.44

1 メッセージリクエストまたはフリーの詳細画面を表示し、機能メニューから「画像再読み込み」を選ぶ

「画像再読み込み」で再読み込みするのは本文内画像のみです。添付画像は再読み込みしません。
「」で表示されている画像は読み込めません。

ソート表示／フィルタ機能

メッセージリクエスト／フリーの表示方法を変更します

受信したメッセージリクエスト／フリーを目的に応じて順番を並べ替えたり、条件に合うメッセージリクエスト／フリーのみを表示するようにできます。

機能名	設定項目	表示方法	設定項目	分類方法
ソート表示	ソート	メッセージリクエスト／フリーの順番を並べ替えます。	新しい順	新しい順に並び替えます。
			古い順	古い順に並び替えます。
フィルタ機能	フィルタ	メッセージリクエスト／フリー一覧画面に、指定した条件に合うメッセージのみを表示します。	未読のみ	未読のメッセージのみ表示します。
			既読のみ	既読のメッセージのみ表示します。
			保護のみ	保護されたメッセージのみ表示します。
			メロディのみ	メロディが添付されたメッセージのみ表示します。
			画像のみ	画像が添付されたメッセージのみ表示します。

●フィルタ機能やソート表示でメッセージリクエスト／フリーの表示方法を変更しても、その画面を終了し再度それぞれの一覧画面を表示すると、新しい順の全表示に戻ります。

●詳しい操作手順は、iモードメールのソート表示／フィルタ機能（P.208、P.209）を参照してください。

＜例：メッセージリクエストを古い順に表示する場合＞

1 メッセージリクエスト一覧画面の機能メニューから「ソート」を選ぶ

元の表示に戻す（すべてのメッセージを新しい順に表示させる）には、機能メニューから「全表示」を選びます。

2 「古い順」を選ぶ

古いメッセージから順に並べ替えられて表示されます。

おしらせ

● ソート表示とフィルタ機能を併用できます。例えば、未読メッセージのみで古い順に表示させたいときは、フィルタメニューの「未読のみ」を選び、ソートメニューの「古い順」を選びます。

メッセージリクエスト／フリーを管理します

受信したメッセージリクエスト／フリーを保護したり削除することができます。

メッセージリクエスト／フリーを保護します

残しておきたいメッセージリクエスト／フリーを保護できます。保護されたメッセージリクエスト／フリーは、上書きや削除ができなくなります。

●メッセージリクエストとメッセージフリーはそれぞれ最大50件まで保護できます。保護可能件数は、メッセージリクエスト／フリーのデータ量により変動します。

＜例：メッセージリクエストを保護する場合＞

1 メッセージリクエスト一覧画面を表示する

2 保護（または保護解除）するメッセージリクエストを反転表示して、機能メニューから「保護／保護解除」を選ぶ

保護されていないものは保護され（時刻や日付の左側に「」／「」を表示）、保護されているものは保護解除されます。

おしらせ

● FOMA端末に保存されているメッセージリクエストやメッセージフリーが最大保存件数（P.102）を超えた場合、メッセージ受信時に、保護されていない既読のメッセージリクエストやメッセージフリーから古い順に上書きされます。
● メッセージリクエスト／フリー詳細画面で機能メニューから「保護／保護解除」を選んでも保護／保護解除ができます。
● メッセージリクエスト／フリー一覧画面で機能メニューから「保護全解除」を選ぶと、保護されているメッセージリクエスト／フリーの保護がすべて解除されます。

メッセージリクエスト／フリーを削除します

受信したメッセージリクエスト／フリーを削除します。メッセージリクエスト／フリーの削除には次の方法があります。詳しい操作手順については、iモードメールの削除（P.212）を参照してください。

削除の種類	説明
1件削除	1件のメッセージリクエスト／フリーを削除
選択削除	削除するメッセージリクエスト／フリーを一覧から選んで削除
既読削除	すでに読んだメッセージリクエスト／フリーをすべて削除
全削除	メッセージリクエスト／フリーをすべて削除

<例：メッセージリクエストを１件削除する場合>

1 メッセージリクエスト一覧画面を表示する

2 削除するメッセージリクエストを反転表示して、機能メニューから「１件削除」を選ぶ

削除するかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶとメッセージリクエストが削除され、削除されたことを通知するメッセージが表示されます。

削除を中止する場合

「NO」を選ぶ

おしらせ

- 保護されているメッセージリクエスト／フリーは削除できません。
- フィルタ機能で指定したメッセージリクエスト／フリーだけを表示しているときに「既読削除」や「全削除」を行うと、表示されているメッセージリクエスト／フリーから、既読またはすべての保護されていないメッセージリクエスト／フリーが削除されます。
- メッセージリクエスト／フリー詳細画面で機能メニューから「削除」を選んで削除することもできます。

メッセージリクエスト／フリーの保存件数を確認します

メッセージリクエスト／フリーの保存件数、未読件数や保護件数を確認できます。件数を確認できるメッセージリクエスト／フリーの種類は次のとおりです。

表示項目	表示内容
全件	受信したすべてのメッセージリクエスト／フリーの件数を表示
未読	未読のメッセージリクエスト／フリーの件数を表示
保護	保護されたメッセージリクエスト／フリーの件数を表示

● 未読で保護されたメッセージは、未読と保護の両方の件数に加えられます。

＜例：メッセージリクエストの保存件数を確認する場合＞

1 メッセージリクエスト一覧画面で機能メニューから「保存件数確認」を選ぶ

メッセージフリーの保存件数を確認する場合は、メッセージフリー一覧画面で機能メニューから「保存件数確認」を選びます。
メッセージがない場合は、「メッセージリクエスト（フリー）はありません」と表示されます。

Phone To 機能

表示されている電話番号へ電話をかけます

サイトやメールに表示されている電話番号や電話番号が登録された項目(「ご連絡はこちら」など)を利用して、音声電話／テレビ電話をかけることができます。

●テレビ電話でのPhone To機能のことをAV Phone To機能と呼びます。
●「指定発信制限」「ダイヤル発信制限」「セルフモード」(『基本編』の P.141、P.205、P.207)を設定している場合は、Phone To機能で電話をかけることはできません。
●サイトによってはPhone To機能をご利用になれない場合があります。

<例:音声電話をかける場合>

1 表示されている電話番号または電話番号が登録された項目を選ぶ

メールの送信元や宛先が電話番号や「電話番号@…」のメールアドレスのときも電話をかけられます。

2 「音声発信」を選ぶ

「64KTV電話発信」または「32KTV電話発信」を選ぶと、テレビ電話をかけられます。
テレビ電話をかける場合は、「TV電話画像選択」で送信する画像を選ぶことができます。

3 「発信」を選ぶ

「発番号設定」が「通知する」のときに、電話番号を通知しないでかけたい場合

「発番号通知しない」を選ぶ

「発番号設定」について→『基本編』のP.124

「発番号設定」が「通知しない」のときに、電話番号を通知してかけたい場合

「発番号通知する」を選ぶ

電話をかけるのをやめる場合

「中止」を選ぶ

おしらせ

- パケット通信でのデータ通信中は、Phone To機能でテレビ電話をかけられません。
- メール、サイト、メッセージリクエスト／フリーの本文に次の条件に当てはまる文字列が表示されているときは、Phone To機能を利用できます。
  - 「+」または数字の「0」からはじまる10～26桁の文字列※
  - 「*」または「#」ではじまる5～26桁の文字列（桁数については文頭の「*」、「#」を含む）※
  - 「tel：」または「tel-av：」ではじまる3～26桁の文字列※

  ※：「(」、「)」、「.」、「-」の半角文字列が区切り文字として認識されます。「+」が途中に含まれる場合は、「+」の前までとなります。

Mail To 機能

表示されているメールアドレスにメールを送ります

サイトやメールなどに表示されているメールアドレスやメールアドレスが登録された項目（「ご連絡はこちら」など）を利用して、iモードメールを送ることができます。

- 「ダイヤル発信制限」（『基本編』のP.205）を設定しているときは、Mail To機能を利用できません。
- サイトによってはMail To機能をご利用になれない場合があります。

1 表示されているメールアドレスを選ぶ

複数のメールアドレスが反転表示されている場合は、複数の宛先が指定されます。

2 iモードメールを作成して送信する

題名、本文が自動で入力される場合があります。
詳しくは「iモードメールを作成／送信します」（P.152）を参照してください。

おしらせ

- 保存メールが10件ある場合は、Mail To機能を利用できません。
- メールアドレスが2つ以上続けて表示されているときは、Mail To機能をご利用できない場合があります。
- メールアドレスとして使える文字数は半角で50文字までです。

Web To 機能

表示されているURLのページに接続します

サイトやメールなどに表示されているURLやURLが登録された項目(「次へ」など)を利用して、インターネットホームページを表示できます。

1 表示されているURLを選ぶ

インターネットホームページが表示されます。

おしらせ

- URLの表示はサイトにより異なります。
- メールやメッセージリクエスト/フリーの本文中に表示されている「http://」または「https://」ではじまるURLからもページを表示できます。

表示されている画面の情報を登録/保存します

サイトやiモードメール、メッセージリクエスト/フリーなどに表示されているメロディ、画像、フレーム、電話番号、メールアドレス、キャラ電などの情報を、FOMA端末に登録・保存できます。

- サイトから辞書をダウンロードして保存できます(ダウンロード辞書)。ダウンロードした日本語変換用の辞書の中から2つまでを変換用辞書として設定できます。→『基本編』のP.321
- サイトやiモードメールに登録または添付されているメロディを保存すると、着信音などに設定できます。
- サイトや画面メモ、iモードメールに表示または添付されている画像やアニメーションを保存すると、待受画面やウェイクアップ表示などに設定できます。
- iモードメールに添付されているメロディや画像の保存についてはP.187、P.188を参照してください。
- 別のFOMAカードに差し替えたり、FOMAカードを抜いたままFOMA端末の電源を入れた場合は、メロディや画像などが含まれている画面メモやメッセージリクエスト/フリーを表示できなくなります。元のFOMAカードを挿入し直すと、それらの画面メモやメッセージリクエスト/フリーを表示できるようになります。→P.19
- サイトやiモードメールからiアプリを起動する方法について→P.76
- iモーションを取り込む操作について→P.95、P.190
- サイトや画面メモからキャラ電をダウンロードして保存する方法について→P.93

画像を保存します

サイトや画面メモ、iモードメール、メッセージリクエスト／フリー本文内に表示された画像を保存し、待受画像などに設定できます。

<例：サイトに表示されている画像を保存する場合>

1 保存したい画像があるページを表示し、機能メニューから「画像保存」を選ぶ

表示しているサイトなどの画面に画像がない場合、または「画像表示設定」（P.119）を「表示しない」に設定している場合は、機能メニューの「画像保存」は利用できません。

2 保存する画像を選ぶ

保存する画像に□をあわせます。
画像を保存するかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選び、保存先のフォルダを選ぶと画像が保存され、保存したことを通知するメッセージが表示されます。

保存されている画像がいっぱいの場合

不要な画像を削除してから保存するかどうかのメッセージが表示されます。保存するときは「YES」を選び、削除する画像を選びます。

画像の保存を中止する場合

「NO」を選ぶ

おしらせ

- 保存後に表示される画面で待受画面などに設定することもできます。
- 保存した画像のファイル名が半角英数字のみの場合、そのファイル名で保存されます（ただし、半角で36文字まで）。ファイル名が指定されていない場合は、ダウンロードしたURLの最後の「/」から「.」の間の文字がファイル名になります。それ以外の場合は、「imagexxx」（xxx：3桁の番号）のファイル名で保存されます。ファイル名の末尾3桁の番号は同一ファイル名を区別するためのシリアル番号としてつけられます。
- 次の条件を満たす画像は、フレーム画像として保存されます。
  - 透過GIFファイル（アニメーションGIFファイルでない）
  - ファイルの拡張子が「.ifm」
  - 画像サイズが「352×288 ドット」、または「240×269 ドット」、「176×144 ドット」、「128×96 ドット」
- 画像によっては、保存できない場合があります。

メロディを保存します

サイトやiモードメールに登録または添付されているメロディを保存すると、着信音などに設定できます。

<例：サイトからメロディを保存する場合>

1 メロディをダウンロードできるサイトを表示し、メロディを選ぶ

メロディを選ぶと、メロディの取り込みがはじまります。
取り込みが完了すると、データ取得完了画面が表示されます。

2 「保存」を選ぶ

保存するかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶとメロディを保存し、保存したことを通知するメッセージが表示されます。

保存されているメロディがいっぱいの場合

不要なメロディを削除してから保存するかどうかのメッセージが表示されます。保存するときは「YES」を選び、削除するメロディを選びます。

メロディの保存を中止する場合

「NO」を選ぶ

「再生」を選ぶと、メロディを再生します。
「情報表示」を選ぶと、メロディの情報を表示します。

おしらせ

- 保存後に表示される画面で着信音などにも設定できます。
- 取り込んだメロディには、あらかじめ再生部分が指定されていることがあります。そのようなメロディでは、再生するときにはメロディのすべての部分が再生されますが、着信音などに設定したときは指定部分のみが再生されます。
- 取り込んだメロディは正しく再生されない場合があります。
- データ取得完了画面のURLは「ラストURL」に記憶されません。この場合、「ラストURL」はデータ取得完了画面の前に表示していたページのURLになります。
- 保存したメロディのタイトルは、一覧の一番目に表示されます。iモードメールから保存したメロディは、ファイル名がタイトルになります。サイトからダウンロードしたメロディにタイトルがつけられていない場合は、「無題」と表示されます。
- 保存したメロディのファイル名が半角英数字のみの場合、そのファイル名で保存されます（ただし、半角で36文字まで）。ファイル名が指定されていない場合は、ダウンロードしたURLの最後の「/」から「.」の間の文字がファイル名になります。それ以外の場合は、「melodyxxx」（xxx：3桁の番号）のファイル名で保存されます。ファイル名の末尾3桁の番号は同一ファイル名を区別するためのシリアル番号としてつけられます。
- 「マナーモード」（『基本編』の P.135）に設定中のときは、取り込んだメロディを再生するときに、マナーモード中に再生するかどうかのメッセージが表示されます。
- 通話中はメロディの再生ができません。

電話番号やアドレスを電話帳に登録します

サイトや画面メモ、iモードメール、メッセージリクエスト／フリーなどに表示されている、電話番号、メールアドレスなどの情報を電話帳に登録できます。

＜例：サイトに表示されている電話番号を登録する場合＞

1 登録したい情報のあるページを表示し、登録する電話番号を反転表示する

2 機能メニューから「電話帳登録」を選ぶ

電話帳に登録するかどうかのメッセージが表示されます。
「YES」を選ぶと電話帳登録をします。

登録を中止する場合

「NO」を選ぶ

3 電話帳に登録する

電話帳に登録します。→『基本編』のP.108
電話番号に名前やフリガナ、メールアドレスの情報が付加されているときは、電話番号とともに入力されます。残りの必要な項目を入力して電話帳に登録します。

おしらせ

- サイトのページなどで反転表示された情報（電話番号、メールアドレスなど）に名前やフリガナ、電話番号、メールアドレスの情報が付加されているときに「本体」への「追加登録」を選ぶと、「電話帳検索」のメニュー（『基本編』のP.116）に「自動検索」が表示されます。「自動検索」を選ぶと同じ名前、フリガナの電話帳を検索できます。
- 電話番号やメールアドレスによっては電話帳に登録できない場合があります。
- 電話帳に登録できない文字（絵文字など）が含まれていた場合、その文字はスペースになります。

iモード設定機能一覧

iモード設定機能の画面および設定一覧を示します。

<待受画面>

<iモードメニュー>

iモード設定　1/2

1スクロール設定…………サイト画面や画面メモ、メッセージリクエスト／フリー画面のスクロール行数を設定します。→P.119

2文字サイズ設定…………サイト画面やメッセージリクエスト／フリー画面の詳細画面の文字サイズを設定します。→P.119

3画像表示設定……………サイト画面や画面メモ、メッセージリクエスト／フリー画面の画像表示について設定します。→P.120

4iモーション設定…………iモーションの自動再生や取得するiモーションの種類について設定します。→P.121

5メッセージ自動表示設定…受信したメッセージリクエスト／フリーの自動表示について設定します。→P.123

6開封時メロディ再生設定…メッセージリクエスト／フリーを開いたときのメロディの自動再生について設定します。→P.123

7メッセージ貼付メロディ設定…メッセージリクエスト／フリーに貼り付けられたメロディの再生と保存について設定します。→P.123

8メッセージ一覧表示設定…メッセージリクエスト／フリー一覧画面の1件の表示行数を設定します。→P.123

9ホームURL設定…………ホームURLを設定します。→P.60

0効果音設定………………サイト画面や画面メモのFlash画像の効果音について設定します。→P.124

iモード設定　2/2

1iモード設定確認………iモード設定の設定内容を確認します。→P.124

2ラストURL初期化……ラストURLを初期化します。→P.124

3iモード設定リセット…iモード設定の設定内容をお買い上げのときの状態に戻します。→P.125

画面表示の設定をします

iモードやメッセージリクエスト／フリーの画面表示を使いやすいように設定できます。

スクロール行数を設定します　＜スクロール設定＞

お買い上げ時	1行スクロール

サイト画面や画面メモ、メッセージリクエスト／フリー画面で◯を押したときに画面が何行分送られて（スクロールされて）表示されるかを設定します。

1
1行スクロール ：1行単位でスクロールされます。
3行スクロール ：3行単位でスクロールされます。
5行スクロール ：5行単位でスクロールされます。

文字の表示サイズを設定します　＜文字サイズ設定＞

お買い上げ時	標準表示

サイト画面やメッセージリクエスト／フリーの詳細画面の文字サイズを変更して、画面に表示される文字の量を増やしたり、文字を大きくして見やすくしたりできます。

●文字サイズ設定を変更すると、文字、絵文字、サイトの入力や選択の文字サイズが変更されます。画像や線などのサイズは変更されません。

1
標準表示：標準の文字サイズで表示されます。
縮小表示：文字サイズを小さくして表示します。
拡大表示：文字サイズを大きくして表示します。

画像表示について設定します　＜画像表示設定＞

お買い上げ時	表示する

サイト画面や画面メモ、メッセージリクエスト／フリー画面の画像表示について設定します。画像を表示しないように設定すると画像を読み込まないため、ページの表示が早くなります。

1

表示する　：画像を表示します。
表示しない：画像を表示しません。表示されない画像の代わりに「 」のアイコンが表示されます。

おしらせ

- サイト画面表示中に機能メニューから「画像表示設定」を選んで画像を表示するかどうかの設定を行うこともできます。その場合、本設定も変更されます。
- 「表示しない」に設定するとFlash画像も表示されません。

iモーション設定
iモーションについて設定します

iモーション設定には、「自動再生設定」と、「iモーションタイプ設定」があります。

1 [imode]▶「iモード設定」▶「iモーション設定」の順に選ぶ

自動再生設定　　　　　：iモーションを取り込んだ後、自動再生するかどうかを設定します。
iモーションタイプ設定：取り込むiモーションのタイプを設定します。

自動再生について設定します ＜自動再生設定＞

お買い上げ時	自動再生する

サイト画面からiモーションを取り込んだときやiモーションを含んでいる画面メモを表示したときに、iモーションを自動的に再生するかどうかを設定します。

●「自動再生設定」は、標準タイプのiモーションのみ、設定が有効になります。ストリーミングタイプのiモーションは、本設定にかかわらず自動再生されます。
iモーションのタイプ→P.94

1 iモーション設定画面から「自動再生設定」を選ぶ

2 自動再生するかどうかを選ぶ

自動再生する　：iモーションを取り込んだ後、自動再生します。一部のiモーションは、データを取り込みながら再生します。
自動再生しない：iモーションを取り込んでも、自動再生せずにiモーション取得完了画面を表示します。

取り込むiモーションのタイプを設定します ＜iモーションタイプ設定＞

お買い上げ時	標準タイプ

サイトから新しいiモーションを取り込むとき、取り込むiモーションのタイプを設定します。

1 iモーション設定画面から「iモーションタイプ設定」を選ぶ

2 再生するタイプを選ぶ

iモーションのタイプ→P.94
標準タイプ　　　　　　　：標準タイプのiモーションのみを取り込みます。
標準・ストリーミングタイプ：標準タイプおよびストリーミングタイプのiモーションを取り込みます。

メッセージリクエスト／フリーについて設定します

メッセージリクエスト／フリーに関する設定には、「メッセージ自動表示設定」、「開封時メロディ再生設定」、「メッセージ貼付メロディ設定」、「メッセージ一覧表示設定」があります。

受信したときの自動表示について設定します＜メッセージ自動表示設定＞

お買い上げ時	メッセージリクエスト優先

メッセージリクエスト／フリーを受信したときの自動表示の方法について設定します。

1 [iモード]▶「iモード設定」▶「メッセージ自動表示設定」の順に選ぶ

メｯｾｰｼﾞ自動表示設定
1メｯｾｰｼﾞﾘｸｴｽﾄ優先
2メｯｾｰｼﾞﾌﾘｰ優先
3メｯｾｰｼﾞﾘｸｴｽﾄのみ
4メｯｾｰｼﾞﾌﾘｰのみ
5自動表示しない
選択

メッセージリクエスト優先 ：メッセージリクエストを優先して自動表示します。
メッセージフリー優先 ：メッセージフリーを優先して自動表示します。
メッセージリクエストのみ ：メッセージリクエストのみを自動表示します。
メッセージフリーのみ ：メッセージフリーのみを自動表示します。
自動表示しない ：メッセージを自動表示しません。

開いたときのメロディの再生について設定します＜開封時メロディ再生設定＞

お買い上げ時	自動再生する

メッセージリクエスト／フリーを開いたときに、添付されているメロディや貼り付けられているメロディがある場合に自動再生するかどうかを設定します。

1 [iモード]▶「iモード設定」▶「開封時メロディ再生設定」の順に選ぶ

自動再生する ：メロディを自動再生します。
自動再生しない ：メロディを自動再生しません。

貼り付けられているメロディについて設定します ＜メッセージ貼付メロディ設定＞

お買い上げ時	有効

メッセージリクエスト／フリーに貼り付けられているメロディの再生や保存をできるようにするかどうか設定します。

●本設定は、メッセージリクエスト／ フリーに貼り付けられているメロディ(「♪」のアイコンがついているメロディ)についてのみ適用されます。メッセージリクエスト／フリーに添付されたメロディには適用されません。

1 **[imode]▶「iモード設定」▶「メッセージ貼付メロディ設定」の順に選ぶ**

有効：貼り付けられているメロディの再生／保存ができます。
無効：貼り付けられているメロディの再生／保存はできません。
「無効」に設定すると、「♪」のアイコンがついているメロディが文字列の表示に変わります。

一覧画面の表示行数を設定します ＜メッセージ一覧表示設定＞

お買い上げ時	2行表示

メッセージリクエスト／フリーの一覧画面を2行表示、または1行表示に切り替えます。

1 **[imode]▶「iモード設定」▶「メッセージ一覧表示設定」の順に選ぶ**

2行表示 ：1件につき2行ずつで表示します。
1行表示 ：1件につき1行ずつで表示します。

効果音設定

サイトや画面メモの効果音について設定します

お買い上げ時	効果音ON

サイト画面や画面メモのFlash画像の効果音を鳴らすかどうか設定します。

1 [imode]▶「iモード設定」▶「効果音設定」の順に選ぶ

効果音ON　：Flash画像の効果音を鳴らすように設定します。
効果音OFF：Flash画像の効果音を鳴らさないように設定します。

おしらせ

- 本設定で変更されるのは、Flash画像の効果音のみです。貼付または添付されたメロディには影響しません。
- 効果音の「ON／OFF」は、サイト画面や画面メモを表示中に機能メニューから「効果音設定」を選んでも設定できます。その場合、本設定も変更されます。

iモード設定確認

iモード設定の内容を確認します

「iモード設定」で設定した内容を確認できます。

iモード設定項目	表示内容
スクロール	画面のスクロール行数を表示します。
文字サイズ	画面の文字の表示サイズを表示します。
画像表示	画面の画像表示の設定を表示します。
iモーション自動再生	iモーションの自動再生の設定を表示します。
iモーション	iモーションの取り込むタイプを表示します。
メッセージ自動表示	メッセージリクエスト／フリー受信時の自動表示の設定を表示します。
開封時メロディ再生	メッセージリクエスト／フリー開封時のメロディの自動再生の設定を表示します。
メッセージ貼付メロディ	メッセージリクエスト／フリーに添付されたメロディの設定を表示します。
メッセージ一覧表示	メッセージリクエスト／フリーの一覧画面の表示行数を表示します。
ホームURL設定	ホームURLの設定を表示します。
効果音	Flash画像の効果音の設定を表示します。

1 [imode]▶「iモード設定」▶「iモード設定確認」の順に選ぶ

iモード設定確認 1/2
スクロール 1行
文字サイズ 標準
画像表示 する
iモーション自動再生 する
iモーション 標準
メッセージ自動表示 R優先
開封時メロディ再生 する
メッセージ貼付メロディ 有効
メッセージ一覧表示 2行
ホームURL設定 無効

「iモード設定」の項目と設定内容が表示されます。

iモード設定をお買い上げ時の状態に戻します

ラストURLの初期化、およびiモード設定をお買い上げのときの状態に戻します。

ラストURLを初期化します <ラストURL初期化>

記憶されているラストURLを初期化します。初期化すると、ラストURLはiMenu画面のURLになります。

1 [imode]▶「iモード設定」▶「ラストURL初期化」の順に選ぶ

ラストURLを初期化するかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶとラストURLが初期化されます。

iモード設定をリセットします　<iモード設定リセット>

「iモード設定」の設定内容をお買い上げのときの状態に戻します。
リセットされる項目およびリセット後の状態は次のとおりです。

設定項目	設定リセット時
スクロール設定	1行スクロール
文字サイズ設定	標準表示
画像表示設定	表示する
iモーション設定の自動再生設定	自動再生する
iモーション設定のiモーションタイプ設定	標準タイプ
メッセージ自動表示設定	メッセージリクエスト優先
開封時メロディ再生設定	自動再生する
メッセージ貼付メロディ設定	有効
メッセージ一覧表示設定	2行表示
ホームURL設定	無効、ホームURL 初期化(http://)
効果音設定	効果音ON
ラストURL	iMenu画面のURL

1 **[iモード]▶「iモード設定」▶「iモード設定リセット」の順に選んで、端末暗証番号を入力する**

端末暗証番号について→P.21
設定をリセットするかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと、設定がリセットされます。

アプリケーション通信設定機能一覧

アプリケーション通信設定機能の画面および設定一覧を示します。

<待受画面>

「各種設定」を選んで ◉ [選択]

<⑧ アプリケーション通信設定>

◎を押して次の項目を表示させ、◉[選択]を押して設定画面に入ります。

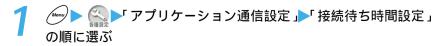
- **接続待ち時間設定……………サイトなどに接続するときの待ち時間を設定します。→下記**
- **iモード問い合わせ設定………iモードセンターへ問い合わせをする項目を設定します。→P.128**
- **接続先選択………………………iモード以外のサービスを受けるときに使う接続先の設定をします（通常は設定を変更する必要はありません）。→P.129**
- **SMS center設定……………ドコモのSMSセンターを利用するか、他社のSMSセンターを利用するかを設定します（通常は設定を変更する必要はありません）。→P.240**
- **証明書……………………………証明書の有効／無効を設定します。→P.131**
- **証明書センター接続設定……ユーザ説明書をダウンロードするときの接続先を設定します。→P.132**

接続待ち時間設定

サイトなどに接続するときの待ち時間を設定します

お買い上げ時	60秒間

サイトなどに接続しようとしたときや「iモード問い合わせ」をしようとしたときに応答がない場合、自動的に接続を中止するまでの待ち時間を設定します。

1 **Menu▶各種設定▶「アプリケーション通信設定」▶「接続待ち時間設定」の順に選ぶ**

2 接続待ち時間を選ぶ

60秒間：60秒間応答がない場合、自動的に接続を中止します。
90秒間：90秒間応答がない場合、自動的に接続を中止します。
無制限　：接続を自動的には中止しません。

おしらせ

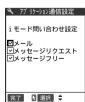
●「無制限」の場合、接続は自動的に中止されません。ただし、電波状況によっては通信が切断される場合があります。

iモード問い合わせ設定
iモードセンターへ問い合わせをする項目を設定します

お買い上げ時	すべて「問い合わせをする」

「iモード問い合わせ」をするときに問い合わせる項目を設定します。「メール」(iモードメール)、「メッセージリクエスト」、「メッセージフリー」それぞれについて、問い合わせるかどうかを設定します。

1 Menu ▶ 各種設定 ▶「アプリケーション通信設定」▶「iモード問い合わせ設定」の順に選ぶ

2 問い合わせる項目を選び、[完了]を押す

☑：問い合わせをする
□：問い合わせをしない

接続先選択

接続先の設定を変更します(ISP接続通信)

※通常は設定を変更する必要はありません。

お買い上げ時	iモード

iモード以外のサービスを受けるときに使う接続先の設定をします。
「iモード」以外の接続先に変更するとiモードやiモードメールをご利用できなくなります。またiアプリによってはサイトとの通信も利用できなくなります。

ISP接続通信とは

・FOMA端末の接続先を切り替えることで、各種プロバイダ(ISP)への接続が可能になります。※
ISP接続通信にはパケット通信料がかかります。
※:ドコモへの新たなお申し込みは不要です。

プロバイダ契約について

・ISP接続通信をご利用いただくには、別途プロバイダへのお申し込みが必要です。各プロバイダのサービス内容(サイト接続、インターネット接続、メール機能など)、お申し込み方法については各プロバイダにお問い合わせください。
・プロバイダが提供するサービス内容によっては、別途情報料等がかかる場合がありますが、ドコモよりご請求することはありません。
・お客様が閲覧されているサイトによっては、お客様の電話番号が閲覧中のサイトを提供するプロバイダに通知される場合があります。

1 **Menu ▶ 各種設定 ▶「アプリケーション通信設定」▶「接続先選択」の順に選ぶ**

2 **<未登録>を反転表示して[編集]を押し、端末暗証番号を入力する**

端末暗証番号について→P.21
接続先は「iモード」のほかにユーザ指定接続先として10件登録できます。
「iモード」を選ぶと接続先が「iモード」に設定されます。

3 「タイトル」「接続先名称」「接続先アドレス」をそれぞれ入力し、◯[完了]を押す

タイトル　　　：全角で９文字、半角で１８文字までを入力できます。
接続先名称　　：半角英数で３０文字までの接続先名称を入力します。
接続先アドレス：半角英数で９９文字までの接続先アドレスを入力します。

「タイトル」「接続先名称」「接続先アドレス」のすべてを入力しないと「完了」は表示されません。

おしらせ

- 登録した「ユーザ指定接続先」を変更するときは、登録と同じ操作で変更します。
- 登録した「ユーザ指定接続先」を削除するときは、削除する接続先を反転表示して、機能メニューから「削除」を選びます。
- iモード中やISP接続通信中は設定できません。

証明書の確認や設定をします

SSL証明書の内容を確認したり、SSL対応のページを表示するかどうかを設定します。

●FOMAカード（青色）では、ドコモ証明書およびユーザ証明書は利用できません。

証明書を確認します

SSL証明書の内容を確認します。

1 Menu ▶ 各種設定 ▶「アプリケーション通信設定」▶「証明書」の順に選ぶ

2 内容を確認する証明書を反転表示して、機能メニューから「証明書表示」を選ぶ

3 証明書を確認する

証明書の所有者、発行元、有効期限およびシリアル番号が表示されます。

おしらせ

●お買い上げのときは、ユーザ証明書は登録されていません。

証明書の有効／無効を切り替えます

お買い上げ時	すべて「有効」

SSL証明書の有効／無効を切り替えます。

1 Menu ▶ 各種設定 ▶「アプリケーション通信設定」▶「証明書」の順に選ぶ

2 無効または有効にする証明書を反転表示して、機能メニューから「有効／無効設定」を選ぶ

有効な証明書を選ぶと無効にしたことを、無効な証明書を選ぶと有効にしたことを通知するメッセージが表示され、証明書の有効／無効が切り替えられます。
証明書有効 ：「」のアイコンが表示されます。
証明書無効 ：「」のアイコンが表示されます。

おしらせ

●「無効」に設定すると、そのSSL証明書を持っているSSL対応のページが表示できなくなります。
●ドコモ証明書2は常に「有効」のため、機能メニューの「有効／無効設定」は行えません。

証明書センター接続設定

証明書センター接続の設定をします

※通常は設定を変更する必要はありません。

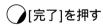
お買い上げ時	ドコモ

ユーザ証明書をダウンロードするときの接続先の設定をします。

1 Menu▶ 各種設定▶「アプリケーション通信設定」▶「証明書センター接続設定」の順に選ぶ

2 <未登録>を反転表示して◐[編集]を押し、端末暗証番号を入力する

端末暗証番号について→P.21

3 「接続先名称」「接続先アドレス」をそれぞれ入力し、◐[完了]を押す

接続先名称　　：半角英数で100文字までの接続先名称を入力します。

接続先アドレス：半角英数で99文字までの接続先アドレスを入力します。

「接続先名称」「接続先アドレス」の両方を入力しないと◐[完了]は表示されません。

おしらせ

- 登録した「ユーザ指定接続先」を変更するときは、登録と同じ操作で変更します。
- 登録した「ユーザ指定接続先」を削除するときは、機能メニューから「削除」を選びます。

メール編

この取扱説明書で掲載している画面はイメージであるため、実際の画面とは異なる場合があります。

FOMA端末のメール機能について

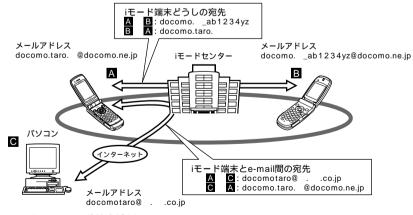
FOMA端末はiモードメールとSMSを送受信できるメール機能を持っています。iモードメールをご利用いただくには「iモード」のご契約が必要です。iモードメールの送信、受信方法についてはP.152、P.177を参照してください。

●iモードを契約しなくても、FOMA端末との間でSMSの送受信（文字メッセージのやりとり）ができます。SMSの送信、受信方法についてはP.193、P.196を参照してください。
●海外とのSMSの送受信はできません。

iモードメールについて

iモードを契約するだけで、iモード端末（mova含む）間はもちろん、インターネットを経由してe-mail（電子メール）とのメールのやりとりができます。
iモードご契約時のメールアドレスは次のようになります。

新規にiモードをご契約の場合
「@」より前がランダムな英数字の組み合わせになっていますので、iモード契約後にご自分のメールアドレスをご確認ください。
(例)　abc1234〜789xyz@docomo.ne.jp
<お客様のメールアドレスの確認方法>　詳しくは→P.236
Menu画面 → 8 オプション設定 → 1 メール設定 → 「アドレス確認」

・iモード端末（mova含む）間でメールをやりとりするときは、「@」より前の部分のみで送信可能です。
・パソコンなどのe-mailからiモード端末へメールを送信するときは、「@docomo.ne.jp」も含めた全部をメールアドレスとして指定します。

・iモードメールの送信方法は→P.152
・iモードメールの受信方法は→P.177

■ **メールを選択して受信します**
iモードセンターに保管されているメールの題名などを確認し、受信するメールを選択したり、受信前にiモードセンターでメールを削除できます。→P.186

■ **メールアドレスを変更します**
たとえば「docomo.taro_ab1234yz@docomo.ne.jp」のように、メールアドレスの「@」より前の部分を、お好みのアドレスに変更できます。→P.236

■ **シークレットコードを登録します**
電話番号のアドレス利用時に、メールアドレスに加えて4桁のシークレットコードを登録できます。シークレットコードを指定していないメールは受信されなくなるため、不要なメールの受信を避けることができます。→P.239

■ **メールアドレスを電話番号にします（アドレスリセット）**
メールアドレスを「携帯電話番号@docomo.ne.jp」にできます。→P.238

■ **アドレスを確認します**
現在設定されているメールアドレスを確認できます。→P.236

■ **メール受信／拒否設定**
次のいずれかの方法でメールの受信／拒否設定を行うと、メールの受信を制限することができます。
① ドメイン指定受信
- au、ボーダフォン、TU-KA、DDIポケットのうち、指定する会社からのメールの受信ができます。
- また上記の会社以外から送信されたメールのうち、指定するドメインからのメールを受信します。→P.241

※ NTTドコモのiモード、iショット、一定額到達通知サービス、eビリング請求額お知らせメール、M-stageビジュアルネットからのメールはすべて受信します。

② アドレス指定受信／拒否
- 受信するすべてのメールのうち指定するアドレスからのメールを受信／拒否します。→P.241

③iモードメールのみ受信／拒否
- iモードどうしのメールのみ受信（インターネット経由のメールを拒否）／拒否します。→P.241

④ iモードメール大量送信者からのメール受信制限
- １日に１台のiモード端末（mova含む）から送信される200通目以降のiモードメールを拒否します。初期設定では「拒否する」に設定されていますので、大量送信者からのメールを拒否したい場合は設定する必要はありません。→P.243

⑤ 未承諾広告※メール拒否
- 受信者の同意なしに一方的に広告・宣伝を行うために送信される、メール件名欄の最前列に「未承諾広告※」と記載されているメールを受信／拒否します。初期設定では「拒否する」に設定されていますので、未承諾広告※メールを拒否したい場合は設定する必要はありません。（送信者はメール件名欄の最前列に未承諾広告※（全角6文字）と記載することが法律で義務づけられています。）→P.243

※：「ドメイン指定受信」、「アドレス指定受信」、「アドレス指定拒否」、「iモードメールのみ受信」、「iモードメールのみ拒否」は同時に設定することができません。

■ **メール設定状況確認**
現在設定されているメール受信／拒否などの設定状況を確認できます。→P.243

■ **メールのサイズを制限します**
あらかじめ指定したサイズによって、受信するiモードメールを制限できます。→P.240

■ **メール機能を停止することができます**
メール機能を利用しない場合は、iモードセンターでのメール機能停止を行うことができます。
→P.244

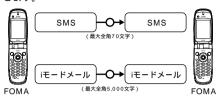
迷惑メールを防ぐために
メールアドレス変更（P.236）や、アドレス指定受信／拒否（P.241）などの利用は、迷惑メールを防ぐのに効果的です。

SMSの宛先

SMSの宛先は「ご契約の携帯電話番号」です。

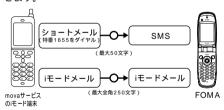
■3種類のメール機能の送受信について

FOMA端末 ⇒ FOMA端末へ

SMSは、相手がFOMA端末の場合のみ送受信できます。

FOMA端末⇒movaサービスのiモード端末へ

FOMA端末からmovaサービスのiモード端末へのメッセージ送信時は、iモードメールを利用します。

movaサービスのiモード端末⇒FOMA端末へ

movaサービスのiモード端末から送信したショートメール※は、FOMA端末ではSMSとして受信できます。

※：ショートメールとは、ドコモの携帯電話どうしで文字メッセージをやりとりできるサービスです。
- FOMA端末からショートメールを送信することはできません。特番1655をダイヤルして送信することもできません。
- FOMA端末では、movaサービスのiモード端末などから送られてきたショートメールをSMSとして受信します。

■送受信できる文字数

iモードメール、SMSで送受信できる文字数は、それぞれ次のとおりです。

■ iモードメール

項目	全角文字（漢字、ひらがな、絵文字など）	半角文字（英字、数字、カタカナなど）
題名	15文字	30文字
宛先	–	50文字
本文	5,000文字※	10,000文字※

※：メロディ、画像、iモーションなどのファイルを添付した場合は、送受信可能な本文文字数は少なくなります。また、デコメールで送信できる文字数は、規定の半分以下の文字数になります。

■ SMS

項目	全角文字(漢字、ひらがな、絵文字など)	半角文字(英字、数字、カタカナなど)
宛先	―	20文字(数字のみ)
本文	70文字	160文字※

※:半角の英数字や記号(｡｢｣{ } [ ] |､ ･ - ﾞ ﾟ ^ ` ~ を除く)のみの場合(その他の文字が混在する場合は70文字まで)。

おしらせ

<iモードメール>

- iモードメールの本文は全角で5,000文字(10,000バイト)まで送受信できますが、添付ファイルのデータ量により送受信できる文字数が少なくなります。
- iモードメールの本文が受信可能な文字数を超えた場合、本文の最後に「/」または「//」が挿入され、超えた部分が自動的に削除されます。
- movaサービスのiモード端末へiモードメールを送信する場合、本文として送信できるのは最大全角で2,000文字までです。また、添付できるファイルはJPEG形式の画像1ファイル(最大10,000バイト)のみで、それ以外の添付ファイルを送信した場合、添付ファイルは削除されます。画像を添付した場合、受信側ではiショットメールとして受信され、本文の文字数は全角文字で最大184文字まで届きます。ただし、受信側がメールの分割設定をしている場合は、iショットのURL(画像の保管先)を含み最大全角2,000文字まで届きます。
- iモードメールの題名が受信可能な文字数を超えた場合、超えた文字は削除されます。
- iモード端末(mova含む)どうしのメールのやりとり以外では半角カタカナ、絵文字を使用しないでください。正しく表示されない場合があります。

<SMS>

- SMSの本文に半角カタカナを使うと、受信側で正しく表示されないことがあります。

メールを受信できないとき

iモードセンターに届いたメールは、すぐにお客様のiモード端末に送信されます。ただしお客様のiモード端末が電源が入っていない、iモード圏外などで受信できないとき、または「メール選択受信設定」(P.224)を「ON」に設定しているときは、メールはiモードセンターに保管されます。
iモードセンターで保管しているときは、一定の時間をおいて最大3回まで再送します。その他設定により、iモードセンターでiモードメールを選んで受信することができます。

おしらせ

＜iモードメール＞

● iモードセンターでのメールの最大保管件数、保管期間は次のとおりです。

	最大保管件数	最大保管期間
iモードメール	207～1,000件 (約2Mバイトまで)	720時間

● 保管期間が超過したメールは自動的に削除されます。

● 最大保管件数は、メールのデータサイズにより異なります。保管件数を超えた場合は、iモードセンターではメールを受信せず、送信者にエラーメッセージとともに返信します。このときiモード端末には「」が表示されます。なお、「メール選択受信設定」(P.224)が「ON」に設定されているときは、保管件数を超えても「」は表示されません。

● iモードセンターに保管されているメールは、「iモード問い合わせ」(P.180)やメール選択受信(P.186)により受信できます。また新しいメールが届いたときは、保管されているほかのメール、メッセージリクエスト／フリーも合わせて受信できます。

● iモード端末でメールを受信するとiモードセンターに保管されていたメールは削除されます。受信したメールはiモード端末に保存されます。

● 極端に容量の大きいメールはiモードセンターで受け付けないことがあります。

●「メール機能停止」(P.244)を行っている場合は、iモードセンターで新しいメールの保管を行いません。

＜SMS＞

● SMSセンターでのSMSの最大保管期間は72時間です。送信したSMSの保管期間は「SMS有効期間設定」(P.229)で設定できます。

● 保管期間が過ぎたSMSは自動的に削除されます。

● SMSセンターに保管されているSMSは、「SMS問い合わせ」(P.197)により受信できます。

● FOMA端末がSMSを受信すると、SMSセンターに保管されていたSMSは削除されます。受信したSMSはFOMA端末に保存されます。
FOMA端末が受信したSMSは、FOMAカードに移動／コピーできます。→P.215

こんなこともできます

■ ファイル添付メール

・ **メロディ添付メール**
サイトやインターネットホームページからダウンロードしたメロディを、iモードメールに添付して送受信できます。（メール添付やFOMA端末外への出力を禁止されているメロディは送信できません。）
・iモードメールにメロディを添付して送信するには→P.162
・メロディが添付されたiモードメールを受信したときは→P.188

・ **画像添付メール**
内蔵カメラで撮影した静止画や、サイトやインターネットホームページからダウンロードした画像をiモードメールに添付して送受信できます(メール添付やFOMA端末外への出力を禁止されている画像は送信できません)。FOMA端末では、GIF形式とJPEG形式の画像を添付・表示できます。
・iモードメールに画像を添付して送信するには→P.162
・画像が添付されたiモードメールを受信したときは→P.187

■ iショット送受信

内蔵カメラで撮影した静止画を添付ファイルとしてiモード端末(mova含む)およびパソコンや他社携帯電話へ送受信できます。ただし、iモード対応mova端末へは添付ファイル形式ではなく、画像閲覧用URLおよび画像の保存期限が自動的に付けられて送信され、そのURLを利用してWeb To機能を実行することで画像を取得できます。mova端末へ送れるメール本文は最大全角184文字(369バイト)で、複数ファイルを添付した場合、添付ファイルは削除され、メール本文のみ通知されます。
・iモードメールに画像を添付して送信するには→P.162
・画像が添付されたiモードメールを受信したときは→P.187

■ iモーションメール

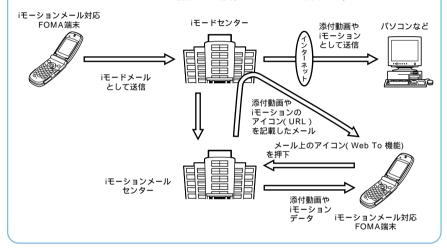
iモード端末（mova含む）を利用して撮影した動画、サイトやインターネットホームページから取り込んだiモーションをiモーションメールとして送受信できます（メール添付やFOMA端末外への出力が禁止されている動画やiモーションは送信できません）。

・iモーションメールを送信するには→P.162
・iモーションメールを受信したときは→P.190

サービスのしくみ

iモーションメールに添付された動画やiモーションファイルはiモーションメールセンターに送信され、そこで保存されます。（送信先がパソコン等の場合は、直接添付ファイルとして送信されます。）

iモーションメール対応端末の受信時は、メール内に「動画あり」と表記され、受信者はメール内に表示されているアイコンを選び、◉［選択］を押して動画やiモーションを取り込むことができます。

iモーションメールをパソコンなどに送信すると添付ファイルとして届きます。

■ デコメール

iモードメール編集時に文字の大きさや背景の色などを変えたり、画像を本文中に貼り付けることによって、自分のオリジナルメールを作成して送信したり、装飾された楽しいメールを受信することが可能になります（パソコンからメールを受信する場合、iモード端末では非対応の装飾があるため、パソコン上と同じ動作にならない場合もあります）。

・デコメールを作成／送信する→P.171
・対応機種：900iシリーズ

■ メール同報送信

同じiモードメールを一度に5件までの宛先に送信できます。→P.157

■ CC、BCC送受信

パソコンと同じように、iモードメール編集時に宛先をTO、CC、BCCから選択できます。→P.157
ただし、TOが1件もない場合は、メールを送信できません。

おしらせ

<メロディ添付メール／画像添付メール>

● FOMA端末外への出力が禁止されているメロディや画像は添付できません。

● 内蔵カメラで撮影した写真の場合、「ファイル制限」を「あり」に設定していても送信できますが、受け取った相手がそのファイルを外部へ出力することはできません。

● movaサービスのiモード端末へiモードメールを送信した場合、画像以外の添付ファイルは削除されます。添付できる画像はJPEG形式で1ファイルのみ送信できます（最大10,000バイト）。

<iモーションメール>

● メールへの添付やFOMA端末外への出力が禁止されている動画やiモーションは送信できません。

● 内蔵カメラで撮影した動画の場合、「ファイル制限」を「あり」に設定していても送信できますが、受け取った相手がそのファイルを外部へ出力することはできません。

● iモーションメールセンターでの最大保管件数、最大保管期間は次のとおりです。

	最大保管件数	最大保管期間
iモーション	15件	7日間

● 最大保管期間を過ぎたiモーションは自動的に削除されます。

● 最大保管件数を超えた場合は、iモーションメールセンターでは新しいiモーションメールを受信せず、送信元にエラーメッセージとともにエラーメールを返信します。

● FOMA端末でiモーションを取り込むと、iモーションメールセンターに保管されていたiモーションは削除されます。

<メール同報送信>

● メール同報送信の通信料は、1通のみ送信した場合と同じです。ただし、追加した宛先情報のデータ量分のみ通信料が増えます。

メール機能一覧

メール機能の画面および機能メニューから操作できる機能の一覧を示します。

＜待受画面＞

＜メールメニュー＞

メール
1受信BOX
2送信BOX
3保存BOX
4ｉモードメール作成
5SMS作成
6ｉモード問い合わせ
7メール選択受信
8SMS問い合わせ
9メール設定
選択

メールメニュー
1受信BOX……………………受信フォルダー覧画面を表示します。受信BOXはフォルダごとにメールを分けて管理できます。メール連動型ｉアプリのメールは専用のフォルダに振り分けられます。
フォルダを開くと、受信したｉモードメールやSMSの履歴、内容を確認できます。
→P.207
2送信BOX……………………送信フォルダー覧画面を表示します。メール連動型ｉアプリのメールは専用のフォルダに振り分けられます。
フォルダを開くと、送信したｉモードメールやSMSの履歴、内容を確認できます。
3保存BOX……………………保存メール一覧画面を表示します。一時保存したｉモードメールやSMSの内容を確認できます。
4ｉモードメール作成………ｉモードメールを作成する画面を表示します。
5SMS作成……………………SMSを作成する画面を表示します。
6ｉモード問い合わせ………ｉモード問い合わせを行って、ｉモードセンターに保管されているｉモードメールを受信できます。→P.186
7メール選択受信……………ｉモードセンターに保管されているｉモードメールの題名などを確認し、受信するｉモードメールを選択したり、受信前にｉモードセンターでｉモードメールを削除できます。→P.192
8SMS問い合わせ…………SMS問い合わせを行って、SMSセンターに保管されているSMSを受信できます。→P.203
9メール設定…………………メール設定画面を表示します。ｉモードメールやSMSの設定を行います。
→P.224

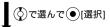
＜受信フォルダー覧画面＞

[機能]

機能メニュー　1/2
1フォルダ追加……………新しいフォルダを追加します。→P.207
2自動振分け設定…………受信BOXのフォルダにメールアドレスや電話番号、電話帳のグループを設定し、受信したｉモードメールやSMSをフォルダに自動的に振り分けます。→P.209
3フォルダ名編集…………追加したフォルダの名前を編集します。→P.209
4セキュリティ設定／解除…フォルダのセキュリティを設定／解除します。→P.225
5フォルダ削除……………追加したフォルダを削除します。→P.209
6保存件数確認……………すべてのフォルダ内のメールの件数および未読件数、保護件数を表示します。→P.151
7フォルダ内表示…………フォルダ内のメール一覧画面を表示します。

機能メニュー　2/2
1既読メール全削除………すでに読んだメールをすべて削除します。→P.220
2受信メール全削除………メールをすべて削除します。→P.220

＜受信フォルダ一覧画面＞

＜受信メール一覧画面＞

機能メニュー　1/3

1フォルダ移動……メールを別のフォルダへ移動します。→P.207
2メール検索……送信元あるいは題名を指定してメールを検索します。→P.216
3全表示……検索、ソート表示またはフィルタ機能による表示を元の表示（すべてを新しい順に表示）に戻します。
4ソート……指定した条件に従ってメールを並べ替えます。→P.214
5フィルタ……指定した条件に従って読みたいメールだけを表示します。→P.215
6一覧表示切替……題名、名前、アドレスに切り替えて表示します。→P.150
7全件既読……フォルダ内の未読メールをすべて既読メールにします。

機能メニュー　2/3

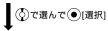
1保護／保護解除……メールを保護／保護解除します。→P.217
2保護全解除……保護されているメールの保護をすべて解除します。
3赤外線送信……メールを赤外線送信します。→P.356
4エクスポート……メールをminiSDメモリーカードへエクスポートします。→P.382
5FOMAカード操作……FOMA端末（本体）内のSMSをFOMAカードに移動／コピーしたり、FOMAカード内のSMSをFOMA端末（本体）に移動／コピーします。→P.221
6メール情報……メールを開かずに、送信元などの情報を表示します。
7保存件数確認……フォルダ内のメールの件数および未読件数、保護件数を表示します。→P.151

機能メニュー　3/3

1ゴミ箱へ捨てる……メールを選んでゴミ箱に捨てます。
21件削除……メールを1件削除します。→P.218
3選択削除……メールを選んで削除します。→P.219
4既読削除……フォルダ内のすでに読んだメールをすべて削除します。→P.220
5SMS report全削除……フォルダ内のSMS report（送達通知）をすべて削除します。→P.220
6全削除……フォルダ内のメールをすべて削除します。→P.220

＜受信メール一覧画面＞

＜受信メール詳細画面＞

[機能]

機能メニュー　1/4
1返信……………………………受信したメールに返信します。→P.186、P.202
2引用返信………………………元のメールの本文を引用して返信します。→P.187
3参照返信………………………受信したメールの本文を参照しながら返信メールを作成します。→P.187
4転送……………………………受信したメールを転送します。→P.188、P.202
5フォルダ移動…………………メールを別のフォルダへ移動します。→P.204
6コピー…………………………メールの本文、題名、メールアドレスをコピーします。→P.155
7アドレス登録…………………送信元や同報者のメールアドレスや電話番号を電話帳へ登録します。→P.194

機能メニュー　2/4
1電話帳登録……………………メールの本文中に表示されているメールアドレスや電話番号を電話帳に登録します。→P.116
2データ保存……………………メールに添付または貼り付けられているメロディ、画像、iモーションを保存します。→P.190
3スケジュール参照登録………メールの本文を参照しながらスケジュールを登録します。→『基本編』のP.343
4挿入画像保存…………………デコメールの本文に挿入されている画像を保存します。→P.191
5貼付URL表示…………………メールに添付されているiモーションのURLを表示します。
6デスクトップ貼付……………メールの送信元や同報者のメールアドレスや電話番号をデスクトップアイコンとして貼り付けます。→『基本編』のP.170
7保護／保護解除………………メールを保護／保護解除します。→P.214

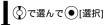
機能メニュー　3/4
1メール読み上げ………………メールの本文を読み上げます。→P.231
2赤外線送信……………………メールを赤外線送信します。→P.350
3エクスポート…………………メールをminiSDメモリーカードへエクスポートします。→P.376
4FOMAカード操作……………FOMA端末（本体）内のSMSをFOMAカードに移動／コピーしたり、FOMAカード内のSMSをFOMA端末（本体）に移動／コピーします。→P.218
5スクロール設定………………画面のスクロール行数を設定します。→P.224
6文字サイズ設定………………表示される文字のサイズを設定します。→P.223
7ゴミ箱へ捨てる………………メールをゴミ箱に捨てます。

機能メニュー　4/4
1削除……………………………メールを削除します。→P.215

＜メールメニュー＞

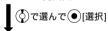
＜送信フォルダ一覧画面＞

[機能]

機能メニュー
1自動振分け設定………………メール連動型iアプリのフォルダに送信したiモードメールやSMSを自動的に振り分けます。→P.209
2セキュリティ設定／解除……フォルダのセキュリティを設定／解除します。→P.225
3フォルダ削除…………………メール連動型iアプリのフォルダを削除します。→P.209
4保存件数確認…………………全フォルダ内のメールの件数および保護件数を表示します。→P.151
5フォルダ内表示………………フォルダ内のメール一覧画面を表示します。
6送信メール全削除……………送信メールをすべて削除します。→P.220

<送信フォルダ一覧画面>

<送信メール一覧画面>

機能メニュー 1/3
①フォルダ移動……………メールを別のフォルダへ移動します。→P.207
②メール検索…………………宛先あるいは題名を指定してメールを検索します。→P.216
③全表示……………………検索、ソート表示またはフィルタ機能による表示を元の表示(すべて新しい順に表示)に戻します。
④ソート……………………指定した条件に従ってメールを並べ替えます。→P.214
⑤フィルタ…………………指定した条件に従って読みたいメールだけを表示します。→P.215
⑥一覧表示切替……………題名、名前、アドレスに切り替えて表示します。→P.150
⑦保護/保護解除…………メールを保護/保護解除します。→P.217

機能メニュー 2/3
①保護全解除………………保護されているメールの保護をすべて解除します。
②赤外線送信………………メールを赤外線送信します。→P.356
③エクスポート……………メールをminiSDメモリーカードへエクスポートします。→P.382
④FOMAカード操作………FOMA端末(本体)内のSMSをFOMAカードに移動/コピーしたり、FOMAカード内のSMSをFOMA端末(本体)に移動/コピーします。→P.221
⑤保存件数確認……………フォルダ内のメールの件数および保護件数を表示します。→P.151
⑥1件削除…………………メールを1件削除します。→P.218
⑦選択削除…………………メールを選んで削除します。→P.219

機能メニュー 3/3
①全削除……………………フォルダ内のメールすべてを削除します。→P.220

<送信メール一覧画面>

<送信メール詳細画面>

機能メニュー 1/3
①再編集……………………メールを編集します。→P.155
②フォルダ移動……………メールを別のフォルダへ移動します。→P.207
③コピー……………………メールの本文、題名、メールアドレスをコピーします。→P.155
④アドレス登録……………宛先のメールアドレスや電話番号を電話帳へ登録します。→P.197
⑤電話帳登録………………メールの本文中に表示されているメールアドレスや電話番号を電話帳に登録します。→P.117
⑥データ保存………………メールに添付されているメロディ、画像、iモーションを保存します。→P.193
⑦挿入画像保存……………デコメールの本文に挿入した画像を保存します。→P.194

機能メニュー 2/3
①デスクトップ貼付………宛先のメールアドレスや電話番号をデスクトップアイコンとして貼り付けます。→『基本編』のP.170
②保護/保護解除…………メールを保護/保護解除します。→P.217
③赤外線送信………………メールを赤外線送信します。→P.356
④エクスポート……………メールをminiSDメモリーカードへエクスポートします。→P.382
⑤FOMAカード操作………FOMA端末(本体)内のSMSをFOMAカードに移動/コピーしたり、FOMAカード内のSMSをFOMA端末(本体)に移動/コピーします。→P.221
⑥SMS report表示………SMSのSMS report(送達通知)を表示します。→P.200
⑦スクロール設定…………画面のスクロール行数を設定します。→P.227

機能メニュー 3/3
①文字サイズ設定…………表示される文字のサイズを設定します。→P.226
②削除………………………メールを削除します。→P.218

＜メールメニュー＞

＜保存メール一覧画面＞

機能メニュー

1一覧表示切替……………題名、名前、アドレスに切り替えて表示します。→P.150
2赤外線送信………………メールを赤外線送信します。→P.356
3エクスポート……………メールをminiSDメモリーカードへエクスポートします。→P.382
4保存件数確認……………保存BOX内のメールの件数を表示します。→P.151
51件削除……………………メールを1件削除します。→P.218
6選択削除…………………メールを選んで削除します。→P.219
7全削除……………………保存メールをすべて削除します。→P.220

機能メニュー　1/2

1送信………………………iモードメールを送信します。
2送信プレビュー…………送信する前にメールの宛先や内容を確かめます。
3保存………………………編集中のメールを保存BOXに保存します。→P.155
4宛先参照入力……………電話帳や履歴、メールメンバーを参照して宛先を入力します。→P.152
5宛先追加…………………宛先を追加します。→P.157
6宛先削除…………………複数の宛先を入力したときに、宛先を削除します。→P.157
7宛先タイプ変更…………宛先のタイプ（To、Cc、Bcc）を変更します。→P.157

機能メニュー　2/2

1テンプレート……………テンプレートを使ってグリーティングカードを作成します→P.184
2添付ファイル追加………iモードメールに、メロディ、画像、iモーションのデータを添付します。→P.162
3添付ファイル削除………添付したファイルを削除します。
4冒頭文貼付………………メールの本文に冒頭文を貼り付けます。→P.161
5署名貼付…………………メールの本文に署名を貼り付けます。→P.161
6本文消去…………………編集中のメールの本文を消去します。
7メール削除………………編集中のメールを削除します。

機能メニュー　1/2

1送信………………………SMSを送信します。
2送信プレビュー…………送信する前にSMSを確かめます。→P.199
3保存………………………編集中のSMSを保存BOXに保存します。→P.199
4宛先参照入力……………電話帳や履歴を参照して宛先を入力します。→P.199
5SMS report設定………SMS report（送達通知）を要求するかどうかを設定します。→P.234
6SMS有効期間設定………SMSがSMSセンターに保存される期間を設定します。→P.235
7本文消去…………………編集中のSMSの本文を消去します。

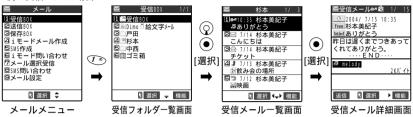
機能メニュー　2/2

1SMS削除…………………編集中のSMSを削除します。

フォルダについて

受信BOXはフォルダごとにメールを保存できます。お買い上げのときは「受信BOX」、内蔵メール連動型iアプリのフォルダ、「ゴミ箱」フォルダのみです。フォルダは追加できます。保存BOXにフォルダはありません。

〈例：受信BOXの場合〉

メールメニュー　受信フォルダ一覧画面　受信メール一覧画面　受信メール詳細画面

受信フォルダ一覧画面の見かた

受信フォルダ一覧画面は次のように表示されます。

①：未読メールがないことを示しています。
②：未読メールがあることを示しています。
③：未読メールがなく、セキュリティ(P.219)がかけられていることを示しています。
④：未読メールがあり、セキュリティがかけられていることを示しています。
⑤：メール連動型iアプリ(P.170)の受信メールフォルダを示しています。
⑥：メール連動型iアプリの受信メールフォルダで未読メールがあることを示しています。
⑦：メール連動型iアプリの受信メールフォルダで、セキュリティがかけられていることを示しています。
⑧：メール連動型iアプリの受信メールフォルダで未読メールがあり、セキュリティがかけられていることを示します。
⑨：ゴミ箱のフォルダを示しています。
：ゴミ箱のフォルダで、セキュリティがかけられていることを示しています。

送信フォルダ一覧画面の見かた

送信フォルダ一覧画面は次のように表示されます。

①：送信メールのフォルダを示しています。
：セキュリティ(P.219)がかけられている送信メールのフォルダを示しています。
②：メール連動型iアプリ(P.170)の送信メールフォルダを示しています。
③：メール連動型iアプリの送信メールフォルダで、セキュリティがかけられていることを示しています。

メール一覧画面の見かた

メールの一覧画面は次のように表示されます。メール一覧画面で表示されるアイコンは、メール詳細画面でも表示されます。表示されないアイコンもあります。

① メールの状態を示しています。
①-1 受信
：未読のメール
：既読のメール
：転送したメール
：返信したメール
：未読で保護されているメール
：既読で保護されているメール
：転送して保護されているメール
：返信して保護されているメール
①-2 送信
：送信に成功したメール
：送信に失敗したメール
：複数の宛先が指定され、そのすべてに送信が成功したメール
：複数の宛先が指定され、その一部に送信が成功したメール
：複数の宛先が指定され、そのすべてに送信が失敗したメール
：保護されているメール
② 送受信した時刻や日付を示しています。
②-1 当日送受信したメールは時刻が表示されます。
②-2 前日までに送受信したメールは日付が表示されます。
③ 送信元／宛先を示しています。電話帳に登録がある送信元／宛先の場合、メールアドレスまたは電話番号で表示するか、名前で表示するかを切り替えることができます。送信元のアドレスが電話帳に登録があり、画像が登録されている場合は「」が表示されます。
④ メールの種別、添付ファイルや貼り付けられている情報の種類を示しています。

〈2行表示の場合〉
：SMSであることを示しています。
：SMSで、SMS report（送達通知）を受信済みであることを示しています。
：SMSで、FOMAカード内にあることを示しています。
：メロディが添付または貼り付けられていることを示しています。
：複数のメロディが添付または貼り付けられていて、そのうちの一部のデータが正しくないことを示しています。
：添付または貼り付けられているすべてのメロディのデータが正しくないことを示しています。
また、貼り付けられているメロディで「貼付メロディ設定」（P.225）が「無効」に設定されているときに表示されます。
：画像が添付されていることを示しています。
：複数の画像が添付されていて、そのうちの一部のデータが正しくないことを示しています。
：添付されているすべての画像のデータが正しくないことを示しています。
：大容量の画像が添付されていることを示しています。
：iモードメールに貼り付けられている動画やiモーションのデータを取得する前で、「貼付iモーション設定」（P.226）が「有効」に設定されていることを示します。
：iモードメールに貼り付けられている動画やiモーションのデータを取得する前で、「貼付iモーション設定」が「無効」に設定されていることを示します。また、デコメールで取得する前の取得情報が正しくない場合も表示されます。
：iモードメールに添付されている動画やiモーションのデータを取得後、データが正しいことを示しています。また、動画やiモーションを添付したiモードメールを送信したときに表示されます。
：iモードメールに添付されている動画やiモーションのデータを取得後、データが正しくないことを示しています。
：メールの本文からiアプリを起動できることを示しています。「iアプリTo設定」（P.226）が「有効」に設定されている場合の表示です。
：メールの本文からiアプリを起動できないことを示しています。「iアプリTo設定」が「無効」に設定されている場合の表示です。
：メール連動型iアプリが送受信したメールを示しています。
：複数のデータが貼り付けられていることを示しています。また、データがiアプリToと一緒に貼り付けられている場合にも表示されます。
：メールを送受信したときとは違うFOMAカードが使用されているため、添付または貼り付けられているファイルやデータが利用できないことを示しています。

〈1行表示の場合〉
：大容量のファイルを含まず、1個または複数のファイルが添付または貼り付けられていることを示しています。
：大容量のファイルを含まず、1個または複数のファイルが添付または貼り付けられていて、そのうちの一部のデータが正しくないことを示しています。
：大容量のファイルを含まず、添付または貼り付けられているすべてのファイルデータが正しくないことを示しています。
：大容量のファイルを含み、1個または複数のファイルが添付されていることを示しています。
：大容量のファイルを含み、1個または複数のファイルが添付されていて、そのうちの一部のデータが正しくないことを示しています。
：大容量のファイルを含み、添付されているすべてのファイルデータが正しくないことを示しています。
⑤ メールの題名を示しています。題名がないiモードメールの場合、題名が「無題」と表示されます。
SMSの場合は本文の冒頭が表示されます（SMS reportの場合は「SMS report」が表示されます）。

おしらせ

● 「時計設定」(『基本編』のP.65)の設定がされていない場合、送信メール一覧画面や保存メール一覧画面では時刻や日付が「--/--」で表示されます。ただし、送信に成功したSMSの場合は日付が表示されます。

メール詳細画面の見かた

メールの詳細画面は次のように表示されます。

受信メール詳細画面

送信メール詳細画面

① メールの状態が表示されます(P.147のメール一覧画面の説明①参照)。
② 送受信した日付と時刻(センターが受信した日付と時刻)を示しています。
③ 受信メールの送信タイプを表示します。
　To：送信元から宛先に指定されて受信したメールを示しています。
　Cc：送信元から同報に指定されて受信したメールを示しています。
　Bcc：送信元からほかの同報送信の宛先に表示されないよう指定されて受信したメールを示しています。
④ 受信メールで、送信元のメールアドレスを表示します。
　From：送信元のメールアドレスを示しています。
　Fm：送信元に返信できないメールアドレス(メールアドレスが半角で50文字を超えているときなど)を示しています。
⑤ 送信メールで、宛先のメールアドレスおよび宛先のタイプを表示します。
送信が成功したかどうかを確認できます。宛先が複数指定されているメールでは、宛先がすべて表示されます。
　To OK：送信に成功した宛先を示しています。
　To ×：送信に失敗した宛先を示しています。
　Cc OK：送信に成功した同報の宛先を示しています。
　Cc ×：送信に失敗した同報の宛先を示しています。
　Bcc OK：送信に成功した非通知の同報の宛先を示しています。
　Bcc ×：送信に失敗した非通知の同報の宛先を示しています。

⑥ 受信メールで、複数指定されている宛先を表示します(受信者本人は含みません)。最大4件まで宛先が表示されます。
　To：送信元から宛先に指定されていることを示しています。
　To：送信元から宛先に指定され、返信できないメールアドレスを示しています。
　Cc：送信元からコピーとして送るメールの同報宛先に指定されていることを示しています。
　Cc：送信元からコピーとして送るメールの同報宛先に指定され、返信できないメールアドレスを示しています。
返信できないメールアドレスには「Fm」、「To」、「Cc」が表示されます。
受信メールの送信元または送信メールの宛先が電話帳に登録されているときには、④、⑤、⑥の欄には電話帳に登録されている「名前」が表示されます。
名前を表示するには、相手のメールアドレスを電話帳に正しく登録しておく必要があります。→『基本編』のP.111
⑦ 題名を示しています。題名がないときは「無題」と表示されます。受信したSMSには「SMS」(SMSがFOMAカード内にあるときは「 」)のアイコンが表示され、タイトルは「SMS」(SMS reportの場合は「SMS report」)と表示されます。
SMS reportを受信済みの場合は、「 」も合わせて表示されます。
⑧ 添付ファイルや貼付ファイルがあるときは、アイコンとファイル名、バイト数(ファイルサイズ)が表示されます。メロディが貼り付けられているときは「 」が表示されます。貼り付けられているメロディのデータが正しくない場合は、「 」が表示されます。添付ファイルアイコンについて→P.147
⑨ メールの本文を示しています。
⑩ 本文の終わりに表示されます。

次のときは、電話番号やメールアドレスが電話帳に登録されていても「名前」が表示されず、メールアドレスのままの表示となります。
・「指定発信制限」(『基本編』のP.141)が設定中で、「指定発信制限」に指定されていない電話番号のとき
・シークレット専用モードで、シークレット登録されていない電話番号またはメールアドレスからの受信メールや、シークレット登録されていない電話番号またはメールアドレスへの送信メールを詳細表示したとき
・シークレットモードまたはシークレット専用モード以外で、シークレット登録された電話番号またはメールアドレスからの受信メールや、シークレット登録された電話番号またはメールアドレスへの送信メールを詳細表示したとき

メールの文字サイズや一覧表示方法などを切り替えます

■ メールの本文の文字サイズを変えるとき

メール詳細画面を表示しているときに、本文の文字の大きさを変更できます。縮小表示の場合は、送受信日時、送信元や宛先、題名なども縮小表示されます。

縮小表示

標準表示

拡大表示

おしらせ

- メール詳細画面以外でを押したときは、ページまたはカーソルの移動になります。
- メール詳細画面以外に移ったときは、縮小表示または拡大表示になっていても自動的に標準表示になります。詳細画面に戻ったときは、再度、縮小表示または拡大表示になります。
- 上記のボタン操作により表示を切り替えたときは、「文字サイズ設定」(P.220)の設定も変更されます。

■ メール一覧画面の表示切替(1行表示/2行表示)

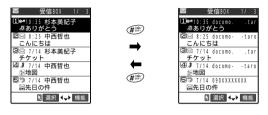
メールメニューで「メール設定」の「メール一覧表示設定」を選ぶと、メールの宛先や送信元の名前またはメールアドレスと題名の2行で表示するか、名前、メールアドレス、題名のいずれか1行で表示するかを切り替えることができます。

おしらせ

- 「メール一覧表示設定」を変更すると、受信メール一覧画面/送信メール一覧画面/保存メール一覧画面の表示がすべて切り替わります。

メール一覧画面の表示切替(名前表示／アドレス表示／題名表示)

メール一覧画面で、メールを宛先や送信元の名前で表示するか、メールアドレスや電話番号で表示するか、題名で表示するかを切り替えられます。宛先や送信元の名前が電話帳に登録されている場合、その名前を表示できます。

■ メール一覧画面(2行表示)

■ メール一覧画面(1行表示)

おしらせ

- 受信メール一覧画面／送信メール一覧画面／保存メール一覧画面の機能メニューから「一覧表示切替」を選んで「題名表示」、「名前表示」、「アドレス表示」から項目を選んでも表示の切り替えができます。
- ゴミ箱へ捨てるときや、選択削除、フォルダ移動の選択画面でも表示の切り替えができます。また、「自動振分け設定」(P.203)の一覧画面でも名前表示とアドレス表示の切り替えができます。

顔が見えるメール

メール一覧画面を表示しているときに、送信元のアドレスが電話帳に登録されており、画像が登録されている受信メールには「」が表示されます。
「」が表示されているメールを選んで[ ]を押すと、登録した画像を見ることができます。

おしらせ

- 画像を表示するには、送信元のメールアドレスを電話帳に正しく登録しておく必要があります。
  →『基本編』のP.111
- 「メール一覧表示設定」(P.150)が1行表示で、「表示切替」で「題名表示」を選んでいる場合は、「」は表示されませんが、[]を押すと登録した画像が表示されます。

メールの保存件数を確認するとき

■ 受信メール／送信メールの保存件数を確認する場合

すべてのフォルダの保存件数を確認するときは、フォルダ一覧画面で機能メニューから「保存件数確認」を選びます。
フォルダごとの保存件数を確認するときは、確認したいフォルダ内のメール一覧画面を表示した後、機能メニューから、「保存件数確認」を選びます。

メール保存件数	
受信メール	
全件:	105
未読:	15
保護:	80
FOMAカード	
受信:	10
送信:	5

受信BOXの場合

■ 保存メールの保存件数を確認する場合

保存メールの一覧画面で機能メニューから「保存件数確認」を選びます。

バックライト機能について

FOMA端末を開いたときやボタンを押したとき、iモードメールやSMSを送受信したときなどにバックライトを約15秒間点灯します(点灯時間は「メール／メッセージ鳴動」(P.233)の設定によって変わります)。ただしiモードメールやSMSの本文を表示させたときは、本文の長さにより点灯時間が異なります。
「照明設定」(『基本編』のP.183)の「通常時」を「OFF」に設定しているときは点灯しません。

iモードメールを作成／送信します

iモードメールを作成して送信します

iモードメールを新規に作成して送信します。ここでは、電話帳を参照して宛先を入力し、テキストメールを作成して送信する方法で説明します。

●メロディ、画像、動画やiモーションを添付するには→P.162
●メール本文の文字色やサイズを変更したり、本文に動きをつけたり、画像やラインを挿入して装飾できます。デコメールについて→P.171

1 [MAIL]▶「iモードメール作成」の順に選ぶ

「MAIL」は待受画面表示中に表示されます。

---

2 機能メニューから「宛先参照入力」－「電話帳」を選んで電話帳を検索する

電話帳の検索について→『基本編』のP.116
宛先の入力方法はこのほかに次の方法があります。
・直接入力→P.156
・アドレス一覧から入力→P.157
・メールメンバーから入力→P.160

---

3 検索した電話帳の詳細画面で宛先のメールアドレスを選ぶ

送信する相手がiモード端末の場合は、宛先にメールアドレスの「@」より前の部分のみを入力しても送信できます。

宛先に「,(カンマ)」やスペースが入力されている場合は、送信できません。また、宛先が電話番号の場合、先頭に「184」/「186」/「#31#」/「¥31#」を入力して送信しようとしたときには、発番号設定を削除して送信することを確認するメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと、「184」/「186」/「#31#」/「¥31#」を削除してiモードメールを送信します。

入力した宛先を変更する場合

新規メール画面で宛先を選んでメールアドレスを入力し直す

新規メール画面で機能メニューから「宛先参照入力」を選んで宛先を変更(上書き)することもできます。

宛先を追加、宛先のタイプを変更するには→P.157

「Subject」を選び、題名を入力して●[確定]を押す

題名は全角で15文字、半角で30文字まで入力できます。

iモードメールの作成／送信

5 「 」を選び、本文を入力して●[確定]を押す

本文は全角で5,000文字、半角で10,000文字まで入力できます。本文編集中に改行することもできます。改行したときは「↵」も全角1文字分としてカウントされます。スペースも文字と同じように文字数にカウントされます。

定型文を本文に入力する場合

機能メニューから「定型文入力」を選んで定型文のフォルダから入力したい定型文を選ぶ

定型文について→『基本編』のP.322

電話帳のデータを本文に引用する場合

機能メニューから「電話帳引用」を選んで情報を引用する

電話帳引用について→『基本編』のP.313

●[確定]を押すと本文入力画面に戻ります。

6 内容を確認し、◐[送信]を押す

メール送信中のアニメーション画面が表示され、iモードメールが送信されます。「OK」を押すとメールメニュー画面に戻ります。

送信プレビュー画面を表示した後、機能メニューから「送信」を選んでも送信できます。送信プレビュー画面を一度も表示しない状態で送信することはできません。

送信を途中で中止する場合

CLRを1秒以上押す

ただし、タイミングによりiモードメールが送信されることもあります。

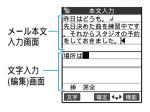
内容を変更する場合

送信プレビュー画面を表示した後、●[確定]を押して新規メール画面に戻り、内容を変更する

CLRを押すと本文入力画面に戻り、本文を変更できます。

変更後、●[確定]を押すと、送信プレビュー画面が表示されます。送信する場合は◐[送信]を押します。

iモードメール本文入力中の画面について

iモードメール本文入力中の画面は次のように表示されます。

メール本文入力画面　：入力を確定したメール本文が表示されます。
文字入力(編集)画面　：文字入力エリア、操作ガイダンスエリア、情報表示エリアが表示されます。入力確定前の文字はここに表示されます。
文字入力(編集)画面でワード予測機能を利用して入力できます。→『基本編』のP.307

文字入力方式を切り替える場合

文字入力(編集)画面で◯[文字]を1秒以上押す
文字入力方式について→『基本編』のP.324

メール本文入力画面で表示される機能メニューは次のとおりです。

デコレーション：本文を装飾してデコメールを作成します。→P.171
元に戻す　　　：入力した文字や本文の装飾を1つ前の状態に戻します。
プレビュー　　：本文のプレビュー画面を表示します。
プロパティ　　：本文に挿入した画像のファイル名、ファイルサイズを表示します。
ウィンドウ切替：参照返信メールの本文入力時に、参照画面と本文入力画面を切り替えます。→P.184
そのほかの機能については『基本編』のP.298をご覧ください。

電話帳の画面から、iモードメールを作成する

電話帳に登録されているメールアドレスを検索して表示し、◉[MAIL]を押します。

電話帳の検索について→『基本編』の P.116
表示されていた電話帳のメールアドレスが新規メール画面の宛先に貼り付けられます。

未完成のiモードメールを一時保存する

メール作成中に機能メニューから「保存」を選びます。
作成中のメールが保存BOXに保存されます。SMSと合わせて10件まで保存できます。
保存したiモードメールはあとで再編集して送信できます。

iモードメールを再編集して送信する

一度送信したiモードメールや未送信のiモードメールを編集して送信できます。
添付ファイルのある送信済みのiモードメールを再編集しても、添付ファイルは削除されません。
再編集する送信メールの詳細画面で機能メニューから「再編集」を選んで、宛先、題名、本文を編集して送信します。

本文などをコピーする

iモードメールの本文、題名、宛先、送信元などをコピーできます。
コピーするメールの詳細画面で機能メニューから「コピー」を選んで項目を選びます。

本文　　：本文をコピーします。
題名　　：題名をコピーします。
アドレス：メールアドレスをコピーします。
コピー方法について→『基本編』の P.317

おしらせ

- FOMA端末に保存されている送信メール（iモードメールとSMSの合計）が最大保存件数（P.21）を超えた場合は、送信メールのうち古いメールから順に自動的に上書きされます。ただし、保護されている送信メールは上書きされません。必要な送信メールは保護することをおすすめします。→P.211
- 「ダイヤル発信制限」（『基本編』のP.205）を設定している場合の宛先入力は、電話帳、送信アドレス一覧、発信履歴、リダイヤルを使った場合のみ行えます。
- 「指定発信制限」（『基本編』のP.141）を設定している場合は、「指定発信制限」に指定されていない電話番号を電話帳参照で呼び出すことはできません。
- 題名や本文に半角カタカナや絵文字が使われていると受信側で正しく表示されないことがあるため、iモード端末どうしでのメールのやりとり以外に使わないでください。
- 送信を行わずに、CLR、PWR HLDを押したときは、内容を破棄して編集を終了することを確認するメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと、それまで入力した文字は消去されます。入力した文字を消去したくないときは、「NO」を選ぶと元の画面に戻ります。
- 電波状況により、相手の方に文字が正しく表示されない場合があります。また、送信できていても「送信できませんでした」と表示される場合があります。
- 「シークレットコード」（『基本編』のP.127）が設定されている電話帳の宛先を入力した場合は、送信するときに自動的にシークレットコードが添付されます。ただし、送信したメールの宛先にはシークレットコードは保存されません。
  宛先が電話番号または「電話番号@docomo.ne.jp」以外の場合は、シークレットコードは添付されません。
- 相手がiモードの契約をしている場合は、movaサービスのiモード端末に対してもFOMA端末からiモードメールを送信できます。

宛先を直接入力します

1 **新規メール画面で「To」を選び、宛先を直接入力して● [確定]を押す**

宛先は半角で50文字まで入力できます。

2 **題名、本文を編集して送信する**

これ以降の詳しい操作手順についてはP.153の操作4～6を参照してください。

アドレス一覧を使って宛先を入力します

メールの送信アドレス一覧や受信アドレス一覧を呼び出して、宛先を入力できます。

<例：送信アドレス一覧を呼び出す場合>

1 新規メール画面で機能メニューから「宛先参照入力」－「送信アドレス一覧」を選ぶ

送信アドレス一覧について→『基本編』のP.154

2 宛先にする送信アドレス一覧を選び、メールアドレスを確認して ◉ [選択] を押す

宛先が入力された新規メール画面が表示されます。

3 題名、本文を編集して送信する

これ以降の詳しい操作手順については、P.153の操作4～6を参照してください。

おしらせ

- メールの送信アドレス一覧または受信アドレス一覧には、それぞれ送信／受信したiモードメールのメールアドレスや、SMSの電話番号などが合計30件まで記憶されます。
- メールの送信アドレス一覧や受信アドレス一覧が30件を超えたときは、古いものから順に上書きされます。
- 「PIMロック」および「ダイヤル発信制限」(『基本編』のP.204、P.205)を設定すると、それまでのメールの送信アドレス一覧と受信アドレス一覧はすべて削除されます。

宛先を追加します

- 宛先は5件まで入力できます。すでに5件の宛先を入力している場合や、宛先を1件も入力していない場合は、機能メニューの「宛先追加」を選ぶことができません。
- 宛先には「To」「Cc」「Bcc」の3種類があります。送信相手の宛先は「To」に入力します。「To」に宛先が1 件も入力されていないメールは送信できません。

＜例：電話帳を参照して宛先を追加する場合＞

1 新規メール画面で機能メニューから「宛先追加」－「電話帳」を選んで電話帳を検索する

電話帳の検索について→『基本編』のP.116

2 検索した電話帳の詳細画面で宛先のメールアドレスを選ぶ

さらに宛先を追加するときは操作1～2を繰り返します。

入力した宛先を変更する場合

変更したい宛先を選んでメールアドレスを入力し直す

機能メニューから「宛先参照入力」を選んで宛先を変更（上書き）することもできます。

追加した宛先のタイプを変更する場合

変更したい宛先を反転表示して、機能メニューから「宛先タイプ変更」を選んで項目を選ぶ

To ：送信相手の宛先です。

Cc ：同報の宛先です。Ccの宛先に入力したメールアドレスは、ほかの送信相手に表示されます。Toの宛先に送るメールのコピーとしてほかの宛先に送る場合に選択します。

Bcc：同報の宛先です。Bccの宛先に入力したメールアドレスは、ほかの送信相手には表示されません。

宛先を削除する場合

削除したい宛先を反転表示して、機能メニューから「宛先削除」を選んで「YES」を選ぶ

削除した宛先の後に宛先が入力されているときは、宛先はつめて表示されます。

宛先が1件しか入力されていないときは、宛先を削除できません。

3 題名、本文を編集して送信する

これ以降の詳しい操作手順については、P.153の操作4～6を参照してください。

おしらせ

- 「To」と「Cc」に入力したメールアドレスは、すべて受信側に表示されます。ただし、受信側の端末によっては、表示されない場合もあります。「Bcc」に入力したメールアドレスは、受信側には表示されません。
- 指定した宛先に送信が成功したかどうかは、送信メール詳細画面で確認できます。→P.148
- 同じ宛先が複数入力されているメールを送信しようとしたときは、重複する宛先を削除して送信するかどうかのメッセージが表示されます。

メールメンバーを作成します

お買い上げ時　未登録

複数の宛先をFOMA端末のメールメンバーに登録することにより、iモードメール作成時に、宛先にメールメンバーを指定するだけで複数の宛先を簡単に入力できます。

●メールメンバーには20件まで登録でき、1件あたりメールアドレスを5件まで登録できます。

＜例：電話帳からメールメンバーを登録する場合＞

1 Menu ▶ ユーザデータ ▶「メールメンバー」の順に選ぶ

2 メールアドレスを登録する項目を選ぶ

3 「＜未登録＞」を反転表示して、機能メニューから「アドレス参照入力」－「電話帳」を選ぶ

送信アドレス一覧から登録する場合

「送信アドレス一覧」を選ぶ

受信アドレス一覧から登録する場合

「受信アドレス一覧」を選ぶ

メールアドレスを入力して登録する場合

「アドレス編集」を選んでメールアドレスを入力する

メールアドレスは半角の英数記号で50文字まで入力できます。

64Kデータ通信やパケット通信の着信履歴はメールメンバーには登録できません。

4 電話帳を検索して、電話帳の詳細画面でメールアドレスを選ぶ

選択したメールアドレスがメールメンバーに登録されます。
電話帳の検索について→『基本編』のP.116
メールアドレスを追加登録するときは、操作3～4を繰り返します。

メンバー名を変更する
メールメンバーの一覧画面で変更したいメールメンバーを反転表示して、機能メニューから「メンバー名編集」を選びます。
メンバー名は全角で10文字、半角で20文字まで入力できます。
メンバー名をすべて削除して◉[確定]を押すと、お買い上げのときのメンバー名になります。

メンバー名を初期化する
メールメンバーの一覧画面で初期化したいメールメンバーを反転表示して、機能メニューから「メンバー名初期化」を選んで「YES」を選びます。
変更していたメンバー名を初期化するとお買い上げのときのメンバー名になります。

メールアドレスの詳細画面を表示する
メールメンバーの一覧画面でメールアドレスが登録されているメールメンバーを選んで一覧画面でメールアドレスを選びます。

メールメンバーのメールアドレスを変更する
メールアドレスの詳細画面、または一覧画面で変更したいメールアドレスを反転表示して、◑[編集]を押します。
変更したいメールアドレスを反転表示して、機能メニューから「アドレス編集」を選んでも変更できます。
「電話帳」、「送信アドレス一覧」、「受信アドレス一覧」から参照して入力するときは、メールアドレスの詳細画面、または一覧画面で変更したいメールアドレスを選んで機能メニューから「アドレス参照入力」を選びます。「YES」を選び、項目を選んで変更します。

メールアドレスを1件削除する
メールアドレスの詳細画面、または一覧画面で削除したいメールアドレスを反転表示して、機能メニューから「1件削除」を選んで「YES」を選びます。

メールアドレスをすべて削除する
メールアドレスの詳細画面、または一覧画面で機能メニューから「全削除」を選んで「YES」を選びます。
全削除を行ってもほかのメールメンバーのメールアドレスは削除されません。また、全削除を行ってもメンバー名は削除されません。メンバー名を削除したい場合は、メンバー名を初期化してください。

メールメンバーを使って宛先を入力します

メールメンバーを利用すると、一度に複数の宛先を指定できます。
メールメンバーを利用するには、あらかじめメールメンバーにメールアドレスを登録しておく必要があります。

●メールメンバーに登録されている宛先すべてが「To」として入力されます。宛先タイプを「Cc」や「Bcc」に変更することもできます。→P.157

1 新規メール画面で機能メニューから「宛先参照入力」ー「メールメンバー」を選ぶ

2 メールメンバーを選ぶ

メールメンバーを選ぶと、宛先に入力されます。

3 題名、本文を編集して送信する

これ以降の詳しい操作手順については、P.153の操作4〜6を参照してください。

おしらせ

- 「ダイヤル発信制限」(『基本編』のP.205)を設定しているときは、メールメンバーを使った宛先の入力はできません。
- すでに宛先が入力されているときにメールメンバーで宛先を入力しようとした場合、宛先をすべて上書きするかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと、すでに入力されていた宛先はすべて削除され、メールメンバーに登録されている宛先だけが入力されます。

冒頭文／署名を付けます

あらかじめ作成しておいた冒頭文や署名(P.222)を、iモードメールの本文に貼り付けられます。

1 新規メール画面で機能メニューから「冒頭文貼付」を選ぶ

本文の先頭に冒頭文が貼り付けられます。

2 機能メニューから「署名貼付」を選ぶ

本文の最後に署名が貼り付けられます。
貼り付けられた冒頭文や署名を確認するには、本文を選択して表示します。

おしらせ

- ●半角カタカナや絵文字を使った冒頭文や署名をiモードメールの本文に貼り付けて送信すると、受信側で正しく表示されないことがありますので、iモード端末どうしでのメールのやりとり以外には使わないでください。
- ● 本文と冒頭文、本文と署名の間には改行が入り、それぞれ全角1文字分としてカウントされます。
- ● 貼り付けようとした冒頭文や署名と本文（添付したメロディ・画像を含む）の合計が全角で5,000文字、半角で10,000文字を超えてしまうときは、冒頭文や署名を貼り付けることができません。

ファイルを添付します

iモードメールでは、次のようなファイルを添付して送信することができます。FOMA端末では、内蔵カメラで撮影した写真（静止画）や動画、サイトやインターネットホームページから取り込んだ画像やiモーション（iモーションメール）を添付して送ることができます。

ファイルの種類	1つのメールにつき添付できる最大ファイル数	備考
メロディ	10個	メロディと画像を合わせて最大10個まで添付可能。データ量によって最大ファイル数は減少します。 さらに、大容量画像と動画／iモーションはどちらか1つだけ添付可能です。
画像※1		
大容量画像※2	1個	
動画／iモーション（iモーションメール）		

※1：内蔵カメラで撮影した静止画（P.251）やサイトからダウンロードした10,000バイト以下の画像は、画像の一覧画面でタイトル名の前（ピクチャー一覧表示の場合はポップアップ表示されるタイトル名の前）に「JPG」、「GIF」、「JPG」、「GIF」のアイコンが表示されます。
※2：10,000バイトを超える102,400バイトまでのJPEG形式の画像
大容量画像は、画像の一覧画面でタイトル名の前（ピクチャー一覧表示の場合はポップアップ表示されるタイトル名の前）に「JPG」または「JPG」のアイコンが表示されます。

- ●ファイルを添付したときは、本文に入力できる文字数が少なくなります。
- ●受信側がmovaサービスのiモード端末のときは、添付したファイルがJPEG形式の画像1ファイル（最大10,000バイト）の場合、iショットメール（P.164）として送信されます。それ以外の添付したファイルは削除され、本文が全角で最大2,000文字分まで届きます。

＜例：画像を添付する場合＞

1 メール作成中に機能メニューから「添付ファイル追加」－「画像添付」を選ぶ

メロディを添付する場合

機能メニューから「添付ファイル追加」－「メロディ添付」を選ぶ

2 添付する画像があるフォルダを選ぶ

3 添付する画像を選ぶ

メールに添付できない画像は表示されません。
画像の件数が多いときや、画像のサイズが大きいときは、画像一覧画面の表示に時間がかかることがあります。

画像の一覧表示を切り替える場合

機能メニューから「タイトル名一覧」を選ぶ
ピクチャ一覧表示がタイトル名一覧表示に切り替わります。添付できない画像は選択できません。
ピクチャ一覧表示に戻す場合は、機能メニューから「ピクチャ一覧」を選びます。

画像を表示する場合

表示したい画像をで選んで[デモ]を押す
一覧画面に戻るときはを押します。

メロディを再生する場合

再生したいメロディを反転表示して、[デモ]を押す
メロディの再生を止めるときは、、、、のいずれかを押します。
マナーモードに設定中の場合は、再生するかどうかを確認する画面が表示されます。再生するときは「YES」を選びます。

movaサービスのiモード端末へ画像をiショットメールで送る

画像を添付したメールをmovaサービスのiモード端末へiショットメールとして送信できます。
movaサービスのiモード端末へ送信する場合、添付できるファイルは最大10,000バイトのJPEG形式の画像1つだけです。複数のファイルを添付すると、添付したすべてのファイルが削除されて本文だけが相手に届きます。
movaサービスのiモード端末へ送信する場合、相手側がメール分割設定をしていないときは、相手が受信できる本文は全角で184文字までになります。相手側がメール分割設定をしているときは、iショットのURL（画像の保管先）を含み全角で2,000文字まで送信できます。
使用できる画像は最大10,000バイトのJPEG形式の画像です。10,000バイトを超えるサイズのJPEG形式の画像を添付したiモードメールはmovaサービスのiモード端末には送信できません。また、サイトなどからダウンロードしたGIF形式の画像を添付した場合は、画像が削除されて本文だけが相手に届きます。

おしらせ

● 次のときはファイルを添付できません。
- すでに本文（添付したファイルを含む）のデータ量が全角5,000文字（10,000バイト）分のとき
- ファイルを添付すると、本文（添付したファイルを含む）のデータ量が全角5,000文字（10,000バイト）分を超えてしまうとき※

※：添付できるデータ量を超えている画像は、画像のピクチャ一覧画面で右のように表示されます。

- すでにメロディまたは画像と、大容量画像または動画やiモーションが合計で11個添付されているとき
- メールへの添付やFOMA端末外への出力が禁止されているとき
  内蔵カメラで撮影した静止画を添付する場合、「ファイル制限」を「あり」に設定していても添付／送信できますが、受け取った相手がそのファイルを外部へ出力することはできません。
- 自作アニメのとき

● 次のときは大容量画像を添付できません。
- 大容量画像のデータ量が100Kバイト（102,400バイト）を超えるとき
- 本文（添付したファイルを含む）の残りのデータ量がテキストメールは全角で100文字（200バイト）、デコメールは全角で200文字（400バイト）分未満のとき
- すでに大容量画像、または動画やiモーションが添付済みのとき
  内蔵カメラで撮影した静止画を添付する場合、「ファイル制限」を「あり」に設定していても添付／送信できますが、受け取った相手がそのファイルを外部へ出力することはできません。

● 大容量画像を添付したiモードメールはiモード端末には送信できません。

● 大容量画像を添付したときは、本文に入力できる文字数がテキストメールは全角で100文字（200バイト）、デコメールは全角で200文字（400バイト）分減ります。

● 画像やメロディを添付した場合、iモードメール作成画面では実際に送信されるデータの容量が表示されます。画像の場合、イメージ情報では本FOMA端末で管理されるファイルサイズが表示されるため、iモードメール作成画面で表示される容量とは異なる場合があります。

● VGAサイズの画像（P.269）をiモードメールに添付して送信した場合、受信側がパソコンや動画表示対応のFOMA端末など、表示部の大きい端末で画像を表示できます。表示可能な場合でも、画像サイズが縮小されて表示されることがあります。また、メモリが不足している場合は最大サイズを超えるため表示できないことを確認するメッセージが表示され、画像を表示することができません。

● iモードメールに添付された画像は正しく表示できない場合があります。また、画像が粗く表示される場合があります。

● 受信側がFOMA N900i以外の場合、送信したメロディが正しく再生できない場合があります。

<例：動画またはiモーションを添付する場合>

1 メール作成中に機能メニューから「添付ファイル追加」－「iモーション添付」を選ぶ

2 添付する動画またはiモーションがあるフォルダを選ぶ

3 添付する動画またはiモーションを選ぶ

動画やiモーションを再生する場合

一覧画面で◯［デモ］を押す

再生を止めるときは(CLR)を押します。

メールに添付できない動画やiモーションは選択できません。

おしらせ

- 次のときはファイルを添付できません。
  - ・すでに本文(添付したファイルを含む)のデータ量が全角5,000文字(10,000バイト)分のとき
  - ・ファイルを添付すると、本文(添付したファイルを含む)のデータ量が全角5,000文字(10,000バイト)分を超えてしまうとき
  - ・すでにメロディまたは画像と、大容量画像または動画やiモーションが合計で11個添付されているとき
  - ・メールへの添付やFOMA端末外への出力が禁止されているとき
    内蔵カメラで撮影した動画を添付する場合、「ファイル制限」を「あり」に設定していても添付／送信できますが、受け取った相手がそのファイルを外部へ出力することはできません。
- 次のときは動画やiモーションを添付できません。
  - ・動画やiモーションのデータ量が100Kバイト(102,400バイト)を超えるとき
  - ・本文(添付したファイルを含む)の残りのデータ量がテキストメールは全角で100文字(200バイト)、デコメールは全角で200文字(400バイト)分未満のとき
  - ・すでに大容量画像、または動画やiモーションが添付済みのとき
  - ・再生制限のあるiモーションのとき
    内蔵カメラで撮影した動画を添付する場合、「ファイル制限」を「あり」に設定していても添付／送信できますが、受け取った相手がそのファイルを外部へ出力することはできません。
- 動画やiモーションを添付したときは、本文に入力できる文字数がテキストメールは全角で100文字(200バイト)、デコメールは全角で200文字(400バイト)分減ります。

通話中に撮影した写真(静止画)を送信します<スピードフォトメール>

音声電話中の相手に対して、その場で撮影した静止画またはFOMA端末に保存されている静止画を送信できます。

●スピードフォトメールを利用するには、あらかじめ通話中の相手の電話番号とメールアドレスが電話帳の同じひとつのメモリ番号に登録されている必要があります。

＜例：その場で撮影した静止画を送信する場合＞

1 通話中に、機能メニューから「スピードフォトメール」を選んで「フォトモード」を選ぶ

FOMA端末に保存されている静止画を送信する場合
「フォトリスト」を選ぶ
送信できない静止画はグレー表示となり選択できません。
データ量が9,000バイト以下の「メール(大)」「メール(小)」の画像のみ送信可能です。

2 ◉[撮影]または▾[メモ／確認]を押して静止画を撮影する

撮影時にはシャッター音が鳴ります。
撮影前に明るさの調節や画像サイズの設定などカメラの応用機能を利用できます。→P.266

撮影した静止画を保存してから送信する場合
機能メニューから「保存&メール送信」を選ぶ
また、「イメージ貼付」を選ぶと、撮影した静止画を保存後、イメージ貼付(P.301)を行ってから送信できます。

3 ◉[送信]を押して◉[選択]を押す

➡

送信を確認するメッセージが表示されます。

複数のメールアドレスが登録されている場合
送信する宛先のメールアドレスを選ぶ

カメラ付き携帯電話を利用して撮影や画像送信を行う際は、プライバシー等にご配慮ください。

おしらせ

- 次の場合には本機能を利用できません。
  - 通話中の相手の電話番号とメールアドレスが電話帳に登録されていないとき
  - 通話中の相手の電話番号とメールアドレスが「シークレットモード」、「シークレット専用モード」で電話帳に登録されているとき
  - 音声電話を受けた側が、電話番号が通知されない状態（非通知設定、通知不可能など）のとき
  - 指定発信制限中、通話中の相手の電話番号が指定発信制限に設定されていないとき
  - PIMロック中
  - パケット通信中（PPP）のとき
  - 保存BOXがいっぱいのとき
  - キャッチホン中
  - ソフトウェア更新中に通話状態になったとき
- 通話中の相手に対して複数のメールアドレスが電話帳に登録されている場合、送信確認の画面で反転表示されるアドレスの優先順位は次のとおりです。①が最も優先順位が高くなります。
  ① iモードのアドレス（「@」より後がdocomo.ne.jp）
  ② ドメインのないアドレス、電話番号（ドメイン名とは、「@」より後の文字のことです。）
  ③ 電話帳に登録されている1番目のアドレス
- 本機能で送信したメールは、自分の電話番号が題名となり、送信BOXに保存されます。
- 「添付ファイル設定」（P.227）で、「画像を受信しない」に設定した場合、スピードフォトメールの静止画が受信時に削除されます。
- 「画像サイズ設定」が「640×480」、「352×288」、「待受（240×269）」のいずれかで設定されている場合でも、本機能を起動すると設定は「メール大（176×144）」となります。
- 本機能起動中に「画像サイズ設定」を変更する場合、「メール大（176×144）」、「メール小（128×96）」以外は選択できません。

いろいろなデータからiモードメールを作成します

- 次のようなデータの画面から機能メニューを表示させて「iモードメール作成」を選ぶと、そのデータを添付したり、本文に貼り付けたiモードメールを作成できます。
  - サイトのページ、ブックマーク、URL履歴のURL
  - 「メロディプレーヤー」（P.333）に保存されているメロディ
  - 「イメージビューア」（P.294）に保存されている画像
  - 「ムービープレーヤー」（P.308）に保存されている動画やiモーション
  - 内蔵カメラで撮影した静止画や動画→P.251、P.260※1
  - 「スケジュール」→『基本編』のP.216※2
  - 「テキストメモ」→『基本編』のP.234

  ※1：内蔵カメラで撮影した静止画や動画の場合、外部出力を不可に設定していても送信できますが、受け取った相手がそのファイルを外部へ出力することはできません。
  ※2：iモードメールに貼り付けられるスケジュールのデータは、そのスケジュールの日付・開始時刻と内容のみです。
- メールへの添付やFOMA端末外への出力が禁止されているメロディ／画像／動画やiモーションから、iモードメールを作成することはできません。

<例：表示しているサイトのページのURLを本文に貼り付けてメールを作成する場合>

1 サイトを表示中に機能メニューから「iモードメール作成」を選ぶ

機能メニュー 2/3
1 電話帳登録
2 デスクトップ貼付
3 iモードメール作成
4 文字コード変換
5 ホーム登録
6 ホーム表示
7 タイトル表示

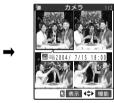
URLが本文に貼り付けられた新規メール画面が表示されます。

2 宛名、題名、本文を入力して送信する

これ以降の詳しい操作手順についてはP.153の操作4～6を参照してください。

<例：内蔵カメラで撮影した写真（静止画）を添付したメールを作成する場合>

1 イメージビューア一覧画面から添付する画像のあるフォルダを選んで画像を選ぶ

➡

イメージビューアの操作について
→P.294

2 機能メニューから「iモードメール作成」を選ぶ

3 宛名、題名、本文を入力して送信する

これ以降の詳しい操作手順についてはP.153の操作4～6を参照してください。

おしらせ

- 受信側がFOMA N900i以外の場合、送信したメロディが正しく再生できない場合があります。
- iモードメールに添付された画像は正しく表示されない場合があります。また、受信側がmovaサービスのiモード端末の場合は、添付できるファイルはJPEG形式の画像1ファイル（最大10,000バイト）のみで、本文は全角文字で最大184文字まで届きます。ただし、受信側がメールの分割設定をしている場合は、iショットのURL（画像の保管先）を含み最大全角2,000文字分まで届きます。
- 画像のデータ量が100Kバイト（102,400バイト）分を超えるときは、機能メニューで「iモードメール作成」を選ぶことはできません。

メール連動型iアプリを利用してiモードメールを作成します

メール連動型iアプリからiモードメールを作成できます。

●メール連動型iアプリは専用のフォルダ「」を作成して受信メール、送信メールを保存します。

1 [MAIL] ▶「送信BOX」の順に選ぶ

送信BOXが表示されます。

2 メール連動型iアプリのフォルダ「」を選ぶ

メール連動型iアプリが起動します。
iアプリの一覧からメール連動型iアプリを選んでも起動できます。

3 メール連動型iアプリからメールを作成する画面を選ぶ

iアプリの操作および画面はソフトによって異なります。

4 メールを送る操作を選ぶ

新規メール画面が表示されます。
題名、宛先、本文はメール連動型iアプリから自動で入力される場合もあります。

5 宛名、題名、本文を入力して送信する

入力の手順についてはP.153の操作4〜5を参照してください。

メール連動型iアプリのフォルダについて

メール連動型iアプリを利用してiモードメールを送受信する場合は、メール連動型iアプリのダウンロード時に送信BOX、受信BOXそれぞれに作成された専用のフォルダにメールが保存されます。
メール連動型iアプリのフォルダは送信BOX、受信BOXそれぞれに5件まで作成できます。

おしらせ

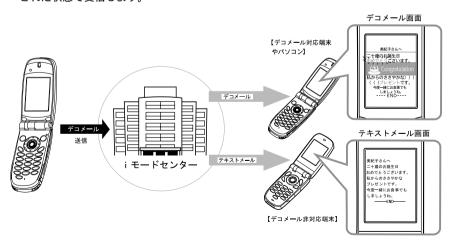
●メール連動型iアプリは、新規メール画面を表示しないでメールを送信したり、受信する場合があります。

デコメールを作成／送信します

デコメールは、iモードメール（テキストメール）本文の文字色、文字サイズや背景色などを変更したり、文字に動きをつけたり、ラインや画像を本文内に挿入して表現力豊かなメールにしたものです。
デコメールで装飾できる種類は次のとおりです。

装飾の種類	装飾の内容	機能名
文字を装飾する	文字の色を変更する	文字色
	文字のサイズを変更する	文字サイズ
文字位置を変更する	文字の左右位置を変更する	文字位置
文字に動きをつける	文字を点滅表示する※	点滅
	文字を右から左にテロップ表示する※	テロップ
	文字を左右に揺らす※	スウィング
背景色を変更する	背景色を変更する	背景色
ラインや画像を入れる	本文中にライン（罫線）を挿入して表示する	ライン挿入
	本文中に画像を挿入する※	画像挿入

※：一定の時間が経過すると、自動的に停止します（画像はアニメGIF挿入時の場合）。

●デコメールで本文を装飾すると、テキストメールでの本文入力より入力できる文字数が減ります。
●デコメールに対応していない端末に送信した場合は、装飾が削除された状態（テキストメール）で受信します。また、「画像挿入」した画像については、FOMA端末では添付ファイルとして受信し、mova端末では iショットメールとして受信するか、挿入した画像が削除された状態で受信します。

デコメールを作成して送信します

1 メール本文入力中に機能メニューから「デコレーション」を選び、装飾したい機能を選んでそれぞれの操作を行う

機能名について→P.171
装飾する機能を選ぶと本文入力画面に戻ります。
デコレーションの機能選択画面では、前回選んだ装飾名が反転表示されます。

➡

文字色を変更する場合

カラーパレットから文字色を選ぶ
文字色を元に戻す場合は「指定なし」(黒)を選びます。
文字色を変更すると、挿入した絵文字も指定した色で表示されます。

➡

背景色を変更する場合

カラーパレットから背景色を選ぶ
背景色を元に戻す場合は「指定なし(白)」を選びます。

➡

文字サイズを変更する場合

「大」「標準」「小」から文字サイズを選ぶ

➡

文字位置を変更する場合

「左寄せ」「センタリング」「右寄せ」から文字位置を選ぶ
文字位置は指定した1行のみに設定されます。指定した行の長さが画面上の1行に表示しきれない場合は、複数の行にわたって文字位置が変更されます。

点滅
1開始
2終了

➡

文字を点滅させる場合

「開始」を選んで本文を入力し、機能メニューから「デコレーション」―「点滅」―「終了」を選ぶ
「点滅」を設定した本文は反転表示されます。

文字をテロップ表示させる場合

「開始」を選んで本文を入力し、機能メニューから「デコレーション」－「テロップ」－「終了」を選ぶ
「テロップ」を設定した本文は「 」「 」で囲まれ表示されます。
テロップを設定した文字列を改行すると、その設定は改行の位置までとなり、次の行から新しいテロップの設定が行えます。

文字をスウィングさせる場合

「開始」を選んで本文を入力し、機能メニューから「デコレーション」－「スウィング」－「終了」を選ぶ
「スウィング」を設定した本文は「 」「 」で囲まれ表示されます。
スウィングを設定した文字列を改行すると、その設定は改行の位置までとなり、次の行から新しいスウィングの設定が行えます。

ラインを挿入する場合

ラインを挿入する行で機能メニューから「ライン挿入」を選ぶ
ラインを挿入する前に文字色を変更すると、挿入したラインも指定した色で表示されます。

画像を挿入する場合

画像のあるフォルダを選んで挿入する画像を選ぶ
挿入できない画像は選択できません。また、すでにファイルを10個添付している場合は画像を挿入できません。
画像を挿入する前に文字位置を変更すると、挿入した画像も指定した文字位置に表示されます。
本文中に画像を挿入した場合は1個の画像挿入につき、ファイルを1個添付した状態と同じになります。
同じ画像を複数挿入した場合は1個の画像として扱います。

装飾を1つ前の状態に戻す場合

本文入力画面で機能メニューから「元に戻す」を選ぶ
直前に設定した装飾が解除されます。
直前の操作が文字の貼り付けや、CLRを1秒以上押しての文字削除の場合なども取り消すことができます。

2 本文を確認する

本文入力後、装飾された本文が表示され、左上に「 」が、右上に装飾内容を示す以下のアイコンが表示されます。

：文字色を指定したときに表示されます。

／／：
文字サイズがそれぞれ「大」、「標準」、「小」のときに表示されます。

：文字位置を「センタリング」または「右寄せ」に変更したときに表示されます。

：点滅を設定したときに表示されます。

：テロップ表示を設定したときに表示されます。

：スウィングを設定したときに表示されます。

装飾した本文を確認する場合

機能メニューから「プレビュー」を選ぶ
本文の装飾をプレビューできます

3 本文入力画面で◉[確定]を押す

送信プレビュー画面が表示されます。
メール本文に電話番号やメールアドレス、URLやiアプリへのリンクが入力されている場合はアンダーラインで表示されますが、「Phone To機能」、「Mail To機能」、「Web To機能」を利用することはできません。

4 [送信]を押す

◉[確定]を押すと、新規メール画面が表示されます。

おしらせ

- メール作成画面で「冒頭文貼付」を行った場合、冒頭文は装飾なしの状態で貼り付けられます。そのため、背景色によっては冒頭文が見えなくなることがあります。また、「署名貼付」を行った場合、署名は本文末の文字色、文字サイズの装飾を引き継いだ状態で貼り付けられます。冒頭文、署名の装飾を変更するときは、貼り付けた後に「デコレーション変更」を行ってください。→P.175
- 同じ画像を挿入した場合は1個の画像として扱いますが、新規メール画面に戻ったり作成中のメールを保存したあとに同じ画像を挿入した場合は違う画像として扱うため、その画像の容量分だけ本文に入力できる文字数が減ります。

入力された本文を装飾します

メール本文の入力後にも装飾する範囲を指定して、文字色、文字サイズ、文字位置の変更や、点滅、テロップ、スウィングの設定が行えます。すでに装飾した本文の設定内容を変更することもできます。

●デコレーション変更では背景色の変更、画像の挿入、ラインの挿入は行えません。

1 メール本文入力中に機能メニューから「デコレーション」−「デコレーション変更」を選ぶ

2 を押して装飾を変更するはじめの位置で[始点]を押す

本文をすべて装飾する場合

[全選択]を押す

3 を押して装飾を変更する終わりの位置まで反転表示し、[終点]を押す

4 設定したい項目を選んで[選択]を押す

装飾方法について→P.172

文字を点滅、テロップ表示、スウィングさせる場合

「設定」を選ぶ

すでに設定している点滅、テロップ、スウィングを解除するときは、「解除」を選んでください。

装飾をすべて解除します

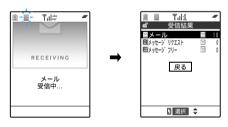
1 メール本文入力中に機能メニューから「デコレーション」ー「全解除」を選ぶ

メールの装飾をすべて解除することを確認するメッセージが表示され、「YES」を選ぶと装飾がすべて解除されて本文入力画面に戻ります。画像が挿入されている場合は、挿入した画像を削除するメッセージが表示されます。
本文の左上の「 」の表示が消えます。

iモードメールを自動的に受信します

FOMA端末が圏内にあるときは、iモードセンターから自動的にiモードメールが送られてきます。

- 受信したiモードメールは、FOMA端末にSMSと合わせて最大で1,000件まで保存できます。受信メールの保存可能件数は、メールのデータ量により21〜1,000件と変動します。
- メールを受信したときの着信音を「着信音選択」(『基本編』のP.163)でお好みの音に設定したり、メールを受信したときの点滅パターンを「着信イルミネーション」(『基本編』のP.185)で変更したりできます。
- movaサービスのiモード端末から送られてくるiモードメールも、FOMA端末で受信できます。
- FOMA端末の操作中にiモードメールを受信したときは、お買い上げのときの設定では受信中画面は表示されず、そのまま操作を続けることができます。着信音、着信ランプの点灯、バイブレータ、バックライトの点滅は行わず、「」のアイコン表示(FOMA端末を閉じている場合はイルミネーション・ウインドウのアイコン点滅とバックライト点灯)によって、メールを受信したことが通知されます。
- FOMA端末の操作中にiモードメールを受信したときに、着信音が鳴り、受信中画面が表示されるように設定することもできます。→P.224

1 iモードメールを受信すると、「」のアイコンが点滅し「メール受信中…」と表示される

受信が終わると、受信結果画面に受信したメールやメッセージリクエスト／フリーの件数が表示されます。「メール」を選ぶと、受信メール一覧画面が表示されます。
何も操作しないで約15秒経過すると元の画面に戻ります。受信結果画面が表示される時間は「メール／メッセージ鳴動」(P.233)の設定によって変わります。

iモードメールのアイコン表示について

「 」のアイコンが点滅しているときは、メールを受信中です。受信が完了すると、点灯します。
「 」のアイコンまたは「 」のアイコンが表示されたときは、FOMA端末はこれ以上iモードメールを受信できません。これらのアイコンが表示されなくなるまで、未読のメールを読むか、保護を解除(P.211)してください。読んだり、保護を解除したメールは、受信時に古いものから順に上書きされます。

iショットサービスのメールを受信した場合

movaサービスから送信されたiショットサービスのメールを受信した場合、画像は添付ファイルとして受信します。

おしらせ

● FOMA端末に保存されている受信メール（iモードメールとSMSの合計）が最大保存件数（P.21）を超えた場合は、受信時にゴミ箱のメール、古い受信メールから順に自動的に削除されます。ただし、未読のメールと保護されている受信メールは削除されません。必要な受信メールは保護することをおすすめします。→P.211
● 表示中（受信メールの一覧画面または詳細画面）の受信メールは上書きされません（表示中にタスク切り替えを行った場合も含む）。受信メールの一覧画面または詳細画面を表示中にメールを受信したときは、表示中のメール以外のゴミ箱のメール、古いメール（未読と保護を除く）から順に上書きされます。
● 「メール選択受信設定」（P.224）を「ON」にし、iモードメールを自動受信しないように設定すると、送られてきたiモードメールはiモードセンターに保管されます（画面上部に「」のアイコンが表示されます）。この場合は、「iモード問い合わせ」（P.180）を行ってセンターに保管されているiモードメールをまとめて受信したり、「メール選択受信」によりセンターに保管されているiモードメールの題名などを確認してから選択して受信できます。→P.186
● iモードメールの本文は、最大で全角で5,000文字、半角で10,000文字まで受信できますが、それを超えたときは本文の最後に「/」または「//」を挿入して、超えた分を自動的に削除します。
● 極端にデータ量の大きいメールが送られてきたときは、iモードセンターで受け付けられずに、エラーメールとともに送信元へ返信されることがあります。
● メールに添付されているメロディや画像を受信するかどうかを「添付ファイル設定」（P.227）で設定できます。
● FOMA端末がiモードメールを受信すると、iモードセンターに保管されていたiモードメールは削除されます。
● iモードセンターに保管されるiモードメールの件数は最大207～1,000件までとなります。保管件数はiモードメールのデータ量により異なります。保管期間は720時間です。720時間を超えた場合、自動的に削除されます。
● iモードセンターに保管されているiモードメールが最大保管件数を超えたときは、iモードセンターではiモードメールを受信せず、送信先にエラーメッセージまたは、エラーメールとともに返信します。
● iモードメールではメロディや動画／iモーション、画像を添付ファイルとして送受信できます。対応していない添付ファイルはiモードセンターで自動的に削除されます。添付ファイルが削除された場合は、「添付ファイル削除」のメッセージが追加されます。ただし、受信したメールによっては「添付ファイル削除」のメッセージが正しく追加されなかったり、添付ファイルを正しく削除できない場合があります。
● 新しいiモードメールが届いたときは、iモードセンターに保管されているほかのiモードメールやメッセージリクエスト／フリーも合わせて受信します。
● 音声通話中にスピードフォトメールを受信すると、添付された静止画が自動的に表示されます。「スピードフォトメール表示設定」（P.228）を「自動表示しない」に設定している場合は、静止画は自動表示されません。本機能で送信されたメールを受信した場合、送信元の電話番号が題名となり、本文のない画像添付iモードメールが受信BOXに保存されます。
● To、Cc、Bccを設定できる端末からiモードメールを受信した場合、自分がTo、Cc、Bccのうちどの宛先タイプで受信したかをFOMA端末で確認することができます。
● パソコンなどから装飾されたメールを受信すると、装飾が正しく表示されないことがあります。
● あらかじめ、受信するiモードメールのサイズを制限できます。→P.240
● iモードメールを受信したときの着信音とイルミネーションの設定の優先順は次のとおりです（①が最も優先度が高くなります）。
① メールアドレスごとに指定した「電話帳便利機能」→『基本編』のP.120
② グループごとに指定した「グループ便利機能」
③ 「着信音選択」、「着信イルミネーション」→『基本編』のP.163、P.185
● 複数のメールを同時に受信したときは、最後に受信したメールに設定されている条件で、着信音が鳴り、イルミネーションが点滅します。
● 着信音の音量は「着信音量」（『基本編』のP.79）の「メール／メッセージ」で設定した音量になります。

iモード問い合わせ

センターに保管されているiモードメールを受信します

お買い上げ時	すべて(メール、メッセージリクエスト、メッセージフリー) 問い合わせする

●iモードセンターに届いたiモードメールは自動的にFOMA端末へ送信されますが、次の場合はiモードセンターに保管されます。
・FOMA端末の電源が入っていないとき
・「圏外」が表示されているとき
・メモリがいっぱいのとき
・「メール選択受信設定」(P.224)が「ON」のとき

●「圏外」が表示されているときは問い合わせできません。

●問い合わせる項目は「iモード問い合わせ設定」(P.127)で設定します。メッセージリクエスト／フリーの配信を希望されない場合は、「メッセージリクエスト」および「メッセージフリー」を「問い合わせしない」に設定してください。

1 [MAIL]▶「iモード問い合わせ」の順に選ぶ

➡

「MAIL」は待受画面中に表示されます。
メール問い合わせ画面が表示されます。
問い合わせは「メール」→「メッセージリクエスト」→「メッセージフリー」の順で行います。
iモードメニューから「iモード問い合わせ」を選んだり、待受画面表示中に[MAIL]を1秒以上押しても、iモード問い合わせができます。
問い合わせ中は「 」「R」「F」が点滅して「問い合わせ中…」と表示され、iモードメールやメッセージリクエスト／フリーを受信します。
新しく受信したiモードメールとメッセージリクエスト／フリーの件数が表示されます。

問い合わせを中止する場合

問い合わせ中にCLRを1秒以上押す
問い合わせを中止したときでも、中止したタイミングによりiモードメールやメッセージリクエスト／フリーを受信することがあります。

---

iモードメールのアイコン表示について

「 」のアイコンが表示されたときは、iモードセンターにiモードメールが保管されています。iモードセンターに保管されているiモードメールがいっぱいになると「 」のアイコンの表示になります。

おしらせ

- 「 」「 」「R」「F」などのアイコンが表示されたときは、FOMA端末はこれ以上iモードメールやメッセージリクエスト／フリーを受信できません。これらのアイコンが表示されなくなるまで、不要なメールやメッセージリクエスト／フリーを削除するか、未読のメールやメッセージリクエスト／フリーを読むか、保護を解除(P.211)してください。読んだり、保護を解除したメールやメッセージリクエスト／フリーは、受信時に古いものから順に上書きされます。
- iモードセンターに保管されるiモードメールの件数は最大207〜1,000件までとなります。保管件数はiモードメールのデータ量により異なります。保管期間は720時間です。720時間を超えた場合、自動的に削除されます。
- iモードセンターにiモードメールが保管されている場合でも、FOMA端末の電源が入っていないときや「圏外」が表示されているときにセンターに届いた場合などは、「 」のアイコンが表示されないことがあります。
- iモード問い合わせ中にセンターでお預かりしたiモードメールやメッセージリクエスト／フリーは、件数に反映されないことがあります。

受信したiモードメールを見ます

FOMA端末が圏内にあるときは、iモードセンターから自動的にiモードメールが送られてきます。受信したメールは受信BOX内に保存されます。

●iモードセンターからFOMA端末にiモードメールが届くと画面の上部に「 」が表示されます。

1 [MAIL]▶「受信BOX」▶「受信BOX」の順に選ぶ

「MAIL」は待受画面中に表示されます。
追加したフォルダがある場合は、受信BOXフォルダ一覧画面でフォルダを選びます。
受信メール一覧画面が表示されます。

2 表示したいメールを選ぶ

前後のメールを表示する場合

メール詳細画面で を押す

CLRを押すと、受信メール一覧画面に戻ります。

待受画面でメールを受信した場合

iモードメールを受信すると待受画面に「メール」が表示され、これを選ぶと「新着メールあり」と表示されます。
受信BOX画面を表示しているときに受信した場合など、表示されないこともあります。
このアイコンから受信メール一覧画面を表示させることができます。

FOMA端末を閉じているときに受信した場合

iモードメールを受信すると、イルミネーション・ウィンドウにメールを受信したことを通知するメッセージが表示されます。

メールが届いています

おしらせ

- 受信メール一覧画面で機能メニューから「メール情報」を選ぶと、メールを開く前に送信元と題名、iモードセンターに届いた日付・時刻を確認できます。
- iモードメールの送信元や同報者のメールアドレスをデスクトップアイコンとして待受画面に貼り付けることができます。貼り付けたアイコンから、そのメールアドレスを宛先とする新規iモードメールを作成することができます。
  ただし、「Fm」「To」「Cc」のついたメールアドレスは、デスクトップアイコンとして貼り付けることができません、また同報メールの場合でも、1回の操作で貼り付けられるメールアドレスは1件だけです。

メール連動型iアプリについて

- メール連動型iアプリを利用して送信したiモードメールは、そのメール連動型iアプリ専用フォルダに振り分けられます。
- 送信元がメール連動型iアプリを利用して送信してきたiモードメールは、受信側にそのメール連動型iアプリ専用フォルダがある場合、そのフォルダに振り分けられます。
  専用フォルダがない場合、「自動振分け設定」を設定しているときはその設定に従ってフォルダに振り分けられ、設定されていないときは受信BOXに振り分けられます。
- メール連動型iアプリ専用フォルダを選ぶとソフトが起動します。
- ソフトを起動させずにフォルダ内のメール一覧画面を表示するには、そのフォルダを反転表示して機能メニューから「フォルダ内表示」を選びます。

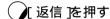
受信したiモードメールに返信します

iモードメールの送信元に返信できます。返信には、新たに本文を入力する方法、メールを参照しながら本文を入力する方法、受信したiモードメールの本文を引用する方法があります。

●「ダイヤル発信制限」(『基本編』のP.205)を設定している場合、送信元、同報(To、Cc)の宛先がすべて電話帳に登録されているiモードメールにのみ返信できます。

●返信するiモードメールの題名には「Re:」が追加されます。題名の文字数が「Re:」と合わせて全角で15文字を超えたときは、超えた部分が削除されます。

新たに本文を入力して返信します

1 返信するメールの詳細画面を表示し、[返信]を押す

受信したiモードメールを見るには→P.181

複数の宛先があるメールの送信元へ返信する場合

返信画面で「送信元へ」を選ぶ

同報の宛先のすべてに返信したい場合は、「すべてへ」を選びます。送信元が返信不可の場合、ほかの同報の宛先を含めすべての宛先が削除されたメール返信画面が表示されます。

同報の宛先に返信不可の宛先が含まれている場合、返信不可の宛先が削除されたメール返信画面が表示されます。

2 題名、本文を編集して送信する

これ以降の詳しい操作手順については、P.153の操作4～6を参照してください。

送信が終了すると、受信メール詳細画面が表示され、「」が「」に変わります。

おしらせ

●題名に「Re:」(すべて半角文字)がついたiモードメールに返信する場合、返信するiモードメールの題名に「Re:」の代わりに「Re2:」が追加されます。以降、「Re2:」がついているときは「Re3:」、「Re3:」がついているときは「Re4:」というように、「Re99:」まで追加されます。「Re:」に全角文字が含まれていたり、「RE:」(「E」が大文字)となっている場合は、題名の先頭に新たに「Re:」が追加されます。

●題名や本文に半角カタカナや絵文字が使われていると、受信側で正しく表示されないことがありますので、iモード端末どうしでのメールのやりとり以外には使わないでください。

●返信するiモードメールにファイルやiアプリの起動情報(iアプリTo)、iモーションの取得情報が添付または貼り付けられているときは、ファイルや情報が削除されます。

受信メールを参照して返信します

1 返信するメールの詳細画面を表示し、機能メニューから「参照返信」を選ぶ

受信したiモードメールを見るには→P.181
参照返信メールでは、画面上に本文入力画面、画面下に受信メール本文画面（参照画面）が表示されます。

参照／本文入力画面を切り替える場合
ニューロポインターを使って画面を切り替えます。
「ニューロポインター設定」（『基本編』のP.249）の「ポインター表示」が「OFF」に設定されている場合は、機能メニューから「ウィンドウ切替」を選ぶか、を1秒以上押して切り替えることができます。

参照画面から本文、題名、アドレスをコピーする場合
参照画面で機能メニューから「コピー」を選んで「本文」、「題名」、「アドレス」を選ぶ
コピー方法について→『基本編』のP.317

複数の宛先があるメールの送信元へ返信する場合
参照返信画面で「送信元へ」を選ぶ
同報の宛先のすべてに返信したい場合は、「すべてへ」を選びます。
送信元が返信不可の場合、ほかの同報の宛先を含めすべての宛先が削除されたメール返信画面が表示されます。
同報の宛先に返信不可の宛先が含まれている場合、返信不可の宛先が削除されたメール返信画面が表示されます。

2 本文を編集して送信します

題名を編集する場合
送信プレビュー画面を表示した後、●［確定］を押してメール返信画面に戻り、「Subject」を選んで題名を入力し直す

送信プレビュー画面を表示した後、●［確定］を押してメール返信画面に戻ってから再度本文入力画面を表示したときは、参照画面は表示されません。
これ以降の詳しい操作手順については、P.153の操作5〜6を参照してください。
送信が終了すると、受信メール詳細画面が表示され、「」が「」に変わります。

本文を引用して返信します

受信したiモードメールの本文を引用して返信できます。

- 受信したデコメールを引用返信した場合は、装飾された本文や挿入された画像は引用された状態で本文が表示されます。
- 引用したiモードメールの添付ファイルは削除されます。

1 返信するメールの詳細画面を表示し、機能メニューから「引用返信」を選ぶ

複数の宛先のあるメールの送信元へ引用返信する場合
引用返信画面で「送信元へ」を選ぶ
同報の宛先のすべてに返信したい場合は、「すべてへ」を選びます。

返信メールの本文に受信したメールの本文が引用されて表示されます。
引用符（お買い上げのときは「>」）は、引用返信するメールの本文の先頭にひとつだけつきます。本文の行頭のすべてには付きません。
引用符を編集するには→P.222

2 題名、本文を編集して送信する

これ以降の詳しい操作手順についてはP.153の操作4〜6を参照してください。
送信が終了すると、受信メール詳細画面が表示され、「」が「」に変わります。

受信したiモードメールを転送します

受信したiモードメールをほかの人に転送できます。

●転送するiモードメールの題名には「Fw:」が追加されます。題名の文字数が「Fw:」と合わせて全角文字で15文字を超えたときは、超えた部分が削除されます。
●受信したデコメールを転送した場合は、装飾された本文や挿入された画像は引用された状態で本文が表示されます。

1 転送するメールの詳細画面を表示し、機能メニューから「転送」を選ぶ

受信したiモードメールを見るには→P.181

2 宛先を入力して◉[確定]を押す

電話帳やアドレス一覧、メールメンバーを使って宛先を入力する場合

メール転送画面で機能メニューから「宛先参照入力」を選ぶ
宛先の詳しい入力操作について→P.152、P.157
題名、本文を編集できます。受信したメールの本文、追加した文、冒頭文、署名、添付されているメロディや画像を合わせて全角で5,000文字分、半角で10,000文字分まで転送できます。

3 ◐[確認]を押して送信プレビュー画面で内容を確認し、[送信]を押す

送信が終了すると、受信メール詳細画面が表示され、「」が「」に変わります。

おしらせ

● 題名に「Fw:」(すべて半角文字)がついたiモードメールを転送する場合、転送するiモードメールの題名に「Fw:」の代わりに「Fw2:」が追加されます。以降「Fw2:」がついているときは「Fw3:」、「Fw3:」がついているときは「Fw4:」、「Fw99:」まで追加されます。「Fw:」に全角文字が含まれていたり、「FW:」(「W」が大文字)となっている場合は、題名の先頭に新たに「Fw:」が追加されます。
● 題名や本文に半角カタカナや絵文字が使われていると、受信側で正しく表示されないことがありますので、iモード端末どうしでのメールのやりとり以外には使わないでください。
● 転送するiモードメールに、iアプリの起動情報(iアプリTo)、iモーション取得情報、メールへの添付やFOMA端末外への出力が禁止されているファイルが添付または貼り付けられているときは、それらのファイルや情報は削除されます。
● 転送するiモードメールにiモーションが添付されているときは、本文に入力できる文字数がテキストメールの場合は全角で4,900文字(9,800バイト)分、デコメールの場合は全角で4,800文字(9,600バイト)分になります。すでにそれを超える文字が本文に入力されているときは、文字数がオーバーしていることを通知するメッセージが表示されます。「OK」を選び、本文入力画面で残文字数が「0」になるまで、本文を削除してください。

メール選択受信

iモードメールを選択して受信します

iモードセンターに保管されているメールのタイトルなどを確認し、受信するメールを選択したり、受信前にiモードセンターでメールを削除できます。

●本機能を利用するには、あらかじめ「メール選択受信設定」(P.224)を「ON」に設定しておく必要があります。

1 ◐［✉MAIL］▶「メール選択受信」の順に選ぶ

「メール選択受信設定」が「OFF」に設定されている場合

メール選択受信を設定するかどうかのメッセージが表示され、「メール選択受信設定へ」を選ぶと「メール選択受信」を設定できます。選択受信を「ON」に設定すると、操作2に進みます。

本機能を利用してメール選択受信画面を表示した場合、メールを受信、削除しなくても「 」のアイコンは消灯します。

2 メールごとに項目を選んで設定する

受信 ：選択したメールを受信します。

削除 ：選択したメールを削除します。

保留 ：選択したメールはそのままiモードセンターに保管されます。「iモード問い合わせ」(P.180)などで受信してください。

メールをすべて削除する場合

ページの一番下にある「削除」を選んで「決定」を選ぶ

ページが複数ある場合

「前ページ」または「次ページ」を選んでページを前後に移動して選択受信する

2ページ目を表示した場合、1ページ目の選択内容はそのまま有効となります。

「サイズ：XXXバイト」の後に表示されているアイコンの意味は次のとおりです。

：画像ファイルが添付されています。

♪ ：メロディファイルが添付されています。

：iモーションが添付されています。

3 「受信／削除」を選んで「決定」を選ぶ

完了画面が表示され、メールの受信が始まります。

選択受信を中止する場合

「キャンセル」を選ぶ

ページが複数ある場合、ページの途中で「受信／削除」を選ぶと、選んだページまで選択受信(保留、受信、削除)を行い、それ以降のページのメールについては、iモードセンターにすべて保管されます。

iモードメールに添付された情報を利用します

iモードメールに添付または貼り付けられているファイルや、送信元のメールアドレスなどを、FOMA端末に保存できます。

添付された画像を表示／保存します

受信したiモードメールに添付された画像を保存できます。

1 受信メール一覧画面で「」または「」のついたメールを選ぶ

添付された画像が表示されます。
複数の画像が添付されている場合は、すべて表示されます。
デコメールの場合、本文内に挿入されている画像はすべて表示されますが、添付された画像は表示されません。表示する画像のファイル名を選ぶと画像が表示されます。

画像表示をファイル名表示に切り替える場合

ファイル名を表示する画像を選択する
画像表示に戻るには、ファイル名を表示する画像を選択します。

2 保存する画像を反転表示して、機能メニューから「データ保存」を選び、「YES」を選んで保存するフォルダを選ぶ

保存した画像は続いて表示される画面で待受画像などに設定することもできます。

おしらせ

- 保存した画像のファイル名が半角英数字のみの場合、そのファイル名で保存されます（ただし、半角で36文字まで）。ファイル名に「.」が含まれている場合は、「.」以降の文字が削除されて保存されます。ファイル名に半角英数字以外の文字が含まれている場合は、「imagexxx」（xxx：3桁の番号）のファイル名で保存されます。ファイル名の末尾3桁の番号は同一ファイル名を区別するためのシリアル番号としてつけられます。
- iモードメールに添付された画像は、正しく表示できない場合があります。また、画像のサイズによっては、縦横同率で縮小表示される場合があります。
- 別のFOMAカードに差し替えたり、FOMAカードを抜いたままFOMA端末の電源を入れた場合は、添付または貼り付けられているファイルの表示や再生ができません。

本文に挿入された画像を保存します

デコメールの本文に挿入された画像を保存できます。

1 受信メール一覧画面でメールを選び、機能メニューから「挿入画像保存」を選ぶ

送信メール詳細画面の機能メニューから「挿入画像保存」を選んでも、挿入された画像を保存できます。

2 保存する画像を選び、「YES」を選んで保存するフォルダを選ぶ

保存した画像は続いて表示される画面で待受画像などに設定することもできます。

添付または貼り付けられたメロディを再生／保存します

お買い上げ時	自動再生する

受信したiモードメールに添付または貼り付けられたメロディをFOMA端末に保存できます。

- 通話中はメロディの再生ができません。
- 送信元がFOMA N900i以外の場合、送られてきたメロディが正しく再生できない場合があります。

■保存件数やメモリに空きがある場合

1 受信メール一覧画面で「♫」または「♫」のついたメールを選ぶ

複数のメロディが添付されている場合は、すべて再生されます。
再生したいメロディを選ぶと、そのメロディのみを再生します。

メロディを止める場合

☎、📖、0～9、＊、＃のいずれかのボタンを押す

メールを開いたときにメロディを自動再生させたくない場合

「開封時メロディ再生設定」(P.225)を「自動再生しない」に設定する

2 保存するメロディを反転表示して、機能メニューから「データ保存」を選び、「YES」を選んで保存するフォルダを選ぶ

保存したメロディは続いて表示される画面で着信音に設定することもできます。

おしらせ

- 保存したメロディは一覧の一番目に表示されます。
- 保存したメロディのファイル名が半角英数字のみの場合、そのファイル名で保存されます（ただし、半角で36文字まで）。ファイル名に「.」が含まれている場合は、「.」以降の文字が削除されて保存されます。ファイル名に半角英数字以外の文字が含まれている場合は、「melodyxxx」（xxx：3桁の番号）のファイル名で保存されます。ファイル名の末尾3桁の番号は同一ファイル名を区別するためのシリアル番号としてつけられます。
- 「貼付メロディ設定」（P.225）が「無効」に設定されていると、iモードメールの本文に貼り付けられたメロディは文字列で表示され、再生／保存することはできません。
- メール本文中に貼り付けられているメロディが複数ある場合や、iアプリToと一緒に貼り付けられているときには、「 」が表示され、両方のデータが無効となります。「貼付メロディ設定」や「iアプリTo設定」を無効にしても、データは文字として表示されません。

■保存されている画像／メロディがいっぱいのとき

すでに画像やメロディが最大保存件数まで保存されているときや、メモリの空きが不足しているときは、不要になった画像やメロディを削除してから保存します。

1 保存時に表示される削除するかどうかのメッセージで「YES」を選び、削除する画像またはメロディのあるフォルダを選ぶ

2 削除する画像またはメロディを選ぶ

画像の場合

選択した画像またはメロディがチェックされます。
画面左下に「完了」と表示されるまで画像またはメロディを選択してください。
チェックされた画像またはメロディをもう一度選ぶと、選択を解除します。

3 [完了]を押し、「YES」を選んで保存するフォルダを選ぶ

保存したことを通知するメッセージが表示されます。

おしらせ

- 「画面表示設定」(『基本編』のP.177)などに設定されている画像(「★」のついている画像)や、着信音などに設定されているメロディ(「★」のついているメロディ)を削除しようとすると、設定中の画像またはメロディを削除するかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと削除されます。
- 「画面表示設定」などに設定されている画像や、着信音などに設定されているメロディを削除すると、設定していた項目はお買い上げのときの設定に戻ります。

動画／iモーションを保存します 〈iモーション保存〉

iモーションメールとして送られてきた動画やiモーションのファイルは、受信してもFOMA端末に取り込まれていないため、iモーションメールセンターから取り込んでから保存します。iモーションメールで取り込んだ動画やiモーションは、受信メールの一部として保存されます。

- 保存した動画やiモーションは、「ムービープレーヤー」(P.308)で再生できます。
- iモーションメールに添付されている動画やiモーションは、受信者のみiモーションメールセンターから取り込むことができます。

＜例：iモーションを保存する場合＞

1 受信メール一覧画面で「」のアイコンがついたメールを選ぶ

iモーションの取得先のURLを表示する場合

メール詳細画面で機能メニューから「貼付URL表示」を選ぶ

2 取り込むiモーションを選ぶ

iモーションが取り込まれます。
データの取得が完了すると、データ取得完了画面が表示され、受信メール詳細画面の「」が「」に変わります。

iモーションの取り込みを途中で中止する場合

CLRを1秒以上押す
iモーションによっては、データの取り込み中に自動的に再生が始まります。再生が終わるとデータ取得完了画面が表示されます。

3 機能メニューから「データ保存」を選び「YES」を選んで保存するフォルダを選ぶ

iモーションを保存したことを通知するメッセージが表示されます。保存されているiモーションがいっぱいのときは、メッセージに従って不要になったiモーションを削除します。→P.98

おしらせ

- iモーションメールで取り込んだ動画やiモーションは、受信メールの一部として保存されます。その際、FOMA端末に保存されている受信メールが最大保存件数を超えた場合は、取り込む際にゴミ箱のメール、古い受信メールから自動的に削除されます。ただし、未読のメールと保護されている受信メールは削除されません。必要な受信メールは保護することをおすすめします。→P.211
- iモーションメールに添付されている動画やiモーションをパソコンなどで再生する場合は、対応のソフトが必要となります。詳しくはドコモのホームページをご覧ください。
- 「貼付iモーション設定」(P.226)が「無効」に設定されている場合は、メールの本文中には取得前のiモーションは表示されません。
- 「iモーション自動再生設定」(P.227)が「自動再生する」に設定されている場合、iモーションが自動再生されます。「自動再生しない」に設定されている場合、再生画面は表示されずデータ取得完了の確認画面が表示されます。
- iモーションによっては、データを取り込みながら再生ができないものもあります。
- データを取り込みながら再生できるiモーションの場合、電波状況等によりデータを取り込むことができなくなったときでも、取り込んだところまでは再生されます。なお、データ取得完了画面は表示されず、再度データを取り込むことになります。
- メール本文中に貼り付けられている動画が複数ある場合や、iアプリToと一緒に貼り付けられているときには、「 」が表示され、両方のデータが無効となります。「貼付iモーション設定」や「iアプリTo設定」を無効にしても、データは文字として表示されません。

送信元のアドレスや電話番号を登録します 〈アドレス登録〉

受信したメールの送信元のメールアドレスや電話番号を電話帳に登録できます。

<例：送信元のメールアドレスを電話帳に登録する場合>

1 受信メール一覧画面でメールを選び、機能メニューから「アドレス登録」を選ぶ

登録候補として複数のメールアドレスが存在する場合

メールアドレスを選ぶ画面で登録したいメールアドレスを選ぶ

送信したメールの宛先のメールアドレスや電話番号を電話帳に登録する場合

送信メール詳細画面の機能メニューから「アドレス登録」を選ぶ

複数の宛先に送信したiモードメールの場合は、表示されるメールアドレスのリストから登録するメールアドレスを選びます。

2 「YES」を選んで「本体」−「新規登録」を選ぶ

電話帳新規登録画面に、入力された項目の内容が表示されます。必要な項目を入力して電話帳に登録します。

電話帳の登録について→『基本編』のP.108

FOMAカードの電話帳に登録する場合

登録先に「FOMAカード」を選ぶ

FOMAカードの電話帳に登録するときは、登録方法の「追加登録」の代わりに「上書き登録」と表示されます。

おしらせ

- 「指定発信制限」や「ダイヤル発信制限」(『基本編』のP.141、P.205)を設定しているときは、電話帳登録はできません。
- 「Fm」「To」「Cc」のアイコンのついたメールアドレスや電話番号は登録できません。

SMSを作成／送信します

SMSを作成して送信します

ここでは、電話帳を参照して宛先を入力する方法で説明します。

●SMSの宛先には電話番号を入力します。

1 [MAIL]▶「SMS作成」の順に選ぶ

メール
1受信BOX
2送信BOX
3保存BOX
4iモードメール作成
5SMS作成
6iモード問い合わせ
7メール選択受信
8SMS問い合わせ
9メール設定
選択

「MAIL」は待受画面中に表示されます。

2 機能メニューから「宛先参照入力」ー「電話帳」を選んで電話帳を検索する

電話帳の検索について→『基本編』のP.116

SMSの宛先は1件のみ入力できます。

宛先を直接入力する場合

新規SMS画面で宛先入力欄を選んで宛先を直接入力する

アドレス一覧から入力するには→P.157

入力した宛先を変更する場合

新規SMS画面で宛先を選んで電話番号を入力し直す

新規SMS画面で機能メニューから「宛先参照入力」を選んで宛先を変更（上書き）することもできます。

次の場合は、入力した宛先にSMSを送信することはできません。

・宛先に数字、「*」、「＃」以外の文字が含まれているとき

・宛先にスペースが含まれているとき

宛先の先頭に「184」／「186」／「＃31＃」／「*31＃」を入力して送信しようとしたときは、発番号設定を削除して送信することを確認するメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと、「184」／「186」／「＃31＃」／「*31＃」を削除してSMSを送信します。

3 「」を選び、本文を入力して◉[確定]を押す

本文編集画面では、全角で80文字分まで入力できますが、送信できるのは全角で70文字、半角の英数字や記号(｡｢｣{}[]|､･-ﾞﾟ^`~を除く)のみでは160文字までです。
送信可能な文字数を超えた場合は文字数オーバーのため文末が削除されることを確認するメッセージが表示され、「YES」を選ぶと超えた部分を削除して送信します。
スペースも文字と同じように文字数にカウントされます。
機能メニューから「本文消去」を選ぶと本文のみを消去できます。「SMS削除」を選ぶと編集中のSMSを削除できます。

4 新規SMS画面で◐[送信]を押す

メール送信中のアニメーション画面が表示され、SMSが送信されます。「OK」を押すとメールメニュー画面に戻ります。

未完成のSMSを一時保存する場合

SMS作成中に機能メニューから「保存」を選ぶ
作成中のSMSが保存BOXに保存されます。iモードメールと合わせて10件まで保存できます。保存したSMSはあとで再編集して送信できます。

送信前にSMSの内容を確かめる場合<送信プレビュー>

SMS作成中に機能メニューから「送信プレビュー」を選ぶ
SMSの宛先、本文を確認できます。
送信済み、未送信のSMSを再編集するには→P.155
本文などをコピーするには→P.155
送信を行わずにCLR、PWR/HLDを押したときは、内容を破棄して編集を終了することを確認するメッセージが表示されます。

SMS report(送達通知)について〈SMS report表示〉

「SMS report設定」(P.228)を「要求する」に設定した場合、SMS送信後にSMS reportが送られてきます。SMS reportは受信BOXに保存されますが、送信したSMSにもSMS reportが保存され、送信したSMSが相手に届いたかどうかを確認できます。
SMS report()があるSMSを表示し、機能メニューから「SMS report表示」を選びます。
SMS reportは、受信メール一覧画面でSMS reportを選んでも表示できます。SMS reportは題名に「SMS report」と表示されます。

SMSの作成／送信

おしらせ

- FOMA端末に保存されている送信メール（SMSとiモードメールの合計）が最大保存件数（P.21）を超えた場合は、送信メールのうち古いメールから順に自動的に削除されます。ただし、保護されている送信メールは削除されません。必要な送信メールは保護することをおすすめします。→P.211
- 「ダイヤル発信制限」（『基本編』のP.205）を設定している場合の宛先入力は、電話帳、送信アドレス一覧、発信履歴、リダイヤルを使った場合のみ行えます。
- 「指定発信制限」（『基本編』のP.141）を設定しているときは、「指定発信制限」に指定されていない電話番号を電話帳参照で呼び出すことはできません。
- 電波状況により、相手の方に文字が正しく表示されない場合があります。
- SMSの再編集を行った場合、「SMS report設定」および「SMS有効期間設定」は送信した時の設定で送信されます。
- 送信後、SMSが相手に届いたかどうかを通知するSMS reportが届くように「SMS report設定」（P.228）で設定できます。「SMS report設定」はSMS作成中に機能メニューから「SMS report設定」を選んでも設定できます。機能メニューで変更した「SMS report設定」および「SMS有効期間設定」の設定は、保存BOX内でも保持されます。
- 発信者番号通知を「通知しない」に設定しても、SMS送信時は受信側に発信者番号が通知されます。

SMSを自動的に受信します

FOMA端末が圏内にあるときは、SMSセンターから自動的にSMSが送られてきます。

●受信したSMSは、FOMA端末にiモードメールと合わせて最大で1,000件まで保存できます。受信メールの保存可能件数は、メールのデータ量により21〜1,000件と変動します。また、SMSはFOMAカードに20件まで保存することもできます。
●メールを受信したときの着信音を「着信音選択」(『基本編』のP.163)でお好みの音に設定したり、メールを受信したときの点滅パターンを「着信イルミネーション」(『基本編』のP.185)で変更したりできます。
●movaサービスのiモード端末から送信されたショートメールは、FOMA端末ではSMSとして受信します。
●FOMA端末の操作中にSMSを受信したときは、お買い上げのときの設定では受信中画面は表示されず、そのまま操作を続けることができます。着信音、LED点灯、バイブレータ、バックライトの点滅は行なわず、「✉」のアイコン表示(FOMA端末を閉じている場合はイルミネーション・ウインドウのアイコン点滅とバックライト点灯)によって、メールを受信したことが通知されます。
●FOMA端末の操作中にSMSを受信したときに、着信音が鳴り、受信中画面が表示するように設定することもできます。→P.224

1 SMSを受信すると、「✉」のアイコンが点滅し「メール受信中…」と表示される

➡

受信が終わると、受信結果画面に受信したSMS、iモードメールやメッセージリクエスト／フリーの件数が表示されます。
「メール」を選ぶと、受信メール一覧画面が表示されます。
何も操作しないで約15秒経過すると元の画面に戻ります。受信結果画面が表示される時間は「メール／メッセージ鳴動」(P.233)の設定によって変わります。
着信音の音量は「着信音量」(『基本編』のP.79)の「メール／メッセージ」で設定した音量になります。

おしらせ

- FOMA端末に保存されている受信メール(iモードメールとSMSの合計)が最大保存件数(P.21)を超えた場合は、受信時にゴミ箱のメール、古い受信メールから順に自動的に上書きされます。ただし、未読のメールと保護されている受信メールは上書きされません。必要な受信メールは保護することをおすすめします。→P.211
- 表示中(受信メールの一覧画面または詳細画面)の受信メールは上書きされません(表示中にタスク切り替えを行った場合も含む)。受信メールの一覧画面または詳細画面を表示中にメールを受信したときは、表示中のメール以外のゴミ箱のメール、古いメール(未読と保護を除く)から順に上書きされます。
- FOMAカード内のSMSは上書きされません。
- SMSを受信したときの着信音とイルミネーションの設定の優先順は次のとおりです(①が最も優先度が高くなります)。
  ① 電話番号ごとに指定した「電話帳便利機能」→『基本編』のP.120
  ② グループごとに指定した「グループ便利機能」
  ③「着信音選択」、「着信イルミネーション」→『基本編』のP.163、P.185
- 複数のSMSを同時に受信したときは、最後に受信したメールに設定されている条件で、着信音が鳴り、イルミネーションが点滅します。
- movaサービスのiモード端末からショートメールを受信した場合は、送信元の電話番号が表示されます。ただし、発信者番号が通知されないときは、通知されない理由(『基本編』のP.68)が表示されます。

SMS問い合わせ

センターに保管されているSMSを受信します

- SMSセンターに届いたSMSは自動的にFOMA端末へ送信されますが、FOMA端末の電源が入っていないとき、「圏外」が表示されているとき、メモリがいっぱいのときなどで受信できないときはSMSセンターに保管されます。「SMS問い合わせ」を行って受信します。
- 「圏外」が表示されているときは問い合わせできません。

1 [MAIL]▶「SMS問い合わせ」の順に選ぶ

➡

「MAIL」は待受画面表示中に表示されます。
問い合わせ中は、「問い合わせ中…」と表示されます。問い合わせが終わると問い合わせを行ったというメッセージが表示されるので、●[選択]を押します。
問い合わせを行った後、自動受信がすぐに始まらない場合があります。

問い合わせを中止する場合

CLRを1秒以上押す
問い合わせを中止したときでも、中止したタイミングによりSMSを受信することがあります。

おしらせ

- 「」「」などのアイコンが表示されたときは、FOMA端末はこれ以上iモードメールやSMSを受信できません。これらのアイコンが表示されなくなるまで、不要なメールを削除するか、未読のメールを読むか、保護を解除（P.211）してください。読んだり、保護を解除したメールは、受信時に古いものから順に上書きされます。
- SMS問い合わせ中にセンターでお預かりしたSMSは、件数に反映されないことがあります。

受信したSMSを見ます

FOMA端末が圏内にあるときは、SMSセンターから自動的にSMSが送られてきます。SMSセンターからFOMA端末にSMSが届くと画面の上部に「」のアイコンが表示されます。

●受信したSMSは、受信メール一覧画面の題名には本文の先頭が表示されます。
●受信したSMS report（送達通知）の題名は「SMS report」と表示されます。

1 [MAIL]▶「受信BOX」▶「受信BOX」の順に選ぶ

「MAIL」は待受画面表示中に表示されます。
追加したフォルダがある場合は、受信BOXフォルダ一覧画面でフォルダを選びます。
受信メール一覧画面が表示されます。

2 表示したいメールを選ぶ

前後のメールを表示する場合
メール詳細画面でを押す
受信したSMSに表示できない文字が含まれている場合、その文字はスペースで表示されます。
CLRを押すと、受信メール一覧画面に戻ります。

待受画面でメールを受信した場合

SMSやSMS reportを受信すると待受画面に「メール」が表示され、これを選ぶと「新着メールあり」と表示されます。ただし、受信BOX画面を表示しているときに受信した場合など、表示されないこともあります。このアイコンを選ぶと受信メール一覧画面が表示されます。
FOMA端末を閉じているときにSMSを受信すると、イルミネーション・ウインドウにメールを受信したことを示すメッセージが表示されます。→P.182

おしらせ

- 表示したSMSの本文で反転している情報から、電話をかけたり新規iモードメールを作成するなどの操作が行えます。
- 表示したSMSの送信元の電話番号は反転表示されます。反転した状態で◉[選択]を押すと、表示されている電話番号に音声電話やテレビ電話をかけられます(Phone To機能／AV Phone To機能)。また、送信元の電話番号が電話帳に登録されているときは、登録されている「名前」が反転表示されます。この場合も同じ操作で電話をかけられます。
- 「SMS report設定」(P.228)でSMS reportを要求するように設定した場合のみ、SMS reportが送られてきます。
- 受信メール一覧画面で機能メニューから「メール情報」を選ぶと、メールを開く前に送信元とSMSセンターに届いた日付・時刻を確認できます。
- SMSの送信元の電話番号をデスクトップアイコンとして待受画面に貼り付けられます。貼り付けたアイコンから、その電話番号を宛先とする新規SMSを作成できます。
  ただし、「Fm✕」のついた電話番号はデスクトップアイコンとして貼り付けられません。

受信したSMSに返信／転送します

SMSの送信元に返信／転送できます。

- 詳しい操作手順はiモードメールの返信(P.183)、転送(P.185)を参照してください(題名の入力はできません)。
- 「ダイヤル発信制限」(『基本編』のP.205)を設定しているときは、返信できません。ただし、「ダイヤル発信制限」を設定していても、送信元の電話番号が電話帳に登録されている場合は返信することができます。

<例：SMSに返信する場合>

1 返信するSMSの詳細画面を表示し、◐[返信]を押す

2 本文を編集して送信する

これ以降の詳しい操作手順については、P.193を参照してください。

おしらせ

- SMSでは引用返信、参照返信はできません。
- 送信元が非通知設定／公衆電話／通知不可能のSMSには返信できません。
- SMS reportは返信／転送することはできません。
- FOMAカード内のSMSを返信／転送した場合、受信メール一覧画面、受信メール詳細画面で「」／「」のアイコンは表示されず「」のアイコンの表示のままとなります。

受信したメールをフォルダで管理します

受信したiモードメールおよびSMSは、フォルダに分けて管理できます。

●新しいフォルダは23個まで追加できます。

●追加したフォルダに、受信したiモードメールやSMSが自動的に振り分けられるようにすることもできます。→P.203

●お買い上げのときにすでにある「受信BOX」、「ゴミ箱」フォルダは、削除やフォルダ名の変更はできません。

フォルダを追加します

1 **[MAIL]▶「受信BOX」の順に選んで、機能メニューから「フォルダ追加」を選ぶ**

2 **フォルダ名を入力して[確定]を押す**

フォルダ名は全角で10文字まで、半角で20文字まで入力できます。フォルダ名が1文字も入力されていないときは、フォルダを追加できません。

別のフォルダに移動します

＜例：受信メールを選択して移動する場合＞

1 **移動元のフォルダの受信メール一覧画面で機能メニューから「フォルダ移動」を選ぶ**

メールを１件移動する場合

受信メール詳細画面で移動するメールを表示し、機能メニューから「フォルダ移動」を選んで移動先のフォルダを選ぶ

2 移動先のフォルダを選ぶ

3 移動するメールを選ぶ

選択したメールがチェックされます。
チェックされたメールをもう一度選ぶと、選択を解除します。選択を全件解除する場合は、機能メニューから「全選択解除」を選びます。
機能メニューから「全選択」を選ぶと、フォルダ内のすべてのメールを選択できます。

4 [完了]を押して「YES」を選ぶ

おしらせ

- 移動するメールの選択中にメールを受信した場合、受信BOXがいっぱいのときは受信せずに「」が表示されます。メールの移動後、iモード問い合わせを行ってください。
- SMS reportとFOMAカード内のSMSは、別のフォルダに移動できません。

フォルダ名を変更する
フォルダ一覧画面でフォルダを反転表示し、機能メニューから「フォルダ名編集」を選んで新しいフォルダ名を入力します。
フォルダ名は全角で10文字まで、半角で20文字まで入力できます。
名前を変更できるのは追加したフォルダのみです。お買い上げのときにすでにある受信BOX／ゴミ箱／送信BOXおよびメール連動型iアプリのメールのフォルダの名前を変更することはできません。

フォルダを削除する
フォルダ一覧画面でフォルダを反転表示し、機能メニューから「フォルダ削除」を選んで端末暗証番号（P.21）を入力します。
・お買い上げのときにすでにある受信BOX／ゴミ箱／送信BOXおよびメール連動型iアプリのフォルダを削除することはできません。ただし、メール連動型iアプリがFOMA本体から削除され、メール連動型iアプリの送信／受信フォルダ両方に保護メールがない場合は、メール連動型iアプリのフォルダを削除できます。メール連動型iアプリを削除すると、メール連動型iアプリのフォルダを削除するかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと、受信BOX、送信BOXのメール連動型iアプリのフォルダが削除されます。
・フォルダ内にメールがあるフォルダを削除しようとした場合は、削除するかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと、フォルダ内のメールごと削除されます。フォルダ内のメールを削除しないで、フォルダだけを削除したいときは、フォルダを削除する前に、フォルダ内のメールを別のフォルダに移動してください。
・フォルダ内にメールがなく、かつ「自動振分け設定」（下記）が設定されているフォルダを削除しようとした場合は、自動振分け設定の設定を解除するかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと「自動振分け設定」の設定が解除されてフォルダが削除されます。
・フォルダ内に保護されているメールがある場合は、フォルダを削除できません。

フォルダにセキュリティをかける
フォルダごとにセキュリティをかけられます。セキュリティをかけたフォルダを開くには、端末暗証番号（P.21）を入力する必要があります。詳しくはP.219を参照してください。

自動振分け設定
送受信したメールを自動的に振り分けます

送受信iモードメールやSMSがどのフォルダに保存されるかを、送信元のメールアドレスや電話番号、題名、返信不可のメールなどによって自動的に振り分けられます。あらかじめフォルダごとに振り分ける条件を登録しておくと、登録された相手からメールを受信したときに、メールが自動的にフォルダに振り分けられて保存されます。また、すべてのメールを指定したiアプリのフォルダに振り分けることもできます。

●自動振分けをするメールアドレスや電話番号、電話帳のグループは、受信BOXと送信BOXの全フォルダ合わせて700件まで登録できます。1つのフォルダに複数のメールアドレスや電話番号、電話帳のグループを登録することもできます。題名はそれぞれのフォルダに1つのみ登録できます。
●受信したメールが複数の振り分け条件に該当する場合、自動振分け設定の優先順位は次のとおりです。①が最も優先度が高くなります。ただし、メール連動型iアプリのメールは自動振分け設定にかかわらず専用のフォルダに振り分けられます。
①全件振分け　②題名振分け　③返信不可振分け
④メールアドレス／電話番号　⑤電話帳グループ
●自動振分け設定を設定する前に受信したメールは、設定前に保存されているフォルダに残ります。

振り分けるメールアドレスを登録します

受信メールのフォルダに、自動振り分けをするメールアドレスや電話番号を登録します。電話帳や送受信アドレス一覧を参照して登録することもできます。

＜例：電話帳を参照して受信フォルダに登録する場合＞

1 振り分け条件を登録する受信メールのフォルダを反転表示し、機能メニューから「自動振分け設定」を選ぶ

2 機能メニューから「アドレス振分け」－「アドレス参照入力」－「電話帳」を選んで電話帳を検索する

電話帳の検索について→『基本編』のP.116

3 検索した電話帳の詳細画面で登録するメールアドレスを選ぶ

➡

選択したメールアドレスが自動振分け設定に登録されます。

登録済みのメールアドレスや電話番号を変更する場合

自動振分け設定画面で変更したいメールアドレスまたは電話番号を選ぶ

自動振分け設定画面の表示を切り替える場合

自動振分け設定画面の機能メニューから「一覧表示切替」－「名前表示」または「アドレス表示」を選ぶ

「名前表示」を選んだ場合、電話帳に名前が登録されている受信アドレスは、名前が表示されます。また、#を押して「名前表示」と「アドレス表示」を切り替えることもできます。
→P.150

おしらせ

- メールアドレスは、ドメイン名まで正しく登録してください。ドメイン名とは、メールアドレスの@(アットマーク)より後の文字です。
  (例)docomo.taro.△△@docomo.ne.jp
  ドメイン名まで正しく登録しないと本機能が利用できませんのでご注意ください。
- SMS report、FOMAカードに保存指定されているSMSは、自動振り分けできません。

振り分けるグループを登録します

電話帳に登録されているグループを自動振分け設定に登録できます。

1 **振り分けを条件登録する受信メールのフォルダを反転表示し、機能メニューから「自動振分け設定」-「アドレス振分け」-「グループ参照」を選ぶ**

2 **登録するグループを選ぶ**

選択したグループが自動振分け設定に登録され、グループ名に「GR」が表示されます。
グループ00は選べません。また、すでに登録済みのグループは登録できません。

振り分ける題名を登録します

受信メールのフォルダに、自動振り分けをする題名を登録します。登録した題名を含むメールを受信すると、登録したフォルダに自動的に振り分けられます。

1 **振り分け条件を登録する受信メールのフォルダを反転表示し、機能メニューから「自動振分け設定」-「題名振分け」を選ぶ**

2 登録する題名を入力して●［確定］を押す

入力した題名が自動振分け設定に登録されます。
文頭または文中にはスペースを入力できます。文末のスペースは削除されます。
同じ題名は複数のフォルダに設定できません。また、題名にスペースだけの入力はできません。

おしらせ

- 自動振分け設定に「無題」を登録した場合、題名に「無題」と入力されたメールは振り分けられますが、題名が未入力で「無題」と表示されるメールは振り分けられません。
- 受信したメールの題名が複数のフォルダの振り分け条件に登録している題名に含まれている場合、受信フォルダ一覧で表示されるフォルダ順にメールが振り分けられます。
- SMSは題名での振り分けを行ないません。

メール連動型iアプリのフォルダにすべてのメールを振り分けます

iアプリフォルダにすべてのメールを振り分けます。

- メールを送信または受信すると、「全件振分け」を設定したiアプリフォルダに送信メールまたは受信メールがすべて保存され、メール連動型iアプリを起動してメールを確認できます。

1 振り分け条件を登録するメールのフォルダを反転表示し、機能メニューから「自動振分け設定」－「全件振分け」を選ぶ

振り分けたメールはiアプリでの利用になることを確認するメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと「全件振分け」が登録されます。
iアプリフォルダがない場合は、「全件振分け」は登録できません。
「全件振分け」は、受信BOX、送信BOXでそれぞれ1つのiアプリフォルダにだけ設定できます。
「全件振分け」を登録しても、ほかのフォルダに設定した振り分け条件はそのまま残りますが、ほかのメール連動型iアプリのメール以外のすべてのメールは「全件振分け」を登録したフォルダに保存されます。

返信不可のメールを振り分けます

iモードメールまたはSMSの返信不可の「Fm」が表示されるメールが振り分けられます。

1 振り分け条件を登録する受信メールのフォルダを反転表示し、機能メニューから「自動振分け設定」－「返信不可振分け」を選ぶ

「返信不可振分け」は、受信BOX内の1つのフォルダにだけ設定できます。

メールの応用機能
自動振分け設定

登録したメールアドレスなどを解除します

「自動振分け設定」に登録されているメールアドレス、電話番号、題名などの振り分け条件を解除します。

<例：メールアドレスを１件解除する場合>

1 自動振分け設定画面で解除するメールアドレスを選び、機能メニューから「1件解除」を選んで「YES」を選ぶ

1件解除 ：振り分け条件を1件解除します。
選択解除：メールアドレスや電話番号、電話帳のグループの振り分け条件をチェックボックスで選んで解除します。
全解除 ：すべての振り分け条件を解除します。

ソート表示

メールの並び順を変更します

**指定した条件に従って、表示されるメールの順番を並べ替えられます。
メールで利用できるソート表示には次のものがあります。**

ソート表示方法	ソート機能により表示される順
新しい順	日付の新しい順に表示します。
古い順	日付の古い順に表示します。
アドレス順(昇順)	送信元や宛先のメールアドレスや電話番号の昇順に表示します。
アドレス順(降順)	送信元や宛先のメールアドレスや電話番号の降順に表示します。
題名順(昇順)	題名の昇順に表示します。
題名順(降順)	題名の降順に表示します。

●ソート表示でメールの表示方法を変更しても、その画面を終了し再度一覧画面を表示すると、元の一覧画面表示(新しい順の全表示)に戻ります。

<例:受信したメールを古い順に表示する場合>

1 受信メール一覧画面で機能メニューから「ソート」を選ぶ

2 設定したいソート表示方法を選ぶ

ソート表示を解除する場合

機能メニューから「全表示」を選ぶ
すべてのメールが新しい順に表示されます。

おしらせ

●iモードメールとSMSは共通の受信BOX、送信BOXに入っています。ソート表示で指定した表示の条件は、iモードメールとSMSの両方に適用されます。
●ソート表示とフィルタ機能を併用できます。例えば受信メール一覧で未読メールのみ古い順に表示させたいときは、ソートメニューの「古い順」を選んだ後、フィルタメニューの「未読のみ」を選びます。

メール検索

読みたいメールを検索します

受信したメールを検索して、読みたいメールだけを表示します。
メールを検索する方法は、メールの種類で検索する方法と、アドレスや題名で検索する方法の2種類があります。

メールの種別ごとに検索します　＜フィルタ機能＞

メールで利用できるフィルタ機能には次のものがあります。

フィルタ機能の種類	フィルタ機能により表示されるメール	利用できるBOX
未読のみ	未読のiモードメールやSMS	受信BOX
既読のみ	既読のiモードメールやSMS	受信BOX
保護のみ	保護されているiモードメールやSMS	受信BOX／送信BOX
メロディのみ	メロディが添付または貼り付けられているiモードメール	受信BOX／送信BOX
画像のみ	画像が添付されているiモードメール	受信BOX／送信BOX
iモーションのみ	動画やiモーションが添付されているiモードメール（動画やiモーションのデータを取得する前のiモーションメールを含む）	受信BOX／送信BOX
iアプリのみ	iアプリの起動情報（iアプリTo）が貼り付けられているiモードメール（メール連動型iアプリを利用して受信したメールは含まれない）	受信BOX
SMSのみ	SMS	受信BOX／送信BOX
送信失敗のみ	送信に失敗したiモードメールおよびSMS	送信BOX

●フィルタ機能とメールアドレスまたは題名でのメールの検索は、合わせて3回まで連続して検索できます。

＜例：未読のメールを表示する場合＞

1 受信メール一覧画面で機能メニューから「フィルタ」を選ぶ

2 設定したいフィルタ機能を選ぶ

フィルタ機能を解除する場合

機能メニューから「全表示」を選ぶ
すべてのメールが新しい順に表示されます。

メールの応用機能
メール検索

おしらせ

- iモードメールとSMSは共通の受信BOX、送信BOXに入っています。フィルタ機能で指定した表示の条件は、iモードメールとSMSの両方に適用されます。
- FOMAカードによって表示・再生が制限されていることを示す「」のアイコンが表示されているデータが添付されているメールは、「メロディのみ」「画像のみ」「iモーションのみ」でフィルタ機能を実行しても表示されません。
- フィルタ機能とソート表示を併用できます。例えば受信メール一覧で未読メールのみ古い順に表示させたいときは、フィルタメニューの「未読のみ」を選んだ後、ソートメニューの「古い順」を選びます。

メールのアドレスまたは題名で検索します

送信元のアドレスや題名で、読みたいメールを検索して表示できます。

1 受信メール一覧画面で機能メニューから「メール検索」を選ぶ

2 検索する方法を選ぶ

送信元のアドレスで検索する場合

「送信元検索」を選んでアドレスの検索方法を選ぶ

アドレスを直接入力して検索する場合は「直接入力」を選びます。

電話帳の検索について→『基本編』のP.116

アドレス一覧から入力するには→P.157

題名で検索する場合

「題名検索」を選んで検索する題名を入力する

題名の一部を入力しても検索できます。

題名の検索時に文頭または文中にはスペースを入力できます。文末のスペースは削除されます。

検索結果が一覧表示されます。

検索条件を満たす題名がないときは、データがないことを通知するメッセージが表示されます。

おしらせ

- 題名の検索時に「無題」を入力した場合、題名に「無題」と入力されたメールは検索されますが、題名が未入力で「無題」と表示されるメールは検索されません。
- SMS は題名で検索できません。

メールを保護します

大切なメールは削除や上書きされないように保護できます。

●受信メールは最大500件、送信メールは最大200件まで(いずれもiモードメールとSMSの合計)保護できます。保護できる最大件数は、メールのデータ量により変動します。

＜例：受信したiモードメールを保護(または保護解除)する場合＞

1 保護したいメールの詳細画面で機能メニューから「保護／保護解除」を選ぶ

保護されていないものは保護され(画面右上に「」／「」／「」が表示)、保護されているものは保護解除されます。

受信メール一覧画面、送信メール一覧画面、送信メール詳細画面で機能メニューから「保護／保護解除」を選んでも保護／保護解除ができます。

メール保護をすべて解除する場合

受信メール一覧画面または送信メール一覧画面で機能メニューから「保護全解除」を選んで「YES」を選ぶ

おしらせ

- FOMA端末に保存されている受信メール(iモードメールとSMSの合計)が最大保存件数(P.21)を超えた場合、メール受信時にゴミ箱のメールが優先的に削除されます。ゴミ箱にメールがない場合は、保護されていない既読の受信メールのうちから古い順に削除されます。
- FOMA端末に保存されている送信メール(iモードメールとSMSの合計)が最大保存件数(P.21)を超えた場合、保護されていない送信メールのうちから古い順に削除されます。

メールを削除します

FOMA端末で送受信したメールや未送信のメールを削除します。
メールの削除方法は次のとおりです。

削除の種類	説　明	利用できる画面
1件削除／削除	1件のiモードメールまたはSMSを削除します。	受信／送信／保存メール一覧画面
		受信／送信メールの詳細画面
選択削除	削除するiモードメールやSMSを一覧から選んで削除します。	受信／送信／保存メール一覧画面
既読削除	フォルダ内の、すでに読んだiモードメールやSMSをまとめて削除します。	受信メール一覧画面
ゴミ箱へ捨てる	iモードメールまたはSMSをゴミ箱へ捨てます。	受信メール一覧画面／受信メール詳細画面
SMS report全削除	受信BOX内のSMS reportをすべて削除します。	受信BOXフォルダ内の受信メール一覧画面
全削除	フォルダ内のiモードメールやSMSをすべて削除します。	受信メール／送信メール一覧画面
	保存BOX内のiモードメールやSMSをすべて削除します。	保存メール一覧画面
既読メール全削除	すべてのフォルダのすでに読んだiモードメールやSMSをまとめて削除します。	受信フォルダ一覧画面
受信メール全削除	受信BOXの全フォルダ内のiモードメールやSMSをすべて削除します。	受信フォルダ一覧画面
送信メール全削除	送信BOXの全フォルダ内のiモードメールやSMSをすべて削除します。	送信フォルダ一覧画面

メールを1件削除します

iモードメールまたはSMSを1件選んで削除します。
●保護されているメールは削除できません。

＜例：受信したiモードメールを1件削除する場合＞

1 受信メール一覧画面で削除するメールを反転表示し、機能メニューから「1件削除」を選んで「YES」を選ぶ

送信メール一覧画面、保存メール一覧画面で機能メニューから「1件削除」を選んで削除することもできます。

メール詳細画面から1件削除する場合
　機能メニューから「削除」を選ぶ

メールを選んで削除します

削除したいメールを選んで削除します。複数のiモードメールやSMSを選んで削除できます。

●保護されているメールを選ぶことができません。

<例：受信したiモードメールを選んで削除する場合>

1 受信メール一覧画面で機能メニューから「選択削除」を選ぶ

2 削除するメールを選ぶ

選択したメールがチェックされます。
チェックされたメールをもう一度選ぶと、選択を解除します。選択を全件解除する場合は、機能メニューから「全選択解除」を選びます。
機能メニューから「全選択」を選ぶと、フォルダ内のすべてのメールを選択できます。
送信メール一覧画面、保存メール一覧画面で機能メニューから「選択削除」を選んで削除することもできます。

3 [完了]を押して「YES」を選ぶ

おしらせ

●削除するメールの選択中にメールを受信した場合、受信BOXがいっぱいのときは受信せずに「」が表示されます。メールの削除後、iモード問い合わせを行ってください。

メールをゴミ箱に捨てる

削除したいメールをゴミ箱に捨てます。ゴミ箱に捨てたメールはすぐには削除されず、削除されるまではゴミ箱からフォルダに戻すことができます。
ゴミ箱に捨てられたメールは、受信BOXがいっぱいになった場合、優先的に削除されます。
受信メール一覧画面で機能メニューから「ゴミ箱へ捨てる」を選ぶと、「選択削除」と同じ方法でメールを選んでゴミ箱に捨てます。ゴミ箱に捨てるメールを選ぶと、メール受信時に優先的に自動削除されることを確認するメッセージが表示されます。「YES」を選ぶとメールがゴミ箱に捨てられます。

メールをまとめて削除します

フォルダ内のすでに読んだメールをすべて削除したり、フォルダ内のすべてのメールをまとめて削除できます。また、SMS reportだけをまとめて削除することもできます。

●フォルダ内のメールがすべて削除されても、フォルダは削除されません。フォルダを削除したいときはP.203を参照してください。
●保護されているメールは削除できません。

<例：受信BOXフォルダ内のSMSとiモードメールをすべて削除する場合>

1 受信メール一覧画面で機能メニューから「全削除」を選び、端末暗証番号を入力して「YES」を選ぶ

端末暗証番号について→P.21
保存メール一覧画面で機能メニューから「全削除」を選んで削除することもできます。

フォルダ内のすでに読んだメールを削除する場合
機能メニューから「既読削除」を選んで「YES」を選ぶ

受信BOXのSMS reportのみをすべて削除する場合
機能メニューから「SMS report全削除」を選んで端末暗証番号を入力し、「YES」を選ぶ

受信メールまたは送信メールをすべて削除する場合
受信フォルダ一覧画面または送信フォルダ一覧画面で機能メニューから「受信メール全削除」または「送信メール全削除」を選んで端末暗証番号を入力し、「YES」を選ぶ
すべてのフォルダの受信メールまたは送信メールが削除されます。

既読メールをすべて削除する場合
受信フォルダ一覧画面で機能メニューから「既読メール全削除」を選んで「YES」を選ぶ

フィルタ機能で指定したメールのみを表示しているときに「既読削除」や「全削除」を行うと、表示されているメールのみ削除されます。

SMSをFOMAカードに保存します

FOMA端末(本体)に保存されているSMSを、FOMAカードに移動したり、コピーして保存できます。また、FOMAカードに保存されているSMSを本体に移動またはコピーできます。

●FOMAカードには、受信SMSと送信SMSを合計20件まで保存することができます。

SMSをFOMAカードに移動またはコピーします

<例:受信フォルダ内のSMSをFOMAカードに移動する場合>

1 受信メール一覧画面でFOMAカードに移動するメールを反転表示し、機能メニューから「FOMAカード操作」を選ぶ

2 操作内容を選んで「YES」を選ぶ

FOMAカードへ移動 :FOMA端末(本体)のSMSをFOMAカードへ移動します。

FOMAカードへコピー:FOMA端末(本体)のSMSをFOMAカードへコピーします。

受信SMSをFOMAカードに移動またはコピーすると、移動またはコピーしたSMSは受信BOXフォルダ内に表示されます。

送信メール一覧画面、送信メール詳細画面、受信メール詳細画面で機能メニューから「FOMAカード操作」を選んでも移動またはコピーできます。

おしらせ

- 電池パックを外すと、FOMAカード内の送信SMSの日付・時刻が消去され、一覧の最後に表示されます。ただし、SMS reportが一緒に保存されている送信SMSの場合、日付・時刻は消去されません。
- 返信／転送したSMSをFOMAカードへ移動またはコピーすると、「 」や「 」のアイコンが「 」のアイコンに変わります。
- FOMAカードへ移動またはコピーしたSMSは保護できません。保護されているSMSをFOMAカードに移動またはコピーした場合、FOMAカード内のSMSは保護が解除されます。
- 送信したSMSのSMS reportがある場合、SMSと送信したSMSに含まれているSMS reportは一緒にFOMAカードに移動またはコピーされます。
- 受信BOX内のSMS reportはFOMAカードへ移動またはコピーできません。
- FOMAカード内にすでにSMSを20件保存しているときは、画面上部に「 」または「 」、「 」のアイコンが表示され、FOMAカードへの移動またはコピーはできません。
- アクセサリの「FOMAカード操作」（『基本編』のP.130）を利用してコピーすることもできます。

FOMAカード内のSMSをFOMA端末（本体）に移動またはコピーします

<例：FOMAカード内のSMSを受信フォルダに移動する場合>

1 受信メール一覧画面でFOMA端末（本体）に移動するメールを反転表示し、機能メニューから「FOMAカード操作」を選ぶ

2 操作内容を選んで「YES」を選ぶ

FOMAカードから移動　：FOMAカードのSMSをFOMA端末（本体）へ移動します。

FOMAカードからコピー：FOMAカードのSMSをFOMA端末（本体）へコピーします。

送信メール一覧画面、送信メール詳細画面、受信メール詳細画面で機能メニューから「FOMAカード操作」を選んでも移動またはコピーできます。

おしらせ

- 送信したSMSのSMS reportがある場合、SMSと送信したSMSに含まれているSMS reportは一緒にFOMA端末（本体）に移動またはコピーされます。
- FOMA端末（本体）の、受信メールや送信メールの最大保存件数（P.21）を超える場合、FOMA端末（本体）への移動またはコピーはできません。
- アクセサリの「FOMAカード操作」（『基本編』のP.130）を利用してコピーすることもできます。

便利な機能

Phone To ・Mail To・Web To 機能を使います

メール本文の電話番号やメールアドレス、URLやiアプリへのリンクを選ぶと、電話をかけたり、サイトに接続したり、ソフトを実行できます。
メール本文から選べる項目と行える内容は次のとおりです。

項目	内　容
電話番号	選択した電話番号へ電話またはテレビ電話をかける（Phone To、AV Phone To）
メールアドレス	選択したメールアドレスを宛先に新規メールを作成する（Mail To）
URL	選択したURLのサイトに接続する（Web To）
iアプリへのリンク	指定したソフトを起動する（iアプリTo）

＜例：メール本文の電話番号に音声電話をかける場合＞

1 本文に電話番号があるメールの詳細画面を表示し、表示されている電話番号を反転表示して、◉[選択]を押す

2 「音声発信」ー「発信」を選ぶ

選択した電話番号に電話をかけます。電話をかける操作については『基本編』のP.70をご覧ください。

テレビ電話をかける場合

「32KTV電話発信」または「64KTV電話発信」を選ぶ

おしらせ

●パソコンなどから送られたHTML形式のメールでは、Phone To、AV Phone To、Mail To、Web To機能が利用できない場合があります。

メール設定機能一覧

メール設定機能の画面および設定一覧を示します。

<待受画面>

メール設定　1／2

①スクロール設定……メール詳細画面のスクロール行数を設定します。→P.227
②文字サイズ設定……メール詳細画面で表示する文字のサイズを設定します。→P.226
③メール一覧表示設定……メール一覧画面を名前またはメールアドレスのいずれかと題名の2行で表示するか、名前、メールアドレス、題名のいずれかの1行で表示するかを設定します。→P.228
④本文表示設定……メールを先頭（受信日時表示）から表示するか本文から表示するかを設定します。→P.227
⑤セキュリティ設定……他人にメールを見られないようにメールBOXにセキュリティをかけます。→P.225
⑥開封時メロディ再生設定……受信メールを開いたときにメロディを自動再生するかどうかを設定します。→P.234
⑦添付ファイル設定……添付ファイルを受信するかどうかを設定します。→P.236
⑧メール選択受信設定……メール選択受信を行うかどうかを設定します。→P.230
⑨冒頭文／署名設定……冒頭文／署名を登録し、自動貼付を設定します。また、引用符を変更します。→P.228
⓪受信表示設定……メールを自動受信したとき、受信中画面と受信結果画面を表示するかどうかを設定します。→P.230

メール設定　2／2

①iモーション自動再生設定……取り込んだiモーションを自動的に再生するかどうかを設定します。→P.236
②スピードフォトメール表示設定……スピードフォトメールを受信した場合に、自動表示するかどうかを設定します。→P.240
③貼付メロディ設定……メール本文に貼り付けられたメロディの再生／保存を可とするかどうかを設定します。→P.234
④貼付iモーション設定……iモードメールの本文からiモーションを取り込めるようにするかどうかを設定します。→P.229
⑤iアプリTo設定……iモードメールの本文から、iアプリを起動できるようにするかどうかを設定します。→P.235
⑥メール読み上げ設定……メールを読み上げる声を設定します。→P.244
⑦SMS report設定……SMS report（送達通知）を要求するかどうかを設定します。→P.241
⑧SMS有効期間設定……SMSがSMSセンターに保存される期間を設定します。→P.242
⑨メール設定確認……メール設定の設定内容を確認します。→P.243
⓪メール設定リセット……メール設定の設定内容をお買い上げのときの状態に戻します。→P.244

セキュリティ設定

ほかの人にメールを見られないようにします

お買い上げ時	セキュリティなし

ほかの人にメールの内容を無断で見られないように受信BOX、送信BOX、保存BOXにセキュリティをかけます。セキュリティをかけたBOXは、端末暗証番号を入力しないと開けなくなります。

●セキュリティをかけたBOXには、「」のアイコンが表示されます。
●送信BOX、受信BOXにセキュリティを設定すると、メールアドレスは送信アドレス一覧、受信アドレス一覧に記憶されません。

BOXごとにセキュリティをかけます

1 **[MAIL]▶「メール設定」▶「セキュリティ設定」の順に選んで、端末暗証番号を入力する**

端末暗証番号について→P.21

2 **セキュリティをかけたいBOXを選ぶ**

選択したBOXがチェックされます。
チェックされたBOXをもう一度選ぶと、選択を解除します。

3 **設定が終わったら[完了]を押す**

フォルダごとにセキュリティをかけます

フォルダごとにセキュリティをかけられます。セキュリティをかけたフォルダは、端末暗証番号を入力しないと開けないようになります。

●セキュリティをかけたフォルダは、フォルダ一覧画面で先頭に表示されるアイコンが「」、「」などの表示になります。

1 フォルダ一覧画面でセキュリティをかけるフォルダを反転表示し、機能メニューから「セキュリティ設定／解除」を選ぶ

2 端末暗証番号を入力して「YES」を選ぶ

端末暗証番号について→P.21

すでにセキュリティがかかっているフォルダを選んだ場合

セキュリティを解除するかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶとセキュリティが解除されます。

おしらせ

- BOX全体にセキュリティをかけた場合、BOXを開くときに端末暗証番号の入力が必要になります。BOX内のセキュリティをかけたフォルダを開くときに再度、端末暗証番号を入力する必要はありません。
- セキュリティのかかったBOXやフォルダをいったん開くと、メール機能を終了するまで、セキュリティがかかった他のBOXやフォルダを端末暗証番号の入力をしないで開くことができます。

メール画面表示の設定をします

メール画面を使いやすいように設定します。

●メールの画面設定は次の4種類があります。

項目	説明
文字サイズ設定	メール詳細画面で表示する文字のサイズを設定する
スクロール設定	メール詳細画面のスクロール行数を設定する
本文表示設定	メールを先頭(受信日時表示)から表示するか本文から表示するかを設定する
メール一覧表示設定	メール一覧画面を名前またはメールアドレスのいずれかと題名の2行で表示するか、名前、メールアドレス、題名のいずれかの1行で表示するかを設定する

表示される文字のサイズを設定します

お買い上げ時 | 標準表示

メール詳細画面のメール本文の文字の大きさを選びます。

1 ◐[MAIL]▶「メール設定」▶「文字サイズ設定」の順に選ぶ

2 文字サイズを選んで●[選択]を押す

標準表示 ：標準の文字サイズで表示されます。
縮小表示 ：文字サイズが縮小されます。
拡大表示 ：文字サイズが拡大されます。
メール詳細画面でまたはを1秒以上押して文字サイズを切り替えることもできます。
また、メール詳細画面で機能メニューから「文字サイズ設定」を選んでも文字サイズを切り替えられます。いずれの方法で切り替えた場合でも、この設定は変更されます。

スクロール行数を設定します

お買い上げ時	1行スクロール

メール詳細画面でを押したときに、画面が何行分送られて(スクロールされて)表示されるかを選びます。

1 [MAIL]▶「メール設定」▶「スクロール設定」の順に選んで、スクロール行数を選ぶ

1行スクロール：1行単位でスクロールされます。
3行スクロール：3行単位でスクロールされます。
5行スクロール：5行単位でスクロールされます。
スクロール行数は、メール詳細画面で機能メニューから、「スクロール設定」を選んでも設定できます。この場合、この設定も変更されます。

メールを本文から表示します

お買い上げ時	通常表示

メールを開いたときに、先頭(受信日時／送信日時)から表示するか、メールの本文から表示するかを設定します。

1 [MAIL]▶「メール設定」▶「本文表示設定」の順に選んで、表示方法を選ぶ

通常表示　　：メールの先頭(受信日時／送信日時)から表示します。
本文から表示：メールの本文から表示します。
メールの本文が1ページ以内に表示できる場合は、「本文から表示」を設定しても、メールの先頭の全部または一部と本文が表示されます。

一覧画面の表示について設定します

お買い上げ時	2行表示

メールの一覧画面を2行表示、または1行表示に切り替えられます。

1 [MAIL]▶「メール設定」▶「メール一覧表示設定」を選ぶ

2行表示 ：メール一覧画面を2行表示に設定します。
1行表示 ：メール一覧画面を1行表示に設定します。

冒頭文／署名設定

冒頭文／署名／引用符を登録します

お買い上げ時	冒頭文／署名(未登録)：自動貼付する　引用符：〉

本文の先頭に書く文章(冒頭文)や、本文の最後に書く自分の名前など(署名)をあらかじめ登録しておくと、簡単な操作でiモードメールの本文に貼り付けることができます。また、受信メールを引用返信するときに引用するメールの本文の先頭に付ける記号や文章(引用符)を編集することもできます。引用符は作成した本文と引用した本文を区別するために使用します。

●登録できる冒頭文／署名はそれぞれ1件のみです。
●SMSでは冒頭文／署名／引用符を利用できません。

1 [MAIL]▶「メール設定」▶「冒頭文／署名設定」の順に選ぶ

冒頭文、署名、引用符は、それぞれの欄に入力します。

2 冒頭文または署名の「自動貼付」をチェックして冒頭文または署名の入力欄を選び、冒頭文または署名を入力して◉[確定]を押す

冒頭文編集画面の場合

冒頭文、署名は全角で120文字、半角で240文字分まで入力できます。

改行は全角1文字分としてカウントされます。

冒頭文または署名を自動貼付させない場合

冒頭文または署名のチェックをはずす

---

3 引用符の入力欄を選び、変更する引用符を入力して◉[確定]を押す

引用符は全角で10文字、半角で20文字分まで入力できます。

---

4 ◔[完了]を押す

おしらせ

- 冒頭文／署名／引用符の文字数は、メール本文の入力可能文字数に含まれます。
- 「冒頭文貼付」を行った場合、冒頭文は装飾なしの状態で貼り付けられます。そのため、背景色によっては冒頭文が見えなくなることがあります。また、「署名貼付」を行った場合、署名は本文末の文字色、文字サイズの装飾を引き継いだ状態で貼り付けられます。
- SMSでは冒頭文／署名／引用符を利用できません。

受信表示設定

操作中のメール受信を通知します

お買い上げ時	操作優先

FOMA端末の操作中にメールやメッセージリクエスト／フリーを受信したとき、受信中画面および受信結果画面を優先的に表示するかどうかを設定します。

1 [MAIL]▶「メール設定」▶「受信表示設定」の順に選ぶ

2 優先する表示を選ぶ

通知優先：FOMA端末の操作中にメールやメッセージリクエスト／フリーを受信したときに、受信中画面および受信結果を表示します。

操作優先：FOMA端末の操作中にメールやメッセージリクエスト／フリーを受信したときに、受信中画面および受信結果画面を表示せず、操作中の画面を表示したままにします。

おしらせ

●「操作優先」に設定し、端末の操作中にメールやメッセージリクエスト／フリーを受信したときは、イルミネーション・ウィンドウの新着メール表示および、ディスプレイの「」「R」「F」の表示でメールやメッセージリクエスト／フリーの受信を知らせます。着信音、LED点灯、バイブレータ、バックライトの点灯は行ないません。

●iアプリ、ムービープレーヤー、キャラ電プレーヤー、カメラなどの機能を利用しているときは、「通知優先」に設定していても、メールやメッセージリクエスト／フリーを受信したときに、受信中画面および受信結果画面は表示されません。

iモードメールの設定をします

iモードメールの受信方法や、受信メールに添付または貼り付けられたデータの設定を行います。

iモードメールの選択受信について設定します

お買い上げ時	OFF

メールの選択受信を行うかどうかを選びます。選択受信を行なわない場合は、メールを自動受信します。

●この設定はiモードメールにのみ適用されます。SMSとメッセージリクエスト／フリーは、この設定にかかわらず自動受信します。

1 [MAIL]▶「メール設定」▶「メール選択受信設定」の順に選ぶ

2 メールを選択受信するかどうかを選んで●[選択]を押す

メールを自動受信する場合

「OFF」を選ぶ

メールを選択受信する場合

「ON」を選ぶ

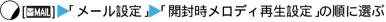
おしらせ

- 「ON」に設定しても、「iモード問い合わせ」を利用するとiモードメールを受信します。「iモード問い合わせ」利用時にiモードメールを受信したくない場合には、「iモード問い合わせ設定」（P.127）で「メール」を「問い合わせしない」に設定してください。

iモードメールを開いたときのメロディについて設定します

お買い上げ時	自動再生する

受信したiモードメールを開いたときに、添付または貼り付けられているメロディを自動再生するかどうかを設定します。

1 [MAIL]▶「メール設定」▶「開封時メロディ再生設定」の順に選ぶ

自動再生する　：iモードメールを開いたときにメロディを自動再生します。

自動再生しない：iモードメールを開いたときにメロディを自動再生しません。

iモードメールに貼り付けられたメロディについて設定します

お買い上げ時	有効

メール本文に貼り付けられたメロディの再生や保存ができるようにするかどうかを設定します。

- iモードメールに貼り付けられたメロディ（メール詳細画面で「♪」のアイコンのついているメロディ）についてのみ適用されます。iモードメールに添付されたメロディには適用されません。

1 [✉MAIL]▶「メール設定」▶「貼付メロディ設定」の順に選ぶ

有効：メロディの再生、保存を可能にします。
無効：メロディの再生、保存は行えず、メロディは本文内にテキストとして表示されます。

「無効」に設定すると、「♫」のアイコンがメール一覧画面では「♫」または「♫」のアイコンに変わります。メール詳細画面では文字列の表示に変わります。

---

iモードメールからのiアプリの起動について設定します

お買い上げ時	有効

iモードメールから、iアプリを起動できるようにするかどうかを設定します。

1 [✉MAIL]▶「メール設定」▶「iアプリTo設定」の順に選ぶ

有効：iアプリを起動できます。
無効：iアプリを起動できません。

「無効」に設定すると、「α」のアイコンがメール一覧画面では「α」のアイコンに変わります。メール詳細画面では表示されず、iアプリが起動できなくなります。

---

iモードメールからのiモーションの取り込みについて設定します

お買い上げ時	有効

iモードメールの本文に貼り付けられたiモーションを取り込めるようにするかどうかを設定します。

●この設定は、センターからデータを取得する前のiモーションメールについての設定です。すでにデータ取得済みのiモーションメールには適用されません。

1 [✉MAIL]▶「メール設定」▶「貼付iモーション設定」の順に選ぶ

有効：iモーションを取り込みます。
無効：iモーションを取り込みません。

「無効」に設定すると、「🎞」のアイコンがついているiモーションがメール一覧画面では「🎞」のアイコンに変わります。メール詳細画面では表示されず、いずれの場合も、iモーションを取得できなくなります。

---

iモーションを自動で再生しないようにします

お買い上げ時	自動再生する

受信メール画面からiモーションを取り込んだときに、iモーションを自動的に再生するかどうかを設定します。

1 ◐[✉MAIL]▶「メール設定」▶「iモーション自動再生設定」の順に選ぶ

自動再生する　：iモーションを取り込み中または取り込んだ後、自動再生します。
「自動再生する」に設定した場合、iモーションによっては取り込み中に自動的に再生が始まります。再生が終了するとiモーション取得完了の画面が表示されます。

自動再生しない：iモーションを取り込んだ後、自動再生しません。
「自動再生しない」に設定すると、iモーションを取り込んだ後、自動再生を行わず、iモーション取得完了の画面を表示します。

添付ファイルを受信しないようにします

お買い上げ時	メロディを受信する 画像を受信する

iモードメールに添付されたファイルを受信するかどうかを設定します。

- 「受信しない」に設定した場合、添付ファイルはiモードセンターで削除されます。削除されたことは通知されませんのでご注意ください。
- この設定は添付されたメロディ、画像にのみ適用されます。本文に貼り付けられたメロディはこの設定にかかわらず受信します。

1 ◐[✉MAIL]▶「メール設定」▶「添付ファイル設定」の順に選ぶ

「メロディ有効」、「画像有効」それぞれについて、受信するかどうかを設定します。

2 受信する添付ファイルをチェックして◐[完了]を押す

スピードフォトメール表示設定

スピードフォトメールを受信したときの表示について設定します

お買い上げ時	自動表示する

音声通話中にスピードフォトメールを受信したとき、写真(静止画)を自動で表示するかどうかを選びます。

1 [MAIL]▶「メール設定」▶「スピードフォトメール表示設定」の順に選ぶ

2 設定する項目を選ぶ

自動表示する　：スピードフォトメールを受信したときに自動で静止画を表示します。
自動表示しない：スピードフォトメールを受信したときに自動で静止画を表示しません。
「自動表示しない」に設定し、スピードフォトメールを受信したときは、静止画が添付されたメールの受信になります。静止画を表示するには、受信したメールを表示します。

SMSの設定をします

SMSの送達通知の配信要求とSMSの有効期間について設定します。

SMS reportを要求するようにします

お買い上げ時	要求しない

SMSを送信したときに、SMS report(送達通知)を要求するかどうかを設定します。

1 [MAIL]▶「メール設定」▶「SMS report設定」の順に選ぶ

2 「要求する」を選ぶ

要求する　：SMSの送信後にSMS report が届きます。
要求しない：SMSを送信してもSMS reportは届きません。

おしらせ

- SMS reportの要求は、SMS作成時の新規SMS画面の「機能メニュー」から「SMS report設定」を選んでも設定できます。この場合、設定内容は作成している新規SMSに対してのみ有効となり、この設定は変更されません。

SMSの有効期間を設定します

お買い上げ時	3日

●送信したSMSがSMSセンターに保管される期間を設定します。

1 [MAIL]▶「メール設定」▶「SMS有効期間設定」の順に選ぶ

2 SMSセンターに保管される期間を選ぶ

おしらせ

- SMSの有効期間は、SMS作成時の新規SMS画面の機能メニューから「SMS有効期間設定」を選んでも設定できます。この場合、設定内容は、作成している新規SMSに対してのみ有効であり、この設定は変更されません。

メール設定確認

メール設定の内容を確認します

「メール設定」で設定した内容を確認できます。

1 **[MAIL]▶「メール設定」▶「メール設定確認」の順に選ぶ**

メール設定確認 2/2
ｽﾋﾟｰﾄﾞﾌｫﾄﾒｰﾙ表示 する
貼付メロディ 有効
貼付iモーション 有効
iアプリTo 有効
SMS report する
SMS有効期間 0日

「メール設定」の次の項目の設定内容が表示されます。

- スクロール
- 文字サイズ
- メール一覧表示
- 本文表示
- セキュリティ
- 開封時メロディ再生
- 添付ファイル
- メール選択受信
- 受信表示
- iモーション自動再生
- スピードフォトメール表示
- 貼付メロディ
- 貼付iモーション
- iアプリTo
- SMS report
- SMS有効期間

メール設定リセット

メール設定をお買い上げ時の状態に戻します

「メール設定」の設定内容を、お買い上げのときの状態に戻します。
リセットされる項目およびリセット後の状態は次のとおりです。

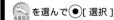
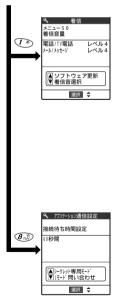
設定項目	設定リセット時
スクロール設定	1行スクロール
文字サイズ設定	標準表示
メール一覧表示設定	2行表示
本文表示設定	通常表示（先頭から表示する）
セキュリティ設定	受信BOX：OFF
	送信BOX：OFF
	保存BOX：OFF
開封時メロディ再生設定	自動再生する
添付ファイル設定	メロディ有効　：ON
	画像有効　：ON
メール選択受信設定	OFF
冒頭文／署名設定	冒頭文：未登録 自動貼付する
	署名：未登録 自動貼付する
	引用符：>
受信表示設定	操作優先
iモーション自動再生設定	自動再生する
スピードフォトメール表示設定	自動表示する
貼付メロディ設定	有効
貼付iモーション設定	有効
iアプリTo設定	有効
SMS report設定	要求しない
SMS有効期間設定	3日

[MAIL]▶「メール設定」▶「メール設定リセット」の順に選んで、端末暗証番号を入力する

端末暗証番号について→P.21
設定をリセットするかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと、設定がリセットされ、お買い上げのときの状態に戻ります。

メール通信設定機能一覧

メールに関する通信設定機能の画面および設定の一覧を示します。
これらの設定は、メインメニューの各種設定でおこないます。

<待受画面>

<1着信>
を押して次の項目を表示させ、[選択] を押して設定画面に入ります。
・メール／メッセージ鳴動…………メールやメッセージリクエスト／フリーの着信音が鳴る時間を設定します。→P.246
これ以外の項目については『基本編』をご覧ください。

<8 アプリケーション通信設定>
を押して次の項目を表示させ、[選択] を押して設定画面に入ります。
・iモード問い合わせ設定…………iモードセンターへ問い合わせをする項目を設定します（通常は設定を変更する必要はありません）。→P.128
・SMS center設定………………ドコモのSMSセンターを利用するか、他社のSMSセンターを利用するかを設定します（通常は設定を変更する必要はありません）。→P.247
これ以外の項目についてはP.127をご覧ください。

メール／メッセージ鳴動

メールやメッセージの着信音が鳴る時間を設定します

お買い上げ時	5秒

メールやメッセージリクエスト／フリーを受信したときに、着信音を鳴らすかどうか、鳴らす場合にはその時間を設定します。

<例：メールの着信音を設定する場合>

1 ▶「着信」▶「メール／メッセージ鳴動」の順に選ぶ

メール／メッセージ鳴動画面の現在の設定が表示されます。

2 設定する項目を選んで「ON」を選ぶ

着信音を鳴らさない場合

「OFF」を選ぶ

着信音を「OFF」に設定すると、メールやメッセージリクエスト／フリーを受信したときに着信音、バイブレータ、マルチファンクションボタンの点滅、バックライトなどによる着信のお知らせをしません。メールの着信音を「OFF」に設定した場合、画面に「」または「」が表示されます。メッセージリクエスト／フリーの着信音を「OFF」に設定した場合には、これらのアイコンは表示されません。

中止または設定を完了する場合

CLRを押す

3 鳴動時間(01～30秒)を入力する

時間は2桁で入力します。1～9秒に設定するときは0を押してから1～9を押します。

01～30以外の数字を入力すると、設定できない数値であることを通知するメッセージが表示されます。

SMS center設定

SMSセンターについて設定します

※通常は設定を変更する必要はありません。

お買い上げ時	ドコモ

ドコモのSMSセンターを利用するか、他社のSMSセンターを利用するかを設定します。

<例：他社のSMSセンターを利用する場合>

1 Menu ▶ 各種設定 ▶「アプリケーション通信設定」▶「SMS center設定」の順に選ぶ

ドコモ　　：ドコモのSMSセンターを利用します。
ユーザ設定：他社のSMSセンターを利用します。

お買い上げのときの設定(ドコモ)に戻す場合

「リセット」を選び、端末暗証番号(P.21)を入力して◉[確定]を押す

確認のメッセージが表示されますので、「YES」を選ぶと設定がリセットされます。

「リセット」を行うと「ユーザ設定」で設定した内容が削除されます。

2 「ユーザ設定」を選んでSMSセンターのアドレスを入力し、◉[確定]を押す

3 「Type of number」を選ぶ

「International」または「Unknown」から選びます。

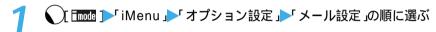
おしらせ

- SMS center設定を誤って変更すると、SMSが送信できなくなります。
- 入力したSMSセンターアドレスに、「#」「*」が含まれていた場合、「Type of number」の「International」を選ぶことはできません。

オプション設定

iモードのメールに関するオプション設定を行います。
オプション設定は次のようなものがあります。

機能名	内容	参照ページ
メールアドレス確認	メールアドレスを確認します。	P.236
メールアドレス変更	メールアドレスを変更します。	P.236
アドレスリセット	メールアドレスを電話番号に戻します。	P.238
シークレットコード登録	メールアドレスにシークレットコードを登録します。	P.239
メールサイズ制限	受信するメールデータのサイズを制限します。	P.240
メール受信拒否	メールの受信拒否を設定します。	P.241
メール機能停止	iモードセンターでメールの機能を停止します。	P.244

1 [imode]▶「iMenu」▶「オプション設定」▶「メール設定」の順に選ぶ

2 設定したい機能を選んでそれぞれの操作を行う→上記表

メールアドレスを設定します

メールアドレスを確認します

現在設定されているメールアドレスを確認できます。

1 **メール設定画面で「アドレス確認」を選ぶ**

メールアドレスを変更します

iモードメールのアドレスを変更できます。
「docomo.△△_ab1234yz@docomo.ne.jp」のように、変更できるのは「@」より前の部分（下線部分）となります。変更するときは、「@」より前の部分のみを入力してください。なお、変更可能部分は、半角英数字および「_」（アンダーバー）、「．」（ピリオド）、「-」（ハイフン）の記号を使って、3文字以上30文字まで（先頭は英字）の間で設定します。

> 変更時にはなるべく桁数を増やし、英字と数字の組み合わせにより、簡単に想定できないアドレスにされることをおすすめします。

1 **メール設定画面で「アドレス変更」を選ぶ**

2 **「第1希望」を選び、第1希望のメールアドレスを入力して◉［確定］を押す**

「@」より前の部分のみを入力します。先頭文字は必ず英字で入力してください。
英字を入力する場合、大文字・小文字の区別はありません。
スペース（空白）はご利用になれません。

3 同様の操作で第2希望、第3希望のメールアドレスを入力する

第2希望、第3希望が不要の場合は、操作4へ進みます。

4 [　]を選び、4桁のiモードパスワードを入力して◉[確定]を押す

入力したiモードパスワードは「*」で表示されます。
iモードパスワードについて→P.30

5 「決定」を選ぶ

変更したメールアドレスが表示されます。新しいアドレスはすぐに使うことができます。

おしらせ

- 「.(ピリオド)」をアドレス内で連続使用したり、アドレスの最後に設定したりすると、一部のプロバイダとメールを送受信できない場合があります。
- 変更が完了すると、すぐに新しいメールアドレスがご利用になれ、変更前のメールアドレスではメールが受信できなくなり、送信元には宛先不明のエラーメッセージが表示されるか、エラーメールが返信されます。
- メールアドレス変更前にiモードセンターに保管されたメールは、メールアドレス変更後も受信できます。
- メールアドレスを変更すると、変更前に利用していたメールアドレスを再び使えなくなる可能性があります。
- メールアドレスを「電話番号@docomo.ne.jp」に変更するときは「アドレスリセット」(P.238)を行ってください。
- メールアドレスを変更する際に簡単なアドレス(名前など)にすると間違いメールが届くことがあります。なるべく桁数を増やし、数字や英字、記号を組み合わせたメールアドレスに変更されることをおすすめします。
- movaサービスでiモードをご利用いただいていた場合、メールアドレスはそのままご利用になれます。

メールアドレスを電話番号にします 〈アドレスリセット〉

メールアドレスを「電話番号@docomo.ne.jp」に変更できます。

1 メール設定画面でメールアドレス設定の「その他設定」を選んで「アドレスリセット」を選ぶ

2 □を選び、4桁のiモードパスワードを入力して◉[確定]を押す

入力したiモードパスワードは「*」で表示されます。
iモードパスワードについて→P.30

3 「確認」を選ぶ

確認画面が表示され、アドレスリセットが完了します。

おしらせ

- アドレスリセットを行うと、リセットする前のメールアドレスではメールを受信できなくなります（メールの送信元には、宛先不明のエラーメッセージが表示されるか、エラーメールが返信されます）。
- アドレスリセット前にiモードセンターに保管されたメールは、アドレスリセット後も受信できます。
- アドレスリセットを行うと、リセットする前のメールアドレスは再び使えなくなる可能性があります。

メールアドレスにシークレットコードを登録します

電話番号のアドレスにシークレットコードを登録し、シークレットコードを知らない人からのメールを受け取らないようにします。

●メールアドレスが「電話番号@docomo.ne.jp」のときに、シークレットコードを登録すると、シークレットコード（数字4桁）がついていないメールを受信しません。
シークレットコードをつけないで送信されたメールは、送信元には宛先不明のエラーとして返信し、不要なメールの受信を避けられます。

●シークレットコード登録後のメール送信時にはシークレットコード部分は隠されて送信され、送信先にはシークレットコードが表示されません。

●シークレットコード登録を利用するには「アドレスリセット」（P.238）でメールアドレスを「電話番号@docomo.ne.jp」に変更する必要があります。

1 メール設定画面でメールアドレス設定の「その他設定」を選んで「シークレットコード登録」を選ぶ

2 「シークレットコード」の下の□を選び、4桁の数字でシークレットコードを入力して◉［確定］を押す

「0000」は設定できません。

3 □を選び、4桁のiモードパスワードを入力して◉［確定］を押す

入力したiモードパスワードは「*」で表示されます。
iモードパスワードについて→P.30

4 「決定」を選ぶ

新しいメールアドレスが表示されます。電話番号以下の4桁の数字がお客様の設定されたシークレットコードとなります。

おしらせ

- 登録が完了すると、すぐにシークレットコードが利用でき、今までのメールアドレスではiモードメールが届かなくなり、送信元には宛先不明のエラーメッセージが表示されるか、エラーメールが返信されます。
- シークレットコード登録前にiモードセンターに保管されたメールは、シークレットコード登録後も受信できます。
- iモードメールの送信時にはシークレットコード部分は隠されますので、受信者はそのまま返信メールを差出人に送ることができません。
- シークレットコード登録を行っていてもSMSは受信できます。
- シークレットコード登録を取り消す場合は、「アドレスリセット」を行ってください。
- シークレットコード登録を行うと、ドコモ以外のアドレスにメール送信を行った場合に、宛先不明などのエラーメッセージを受信できないことがあります。

受信するメールのサイズを制限します

ご契約時	全角5,000文字

iモードメールを受信する際、受信するメールのデータサイズを制限できます。

1 メール設定画面で「メールサイズ制限」を選ぶ

2 受信を制限するメールのサイズをラジオボタンで選ぶ

3 [　]を選び、4桁のiモードパスワードを入力して◉[確定]を押す

入力したiモードパスワードは「*」で表示されます。

iモードパスワードについて→P.30

4 「決定」を選ぶ

確認画面が表示され、メールサイズ制限が設定されます。

おしらせ

- 設定された文字数を超えたときは、iモードセンターで本文の最後に「/」または「//」が挿入され、超えた部分が削除されます（削除された部分を見ることはできません）。
- 設定された文字数を超えた場合、iモードメール本文に貼り付けられているメロディのデータや、iアプリの起動データ（iアプリTo）、iモーションの取得データは、iモードセンターで削除されます。

メールの受信拒否を設定します

迷惑メールや、受け取りたくない相手からのメールなどを受信しないように制限できます。
次のいずれかの方法でメールの受信／拒否設定を行います。

メール拒否方法	設定の内容
iモードメールのみ受信	iモード携帯電話からのメールのみを受信します。 （インターネット経由のメールを拒否）
iモードメールのみ拒否	iモード携帯電話からのメールのみ受信しません。（iモード間のメールを拒否）
アドレス指定拒否	指定したメールアドレスからのメールのみ受信しません。
アドレス指定受信	指定したメールアドレスからのメールのみを受信します。
ドメイン指定受信	au、ボーダフォン、TU-KA、DDIポケットのうち、指定する会社からのメールを受信します。また、上記の会社以外のドメインを指定してメールを受信することもできます。

- アドレス指定拒否、アドレス指定受信、ドメイン指定受信のメールアドレスは20件まで登録できます。
- 詳しくは『FOMA iモード操作ガイド』をご覧ください。

iモードメールの受信／拒否を設定します

1 **メール設定画面で「受信／拒否設定」を選ぶ**

2 **設定する項目をラジオボタンで選んで「次へ」を選ぶ**

iモードメールのみ受信：iモード携帯電話からのメールのみ受信します。
iモードメールのみ拒否：iモード携帯電話からのメールのみ受信しません。
設定を解除する場合は「設定解除」を選びます。

3 ［　］を選び、4桁のiモードパスワードを入力して◉［確定］を押す

入力したiモードパスワードは「＊」で表示されます。
iモードパスワードについて→P.30

4 「決定」を選ぶ

確認画面が表示され、メール一括拒否が設定されます。

アドレス指定拒否を設定します

1 メール設定画面で「受信／拒否設定」を選ぶ

2 設定する項目をラジオボタンで選んで「次へ」を選ぶ

受信/拒否設定
機能説明

┌複数選択不可┐
○ドメイン指定受信
○アドレス指定受信
◉アドレス指定拒否
○iモードメールのみ受信
○iモードメールのみ拒否
選択　機能

アドレス指定拒否：指定したメールアドレスからのメールは受信しません。
アドレス指定受信：指定したメールアドレスからのメールのみを受信します。
ドメイン指定受信：選択した他携帯電話、PHSからのメールと、指定したドメインからのメールを受信します。

3 メールアドレス欄の［　］を選び、指定するメールアドレスを入力して◉［確定］を押し、「登録」を選ぶ

指定拒否または指定受信を設定する相手がiモード端末の場合は、指定するメールアドレスには「@docomo.ne.jp」を入力する必要はありません。

ドメイン指定受信を設定する場合

メールを受信したい他携帯電話、PHSの会社名を選ぶ
指定したドメインで終わるメールアドレスのメールのみ受信します。
その他に指定したいドメインがある場合は、ドメインを入力して指定することもできます。

4 ［　］を選び、4桁のiモードパスワードを入力して◉［確定］を押す

入力したiモードパスワードは「＊」で表示されます。
iモードパスワードについて→P.30

5 「決定」を選ぶ

確認画面が表示され、アドレス指定拒否が設定されます。

おしらせ

- 設定が完了すると、拒否を設定したメールが届かなくなり、送信元には宛先不明のエラーメッセージが表示されるか、エラーメールが返送されます。
- 設定によっては、メール送信に失敗した場合、エラーメールを受信しない場合があります。
- 設定前にiモードセンターに保管されたメールは、設定後も受信されます。
- 「アドレス指定受信」「iモードメールのみ受信する」(インターネット経由のみ拒否)を設定した場合は、希望しているメール配信が届かなくなることがあります。
- SMSの受信拒否は設定できません。
- 指定メールアドレス・ドメインの欄にドメインを入力する場合は、メールアドレスの「@」より後ろの部分を入力します。ただし、iモードや操作3で選択した他携帯電話、PHSの会社からのメールは、ドメインを入力しなくてもすべてのメールを受信しますので、ドメインの入力は不要です。ドメインを入力すると、携帯電話、PHSから送信したようにみえる「迷惑メール」が届いてしまいますので、ご注意ください。
- 日本語のメールアドレスやドメインは指定できません。
- ドメイン指定受信は、iモードメールのみ受信／拒否と同時に利用することはできません。
- メールによる情報配信サービスなどへメールアドレスを登録し利用している場合は、メール指定受信、ドメイン指定受信の設定にともないメールが届かなくなりますので、メールアドレスやドメインの設定を行ってください。
- iモードサイトの利用に際し、利用内容確認などをメールで行う場合がありますので、これらのメールを受信するために、各サイトのドメインやメールアドレスなどを指定してご利用ください。

iモードメール大量送信者からのメール受信制限

1日に1台のiモード端末から送信される200通目以降のiモードメールを拒否することができます。初期設定では「拒否する」に設定されていますので、大量送信者からのメールを拒否したい場合は設定する必要はありません。詳しくは、『FOMA iモード操作ガイド』をご覧ください。

未承諾広告※メールを拒否

受信者の同意なしに一方的に広告・宣伝を行うために送信されるメールを拒否することができます。初期設定では「拒否する」に設定されていますので、未承諾広告※メールを拒否したい場合は設定する必要はありません(送信者はメール件名欄の最前列に未承諾広告※(全角6文字)と記載することが法律で義務づけられています)。詳しくは、『FOMA iモード操作ガイド』をご覧ください。

メールの受信拒否設定を確認します

現在設定されているメール拒否設定を確認できます。

1 メール設定画面で「設定状況確認」を選ぶ

拒否設定確認画面を表示され、設定内容を確認できます。

メール機能を停止します

iモードではメール機能を利用しないときは、iモードセンターでメール機能を停止できます。メール機能を停止した場合、FOMA端末でのiモードメールは送受信できず、メールの送信元には宛先不明のエラーメッセージが表示されるか、エラーメールが返信されます。

1 メール設定画面で「メール機能停止」を選ぶ

2 □を選び、4桁のiモードパスワードを入力して◉[確定]を押す

入力したiモードパスワードは「*」で表示されます。

iモードパスワードについて→P.30

3 「確認」を選ぶ

確認画面が表示され、メール機能を停止します。

おしらせ

- メール機能停止前にiモードセンターで保管されたメールはそのまま保管されますので(受信時から30日間(720時間))「iモード問い合わせ」(P.180)を行って受信してください。
- メール機能停止中はiモードセンターで新しいメールを保管しません。
  メール機能停止中にiモードメールの送信を行った場合、送信に失敗したことを通知するエラーメッセージが表示され、送信することができません。
- メール機能停止中にiモードメールの送信やiモードセンターへの問い合わせをしようとしたときは、iモードセンターとの通信を行うため、パケット通信料がかかります。
- メール機能再開直後のメールアドレスは「電話番号@docomo.ne.jp」となります。
- メールアドレスを「電話番号@docomo.ne.jp」以外でご利用になっていた場合、メール機能を停止すると、停止前に利用されていたメールアドレスは、メール機能再開時に再び使えない可能性があります。
- メール機能再開直後は、メールの受信拒否の設定はメール機能停止前のままとなります。
- メール機能停止中でも、SMSの送受信は可能です。

マルチメディア編

この取扱説明書で掲載している画面はイメージであるため、実際の画面とは異なる場合があります。

カメラをお使いになる前に

FOMA端末に内蔵されているカメラを使って、写真(静止画)や動画を撮影できます。

- 外側カメラには有効画素数100万画素CCDカメラを搭載し、「メガピクセルフォト」を選択すると1616×1212 ドット、1280×960 ドットの大きな静止画を撮影できます。撮影した静止画をパソコンで利用する場合は、このモードで撮影すると便利です。
- 静止画に記録された撮影情報を利用して、「Exif Ver2.2」、「PIM II(PRINT Image Matching II)」対応プリンターやソフトウェアでイメージどおりのプリントや画像編集が可能です。
- DPOF(Digital Print Order Format)に対応し、プリントしたい静止画や枚数の指定情報をminiSDメモリーカードに登録できます。 →P.306
- 内蔵カメラで撮影した静止画や動画は、miniSDメモリーカードに保存してパソコンで利用できます。また、データリンクソフト(P.470)を使用してパソコンにデータを送信することもできます。
- 動画撮影は映像＋音声での撮影のほかに、映像のみの撮影、音声のみの録音を選ぶことができます。→P.270
- セルフタイマーを使って、静止画や動画を撮影することもできます。セルフタイマーを使って撮影すると、撮影時の手ぶれを防ぐことができます。→P.264
- 市販の三脚を卓上ホルダの三脚用背面タップに接続し、FOMA端末を卓上ホルダに取り付けると、三脚に固定して静止画や動画を撮影することができます。
- カメラは外側(背面)カメラと内側カメラの2つを搭載しています。
- 最短撮影可能距離は、標準レンズ撮影時が約50cm、マクロレンズ撮影時が約5cmです。

外側カメラ

ほかの人や動物、風景などを撮影するときに使うと便利です。画面には、自分が見たとおりに表示されます(画面に表示された向きで撮影されます)。また、外側カメラをマクロレンズに切り替えて(P.275)の接写が可能です。

内側カメラ

自分を撮影するときに使うと便利です。画面には鏡と同じ向きに表示されます（画面に表示された向きとは逆向きに撮影されます）。

撮影した写真（静止画）や動画を利用してこんなことができます

撮影した静止画を電話帳に登録すると電話の着信時に画像を表示できます。

撮影した静止画や動画は、待受画面に設定できます。→P.301、P.320

撮影した静止画や動画は、iモードメールに添付して送ることができます。→P.162

撮影画面の見かた

フォトモード／連写モード／メガピクセルフォト

ムービーモード／チャンスキャプチャ／長時間ムービー

① ライトの点灯／消灯を切り替えます。外側カメラで撮影時に表示されます。

② 画像のBRIGHTNESS（明るさ）を示します。「連写モード」（マニュアル）で撮影時は撮影枚数と撮影可能枚数を示すアイコン（1/8）が表示されます。

③ セルフタイマーが設定されているときに表示されます。

④「画像サイズ設定」（P.269）に設定しているサイズが表示されます。

- 1616x1212：1616×1212（メガピクセルフォトのみ）
- 1280x960：1280×960（メガピクセルフォトのみ）
- 640x480：640×480
- 352x288：352×288
- 176x144：フォトモード・連写モード時は「メール大（176×144）」、ムービーモード時は「サイズ大（176×144）」
- 128x96：フォトモード・連写モード時は「メール小（128×96）」、ムービーモード時は「サイズ小（128×96）」

⑤ 撮影モードを示します。

- ：メガピクセルフォト
- ：フォトモード
- ：連写モード
- ：ピクチャボイス
- ：ムービーモード／長時間ムービー
- ：チャンスキャプチャ

⑥「画像保存設定」（P.270）の設定を示します。

- FILE STD：制限なし
- FILE ：大容量メール制限
- FILE ：メール制限

⑦「撮影種別設定」（P.270）の設定を示します。

- ：通常
- ：映像のみ
- ：音声のみ

⑧ 撮影状態を示します。

- STAND BY：スタンバイ
- ● REC：撮影中

⑨「動画容量設定」（P.272）の設定を示します。

- FILE M：メール
- FILE L：動画メモ

長時間ムービー撮影時は、「FILE ∞」が表示されます。

⑩「動画保存設定」（P.271）の設定を示します。

- NORMAL：標準
- FINE：画質優先
- LONG：時間優先

⑪ 残り撮影時間が「分：秒」で表示されます（撮影前は非表示）。

おしらせ

●「画像サイズ設定」を「待受（240×269）」に設定した場合は、撮影画面のガイダンス部分は表示されません。

静止画／動画の登録件数と撮影時間について

●静止画は最大400件、動画は最大100件まで登録できます。ただし、画像サイズなどの設定により最大登録可能件数まで登録できない場合があります。
●お買い上げのときの設定では、動画の撮影時間は約15秒です。ただし、撮影対象などの条件によりデータ量が異なるため、１件あたりの撮影時間も変化します。
●長時間ムービーでの最大連続撮影時間は約60分です。
●動画は撮影時間によりデータ量が異なるため、最大保存件数も変化します。
●静止画、動画のおおよその登録件数または撮影時間は次のとおりです。

モード	画像サイズ設定	画像保存設定	登録件数	
			FOMA端末(本体)	miniSDメモリーカード(16Mバイト)
メガピクセルフォト	1616×1212	制限なし	約3件	約27件
	1280×960		約4件	約30件
フォトモード	640×480	制限なし	約8件	約53件
		大容量メール制限	約22件	約148件
フォトモード／連写モード	352×288	制限なし	約20件	約127件
		大容量メール制限	約36件	約222件
		メール制限	約133件	約888件
	待受(240×269)	制限なし	約44件	約296件
		大容量メール制限	約80件	約444件
		メール制限	約200件	約888件
	メール大(176×144)	制限なし	約80件	約444件
		大容量メール制限	約133件	約888件
		メール制限	約200件	約888件
	メール小(128×96)	制限なし	約200件	約888件
		大容量メール制限	約200件	約888件
		メール制限	約200件	約888件

モード	画像サイズ設定	カメラモード／動画容量設定	登録件数／撮影時間
ムービーモード	サイズ大(176×144)	メール	32〜100件
		動画メモ	3〜100件
		長時間ムービー	約35分※

※：お買い上げのときの設定で16MバイトのminiSDメモリーカードに保存した場合のおおよその合計時間です。

カメラ利用にあたってのご注意

カメラの取扱いについて

・カメラにはCCDカメラを使い、非常に精密度の高い技術で作られておりますが、一部に暗く見える点や線、常に明るく見える点や線がある場合があります。また、特に光量が少ない場所での撮影では白い線などのノイズが増えますので、ご了承ください。
・撮影する前に、柔らかい布などでレンズ部をきれいに拭いておいてください。レンズ部に指紋や油脂などがつくと、ピントが合わなくなったり不鮮明な画像になったりすることがあります。

・FOMA端末を閉じるときにレンズ部に力がかからないようにご注意ください。故障の原因となります。
・FOMA端末を暖かい場所に長時間置いていた後は、画質が劣化することがあります。
・カメラ部分に直射日光を長時間当てたり、太陽や明かりの強いランプなどを直接撮影したりしないでください。撮影した画像の色が変色したり、故障の原因となります。

撮影するときのご注意

・内蔵カメラで撮影した静止画や動画は、実際の被写体と色味や明るさが異なる場合があります。
・太陽やランプなどの強い光源を直接撮影しようとすると、画像が暗くなったり、画像が乱れることがありますのでご注意ください。
・撮影時は、カメラに指や髪、ストラップなどがかからないようにしてください。
・カメラ撮影中は電池の消耗が大きいため、撮影が終了したらすみやかにカメラを終了させることをおすすめします。
・連続写真や動画を撮影中に次の動作があった場合は、撮影が中止されてそれらの画面に切り替わります。その後、切り替わった画面を終了させると、カメラの画面に戻りますので、着信やアラーム通知などの前に撮影したデータを保存することができます。カメラのZOOM(ズーム)やBRIGHTNESS(明るさ)を設定中に次の動作があったときには、調節中の設定が確定され、カメラメニューに戻ります。なお、セルフタイマー実行中に次の動作があったときには、セルフタイマーは中止されます。
  ・音声電話やテレビ電話、64Kデータ通信の着信があったとき
  ・めざまし時計、スケジュール、ToDoのアラーム通知が実行されたとき
  ・ほかの機能の操作を行ったとき
 ・次の場合は中止されません。
  ・カメラ撮影中(撮影画面表示時含む)にメールやメッセージリクエスト／フリーを受信した場合は、「受信表示設定」(P.224)の設定にかかわらず、受信結果画面は表示されずにカメラの撮影が継続して行われます。
  ・「アラーム通知設定」(『基本編』のP.209)を「操作優先」に設定しておくと、アラームを設定した時刻になっても、カメラの撮影や設定、セルフタイマーは中止されずに継続して行うことができます。
・シャッター音やタイマーの開始音は、「着信音量」の設定にかかわらず、一定の音量で鳴ります。
・シャッター音やタイマーの開始音は、「マナーモード」や「ドライブモード」に設定中でも鳴ります。また、「イヤホン切替」の設定が「イヤホン」でイヤホンを付けていてもスピーカから鳴ります。
・撮影時にFOMA端末が動くと、画像がぶれる原因となります。なるべくFOMA端末が動かないようにしっかりと固定して撮影するか、セルフタイマーを使って撮影してください。
・静止画の撮影は、◉[撮影]を押した後の画像を取り込みます。シャッター音が鳴った後、取り込みが完了して確認モード画面が表示されるまでは、FOMA端末を動かさないようにしっかりと固定してください。
・室内で撮影する場合、蛍光灯などの影響で画面がちらつくことがあります。この画像のちらつきを抑制するために、画像チューニング機能(P.251、P.260)をあらかじめ設定しておくことをおすすめします。ただし、薄暗いところや極端に明るいところでの撮影、および被写体の色あいなどによっては、ちらつきが完全に消えない場合がありますので、ご了承ください。
・撮影画面を表示したりカメラを切り替えたりカメラの設定を変更した直後は、明るさや色あいなどが最適に表示されるまでに時間がかかることがあります。

・「画像サイズ設定」を「352×288」以上のサイズに設定した場合、静止画撮影時のプレビュー画面では、画像サイズが縮小されて表示されます。

著作権について

・FOMA端末を利用して撮影または録音等したものを複製、編集等する場合は、著作権侵害にあたる利用方法はお控えいただくことはもちろん、他人の肖像を勝手に使用、改変等すると肖像権を侵害することとなりますので、そのような利用方法もお控えください。なお、実演や興行、展示物などのなかには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影または録音等が禁止されている場合がありますので、ご注意ください。

カメラ付き携帯電話を利用して撮影や画像送信を行う際は、プライバシー等にご配慮ください。

写真(静止画)を撮影します

内蔵カメラを使ってお好みの写真(静止画)を撮影できます。撮影した静止画は、保存時に選択した「イメージビューア」のフォルダにJPEG形式で保存されます。

●撮影した静止画は、miniSDメモリーカードへ直接保存できます。miniSDメモリーカードへ保存するときは、あらかじめminiSDメモリーカードをFOMA端末に取り付けておいてください。→P.363

●あらかじめ保存先を設定して静止画を撮影後、自動的に保存できます。→P.273

●明るさの調節や画像サイズの設定など、撮影前のカメラの応用機能を利用したいときは、P.266を参照してください。

●保存した静止画は「イメージビューア」で表示したり、加工したりすることができます。→P.294、P.296

1   **▶「カメラ」の順に選ぶ**

カメラ
1ムービーモード
2フォトモード
3連写モード
4チャンスキャプチャ
5ピクチャボイス
6メガピクセルフォト
7長時間ムービー
8ムービーリスト
9フォトリスト
選択 機能

お買い上げのときに、待受画面にある「カメラ」のデスクトップアイコンを選んでもカメラを起動できます。

撮影した静止画の一覧を表示する場合

「フォトリスト」を選ぶ

2 「フォトモード」または「メガピクセルフォト」を選んで撮影画面を表示させる

フォトモードの場合

マルチタスク機能使用時は「メガピクセルフォト」を起動することはできません。

空き容量を確認する場合

機能メニューから「保存容量確認」を選ぶ

カメラを切り替える場合

機能メニューから「内側カメラ」または「外側カメラ」を選ぶ
カメラを終了してもカメラ切り替えの設定は保持されます。
「1616×1212」、「1280×960」、「640×480」(VGA)サイズの静止画は、外側カメラ使用時のみ撮影できます。

---

3 ディスプレイ画面を見ながら撮影したい被写体を表示させる

必要に応じて、FOMA端末の開いた角度を調節して撮影画面を確認します。カメラに指などがかからないようにご注意ください。
3分以上ボタン操作を行わなかったときは、撮影画面が自動的に終了します。

画面がちらつく場合

機能メニューから「画像チューニング」を選んで走査周波数を地域によって「モード1(50Hz地域)」または「モード2(60Hz地域)」に変更する
画像チューニングは外側カメラ使用時のみ設定できます。カメラを終了しても画像チューニングの設定は保持されますので、撮影後は「自動」に戻しておいてください。
お買い上げのときは「自動」に設定されています。

---

4 FOMA端末が動かないようにしっかり固定して●[撮影]または▾[メモ／確認]を押す

撮影時にはシャッター音が鳴り、確認モード画面が表示されます。撮影した静止画を確認してください。
「自動保存設定」(P.273)を「ON」に設定している場合は、撮影後、設定した保存先(「イメージビューア」の「カメラ」フォルダまたはminiSDメモリーカード)に自動的に保存されます。
自動保存後は、撮影のやり直しや確認モード画面から静止画を加工したり、iモードメールを作成できません。

撮影をやり直す場合

◐[取消]またはCLRを押して「YES」を選ぶ
取り消し後、撮影画面に戻りますので撮影し直してください。

鏡像表示の場合

撮影した静止画を正像表示／鏡像表示に切り替える場合

機能メニューから「正像表示」または「鏡像表示」を選ぶ

「鏡像表示」を選ぶと、画像が左右反転します。

内側カメラ使用時やイルミネーション・ウィンドウでの確認モードの初期画面は、鏡像表示となります。本表示切替の状態にかかわらず、保存を行うと正像で保存されます。

撮影した静止画を加工する場合

機能メニューから「画像加工」を選んで「YES」を選んだ後、保存先を「本体」または「miniSD」から選び、保存先に「本体」を選んだ場合は保存するフォルダを選ぶ

選択したフォルダに撮影した静止画が保存され、加工を行うことができます。「NO」を選ぶと、撮影した静止画を保存せずに加工することができます。表示されたプレビュー画面の機能メニューから「フレーム合成」または「フォトレタッチ」を選んで設定します。

詳しい操作方法について→P.296

「メガピクセルフォト」のときや「フォトモード」で画像サイズを「640×480」に設定した保存前の静止画は加工することができません。

撮影した静止画をすぐにiモードメールに添付して送る場合

機能メニューから「iモードメール作成」を選ぶ

静止画が添付された新規iモードメールの作成画面が表示されます。→P.168

データ量によっては、静止画をiモードメールに添付することができない場合があります。→P.162

また、「メガピクセルフォト」で撮影した静止画はiモードメールに添付できません。

撮影した静止画を待受画面や代替画像などに設定する場合

機能メニューから「イメージ貼付」を選び、「本体」を選んで選択したフォルダに静止画を保存して、イメージの貼付先を選ぶ

miniSDメモリーカードを保存先として選択できません。

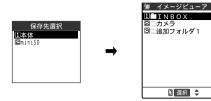
5 ●[保存]を押して「YES」を選ぶ

撮影した静止画を鏡像保存する場合

●[保存]を押す代わりに機能メニューから「鏡像保存」を選ぶ

確認モード画面で撮影した静止画が正像表示されていても鏡像で保存されます。

フレームを設定した静止画は鏡像保存できません。

6 保存先を「本体」または「miniSD」から選び、保存先に「本体」を選んだ場合は保存するフォルダを選ぶ

確認モード画面の正像表示／鏡像表示にかかわらず正像で保存されます。
続けて撮影する場合は、操作3～6を繰り返してください。

保存した静止画のファイル名について→P.289

ほかのモードに切り替える場合

続けて「連写モード」または「ムービーモード」に切り替えて撮影を行いたいときは、撮影画面で機能メニューから「カメラモード切替」を選んで切り替えたいモードを選ぶ

ZOOM（ズーム）を使って拡大します

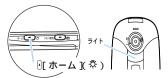
撮影画面で◎を押すごとに1段ずつ拡大されます。◎を押すと1段階ずつ縮小されます。ズームの設定を確定するには、●[確定]を押します。なお、2秒間ボタン操作を行わないと、設定は自動的に確定されます。
拡大できる倍率は次のとおりです。

外側／内側カメラ	画像サイズ	ズーム段階	最大倍率
外側カメラ	1616×1212	16段階	約4倍
	1280×960		約2倍
	640×480		約2.5倍
	352×288		約2.1倍
	待受（240×269）		約2.3倍
	メール大（176×144）		約4.2倍
	メール小（128×96）		約6.2倍
内側カメラ	メール大（176×144）	2段階	約2倍
	メール小（128×96）		

- 「画像サイズ設定」を「352×288」または「待受（240×269）」に設定して内側カメラで撮影するときは、ズームを使って拡大することができません。
- 調節する前は「標準」に設定されています。カメラを終了すると、「標準」の設定に戻ります。
- ズームは光学方式ではなくデジタル方式です。

ライトについて

室内など光量が少ない場所での撮影には、ライトを点灯させると便利です。ライトを点灯させるときは、外側カメラで撮影します。ライトは30秒間点灯させることができます。
「連写モード」（オート）、「ムービーモード」の場合は、ライトが点灯している間（30秒間）に撮影を開始すれば、撮影終了まで点灯させることができます。
ライトの「ON」／「OFF」の切り替えは、撮影画面で◐[点灯]または◐[消灯]を押すか、[ホーム]（☼）を押して行います。

- ライトを点灯後、機能メニューを表示させたときや機能メニューから設定を行っているときは、ライトは消灯します。機能メニューを終了したり設定を終了すると再度ライトは点灯します。

・暗闇での撮影では、ライトを点灯させても十分な明るさを得られない場合があります。また、周囲の光源によっては自然な色合いにならない場合があります。このときは「ホワイトバランス設定」(P.268)でお好みの色合いに調節してください。

フレームを設定して静止画を撮影する場合

撮影画面で機能メニューから「フレーム選択」を選んで設定するフレームを選びます。
フレーム一覧について→P.472
設定したフレームを解除する場合は機能メニューから「フレーム選択」－「OFF」を選びます。
撮影後、確認モード画面で機能メニューから「フレーム取替え」を選ぶとフレームを変更できますが、フレームを解除することはできません。
カメラのモードが「メガピクセルフォト」のときや「フォトモード」で画像サイズを「640×480」に設定した場合は、フレームを設定して撮影することはできません。
フレーム選択時に[デモ]を押すと、設定するフレームを確認できます。
フレームを設定後、FOMA端末を折り畳んで撮影することもできます。ただし、イルミネーション・ウィンドウでは設定したフレームは表示されません。

FOMA端末を折り畳んだまま静止画を撮影する場合

マルチタスク機能を使用していない待受画面表示中に、FOMA端末を閉じた状態で[メモ／確認]()を1秒以上押します。
撮影画面表示中にFOMA端末を折り畳んでも自動的に外側カメラに切り替わります。撮影画面で[メモ／確認]を1秒以上押すと、カメラを終了できます。
[メモ／確認]を押すとシャッター音が鳴り、撮影した画像がイルミネーション・ウィンドウに表示されます。FOMA 端末を開いて操作5に進みます。
FOMA端末を折り畳んだまま静止画を自動的に保存する場合は、あらかじめ「自動保存設定」(P.273)を「ON」に設定してから撮影してください。
・「サイドボタン操作」を「閉じた時無効」に設定すると、[ホーム]、[メモ／確認]が無効になり、撮影またはライトの点灯(P.254)ができなくなります。
・イルミネーション・ウィンドウの表示は、画面に合わせ縮小表示されますので、撮影時の目安としてください。

おしらせ

● 「画像保存設定」(P.270)で設定したファイル容量の上限を超えたときは、保存できないことを通知するメッセージが表示され、[選択]を押すと確認モード画面に戻ります。また、データ圧縮時にエラーが生じた場合は、撮影できなかったことを通知するメッセージが表示され、[選択]を押すと撮影画面に戻ります。
● 「画像保存設定」を「制限なし」に設定した場合、「iモードメール作成」を行うと、容量が大きすぎるときは、iモードメールを作成できないことを通知するメッセージが表示され、[選択]を押すと撮影モード画面に戻ります。また、データ圧縮時にエラーが生じた場合は、撮影できなかったことを通知するメッセージが表示され、[選択]を押すと撮影画面に戻ります。
● すでにFOMA端末の保存先のフォルダが最大保存件数まで保存されているときや容量がいっぱいのときは、不要になった画像を削除してから保存するかどうかのメッセージが表示されます。保存するときは「YES」を選んで不足容量の残りバイト数が0になるまで不要な画像を削除し、保存先を選択します。
保存先にminiSDメモリーカードを選択したときに、miniSDメモリーカード内の容量がいっぱいの場合は、容量がいっぱいであることを通知するメッセージが表示され、保存先選択の画面に戻ります。

連続写真を撮影します

連写モードにして静止画を連続撮影できます。撮影した連続写真は、自作アニメとして保存したり、静止画としてすべて保存したり、1枚ずつ選んで保存できます。連続写真を自作アニメとして保存した場合は、「イメージビューア」(P.294)でアニメーションのように再生できます。

●「連写切替」を「オート」に設定し、シャッターを押すと、設定した間隔で自動的に連続撮影したり、セルフタイマー(P.264)で撮影できます。また、「連写切替」を「マニュアル」に設定すると、シャッターを押すたびに静止画を連続して撮影できます。
●あらかじめ保存先を設定して連続写真を撮影後、自動的に保存できます。→P.273
●連続撮影中にFOMA端末を閉じると撮影が終了します。また、「連写切替」を「マニュアル」に設定している場合はCLRを押しても撮影を終了できます。

<例：「連写切替」を「オート」にして撮影した連続写真をすべて保存する場合>

1 「連写モード」を選んで撮影画面を表示させる→P.251

2 ディスプレイ画面を見ながら撮影したい被写体を表示させる

マニュアルで連続撮影する場合

1 枚ずつシャッターを押して静止画を連続撮影するには、機能メニューから「連写切替」ー「マニュアル」を選ぶ

連続枚数を変更する場合

連続撮影する枚数を変更するには、機能メニューから「撮影間隔／枚数」ー「撮影枚数」を選んで撮影枚数を入力する

撮影できない枚数の数値を入力すると、設定できない数値であることを通知するメッセージが表示されます。

連続撮影できる静止画の枚数は、「画像サイズ設定」が、「メール大(176×144)」、「メール小(128×96)」の場合は5～20枚、「待受(240×269)」の場合は5～10枚です。

「画像サイズ設定」が「352×288」の場合は、連続撮影できる枚数は4枚となり、「撮影枚数」を選択できません。

撮影枚数を11枚以上に設定したときに「画像サイズ設定」を「待受(240×269)」に変更した場合は、撮影枚数は10枚に設定されます。

連続撮影する間隔を変更する場合

連続撮影する速度を変更するには、機能メニューから「撮影間隔／枚数」ー「撮影間隔」を選んで撮影間隔を選ぶ

「0.5秒」、「1.0秒」、「2.0秒」から撮影間隔を選択できます。ただし、「画像サイズ設定」が「352×288」の場合は、「0.5秒」を選べません。

ズームを使用するには→P.254
ライトを使用するには→P.254

3 FOMA端末が動かないようにしっかり固定して[連写]または[メモ／確認]を押す

撮影するたびにシャッター音が鳴ります。
撮影が終了すると、確認モード画面が表示されます。
を押すと静止画が青枠で囲まれます。このとき[選択] を押すと、枠の色が赤く変わり選択状態になります。すべての静止画を選択状態にする場合は、機能メニューから「全選択」を選びます。
静止画の選択状態を解除するには、解除する静止画を選んで[選択]を押します。すべての選択状態を解除するには機能メニューから「全解除」を選びます。

静止画を選んで詳細表示する場合

静止画をで選んで[詳細]を押す
青枠で囲まれた静止画が表示されます。

鏡像表示の場合

撮影した連続写真を正像表示／鏡像表示に切り替える場合

機能メニューから「正像表示」または「鏡像表示」を選ぶ
すべての静止画の表示が切り替わります。「鏡像表示」を選ぶと、画像が左右反転します。
内側カメラ使用時の確認モード初期画面は、鏡像表示となります。

4 機能メニューから「全保存」を選んで「保存」または「鏡像保存」を選び、「YES」を選ぶ

「保存」を選んだ場合は、正像保存されます。確認モード画面の正像表示／鏡像表示にかかわらず、操作4で選んだ内容で保存されます。

連続写真すべてを自作アニメとして保存する場合

機能メニューから「全保存＆自作アニメ」を選ぶ
「YES」を選んで保存するフォルダを選んだ後、リンクファイル（アニメーションファイル）を保存する項目を選びます。
「全保存＆自作アニメ」を選んだ場合は、miniSDメモリーカードに保存することはできません。

選んだ静止画のみ保存したいとき

静止画を選んで機能メニューから「選択保存」を選んで「YES」を選ぶ
詳細表示画面で機能メニューから「保存」を選んで「YES」を選ぶと、詳細表示されている静止画を保存することもできます。選択保存した静止画は、確認モード画面には表示がなくなります。

5 保存先を「本体」または「miniSD」から選び、保存先に「本体」を選んだ場合は保存するフォルダを選ぶ

続けて撮影する場合は、操作3～5を繰り返してください。

おしらせ

- 「画像サイズ設定」を「352×288」に設定したときは、撮影間隔は「1.0秒」になります。また、「画像サイズ設定」を「352×288」からそれ以外のサイズに変更したときは、撮影枚数は5枚になります。
- 「全保存＆自作アニメ」を選んで連続写真を保存した場合は、保存時に選択した「イメージビューア」のフォルダに静止画が保存され、「イメージビューア」の「自作アニメ」フォルダに自作アニメへのリンクファイル（アニメーションファイル）が保存されます。自作アニメおよび静止画のファイル名は、保存後に「イメージビューア」で変更できます。
- 撮影した連続写真を静止画として保存した場合は、保存時に選択した「イメージビューア」のフォルダに個々の静止画として保存されます。「自作アニメ設定」で連続写真に含まれる静止画を差し替えることができます。→P.304
- 撮影した連続写真を静止画として保存したときは、「イメージビューア」で加工できます。→P.296
- 「画像保存設定」（P.270）で設定したファイル容量の上限を超えたときは、保存できないことを通知するメッセージが表示され、◉［選択］を押すと確認モード画面に戻ります。また、データ圧縮時にエラーが生じた場合は、撮影できなかったことを通知するメッセージが表示され、◉［選択］を押すと撮影画面に戻ります。
- すでにFOMA端末の保存先のフォルダが最大保存件数まで保存されているときや容量がいっぱいのときは、不要になった画像を削除してから保存するかどうかのメッセージが表示されます。保存するときは「YES」を選んで不足容量の残りバイト数が0になるまで不要な画像を削除し、保存先を選択します。→P.307
  保存先にminiSDメモリーカードを選択したときに、miniSDメモリーカード内の容量がいっぱいの場合は、容量がいっぱいであることを通知するメッセージが表示され、保存先選択の画面に戻ります。

写真（静止画）に音声を加えます　〈ピクチャボイス〉

撮影した写真に音声を追加することができます。

- 本機能で保存した音声を追加した写真は、動画として保存時に選択した「ムービープレーヤー」のフォルダに保存されます。保存した後、「ムービープレーヤー」を使って再生したり、動画の一部を切り出したり（P.315）、iモードメールに添付して送信することもできます。→P.321
- 本機能は、新規で撮影した写真またはフォトリストに保存されている写真のみ有効な機能です。ダウンロードした写真は使用できません。

＜例：新規に撮影した写真に音声を追加して送信するとき＞

1 「ピクチャボイス」ー「フォトモード」を選んで撮影画面を表示させる→P.251

FOMA端末に保存されている写真に音声を追加する場合

「フォトリスト」を選ぶ

画像の一覧画面で選べる画像サイズは「メール大（176×144）」、「メール小（128×96）」のみです。

写真の選択について→P.294

2 ◉［撮影］または▾［メモ／確認］を押して静止画を撮影する
→P.251

3 ◉［録音］または▾［メモ／確認］を押して音声を録音する

写真と音声の合計のデータ量が95Kバイトを超えると録音は自動的に停止されます。

4 ◉［停止］または▾［メモ／確認］を押して録音を終了する

iモードメールに添付して送信する場合

機能メニューから「iモードメール作成」を選び、必要なときはタイトルを編集して◉［確定］を押す

動画が添付された新規iモードメールの作成画面が表示されます。→P.168

5 ◉［保存］を押して「YES」を選び、必要なときはタイトルを編集して◉［確定］を押す

6 保存先を「本体」または「miniSD」から選び、保存先に「本体」を選んだ場合は保存するフォルダを選ぶ

おしらせ

- 本機能起動中に「画像サイズ設定」を変更する場合、「メール(大)」、「メール(小)」以外は選ぶことができません。また、「画像サイズ設定」が「メール(大)」、「メール(小)」以外のサイズに設定されている場合は、本機能を起動すると設定は「メール大(176×144)」となります。

動画を撮影します

内蔵カメラを使って音声付きの動画を撮影できます。映像のみ・音声のみの撮影を行うこともできます。→P.270
「ムービーモード」で撮影した動画は、保存時に選択した「ムービープレーヤー」のフォルダに保存されます。「長時間ムービー」では、連続して最大で約60分までの動画をminiSDメモリーカードに保存できます。

●撮影時間は被写体などの撮影条件によって異なります。
●動画撮影中にFOMA端末を閉じると撮影が終了します。
●「ムービーモード」で撮影した動画は、miniSDメモリーカードへ直接保存できます。「ムービーモード」でminiSDメモリーカードへ保存するときや、「長時間ムービー」で撮影するときは、あらかじめminiSDメモリーカードをFOMA端末に取り付けておいてください。→P.363
●「ムービーモード」ではあらかじめ保存先を設定して動画を撮影後、自動的に保存できます。→P.273
●内側カメラで撮影した動画は、確認モードでは鏡像表示されますが、再生や保存を行うと正像となります。動画の鏡像表示での再生や保存はできません。
●明るさの調節や画像サイズの設定など、撮影前のカメラの応用機能を利用したいときは、P.266を参照してください。
●撮影した動画は「ムービープレーヤー」で再生したり、編集することができます。→P.308、P.313

1 ▶「カメラ」の順に選ぶ

カメラ
①ムービーモード
②フォトモード
③連写モード
④チャンスキャプチャ
⑤ピクチャボイス
⑥メガピクセルフォト
⑦長時間ムービー
⑧ムービーリスト
⑨フォトリスト
選択　機能

お買い上げのときに、待受画面にある「カメラ」のデスクトップアイコンを選んでもカメラを起動できます。

撮影した動画の一覧を表示する場合
　「ムービーリスト」を選ぶ

2 「ムービーモード」または「長時間ムービー」を選んで撮影画面を表示させる

FILE M NORMAL
STAND BY
ZOOM W T 176×144
点灯 ±0 撮影 機能

マルチタスク機能使用時は「長時間ムービー」を起動することはできません。

空き容量を確認する場合
　機能メニューから「保存容量確認」を選ぶ

カメラを切り替える場合
　機能メニューから「内側カメラ」または「外側カメラ」を選ぶ
　カメラを終了してもカメラ切り替えの設定は保持されます。

ライトを使用するには→P.254
ズームを使用するには→P.254

3 撮影画面を見ながら撮影したい被写体を表示させる

3分以上ボタン操作を行わなかったときは、撮影画面が自動的に終了します。

画面がちらつく場合

機能メニューから「画像チューニング」を選んで走査周波数を地域によって「モード1(50Hz地域)」または「モード2(60Hz地域)」に変更する
画像チューニングは外側カメラ使用時のみ設定できます。カメラを終了しても画像チューニングの設定は保持されますので、撮影後は「自動」に戻しておいてください。
お買い上げのときは「自動」に設定されています。

4 FOMA端末が動かないようにしっかり固定して● [撮影] または ▾ [メモ／確認] を押す

撮影開始時には撮影開始音が鳴り、撮影中の映像が画面に表示されます。
撮影中は着信ランプが点滅します。
被写体などの撮影条件によりデータ量が異なるため、撮影中に表示される撮影残り時間は目安としてください。
設定した動画容量になると撮影を終了したことを通知するメッセージが表示されます。● [選択] を押すと操作5の確認モード画面が表示されます。

5 ● [終了] または ▾ [メモ／確認] を押して撮影を終了する

撮影終了時には撮影終了音が鳴り、確認モード画面が表示されます。
◐ [再生] を押すと、撮影した動画を再生できます。
撮影時のマイク感度は「オリジナルマナー」の「通話中マイク感度」の設定にかかわらず、「標準」の設定になります。

「長時間ムービー」で動画を撮影した場合

撮影した動画がminiSDメモリーカードに自動的に保存されます。
「ムービーモード」で「自動保存設定」を「ON」に設定している場合は、撮影後、設定した保存先(「ムービープレーヤー」の「カメラ」フォルダまたはminiSDメモリーカード)に自動的に保存されます。
自動保存後は、撮影のやり直しや、確認モード画面からiモードメールを作成できません。

撮影をやり直したい場合

機能メニューから「取り消し」を選んで「YES」を選ぶ
取り消し後、撮影画面に戻りますので撮影し直してください。

撮影した動画をすぐにiモードメールに添付して送る場合

機能メニューから「iモードメール作成」を選び、必要なときはタイトルを編集して● [確定] を押す
動画が添付された新規iモードメールの作成画面が表示されます。
→P.168
データ量によっては、動画をiモードメールに添付することができない場合があります。→P.162
「動画容量設定」(P.272)で「動画メモ」に設定して撮影すると、iモードメールに添付できる容量を超えてiモードメールに添付して送れない場合があります。

撮影した動画を待受画面に設定する場合

機能メニューから「待受画面設定」を選んで「YES」を選び、必要なときはタイトルを編集して保存先を選ぶ
「長時間ムービー」で撮影してminiSDメモリーカードに保存した動画は、待受画面に設定できません。

6 ●[保存]を押して「YES」を選び、必要なときはタイトルを編集して●[確定]を押す

保存した動画のタイトル、ファイル名について→P.289

7 保存先を「本体」または「miniSD」から選び、保存先に「本体」を選んだ場合は保存するフォルダを選ぶ

➡

続けて撮影する場合は、操作4〜7を繰り返してください。

ほかのモードに切り替える場合

続けて「フォトモード」または「連写モード」に切り替えて撮影を行いたいときは、撮影画面で機能メニューから「カメラモード切替」を選んで切り替えたいモードを選ぶ

ZOOM(ズーム)を使って拡大します

◎を押すごとに1段ずつ拡大されます。◎を押すと1段ずつ縮小されます。動画撮影中もズームの設定を行うことができます。

ズームの設定を確定するには、●[確定]を押します。なお、2秒間ボタン操作を行わないと、設定は自動的に確定されます。

拡大できる倍率は次のとおりです。

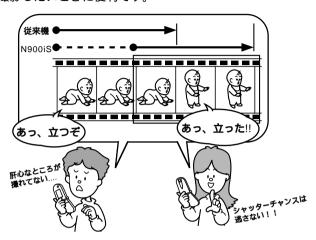
外側／内側カメラ	画像サイズ	ズーム段階	最大倍率
外側カメラ	サイズ大(176×144)	16段階	約4.2倍
	サイズ小(128×96)		約6.2倍
内側カメラ	サイズ大(176×144)	2段階	約2倍
	サイズ小(128×96)		

・「撮影種別設定」を「音声のみ」に設定している場合は、ズームを使って拡大することはできません。
・調節する前は「標準」に設定されています。カメラを終了すると、「標準」の設定に戻ります。
・ズームは光学方式ではなくデジタル方式です。
・動画撮影中にズーム調節などのボタン操作を行った場合、その音が録音されることがあります。

おしらせ

●「長時間ムービー」をご使用時に、撮影中に表示される撮影残り時間がなくなって終了した場合でも、被写体などの撮影条件によりデータ量が異なるため、miniSDメモリーカードに空き容量が残ることがあります。

大切な場面をのがさず撮影します 〈チャンスキャプチャ〉

内蔵カメラを使って動画を撮影するときに、本機能を利用すると撮影可能時間を過ぎても撮りたい場面まで撮影を続けることができるので、大切な場面をのがさずに動画を撮影したいときに便利です。

●撮影した動画は、撮影を終了した時点から撮影可能な時間分（お買い上げのときは約15秒）までさかのぼって撮影開始位置として保存されます。それ以前に撮影した部分は保存されません。

●撮影可能容量を超える前に撮影を終了した場合は、「ムービーモード」と同様に撮影開始時から撮影終了時までが保存されます。

1 「チャンスキャプチャ」を選んで撮影画面を表示させる→P.260

2 動画を撮影する→P.260

動画撮影中の残り撮影時間表示は、撮影可能容量を超えると「XX：XX」と表示されます。

セルフタイマーを使って撮影します

撮影する前にタイマーを設定しておくと、セルフタイマーで静止画、連続写真、動画を撮影できます。シャッターを自分で押さなくても自動的に撮影してくれるので、撮影時の手ぶれを防ぎたいときや自分も入った撮影をするときに利用すると便利です。

●「連写モード」で撮影時に「連写切替」を「マニュアル」にした場合は、セルフタイマーを使うことはできません。
●撮影が終了すると、セルフタイマーの設定は「OFF」に戻ります。ただし、作動時間の設定は、カメラを終了しても保持されます。
●セルフタイマー作動中にFOMA端末を閉じると、セルフタイマーは中止されカウントはクリアされますが、セルフタイマーの設定は継続しています。

1 Menu ▶ アクセサリ ▶「カメラ」の順に選ぶ

お買い上げのときに、待受画面にある「カメラ」のデスクトップアイコンを選んでもカメラを起動することができます。

2 撮影したいカメラのモードを選んで撮影画面を表示させる

3分以上ボタン操作を行わなかったときは、撮影画面が自動的に終了します。

3 機能メニューから「セルフタイマー設定」を選んで「ON」を選ぶ

4 撮影が開始されるまでの作動時間(01～15秒)を設定する

お買い上げのときは「10秒」に設定されています。
時間は2桁で入力します。1～9秒に設定するときは「01」～「09」と入力します。
01～15以外の数字を入力すると、設定できない数値であることを通知するメッセージが表示されます。

5 撮影画面を見ながら撮影したい被写体を表示させる

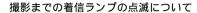
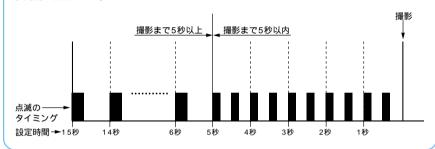
FOMA端末を机などの上に置いて撮影すると安定します。

[撮影]または[メモ／確認]を押してセルフタイマーで撮影する

セルフタイマーの開始音が鳴り、セルフタイマーが動きます。タイマー作動中は、「」が点滅します。撮影の5秒前から1 秒ごとに「ピピッ」音が鳴ります。
設定した時間が経つと撮影開始音が鳴り、撮影が開始されます。

セルフタイマーを解除する場合

セルフタイマー動作中にまたはを押す

撮影までの着信ランプの点滅について

撮影の5秒前までは1秒ごとに着信ランプが青色に、、がオレンジ色に点滅します。撮影の5秒以内になると、0.5秒間隔で点滅します。タイマーを5秒以内に設定した場合は、最初から0.5秒間隔で点滅します。

カメラの応用機能を利用します

お好みや用途に合わせて設定して撮影したいときなどは、次のような設定をすると便利です。
設定できる機能は次のとおりです。

機能名	設定の内容	設定できるカメラのモード	設定のタイミング	カメラ終了後の設定	参照ページ
明るさ調節	画像の明るさを調節する	すべてのカメラモード	撮影前	保持されない	P.267
撮影モード選択	状況に合わせた撮影モードにする	すべてのカメラモード	撮影前	保持されない	P.267
ホワイトバランス設定	撮影時の光源に合わせて自然な色合いに調節する	すべてのカメラモード	撮影前	保持される	P.268
色調切替	セピア色(黒茶色)や白黒で撮影できるようにする	すべてのカメラモード	撮影前	保持されない	P.268
画像サイズ設定	撮影する画像サイズを変更する	すべてのカメラモード	撮影前	保持される	P.269
表示サイズ設定	画面表示サイズを変更する	フォトモード／連写モード	撮影前／撮影後	保持される(撮影時の設定)	P.270
		ピクチャボイス			
		ムービーモード／チャンスキャプチャ／長時間ムービー			
撮影種別設定	映像のみ、音声のみの撮影を行う	ムービーモード／チャンスキャプチャ／長時間ムービー	撮影前	保持されない	P.270
画像保存設定	静止画の保存容量を変更する	フォトモード／連写モード	撮影前	保持されない	P.270
		ピクチャボイス			
動画保存設定	動画の画質を変更する	ムービーモード／チャンスキャプチャ／長時間ムービー	撮影前	保持される	P.271
動画容量設定	動画のファイル容量を変更する	ムービーモード／チャンスキャプチャ	撮影前	保持される	P.272
シャッター音選択	シャッター音を選ぶ	すべてのカメラモード	撮影前	保持される	P.272
自動保存設定	撮影後の保存方法を変更する	メガピクセルフォト／フォトモード／連写モード	撮影前	保持される	P.273
		ムービーモード／チャンスキャプチャ			
保存容量確認	カメラ画像とダウンロード画像の保存容量を確認する	すべてのカメラモード	撮影前	―	P.274
ファイル制限	自分が送付した静止画や動画を送信先(相手)が送信／転送をできないようにする／できるようにする	メガピクセルフォト／フォトモード／連写モード	撮影前／撮影後／保存後※	保持される	P.274
		ピクチャボイス			
		ムービーモード／チャンスキャプチャ			

※：撮影して保存した後に設定を行うには、静止画および連続写真の場合は、「イメージビューア」で、動画の場合は、「ムービープレーヤー」で行います。

操作の流れ

ここでは、カメラの応用機能を設定する操作の流れを説明します。

1 Menu ▶ アクセサリ ▶「カメラ」の順に選ぶ

お買い上げのときに、待受画面にある「カメラ」のデスクトップアイコンを選んでもカメラを起動することができます。

2 カメラモードを選んで撮影画面を表示させる

3 機能メニューから設定したい機能を選んでそれぞれの操作を行う

➡
➡
フォトモードの場合

機能名について→P.266

明るさを調節します 〈明るさ調節〉

お買い上げ時	±0

1 明るさを調節する画面で明るさの調節をする

◀を押すと暗くなり、▶を押すと明るくなります。
−2〜±0〜+2の5段階で調節できます。
−2： 暗くなります。
−1： やや暗くなります。
±0： 標準。
+1： やや明るくなります。
+2： 明るくなります。
明るさを調節時に、2秒間ボタン操作を行わないと、設定は自動的に確定されます。

撮影モードを選びます 〈撮影モード選択〉

お買い上げ時	風景

●連写モードでは「ナイトモード」に、ムービーモード、チャンスキャプチャ、長時間ムービーでは「ナイトモード」、「スポーツモード」に設定することはできません。

1 撮影モード選択画面で撮影モードを選ぶ

風景　：風景などを撮影するときに適したモードです。
ポートレート　：人物などを撮影するときに適したモードです。
接写　：接近して撮影するときに適したモードです。
スポーツモード：動きの速い被写体を撮影するときに適したモードです。メガピクセルフォト、フォトモード、連写モードで外側カメラ使用撮影時に選択できます。
ナイトモード　：暗いところで撮影するときに適したモードです。メガピクセルフォト、フォトモード撮影時のみ選択できます。

カメラを終了すると、設定は「風景」に戻ります。

おしらせ

- 「ナイトモード」に設定すると、撮影時に画面がちらつくことがあります。
- 「ナイトモード」で撮影時に手ぶれしてしまう場合は、「ナイトモード」以外の撮影モードに設定してください。
- 「スポーツモード」のときに、カメラモードを「ムービーモード」に切り替えたり、内側カメラに切り替えると「風景」に戻ります。また、「ナイトモード」のときに、「ムービーモード」、「連写モード」に切り替えたときも「風景」に戻ります。

光源に合った自然な色合いに調節します〈ホワイトバランス設定〉

お買い上げ時	オート

1 ホワイトバランス設定画面で撮影する画質を選ぶ

オート：自動的にホワイトバランスが調節されます。
晴天　：晴天の屋外で撮影するときに設定します。
曇天　：曇天や日陰、夕刻などに撮影するときに設定します。
電球　：電球などの照明のもとで撮影するときに設定します。

おしらせ

- 暗い場所での撮影時やライトを使用した撮影時は、最適な色合いにならない場合があります。この場合は、本機能を設定することによりお好みの色合いに調節することができます。

セピア色や白黒で撮影できるようにします〈色調切替〉

お買い上げ時	通常

1 色調切替を設定する画面で撮影モード（色）を選ぶ

通常　：カラーで撮影されます。
セピア：セピア色（黒茶色）で撮影されます。
白黒　：白黒で撮影されます。

カメラを終了すると、設定は「通常」に戻ります。

撮影する画像サイズを変更します 〈画像サイズ設定〉

お買い上げ時	メガピクセルフォト：1616×1212 フォトモード・連写モード・ピクチャボイス：メール大(176×144) ムービーモード・チャンスキャプチャ・長時間ムービー：サイズ大(176×144)

選択できる画像サイズは次のとおりです。

画像サイズ	設定できるカメラのモード	設定の内容
1616×1212	メガピクセルフォト	ヨコ1616×タテ1212ドットに設定されます。外側カメラで設定できます。
1280×960	メガピクセルフォト	ヨコ1280×タテ960ドットに設定されます。外側カメラで設定できます。
640×480	フォトモード	VGAサイズ(ヨコ640×タテ480ドット)に設定されます。外側カメラで設定できます。
352×288	フォトモード／連写モード	CIFサイズ(ヨコ352×タテ288ドット)に設定されます。
待受(240×269)	フォトモード／連写モード	待受画面用のサイズ(ヨコ240×タテ269ドット)に設定されます。
メール大(176×144)	フォトモード／連写モード	ヨコ176×タテ144ドットに設定されます。
	ピクチャボイス	
サイズ大(176×144)	ムービーモード／チャンスキャプチャ／長時間ムービー	
メール小(128×96)	フォトモード／連写モード	ヨコ128×タテ96ドットに設定されます。
	ピクチャボイス	
サイズ小(128×96)	ムービーモード／チャンスキャプチャ／長時間ムービー	

<例：フォトモードの場合>

画像サイズ設定画面で撮影する画像サイズを選ぶ

おしらせ

- 画像サイズの設定を変更すると、ズームの設定は「標準」の設定に戻ります。
- 「メガピクセルフォト」起動後にほかのカメラモードを起動すると、「画像サイズ設定」はお買い上げのときの設定に戻ります。
- 画像サイズ設定を変更すると、それぞれのカメラモードに反映されます。ただし、それぞれのカメラモードで設定できない画像サイズの場合は、お買い上げ時の画像サイズに戻ります。

画面表示サイズを変更します 〈表示サイズ設定〉

お買い上げ時	等倍表示

●「画像サイズ設定」を「待受（240×269）」以上のサイズに設定しているときは、常に画面サイズで表示され、表示サイズの変更はできません。
●「メガピクセルフォト」のときは画面表示サイズを変更できません。

1 表示サイズ設定画面で表示サイズを選ぶ

等倍表示　　　　　：画像を等倍サイズで表示します。
画面サイズで表示：画像を画面サイズに合わせて表示します。

おしらせ

●「フォトモード」、「連写モード」、「ピクチャボイス」、「ムービーモード」、「チャンスキャプチャ」で撮影後、確認モード画面で機能メニューを表示させ、同様に設定できます。ただし、カメラ終了後は撮影画面での設定が保持されます。

映像のみ・音声のみの撮影を行います 〈撮影種別設定〉

お買い上げ時	通常

●「音声のみ」を設定した場合は、機能メニューから「明るさ調節」、「撮影モード選択」、「ホワイトバランス設定」、「色調切替」、「画像サイズ設定」、「表示サイズ設定」、「動画保存設定」、「画像チューニング」を設定することはできません。また、カメラを切り替えたり、ライトを点灯させることもできません。

1 撮影種別設定画面で撮影する種別を選ぶ

通常　　：映像・音声ともに撮影します。
映像のみ：映像のみを撮影します。
音声のみ：音声のみを録音します。
音声のみを選んだ場合は、音声のみを録音中であることを通知する画面が表示されます。

保存時のファイル容量を設定します 〈画像保存設定〉

画像を保存するときのファイル容量を、メール添付可能な容量に制限します。

1 画像保存設定画面で保存容量を選ぶ

制限なし　　　　：600Kバイトまでの画像ファイルを保存できます。
大容量メール制限：大きいサイズ（100Kバイトまで）の画像をiモードメールに添付して利用するときは、この設定にします。
メール制限　　　：画像をiモードメールに添付して利用するときは、通常この設定にします。

お買い上げのときは「画像サイズ設定」を「352×288」以下に設定している場合は「メール制限」、「640×480」に設定している場合は「大容量メール制限」に設定されています。
メガピクセルフォトで撮影した静止画は「制限なし」に設定され、変更することはできません。

おしらせ

- 「画像サイズ設定」を「640×480」に設定している場合は、「メール制限」に設定することはできません。
- 「画像保存設定」を「制限なし」に設定した場合、「フォトモード」や「連写モード」で撮影した静止画を添付してiモードメールを作成しようとすると、容量が大きすぎるときは、iモードメールを作成できないことを通知するメッセージが表示され、●[選択]を押すと確認モード画面に戻ります。また、データ圧縮時にエラーが生じた場合は、撮影できなかったことを通知するメッセージが表示され、●[選択]を押すと撮影画面に戻ります。
- 「画像保存設定」を「大容量メール制限」または「メール制限」に設定した場合、画質が劣化することがあります。

画質を設定します　〈動画保存設定〉

お買い上げ時	標準

動画を撮影するときの画質を設定できます。

- 「撮影種別設定」で「音声のみ」を選んだ場合は、画質を設定できません。

1 動画保存設定画面で撮影する画質を選ぶ

動画保存設定をする場合（ムービーモードの場合）

標準　　：画質、撮影時間ともに標準の設定です。
画質優先：1コマごとの画質または音質は向上しますがコマ数は減ります。動きがなめらかではなくなりますので、動きの少ない撮影向きです。
時間優先：1コマごとの画質が落ちますが、撮影時間は長くなります。コマ数は減ります。

動画のファイル容量を変更します 〈動画容量設定〉

お買い上げ時	メール

「ムービーモード」で撮影するファイル容量を設定できます。「動画メモ」を選ぶと撮影時間を長くすることができます。

1 動画容量設定画面でファイルの容量を選ぶ

メール　：撮影した動画をiモードメールに添付して利用するときは、この設定にします。1つの動画につき95Kバイトまで保存できます。
動画メモ：長く撮影するときは、この設定にします。1つの動画につき800Kバイトまで保存できます。

シャッター音を選びます 〈シャッター音選択〉

お買い上げ時	シャッター音1

撮影するときに鳴るシャッター音を設定できます。
本機能で設定される各撮影モードでのシャッター音は次のとおりです。

撮影モード		シャッター音
メガピクセルフォト／フォトモード／ピクチャボイス		撮影時音
連写モード	オート	撮影時音
	マニュアル	撮影時音
ムービーモード／チャンスキャプチャ／長時間ムービー		撮影時音、撮影終了音

●セルフタイマー撮影時の撮影時音、撮影終了音も設定されます。ただし、セルフタイマーの動作が開始してから撮影するまで鳴るタイマー音は設定されません（タイマー音は固定）。
●「メガピクセルフォト」、「フォトモード」、「ピクチャボイス」、「連写モード」のいずれかでシャッター音を設定すると、これらのカメラモードのすべてに反映されます。また、「ムービーモード」、「チャンスキャプチャ」、「長時間ムービー」のいずれかでシャッター音を設定すると、これらのカメラモードのすべてに反映されます。

1 シャッター音選択画面でシャッター音を選ぶ

シャッター音1〜3を◎で選ぶと、シャッター音が一定の音量で鳴ります。

おしらせ

● マナーモード設定中は、シャッター音を選択しても確認用のシャッター音は鳴りません。ただし、マナーモード設定中の動作を「オリジナルマナー」に設定した場合、その設定内容によってはシャッター音が鳴ります。

写真（静止画）や動画を自動的に保存します 〈自動保存設定〉

お買い上げ時	OFF

自動保存設定を「ON」に設定すると、静止画や動画を撮影後、保存の操作をしないで「イメージビューア」／「ムービープレーヤー」の「カメラ」フォルダ、またはminiSDメモリーカードに自動的に保存することができます。

●「連写モード」で自動保存設定を「ON」に設定している場合は、連続写真を撮影後、「全保存」ですべての連続写真が自動保存され、リンクファイル（アニメーションファイル）は保存されません。

●撮影時に鏡像表示で静止画を撮影しても正像で自動保存されます。

1 自動保存設定画面で「ON」を選ぶ

自動保存しない場合は「OFF」を選びます。

2 自動保存先を「本体」または「miniSD」から選ぶ

おしらせ

●「画像保存設定」で設定したファイル容量の上限を超えた場合は、自動保存設定を「ON」に設定していても自動保存されず、保存できないことを通知するメッセージが表示されます。◉［確認］を押すと確認モード画面に戻ります。

● 自動保存先として「本体」を設定した場合、「イメージビューア」や「ムービープレーヤー」の容量がいっぱいのときは不要な静止画または動画を削除してから保存するかどうかのメッセージが表示されます。保存するときは「YES」を選んで削除する静止画または動画を選びます。自動保存先として「miniSDメモリーカード」を設定した場合、miniSDメモリーカード内の容量がいっぱいのときは容量がいっぱいであることを通知するメッセージが表示され、保存先選択の画面に戻ります。

保存されている容量を確認します　〈保存容量確認〉

撮影した静止画または動画を保存するFOMA本体のフォルダ内と、miniSDメモリーカード内の空きデータ、保存データの容量を確認できます。
<例：フォトモードの場合>

1　保存容量確認画面で保存容量を確認する

保存容量確認
イメージ
空きデータ：　335Kﾊﾞｲﾄ
保存データ：1665Kﾊﾞｲﾄ
miniSD
空きデータ：　13Mﾊﾞｲﾄ
保存データ：　304Kﾊﾞｲﾄ

miniSDメモリーカードをFOMA端末に取り付けていないときは、miniSDメモリーカードの保存容量は表示されません。

送付先から送信／転送できないようにします　〈ファイル制限〉

お買い上げ時	なし

撮影した静止画や動画を、送付先のFOMA端末から送信／転送できないように設定できます。「ファイル制限」を「あり」に設定すると、送付先では撮影した静止画や動画をiモードメールに添付するなど、FOMA端末外に出力することができなくなります。

●「ファイル制限」を「あり」に設定した場合でも、赤外線通信機能で送信したときや、miniSDメモリーカードへエクスポートした静止画や動画は、送信先からFOMA端末外へ出力できます。

ファイル制限を設定する画面でファイル制限の設定項目を選ぶ

なし：撮影した静止画や動画を送付先のFOMA端末から送信／転送できます。
あり：撮影した静止画や動画を送付先のFOMA端末から送信／転送できなくなります。

連続写真を選択してファイル制限を設定する場合
確認モード画面で設定したい連続写真を選んで機能メニューから「選択ファイル制限」を選んで「あり」を選ぶ
「全ファイル制限」を選ぶと、すべての連続写真にファイル制限を設定できます。

おしらせ

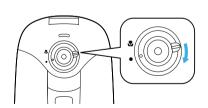
● 静止画や動画を撮影後、確認モード画面で機能メニューを表示させ、同様に設定することもできます。この場合は、撮影した静止画や連続写真に含まれる静止画、動画を保存する前に設定してください。
● 静止画または動画を撮影して保存した後、ファイル制限を設定する場合は、「フォトリスト」または「ムービーリスト」の一覧画面で設定したい静止画や連続写真に含まれる静止画、動画を選んで機能メニューから設定します。「イメージビューア」（静止画、連続写真の場合）または「ムービープレーヤー」（動画の場合）からも設定できます。

カメラで文字を読み取ります

内蔵カメラを使って、印刷されている電話番号やメールアドレス、URLなどを文字として認識して読み取り、文字情報として登録できます。登録した文字情報を使って電話をかけたり、メールの宛先に使ったり、インターネットホームページを表示したりできます。

●読み取った文字情報は、8件まで登録できます。1件につき256文字までの半角文字を認識させることができます。
●認識できる文字は、半角の英字(大文字・小文字)と半角の数字、半角の記号の「@」「:」「/」「(」「)」「.」「_」「-」「~」「=」「?」「&」「%」「#」です。漢字やひらがななど、全角の文字は認識できません。文字が一定の間隔で印刷されているものや、汚れやかすれ、折れ目やしわなどがなく、状態の良い印刷物などは、比較的簡単に認識することができます。
●FOMA端末が揺れたりしないように、しっかり持って操作してください。FOMA端末の下に手を添えたり、雑誌の上に置いたりすると、FOMA端末の揺れを少なくすることができます。
●手書きの文字は認識することができません。また、FAXされたものやコピーしたもの、デザインされた文字や文字の間隔が一定でないもの、文字と背景が区別しにくいものなどは、正しく認識できない場合があります。
●待受画面にアクセスリーダーをデスクトップアイコンとして貼り付けると、すばやく機能を呼び出すことができます。→『基本編』のP.170

外側カメラのレンズを切り替えます

●文字を読み取るときは、外側カメラのレンズをレンズ切替スイッチで🌷(マクロレンズ)に切り替えて行います。

レンズ切替スイッチを切り替えるときは、レンズに指がかからないようにして●(標準レンズ)、🌷(マクロレンズ)それぞれの位置までしっかりとスイッチを回し、途中で止めないでください。
🌷(マクロレンズ)に切り替えてカメラを使用したあとは、●(標準レンズ)に戻しておくことをおすすめします。

文字を読み取ります

<例：メールアドレスを2回に分けて読み取る場合>

1 ▶「アクセスリーダー」の順に選ぶ

フォトモードの撮影画面で機能メニューから「アクセスリーダー」を選んでもアクセスリーダーを起動することができます。
すでに文字情報が登録されているときは、文字情報の一覧画面が表示されます。「<新規取込>」を選んで文字の取り込みを行ってください。お買い上げのときは、登録されていません。

2 読み取りたい文字列を認識範囲に表示させる

読み取りたい文字の上下が認識範囲に入るようになるべく文字が大きく映るようにします。
認識範囲に文字が入り切らない場合や、ピントが合わない場合は、外側カメラをレンズ切替スイッチで標準レンズに切り替えて行ってください。
長い文字列を読み取る場合、文字列のすべてが認識範囲に入っている必要はありません。残りの部分は分割して読み取ります。

ズームを利用して拡大する場合

を押す
を押すと標準に戻ります。

ライトを利用する場合

[点灯]または[ホーム]( )を押す
ライトを消灯する場合は[消灯]または[ホーム]を押します。

3 [撮影]を押して文字を読み取る

認識した文字がアンダーラインで表示されます。認識した文字に間違いがないか確認します。

読み取った文字を変更候補文字から選んで修正する場合

を押して修正したい文字にカーソルを合わせ、変更候補文字の番号を押す

読み取った文字を直接入力して修正する場合

を押して修正したい文字にカーソルを合わせ、[文字]を押して「英字入力モード」または「数字入力モード」にして正しい文字を入力する
ただし、による「.ne.jp」や「.co.jp」などの文字は入力できません。による「.ne.jp」や「.co.jp」を含んだ文字入力や、修正、削除を行うときは、機能メニューから「編集」を選びます。

もう一度やり直す場合

を押す

◉[確定]を押して認識した文字を確定する

アンダーラインが消え、文字として確定します。

5 操作2～4を繰り返して残りの文字列を読み取る

すでに読み取った文字列の最後の2文字以上が認識範囲に入るようにします。文字列の最後の2文字が認識範囲に入っていなかった場合は、読み取った文字列の末尾に結合するかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと末尾に結合されます。「NO」を選ぶと、もう一度読み取りし直すことができます。
文字の読み取りを2回以上行って44文字を超えた場合は、◎を押して、読み取った文字を確認できます。

6 読み取りが終わったら、機能メニューから「登録」を選んで文字を登録する

認識した文字を編集する場合
機能メニューから「編集」を選ぶ

登録した文字情報の内容を確認する場合
アクセスリーダーの一覧画面で確認したい文字情報を選んで詳細画面を表示させる
機能メニューから「詳細表示」を選んでも詳細画面を表示させることができます。

登録した文字情報を変更する場合
アクセスリーダーの詳細画面、または一覧画面で変更したい文字情報を選んで機能メニューから「編集」を選ぶ

読み取りたい文字列の種類や印刷の状態を設定する場合

読み取りたい文字列の種類や印刷の状態を設定しておくと、より簡単に認識できるようになります。アクセスリーダーを起動したときの「認識モード設定」と「反転モード設定」はそれぞれ「自動設定」になっています。「自動設定」で良い場合は設定する必要はありません。

- 文字列の種類を設定するには、機能メニューから「認識モード設定」を選んで「自動設定／URL／メールアドレス／電話番号／数字／フリー文字列」のいずれかを選ぶ
  文字列の種類を「URL」に設定すると、「http://」が読み取った文字列の最初に自動的に付与されます。
- 印刷の状態を設定するには、機能メニューから「反転モード設定」を選んで「自動設定／無反転固定／反転固定」のいずれかを選ぶ
  薄い色地に濃い色の文字が印刷されているときは「無反転固定」に設定します。
  濃い色地に薄い色の文字が印刷されているときは「反転固定」に設定します。

おしらせ

- P.276の操作2の画面で3分以上ボタン操作をしなかったときは、アクセスリーダーの一覧画面または詳細画面に戻ります。
- 文字の読み取りを行った後、文字情報を登録する前に音声電話やテレビ電話、64Kデータ通信の着信があったり、めざまし時計、スケジュール、ToDoのアラーム通知が実行されたり、ほかの機能の操作を行ったときは、読み取った文字がいったん保存されて、それらの画面に切り替わります。その後、操作を終了させるとアクセスリーダーの一覧画面または詳細画面に戻ります。

文字情報を利用します

読み取った文字情報を利用して、電話をかけたり、メールの宛先に使ったり、インターネットホームページを表示できます。また、電話番号とメールアドレスを電話帳に登録することもできます。
利用できる文字情報は次のとおりです。

目的	読み取った文字情報
メールを作成する	メールアドレス
サイトやインターネットホームページを表示する	URL
ブックマークにURLを登録する	
音声電話をかける	電話番号
テレビ電話をかける	
電話帳に登録する	電話番号
	メールアドレス
電話帳を検索する	フリガナ／名前／電話番号／アドレス

＜例：メールアドレスを選んでメールを作成する場合＞

1 アクセスリーダーの一覧画面、または詳細画面で文字情報を選ぶ

➡

メールアドレスがiモードメール新規作成画面に表示されます。

メールを作成する場合

◐[MAIL]を押してメールを作成する→P.152

サイトやインターネットホームページを表示する場合

機能メニューから「Internet」を選ぶ→P.43、P.63

ブックマークにURLを登録する場合

機能メニューから「Bookmark登録」を選び、ブックマークに登録する→P.53

音声電話をかける場合

機能メニューから「電話発信」−「音声発信」−「発信」を選ぶ→『基本編』のP.70

「発信」を選んで音声電話をかけると、発信者番号の通知は「発番号通知」(『基本編』のP.66)の設定に従います。「発信」の代わりに、「発番号通知しない」または「発番号通知する」を選ぶと、発信者番号を通知するかどうかを設定して音声電話をかけることもできます。

テレビ電話をかける場合

機能メニューから「電話発信」−「32KTV電話発信」または「64KTV電話発信」−「発信」を選ぶ→『基本編』のP.88

「発信」を選んでテレビ電話をかけると、発信者番号の通知は「発番号通知」(『基本編』のP.66)の設定に従います。「発信」の代わりに、「発番号通知しない」または「発番号通知する」を選ぶと、発信者番号を通知するかどうかを設定してテレビ電話をかけることもできます。

機能メニューから「電話発信」−「TV電話画像選択」を選ぶと、テレビ電話中に送信する映像を選択できます。

電話帳に電話番号を登録する場合

機能メニューから「電話番号登録」−「本体」または「FOMAカード」−「新規登録」または「追加登録」(「FOMAカード」の場合は「上書き登録」)を選ぶ→『基本編』のP.108

電話帳にメールアドレスを登録する場合

機能メニューから「メールアドレス登録」−「本体」または「FOMAカード」−「新規登録」または「追加登録」(「FOMAカード」の場合は「上書き登録」)を選ぶ→『基本編』のP.108

電話帳を検索する場合

機能メニューから「電話帳検索」を選んで「フリガナ検索/名前検索/電話番号検索/アドレス検索」を選ぶ→『基本編』のP.116

文字情報を1件削除する場合
アクセスリーダーの詳細画面、または一覧画面で削除したい文字情報反転表示して、機能メニューから「1件削除」を選んで「YES」を選びます。

文字情報をすべて削除する場合
アクセスリーダーの詳細画面、または一覧画面で機能メニューから「全削除」を選んで「YES」を選びます。

おしらせ

- 「http://」または「https://」以外ではじまっている文字情報でインターネット接続しようとしたときは、URLが間違っていることを通知するメッセージが表示されます。
- 新規iモードメールを作成するとき、メールアドレスとして電話帳に登録するとき、メールアドレスで電話帳検索する場合は、50文字までの半角文字を入力できます。50文字を超える文字数を入力すると、文字数がオーバーしていることを通知し、登録するかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと、50文字までの半角文字が入力され、文字数を超えた部分は削除されます。また、許容されない文字を入力すると、スペース（空白）に変更されます。
- 電話をかけたり、電話番号で電話帳検索するときは、26桁までの数字と＃、＊が入力できます。26桁を超える文字数または許容されない文字を入力すると、文字数を超えた部分や許容されない文字は削除されます。
- 電話番号として電話帳に登録するときは、26桁までの数字と＃、＊、ポーズ（p）が入力できます。26桁を超える文字数を入力すると、文字数がオーバーしていることを通知し、登録するかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと、26桁までの数字と＃、＊、ポーズ（p）が入力され、文字数を超えた部分は削除されます。また、許容されない文字や電話番号の先頭にポーズ（p）を入力した場合は削除されます。
- FOMAカードの電話帳に電話番号を登録する場合は、FOMAカードの種類によって入力できる電話番号の桁数が変わります。電話番号を登録時に、FOMAカードに入力できる桁数を超えている場合は、登録できないデータがあることを通知し、登録するかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと、文字数を超えた部分が削除され、FOMAカードに新規登録または追加登録できます。FOMAカードのバージョンについて→P.20
- 文字情報の詳細画面を表示しているときに◉［選択］を押すと、その文字情報に上書きするかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選んで◉［選択］を押すと、表示していた文字情報を削除して、新たに文字を読み取って上書きすることができます。
- 「電話番号@docomo.ne.jp」のメールアドレスや電話番号が入っているURL からも電話をかけることができます。

カメラでバーコードを読み取ります

内蔵カメラを使って、バーコード（JANコード）、QRコードに含まれる文字列や数字などの情報を読み取ることができます。読み取った情報を使って電話帳やブックマークに登録したり、メールを作成したり、iアプリを起動したりできます。また、情報を選んでPhone To機能、Mail To機能、Web To機能を利用できます。

- 読み取った情報は5件まで登録できます。
- JANコード、QRコード以外のバーコードや二次元コードを読み取ることはできません。
- FOMA端末が揺れたりしないように、しっかり持って操作してください。FOMA端末の下に手を添えたり、雑誌の上に置いたりすると、FOMA端末の揺れを少なくすることができます。
- 傷、汚れ、破損、印刷の品質、光の反射の具合、QRコードのバージョンによっては、正しく認識できない場合があります。
- バーコードの種類やサイズによっては、読み取れないことがあります。
- バーコードを読み取るときは、外側カメラのレンズをバーコードから約7cm離してください。
- 待受画面にバーコードリーダーをデスクトップアイコンとして貼り付けると、すばやく機能を呼び出すことができます。→『基本編』のP.170

JANコード／QRコードについて

■JANコード

太さや間隔の異なる線（バー）で数字を表現するバーコードです。
8桁または13桁のバーコードを読み取ることができます。

例：4942857113068

■QRコード

英数字や文字のデータを縦、横方向に表現する二次元コードの１つです。画像やメロディのデータを含んでいるQRコードや、１つの情報が複数のQRコードに分かれているものもあります。

例：株式会社NTTドコモ

バーコードを読み取ります

1 **外側カメラをマクロレンズに切り替える****→P.275**

2 ▶「バーコードリーダー」の順に選ぶ

フォトモードの撮影画面で機能メニューから「バーコードリーダー」を選んでもバーコードを起動することができます。
すでに情報が登録されているときは、バーコードリーダーの一覧画面が表示されます。「<新規取込>」を選んでバーコードの取り込みを行ってください。お買い上げのときは、登録されていません。

3 読み取りたいバーコードを認識範囲に表示させる

読み取りたいバーコードが認識範囲に入るようになるべく大きく映るようにします。認識範囲にバーコードが入り切らない場合や、ピントが合わない場合は、外側カメラをレンズ切替スイッチで標準レンズに切り替えて行ってください。

ズームを切り替える場合

拡大するときはを押す
縮小するときはを押す

ライトを利用する場合

[点灯]または[ホーム]( )を押す
ライトを消灯する場合は[消灯]または[ホーム]を押します。

4 [撮影]を押してバーコードを読み取る

読み取りが完了すると、情報が表示されます。
読み取りが正しく行われなかった場合は、30秒間自動的に読み取りを繰り返します。

もう一度やり直す場合

を押す

複数のバーコードに分割されている情報を読み取る場合

「OK」を選んで操作3～4を繰り返し、情報を読み取る

5 読み取りが終わったら、機能メニューから「登録」を選ぶ

タイトルを編集する場合

保存後にバーコードリーダーの一覧画面で機能メニューから「タイトル編集」を選んで変更する

登録した情報の内容を確認する場合

バーコードリーダーの一覧画面で確認したいタイトルを選んで詳細画面を表示させる
機能メニューから「結果表示」を選んでも詳細画面を表示させることができます。

おしらせ

- すでに5件の情報が登録されているときに、バーコードリーダーの一覧画面で「＜新規取込＞」を選ぶと、上書きするかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと、一番古い情報のデータに新規情報が上書きされます。
- P.282の操作3の画面で3分以上ボタン操作をしなかったときは、バーコードリーダーの一覧画面に戻ります。
- バーコードの読み取りを行った後、情報を登録する前に音声電話やテレビ電話、64Kデータ通信の着信があったり、めざまし時計、スケジュール、ToDoのアラーム通知が実行されたり、ほかの機能の操作を行ったときは、それらの画面に切り替わります。その後、操作を終了させるとバーコードリーダーの読み取り結果の表示画面に戻ります。

情報を利用します

読み取った情報を利用して、電話帳やブックマークに登録したり、メールを作成したり、iアプリを起動したりできます。また、読み取ったバーコードに画像やメロディデータが含まれる場合は、それらを表示・再生して保存することもできます。
利用できる情報は次のとおりです。

目的	反転表示させる文字	利用／登録できる情報
電話帳に登録する	電話番号	電話番号
	メールアドレス	メールアドレス
電話帳に一括登録する	電話帳登録	名前、フリガナ、電話番号、メールアドレス、メモ
メールを作成する	メールアドレス	メールアドレス
	メール作成	メールアドレス、件名、本文
サイトやインターネットホームページを表示する	URL	URL
ブックマークにURLを登録する	URL	URL、サイト名
	Bookmark登録	
iアプリを起動する	iアプリ起動	―
音声電話をかける	電話番号	電話番号
テレビ電話をかける		
画像を表示する	画像	画像
画像を登録する		
メロディを再生する	♫	メロディ
メロディを登録する		

＜例：電話帳の情報の場合＞

1 バーコードリーダーの詳細画面で利用する情報を反転表示する

名前、フリガナ、電話番号、メールアドレス、メモの情報がバーコードリーダー詳細画面に表示されます。
情報が画像の場合は、バーコードリーダー詳細画面に画像が表示されます。

2 情報を操作する

電話帳に登録する場合

機能メニューから「電話帳登録」を選んで電話帳に登録する→『基本編』のP.108

サイトやインターネットホームページを表示する場合

◉［選択］を押す→P.43、P.63

ブックマークにURLを登録する場合

機能メニューから「Bookmark登録」を選び、ブックマークに登録する

iアプリを起動する場合

◉［選択］を押す→P.72

音声電話をかける場合

◉［選択］を押して「音声発信」－「発信」を選ぶ→『基本編』のP.70
「発信」を選んで音声電話をかけると、発信者番号の通知は「発番号通知」（『基本編』のP.66）の設定に従います。「発信」の代わりに、「発番号通知しない」または「発番号通知する」を選ぶと、発信者番号を通知するかどうかを設定して音声電話をかけることもできます。

テレビ電話をかける場合

◉［選択］を押して「32KTV電話発信」または「64KTV電話発信」－「発信」を選ぶ→『基本編』のP.88
「発信」を選んでテレビ電話をかけると、発信者番号の通知は「発番号通知」（『基本編』のP.66）の設定に従います。「発信」の代わりに、「発番号通知しない」または「発番号通知する」を選ぶと、発信者番号を通知するかどうかを設定してテレビ電話をかけることもできます。
機能メニューから「電話発信」－「TV電話画像選択」を選ぶと、テレビ電話中に送信する映像を選択できます。

メールを作成する場合

◉［選択］を押し、iモードメールを作成する→P.152

画像を保存する場合

機能メニューから「画像保存」を選ぶ

メロディを再生する場合

◉［選択］を押す→P.333

メロディを保存する場合

機能メニューから「メロディ保存」を選ぶ

バーコードリーダーの詳細画面で表示される情報を一括して利用することができます

電話帳に一括登録する場合

「電話帳登録」を反転表示して◉[選択]を押し、電話帳に登録する→『基本編』のP.108

メールを作成する場合

「メール作成」を反転表示して◉[選択]を押し、ｉモードメールを作成する→P.152

ブックマークにURLを登録する場合

「Bookmark登録」を反転表示して◉[選択]を押し、ブックマークに登録する

情報を1件削除する場合

バーコードリーダーの一覧画面で削除したいタイトルを反転表示して、機能メニューから「1件削除」を選んで「YES」を選ぶ

情報をすべて削除する場合

バーコードリーダーの一覧画面で機能メニューから「全削除」を選んで「YES」を選ぶ

おしらせ

- 文字編集画面の機能メニューやiアプリからもバーコードリーダーを起動して情報を読み取ることができますが、登録済みの情報の表示や、読み取った情報の保存を行うことはできません。また、表示できない画像やメロディの情報は、スペース(空白)に変更されます。
- 「http://」または「https://」以外ではじまっている情報でインターネット接続しようとしたときは、URLが間違っていることを通知するメッセージが表示されます。
- 電話番号、メールアドレス、URLで使用できない文字がある場合は、詳細画面ではスペースで表示され、その情報は使用できません。電話番号、メールアドレス、URL以外の情報に使用できない文字がある場合は、スペース(空白)に変更されます。
- 新規iモードメールを作成するときや、メールアドレスとして電話帳に登録するときは、50文字までの半角文字を入力できます。50文字を超える文字数を入力すると、文字数がオーバーしていることを通知し、登録するかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと、50文字までの半角文字が入力され、文字数を超えた部分は削除されます。
- 電話をかけるときは、26桁までの数字と＃、＊、ポーズ(p)が入力できます。26桁を超える文字数を入力すると、文字数を超えた部分は削除されます。
- 電話番号として電話帳に登録するときは、26桁までの数字と＃、＊、ポーズ(p)が入力できます。26桁を超える文字数を入力すると、文字数がオーバーしていることを通知し、登録するかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと、26桁までの数字と＃、＊、ポーズ(p)が入力され、文字数を超えた部分は削除されます。

フォルダについて

内蔵カメラで撮影した写真(静止画)や動画、メールやサイトなどから取り込んだデータ、miniSDメモリーカード内のデータなどは、データの種類に合わせてフォルダに振り分けられます。
フォルダ内のデータは着信音や待受画面など、いろいろな機能に設定できるほか、メールに添付したり、パソコンに送信したりできます。
また、ユーザ作成フォルダを追加してデータを整理することもできます。

- イメージビューアは内蔵カメラで撮影した静止画と合わせて最大400件まで、ムービープレーヤーは内蔵カメラで撮影した動画と合わせて最大100件まで、メロディプレーヤーは最大160件まで保存することができます。保存可能件数はデータ量により変動します。
- イメージビューア、ムービープレーヤー、メロディプレーヤーにそれぞれ20個までフォルダを追加できます。ユーザ作成フォルダはフォルダ名を編集できます。お買い上げのときはユーザ作成フォルダは登録されていません。

マルチメディアのフォルダ構成と保存可能データ

フォルダ		ファイル形式	保存できるデータ
イメージビューア		―	―
	INBOX	GIF JPEG SWF※1	すべての画像の保存先として選択することができます。 動画やキャラ電から切り出した静止画、バーコードリーダーから登録した画像、赤外線通信機能などを使って転送された画像、miniSDメモリーカードからインポートした画像の最初の保存先はINBOXフォルダとなります。
	カメラ		
	(ユーザ作成フォルダ1～20)		
	プリインストール	GIF JPEG SWF※1	内蔵の待受画面やウェイクアップの画像、アニメーション、デコメールイメージ
	自作アニメ	―	自作したアニメーション、内蔵カメラで撮影した連続写真へのリンクファイル(アニメーションファイル)や、自作アニメ設定で作成した画像へのリンクファイル
	miniSD	JPEG	内蔵カメラで撮影した写真(静止画)や加工した静止画
	フレーム	GIF (IFM)	ダウンロードしたフレーム、メール添付されたフレームなどのアイテム

フォルダ		ファイル形式	保存できるデータ
ムービープレーヤー		ー	ー
	INBOX	MP4	すべての動画やiモーションの保存先として選択することができます。 キャラ電から切り出した動画、赤外線通信機能などを使って転送された動画やiモーション、miniSDメモリーカードからインポートした動画やiモーションの最初の保存先はINBOXフォルダとなります。
	カメラ		
	（ユーザ作成フォルダ1～20）		
	miniSD	MP4 ASF※2	内蔵カメラで撮影した動画や編集した動画やiモーション
メロディプレーヤー		ー	ー
	INBOX	SMF MFi	すべてのメロディの保存先として選択することができます。 赤外線通信機能などを使って転送されたメロディの最初の保存先はINBOXフォルダとなります。
	（ユーザ作成フォルダ1～20）		
	プリインストール	MFi	内蔵のメロディ、効果音
	おしゃべり	ー	おしゃべり機能で録音した音声
キャラ電プレーヤー		AFD	キャラ電

※1：「SWF」とはFlash画像（P.45）のファイル形式です。
※2：ASF形式は再生のみ可能です。

おしらせ

- ムービープレーヤー、メロディプレーヤーにある「プログラム」フォルダは、プログラム再生に利用します。「プログラム」フォルダはほかのフォルダと異なり、データの保存、フォルダ移動、フォルダ名の編集やフォルダの削除などはできません。

フォルダについて

タイトル前のアイコンについて

各フォルダの一覧画面で表示されるタイトル前の２つのアイコンは、左側がデータの形式、右側がデータの取得方法を示しています。表示されるそれぞれのアイコンの種類は次のとおりです。

■ データの形式（左側）

アイコン	ファイル形式		ファイル制限	容量／再生制限
JPG／GIF	JPEG GIF	静止画 アニメーション	なし	大容量
JPG／GIF				通常
JPG／GIF				制限なし
JPG／GIF			あり	大容量
JPG／GIF				通常
JPG／GIF				制限なし
	SWF		あり	通常
	GIF(IFM)		なし	通常
			あり	通常
	MP4	動画／iモーション	なし	再生制限なし（再生可）
			あり	
		iモーション		再生制限あり（再生可）
				再生制限あり（再生不可）
※1			なし	再生制限なし（再生可、音響効果可）
※1			あり	
※1				再生制限あり（再生可、音響効果可）
				再生制限あり（再生不可）
※2	ASF	iモーション	なし	―
※2			あり	
／	MFi SMF	メロディ	なし	―
／			あり	
	AFD	キャラ電	あり	―
	―	FOMAカード動作制限機能が設定されているデータ	―	―

※1：タイトルの前に「」、「」、「」（音符が青色）がついているiモーションは、お買い上げのときは再生音に音響効果を加えるように設定されています。音響効果の設定について→P.310

※2：タイトルの前に「」、「」（音符がオレンジ色）がついているiモーションは、miniSDメモリーカードにのみ保存可能なファイル形式です（本FOMA端末には保存できません）。

■ データの取得方法（右側）

アイコン	取得方法
アイコンなし	プリインストールデータ
	メール添付、サイトなどからのダウンロード、iアプリから取得したデータ
	内蔵カメラで撮影した静止画や動画
	赤外線通信やデータ通信（OBEX）などからの転送、バーコードリーダー、miniSDメモリーカードから取得したデータ
	キャラ電撮影で取得したデータ
	フレームデータ※

※：フレームは取得方法にかかわらず共通のアイコンが表示されます。

タイトル、ファイル名について

内蔵カメラまたはキャラ電プレーヤーで撮影した静止画や動画には自動的にタイトルとファイル名がつきます。ダウンロードしたiモーションやメロディ、キャラ電にはオリジナルのタイトルがつきます。ダウンロードした画像にはファイル名と同じタイトルがつきます。
タイトルは「iモーション情報」、「メロディ情報」、「キャラ電情報」で表示されます。
ファイル名は、FOMA端末で画像を選んだときや、パソコンに送ったときなどに表示されます。

＜例：内蔵カメラで撮影した静止画の場合＞
・タイトル：yyyy/mm/dd hh:mm
（yyyy/mm/dd hh:mm →保存した年月日と時刻）
・ファイル名：yyyymmddhhmmxxx
（yyyymmddhhmm →保存した年月日と時刻、xxx ：3桁の番号）
ファイル名の末尾3桁の番号は同一ファイル名を区別するためのシリアル番号としてつけられます。
日付・時刻が設定されていないときや、ファイル名に含める情報がないときのファイル名は「imagexxx」になります。
タイトルとファイル名の変更について→P.292、P.293

画像加工・動画編集できるデータについて

フォルダ	アイコン	データ	画像加工／動画編集
イメージビューア	JPG／JPG／JPG	JPEG画像※1	加工可能
		キャラ電で撮影した静止画※2	
	GIF／GIF／GIF	GIF画像	加工不可
	JPG／JPG／JPG	ファイル制限が設定されているJPEG画像※3	
	GIF／GIF／GIF	ファイル制限が設定されているGIF画像	
		Flash画像	
	／	フレーム	
		FOMAカード動作制限が設定されている画像（別のFOMAカードに差し替えている場合など）	
ムービープレーヤー		内蔵カメラで撮影した動画※3	編集可能
		赤外線通信機能などから取得した動画	
		キャラ電で撮影した動画※2	
		サイトなどから取り込んだiモーション	編集不可

※1：画像サイズによって加工できる機能が異なります。→P.296
※2：「撮影後ファイル制限」が「あり」の静止画や動画は加工、編集ができません。
※3：内蔵カメラで撮影した静止画や動画は「ファイル制限」（P.293）が「あり」の場合でも加工、編集ができます。

● 画像の加工方法、動画の編集方法について→P.296、P.313
●「miniSD」フォルダ内の静止画や動画は編集できません。

フォルダやデータを操作します

フォルダの一覧表示や再生画面からは、フォルダやデータに対していろいろな操作が行えます。

フォルダ内のデータを確認します

<例：イメージビューアの「カメラ」フォルダ内の画像を確認する場合>

1 Menu ▶ マルチメディア ▶「イメージビューア」の順に選ぶ

イメージビューアのフォルダ一覧画面が表示されます。

2 確認したいデータのあるフォルダを選ぶ

選択したフォルダのデータ一覧画面が表示されます。
データが1件も登録されていないときは、データがないことを通知するメッセージが表示されます。

3 確認したいデータを選ぶ

データが表示または再生されます。
データ一覧画面に戻る場合は、CLRを押します。

フォルダを追加します

イメージビューア、ムービープレーヤー、メロディプレーヤーの各フォルダ内に新しくフォルダを追加して、データを整理することができます。

●フォルダはそれぞれ20個まで追加することができます。また、フォルダ名は編集することもできます。

<例：イメージビューアにフォルダを追加する場合>

1 イメージビューアのフォルダ一覧画面で機能メニューから「フォルダ追加」を選ぶ→P.290

2 フォルダ名を入力して●[確定]を押す

フォルダ名は、全角で10文字、半角で20文字まで入力できます。すでに存在するフォルダ名と同じ名前のフォルダを追加することができます。フォルダ名が1文字も入力されていないときは、フォルダを追加することはできません。

フォルダ名を変更する場合

イメージビューア一覧画面で変更したいフォルダを反転表示して、機能メニューから「フォルダ名編集」を選んでフォルダ名を変更する

フォルダ名を変更できるのは、ユーザ作成フォルダのみです。

フォルダを削除する場合

イメージビューア一覧画面で削除したいフォルダを反転表示して機能メニューから「フォルダ削除」を選び、端末暗証番号を入力して「YES」を選ぶ

・フォルダを削除すると、フォルダ内のデータも削除されます。
・フォルダを削除できるのは、ユーザ作成フォルダのみです。
・待受画面などに設定されている画像、動画やiモーション、自作アニメ、スケジュールのユーザアイコンなどに設定されている画像、プログラムやランダムメロディに設定されているメロディのあるフォルダを削除しようとしたときは、削除するかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選んで削除した場合、設定されていた画面などは次のようになります。
　・設定されていた待受画面などはお買い上げのときの状態に戻ります。
　・自作アニメは解除されます。
　・ランダムメロディを着信音に設定しているときは、お買い上げのときの状態に戻ります。
　・スケジュールの一覧画面に表示されるユーザアイコンの「1」～「5」は、「◷」に変わります。

データを別のフォルダに移動します

一度に複数のデータを選んで別のフォルダに移動することができます。
「INBOX」、「カメラ」、ユーザ作成フォルダに登録されているフォルダ間で移動することができます。
<例：メロディプレーヤーの「INBOX」フォルダ内のメロディを移動する場合>

1 データ一覧画面で機能メニューから「フォルダ移動」を選んで移動先のフォルダを選ぶ→P.290

➡

イメージビューア、ムービープレーヤーのデータを1件移動する場合

移動するデータを反転表示し、機能メニューから「フォルダ移動」を選んで移動先のフォルダを選ぶ

イメージビューア、ムービープレーヤーのデータを複数移動する場合

機能メニューから「複数選択」を選んで移動する画像を選び、機能メニューから「移動」を選んで移動先のフォルダを選ぶ

2 移動したいデータを選ぶ

選択したデータがチェックされます。
チェックされたデータをもう一度選ぶと、選択を解除します。選択を全件解除する場合は、機能メニューから「全選択解除」を選びます。
機能メニューから「全選択」を選ぶとフォルダ内の全データを選択できます。

3 [完了]を押して「YES」を選ぶ

データを操作します

■ **タイトルを変更する場合**

データ一覧画面で変更したいデータを反転表示して、機能メニューから「タイトル編集」を選んでタイトルを変更する

データ一覧画面に表示されるタイトルが変更されます。
画像、動画やiモーションは全角で9文字、半角で18文字まで、メロディは全角で25文字、半角で50文字まで、キャラ電は全角で18文字、半角で36文字まで入力できます。
タイトルを初期化する場合は、初期化したいデータを反転表示して、機能メニューから「タイトル初期化」を選んで「YES」を選びます。変更していたタイトルが、初期タイトルに戻ります。

■ ファイル名を編集する場合

データ一覧画面でファイル名を編集したいデータを反転表示して、機能メニューから「ファイル名編集」を選んでファイル名を編集する

- ファイル名は半角英数字で36文字（拡張子を除く）まで入力できます。半角の「.」「@」「/」「(」「)」「,」「-」「_」「:」「'」「~」「&」「?」「!」「\」はファイル名として入力できません。
- ファイル名を編集する場合は、拡張子以外の部分が編集可能になります。ファイル名を編集後、ファイル形式に適した拡張子が自動的に追加されます。

■ 表示順を並び替える場合

データ一覧画面で機能メニューから「ソート」を選んで並べ替える表示順を選ぶ

データ一覧画面では、表示順を「新しい順／古い順／タイトル昇順／タイトル降順／大きい順／小さい順／ファイル取得元順」から選んで並び替えることができます。

- お買い上げのときは、「新しい順」に表示されます。
- 並び替えた後、フォルダの一覧画面を表示させたり、イメージビューア、ムービープレーヤーを終了させても設定は保持されます。メロディについては、メロディプレーヤーを終了させると、「新しい順」に戻ります。
- キャラ電の一覧画面を並び替えることはできません。

■ 保存容量を確認する場合

データ一覧画面で機能メニューから「保存容量確認」を選ぶ

FOMA端末の残りメモリと使用メモリの情報を表示します。キャラ電の場合は、登録しているキャラ電の件数、保存できるキャラ電の残り件数が表示されます。保存容量を確認したら CLR を押します。

■ ファイル制限を設定する場合

データ一覧画面でファイル制限を設定したいデータを反転表示して、機能メニューから「ファイル制限」を選ぶ

メールに添付した際、その出力先からさらに送信や出力ができないようにするには「あり」を、送信や出力ができるようにするには「なし」を選びます。ただし、「ファイル制限」を「あり」に設定した場合でも、赤外線通信機能で送信したときや、miniSDメモリーカードに保存したときは、送信先からFOMA端末外へ送信や出力ができます。ただし、送信先がFOMA N900i以外の場合は、送信や出力ができないことがあります。

■ ファイル情報を確認する場合

イメージビューア、ムービープレーヤー、キャラ電プレーヤー、メロディプレーヤーに保存しているデータのファイル情報をそれぞれ確認することができます。→P.294、P.308、P.324、P.333

「プリインストール」、「おしゃべり」フォルダ内のデータや「フレーム」フォルダにあらかじめ保存されているデータのファイル情報は確認できません。

画像を表示します

お買い上げ時	画像表示設定：標準

待受画面の画像やウェイクアップ、内蔵カメラで撮影した写真（静止画）やダウンロードした画像、自作したアニメーション、テレビ電話に設定できる画像を表示できます。

●イメージビューアのフォルダ構成やファイル形式について→P.286
●画像サイズがヨコ1616×タテ1212ドットを超える画像は表示できません。

＜例：カメラフォルダ内の画像を表示する場合＞

1 ▶「イメージビューア」の順に選ぶ

イメージビューア
1 INBOX
2 カメラ
3 追加フォルダ1
4 プリインストール
5 自作アニメ
6 miniSD
7 フレーム
選択 機能

イメージビューアのフォルダ一覧画面が表示されます。
PIM ロック中のときは、プリインストールフォルダ、フレームフォルダが表示されます。

2 画像のあるフォルダを選ぶ

機能メニューから「ピクチャ一覧」または「タイトル名一覧」を選ぶと一覧表示を切り替えることができます。→P.295
表示する件数が多い場合やファイルサイズが大きい場合は、画像一覧画面の表示に時間がかかることがあります。
タイトル前のアイコンについて→P.288

画像の情報を確認する場合

画像一覧画面で確認したい画像を反転表示して、機能メニューから「イメージ情報」を選ぶ
自作アニメの場合は、自作アニメ一覧画面で確認したい自作アニメを反転表示して、機能メニューから「イメージ情報」を選びます。
イメージ情報では、ファイル名、ファイルサイズ、ファイル制限、イメージ貼付などの情報を確認できます。イメージ情報では、本FOMA端末で管理されるファイルサイズが表示されます。
自作アニメは、イメージ貼付の情報のみ確認できます。
イメージ情報を確認したらCLRを押します。

を押すと前後の画像を表示します。
表示を終了するときはCLRを押します。

画面表示サイズを変更する

画像の表示画面の表示サイズを変更できます。
機能メニューから「画像表示設定」を選んで表示サイズを「標準」または「画面サイズで表示」から選びます。

一覧表示のしかたを変更します

画像一覧画面の表示を、タイトル名一覧表示や1画面あたり4枚ずつのピクチャー一覧表示に切り替えることができます。

1 画像一覧画面を表示させる→P.294

2 機能メニューから「タイトル名一覧」を選んで表示を切り替える

本機能で「タイトル名一覧」に設定した後、フォルダの一覧画面を表示させたりイメージビューアを終了させると、設定は保持されません。画像一覧画面の表示は、「ピクチャ表示設定」(『基本編』のP.181)の設定に従います。

全画面表示にする場合

画像一覧画面から全画面表示にするには、画像を反転表示して、●[表示]を押す
全画面表示から画像表示一覧に戻るには、CLRを押します。

ピクチャー一覧表示に戻す場合

タイトル名一覧の画面で機能メニューから「ピクチャー一覧」を選んで表示を切り替える

画像を加工します

内蔵カメラで撮影した写真(静止画)や、赤外線通信機能などを使って転送されたり、サイトなどからダウンロードした画像を加工することができます。
加工できる種類は次のとおりです。

機能名	加工の内容	対応画像サイズ	参照ページ
フォトレタッチ	静止画をセピア調にしたり、シャープな感じの静止画にするなどの効果をつける。	ヨコ352×タテ288ドットまで※	P.297
明るさ	画像の明るさを調節する。		
フレーム合成	画像にフレーム(枠)をつける。		P.298
マーカースタンプ	画像にハートなどのマーク(マーカースタンプ)を付ける。		
文字スタンプ	画像に文字入力したスタンプを加える。		P.299
回転	画像を左右90度または180度回転させる。	ヨコ1616×タテ1212、ヨコ1280×タテ960、ヨコ640×タテ480ドットまで	
トリミング	画像の一部を切り抜いて保存する。		P.300
4枚画像合成	4つの画像を1つの画像に合成する。	ヨコ640×タテ480ドットまで	
メール用サイズ変更	画像をメールに添付できる画像サイズに縮小する。	ー	P.301

※:画像サイズがヨコ352×タテ288ドット、ヨコ240×タテ269ドット、ヨコ176×タテ144ドット、ヨコ128×タテ96ドット以外の画像にはフレームを合成することはできません。

●画像の加工を繰り返し行うと、画質が劣化することがあります。
●画像によっては、加工の効果が表れにくい場合があります。
●加工できる画像について→P.289

操作の流れ

ここでは、画像加工の操作の流れを説明します。

1 画像一覧画面で加工したい画像を選んで、機能メニューから「イメージ編集」を選ぶ→P.294

選択した画像が表示されます。
画像一覧画面で機能メニューから「ピクチャ一覧」または「タイトル名一覧」を選ぶと一覧表示を切り替えることができます。→P.295

2 機能メニューから加工したい機能を選んでそれぞれの操作を行う

機能名について→上記表

3 加工した画像を確認して◉[確定]を押す

取り消したいときは◑[取消]を押します。

4 ◉[保存]を押す

加工した画像を上書きするかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと、加工した画像が上書きされます。「NO」を選ぶと、操作1で選んだ画像があるフォルダに加工した画像が保存されます。

保存せずに続けてほかの加工をしたい場合

機能メニューから加工方法を選ぶ

写真(静止画)を加工します　<フォトレタッチ>

1 フォトレタッチ画面で加工方法を選ぶ

フォトレタッチ
1シャープ
2ソフト
3セピア
4浮き彫り
5ネガ
6ミラー
選択

フォトレタッチの一覧画面が表示されます。選択できる加工方法は次のとおりです。

シャープ：輪郭部分のコントラストを強調します。
ソフト　：輪郭部分をぼかします。
セピア　：色調をセピア調にします。
浮き彫り：レリーフのような凹凸感を出します。
ネガ　　：ネガ状態に反転画像にします。
ミラー　：左右反対の向きにします。

フォトレタッチの「セピア」と、「色調切替」(P.268)の「セピア」で加工した画像を比べると、色味などが多少異なります。

画像の明るさを調節します　<明るさ>

画像の明るさを5段階に調整できます。

1 明るさを調整する画面で明るさの調節をする

◎を押すと暗くなり、◎を押すと明るくなります。

−2〜±0〜+2の5段階で調節できます。

−2：暗くなります。
−1：やや暗くなります。
±0：標準。
+1：やや明るくなります。
+2：明るくなります。

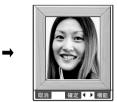
フレームを設定します　<フレーム合成>

画像にフレーム(枠)を設定できます。

●選択した画像サイズに合ったフレームデータが合成されます。

●サイトからダウンロードしてフレームを追加できます。→P.113

1 フレームの選択画面でフレームを選ぶ

➡

フレームの画像表示一覧画面が表示されます。

選択できるフレーム一覧について→P.472

マーカースタンプを加えます　<マーカースタンプ>

画像にシールを貼るような感覚でハートなどのマーク(マーカースタンプ)をつけることができます。

●マーカースタンプは32種類の中から選んで自由な位置に貼り付けることができます。また、回転したり拡大・縮小することもできます。

1 ◐[マーカー]を押してマーカースタンプの画像表示一覧画面からマーカースタンプを選ぶ

➡

選択できるマーカースタンプ一覧について→P.472

2 ◉をスライドさせてニューロポインターボタンでマーカースタンプの位置を決める

✥を押して位置を決めることもできます。

マーカースタンプを編集する場合

機能メニューから編集したい項目を選ぶ

右90度：時計回りに90度回転します。

左90度：反時計回りに90度回転します。

180度　：180度回転します。

拡大　　：2倍のサイズに拡大します。

縮小　　：1/2のサイズに縮小します。

文字スタンプを加えます　<文字スタンプ>

お買い上げ時	文字色：黒　フォント：ゴシック体　文字サイズ：通常サイズ

画像に文字入力したスタンプを加えることができます。

●全角で15文字、半角で30文字までの文字スタンプを入力できます。絵文字も入力できます。ただし、画像サイズによっては入力可能文字数が変動する場合があります。

1 文字スタンプの入力画面で文字を入力して◉［確定］を押す

2 ◉をスライドさせてニューロポインターボタンで文字スタンプの位置を決める

◈を押して位置を決めることもできます。

文字スタンプを編集する場合

機能メニューから編集したい項目を選ぶ

文字色　　：文字の色を変更します。そのほかの色を選ぶ場合は、◐［切替］を押して色を選びます。

フォント　：フォントの種類を変更します。

文字サイズ：文字のサイズを変更します。

画像を回転させます　<回転>

●ヨコ1616×タテ1212ドット、ヨコ1280×タテ960ドットの画像を「右90度」または「左90度」に回転すると、ヨコ480×タテ640ドットに、「180度」に回転するとヨコ640×タテ480ドットに縮小されます。

●回転させた結果、画像サイズがヨコ352×タテ288ドット、ヨコ240×タテ269ドット、ヨコ176×タテ144ドット、ヨコ128×タテ96ドットとならない画像にはフレームを合成することはできません。

1 回転画面で回転する方向を選ぶ

右90度：時計回りに90度回転します。
左90度：反時計回りに90度回転します。
180度　：180度回転します。
「右90度」または「左90度」に回転した場合、画像の横サイズが画面より大きい部分は表示されません。

画像を切り抜きます　<トリミング>

画像の一部を切り抜いて保存できます。画像サイズが大きな画像を切り抜いて、メール添付できるサイズにするときなどに便利です。

●ヨコ352×タテ288ドット、ヨコ320×タテ240ドット、ヨコ240×タテ269ドット(待受)、ヨコ176×タテ144ドット(メール大)、ヨコ128×タテ96ドット(メール小)の5サイズに切り抜くことができます。

1 切り抜き画面で切り抜く画像サイズを選ぶ

元の画像サイズと同じ、または大きいサイズは選択できません。ヨコ1616×タテ1212ドット、ヨコ1280×タテ960ドットの画像は、ヨコ640×タテ480ドットに縮小されます。

2 を押して切り抜く範囲を選んで● [確定] を押す

●をスライドさせてニューロポインターボタンで切り抜く範囲を選ぶことができます。

4つの画像を1つの画像にします　<4枚画像合成>

イメージビューアに保存されている画像を4つ選んで1つの画像に合成できます。

●合成に使った4つの画像は削除されません。

1 画像一覧画面で機能メニューから「4枚画像合成」を選ぶ

2 配置する位置を選んで合成する画像を選ぶ

設定した画像を解除する場合

解除する画像を選んで「イメージ解除」を選ぶ

3 操作2を繰り返して4つの画像を設定し、◐[完了]を押す

合成された画像が表示されます。
4つの画像を設定しないと1つの画像として保存できません。

4 画像を確認して◉[保存]を押す

合成された画像は操作1で機能メニューの「4枚画像合成」を選んだフォルダに保存されます。

4枚画像合成を取り消す場合

◐[取消]を押す

画像をメールに添付できるサイズに変更します <メール用サイズ変更>

JPEG画像をメールに添付できるサイズに変更します。

●9,000バイト以下のJPEG画像はサイズ変更できません。

1 画像一覧画面で機能メニューから「メール用サイズ変更」を選んで項目を選ぶ

メールサイズ(大)： ヨコ640×タテ480ドットを超える画像をヨコ640×タテ480ドットに縮小し、ファイルサイズを100Kバイト以下に変更します。
100Kバイト以下の画像の場合は、メールサイズ(大)を選択できません。

メールサイズ(小)： ヨコ176×タテ144ドットを超える画像をヨコ176×タテ144ドットに縮小し、ファイルサイズを9,000バイト以下に変更します。

画像を利用／設定します

画像を待受画面やウェイクアップ、テレビ電話画面などに設定できます。また、登録されている画像を使ってアニメーションを作成できます。

画像を待受画面などに設定します <イメージ貼付>

画像を待受画面、ウェイクアップ、音声電話の発信中や着信中、メールの送受信中の画面などに設定できます。テレビ電話時の応答保留画面、通話中保留画面、代替画像画面、伝言メモ画面にも設定できます。

●「TV電話応答保留」、「TV電話通話中保留」、「TV電話代替画像」、「TV電話伝言メモ」には、内蔵カメラで撮影した写真(静止画)のほかに、サイトなどからダウンロードしたファイル制限の設定のないJPEG画像も設定できます。

1 画像一覧画面を表示させる→P.294

機能メニューから「ピクチャ一覧」または「タイトル名一覧」を選ぶと一覧表示を切り替えることができます。→P.295

2 設定したい画像を選んで、機能メニューから「イメージ貼付」を選ぶ

すでに設定されている項目には「★」マークがつきます。ただし「TV電話応答保留」、「TV電話通話中保留」、「TV電話代替画像」、「TV電話伝言メモ」を設定しても「★」マークは表示されません。

●[表示]を押して画像を表示させた後、機能メニューから「イメージ貼付」を選んでも設定できます。

3 設定する画面を選ぶ

設定した画像を解除するときは、「画面表示設定」(『基本編』のP.177)でほかの画像などに設定を変更してください。

おしらせ

●設定できる画像は、ファイルサイズが100Kバイト以下で画像サイズがヨコ640×タテ480ドットまでの画像です。

●ダウンロードした画像のサイズによっては、設定した画面ですべてを表示できない場合があります。

●「待受画面」、「ウェイクアップ表示」、「電話発信」、「電話着信」、「メール送信」、「メール受信」、「問い合わせ」は、「画面表示設定」でも画像を設定できます。

●「TV電話応答保留」、「TV電話通話中保留」、「TV電話代替画像」、「TV電話伝言メモ」に設定した画像を有効にするには、「画像選択」で「自作」に設定します。→『基本編』のP.98

表示する位置を設定します ＜貼付表示位置＞

縦方向が画像表示エリアよりも小さな画像を貼り付けるときに、画像を表示する位置を設定します。

●縦方向が画像表示エリアよりも大きい画像を貼り付けたとき、本機能は無効になります。

●「プリインストール」、「自作アニメ」、「miniSD」、「フレーム」フォルダ内の画像や内蔵TV電話画像や自作TV電話画像に設定することはできません。

表示位置について

＜例：待受画面の場合＞

中央に表示の場合

上部に表示の場合

下部に表示の場合

1 画像一覧画面を表示させる→P.294

機能メニューから「ピクチャ一覧」または「タイトル名一覧」を選ぶと一覧表示を切り替えることができます。→P.295

2 設定したい画像を反転表示して、機能メニューから「貼付表示位置」を選ぶ

◉[表示]を押して画像を表示させた後、機能メニューから「貼付表示位置」を選んでも設定できます。

3 表示位置を選ぶ

おしらせ

- 画像を登録したときは自動的に「中央に表示」に設定されます。お好みに応じて画像の表示位置を設定してください。
- 設定した画像が、貼り付け先より大きいときは「切り出し範囲」の設定に従って画像を表示します。

切り出す範囲を設定します ＜切り出し範囲＞

縦方向が画像表示エリアよりも大きな画像を貼り付けるときに画像を表示させる部分を設定します。

- 縦方向が画像表示エリアよりも小さい画像を貼り付けたとき、本機能は無効になります。
- 「プリインストール」、「自作アニメ」、「miniSD」、「フレーム」フォルダ内の画像や内蔵TV電話画像や自作TV電話画像に設定することはできません。

切り出し範囲の設定例

<例：電話着信の場合>

中央を表示の場合

上部を表示の場合

下部を表示の場合

1 画像一覧画面を表示させる→P.294

機能メニューから「ピクチャ一覧」または「タイトル名一覧」を選ぶと一覧表示を切り替えることができます。→P.295

2 設定したい画像を反転表示して、機能メニューから「切り出し範囲」を選ぶ

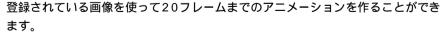
●[表示]を押して画像を表示させた後、機能メニューから「切り出し範囲」を選んでも設定できます。

3 切り出し範囲を選ぶ

おしらせ

- 画像を登録したときは自動的に「中央を表示」に設定されます。お好みに応じて画像の切り出す範囲を設定してください。
- 設定した画像が、貼り付け先より小さいときは「貼付表示位置」の設定に従って画像を表示します。

アニメーションを作成します<自作アニメ設定／自作アニメ解除>

登録されている画像を使って20フレームまでのアニメーションを作ることができます。

- 内蔵カメラで撮影した連続写真のリンクファイル（アニメーションファイル）を編集することもできます。自作アニメの設定を解除しても、設定されていた画像は削除されません。
- 自作アニメのリンクファイルは20件まで作成できます。
- GIF形式の静止画、アニメーションやプリインストールフォルダ、miniSDメモリーカード内の画像を設定することはできません。

<例：内蔵カメラで撮影した写真（静止画）を設定する場合>

1 イメージビューアのフォルダ一覧画面で「自作アニメ」フォルダを選んで<未登録>を選ぶ

すでに自作アニメのリンクファイルが登録されているときは、自作アニメ一覧画面に表示されます。

設定済みの自作アニメを編集する場合

編集する自作アニメを反転表示し、機能メニューから「自作アニメ設定」を選ぶ

2 フレームを選んで設定する画像のあるフォルダを選ぶ

3 画像を選ぶ

[デモ]を押すと画像を表示します。

機能メニューから「ピクチャ一覧」または「タイトル名一覧」を選ぶと一覧表示を切り替えることができます。→P.295

設定した画像を解除する場合

フレーム一覧画面で解除する画像を選んで「イメージ解除」を選ぶ

4 操作2〜3を繰り返して画像を設定する

5 設定が終わったら[完了]を押す

自作アニメの設定を解除する場合

イメージビューアのフォルダ一覧画面で「自作アニメ」フォルダを選んで設定を解除したい自作アニメのリンクファイルを選び、機能メニューから「自作アニメ解除」を選ぶ

iモードメールを作成する場合

画像一覧画面で添付したい画像を反転表示して、機能メニューから「iモードメール作成」を選びます。

iモードメール新規作成について→P.168

画像表示中も機能メニューからiモードメールを作成できます。

メールに添付できない画像のときは、「iモードメール作成」を選ぶことはできません。また、データ量などによっては、画像をiモードメールに添付することができない場合があります。→P.162

自作アニメフォルダ内の画像を添付してiモードメールを作成することはできません。

画像を電話帳に登録する場合

電話帳に画像を登録して「電話帳画像着信設定」(『基本編』のP.181)を「ON」に設定すると、登録した画像が着信時に表示されます。

イメージビューアの「INBOX」、「カメラ」、ユーザ作成フォルダの画像一覧画面で機能メニューから「電話帳イメージ登録」を選びます。「本体」を選んでから、新規で登録するときは「新規登録」を選び、「電話帳に登録する」(『基本編』のP.108)と同様の操作で登録します。追加で登録するときは「追加登録」を選び、『基本編』のP.114の操作3、4と同様の操作で追加登録します。

- 100Kバイトまでの JPEG画像を登録できます。ただし、「ファイル制限」(P.293)が「あり」の画像は登録できません。これらの情報は、「イメージ情報」(P.294)で確認できます。ファイル制限が「あり」に設定されていても、内蔵カメラで撮影した静止画、「キャラ電撮影」で撮影した「撮影後ファイル制限」が「なし」の静止画や赤外線通信機能などから転送されたり、miniSDメモリーカードから取得した画像は電話帳に登録できます。
- 「自作アニメ」に保存されているアニメーションや連続写真のリンクファイルを登録することはできません。

miniSDメモリーカード内の画像を指定印刷する場合

miniSDメモリーカードに保存されている画像の中からプリントしたい画像や枚数の情報をあらかじめ設定しておくと、DPOF(Digital Print Order Format)に対応したプリンターやプリントサービスのお店で簡単に指定印刷することができます。

「minSD」フォルダの画像一覧画面で印刷したい画像を反転表示して、機能メニューから「DPOF設定」－「プリント指定」を選びます。印刷枚数を01～99の範囲で入力して、●[確定]を押します。

- 指定情報を1件解除する場合は、画像一覧画面で解除したい画像を反転表示して、機能メニューから「DPOF設定」－「プリント指定解除」を選びます。
- 指定情報をすべて解除する場合は、画像一覧画面で機能メニューから「DPOF設定」－「プリント指定全解除」を選びます。
- miniSDメモリーカードの空き容量が不足している場合は設定できません。

画像を削除します

<例：1件削除する場合>

1 画像一覧画面で削除したい画像を選んで、機能メニューから「1件削除」を選ぶ→P.294

2 「YES」を選ぶ

フォルダ内の画像を全件削除する場合

画像一覧画面で機能メニューから「全削除」を選んで端末暗証番号を入力し、「YES」を選ぶ
端末暗証番号について→P.21

削除を中止する場合

「NO」を選ぶ

画像を選択して削除します

<例：カメラフォルダの場合>

1 画像一覧画面で機能メニューから「複数選択」を選ぶ→P.294

2 削除したい画像を選ぶ

選択した画像の枠が赤く変わります。
選んだ画像をもう一度選ぶと、選択を解除します。選択を全件解除する場合は、機能メニューから「全選択解除」を選びます。
機能メニューから「全選択」を選ぶと、フォルダ内のすべての画像を選択できます。

3 機能メニューから「削除」を選んで「YES」を選ぶ

削除を中止する場合

「NO」を選ぶ

おしらせ

- 「イメージ貼付」、自作アニメのリンクファイルに設定している画像を削除すると、その設定は解除されてお買い上げのときの状態に戻ります。

動画やiモーションを再生します

お買い上げ時	等倍表示

内蔵カメラで撮影した動画、サイトやインターネットホームページから取り込んだiモーションを再生します。

iモーションのFOMA端末への取り込みについて→P.95

●「ピクチャボイス」(P.258)で作成したデータを再生します。
●再生中の映像を静止画や動画として切り出したり、待受画面に設定できます。
●動画やiモーションのタイトルを編集したり、情報を見ることができます。
●ムービープレーヤーのフォルダ構成やファイル形式について→P.286

＜例：INBOX内のiモーションを再生する場合＞

1

「ムービープレーヤー」の順に選ぶ

ムービープレーヤー
1 INBOX
2 カメラ
3 追加フォルダ1
4 miniSD
5 プログラム
選択 機能

ムービープレーヤーのフォルダ一覧画面が表示されます。
「プログラム」を選ぶと動画やiモーションを10件まで選んでプログラム再生をすることができます。→P.311

2 動画やiモーションのあるフォルダを選ぶ

INBOX
1 サッカー
2 がんばれ日本
3 ホームラン
4 ヒット曲
5 スキー
6 スケート
7 ゴール場面集
8 話題の映画
9 四季の風景
0 最新ニュース
再生 機能

タイトル前のアイコンについて→P.288

動画やiモーションの情報を確認する場合

一覧画面で確認したい動画やiモーションを反転表示して、機能メニューから「iモーション情報」を選ぶ

iモーション情報では、iモーションのタイトル、ファイル名、ファイルサイズ、ファイル制限、再生制限などの情報を確認できます。

iモーション情報を確認したらCLRを押します。

3 再生したい動画やiモーションを選ぶ

動画またはiモーションの再生がはじまります。
「着信音量」の「電話／TV電話」で設定されている音量で再生します。「消去」または「ステップ」に設定されているときは「レベル2」で再生します。

ムービープレーヤー再生中の操作について

ムービープレーヤーを再生中には次の操作を行うことができます。

再生中の場合

テロップ表示の場合

音量調節の場合

操作ボタン	ムービープレーヤーの動作
●	再生一時停止／再開
▲（▲）、▼（▼）	音量調節
◀▶	前後の動画やiモーションの再生
◢	早送り再生
◣	消音（ミュート）（音声や音楽がないときは無効になります）
◀を1秒以上	スキップ戻し※
▶を1秒以上	スキップ送り※
●で再生一時停止後、◢	コマ送り（押すごとにコマが進みます）
●で再生一時停止後、機能メニューから「スロー再生」	スロー再生
CLR	終了

※：iモーションによっては利用できない場合があります。

- 再生中にFOMA端末を閉じるとムービープレーヤーは終了し、フォルダ一覧画面に戻ります。
- 再生中に音量を変更しても、ムービープレーヤーの動画やiモーションの一覧画面へ戻ると「着信音量」で設定されている音量に戻ります。

動画やiモーションを特定の位置から再生します

1 **再生停止中に機能メニューから「再生位置選択」を選び、◀▶を押して再生位置を選んで● [確定] を押す**

選んだ位置から動画やiモーションが再生されます。

iモーションの再生音に音響効果を加えます

お買い上げ時	ON

1   ▶**「その他」▶「SRS_WOW設定」を選んで「ON」を選ぶ**

一覧画面でタイトルの前に「」、「」、「」がついているiモーションを再生したときに、スピーカから聞こえる再生音には「楽器や声の輪郭がはっきりしたサウンド」といった音響効果が加わり、イヤホンから聞こえてくるステレオ再生音には「自然な立体音場感」、「豊かな低音」、「楽器や声の輪郭がはっきりしたサウンド」といった音響効果が同時に加わります。

一覧表示のしかたを変更する

ムービープレーヤーの「ＩＮＢＯＸ」、「カメラ」、ユーザ作成フォルダ、「miniＳＤ」の一覧画面を、最大5行のタイトルとプレビュー画面の表示に切り替えることができます。プレビュー画面の表示では、動画やiモーションの最初の1コマ目が表示されます※。

ムービープレーヤーの一覧画面で機能メニューから「一覧表示切替」−「タイトル」または「タイトル＋画像」を選びます。

※：映像がないiモーションの場合はプレビュー画面が表示されません。

プレビュー画面の表示例

画面表示サイズを変更する

動画やiモーションの再生画面の表示サイズを変更できます。

機能メニューから「画面表示設定」を選んで表示サイズを「等倍表示」または「画面サイズで表示」から選びます。

おしらせ

- マナーモード設定中に音声のある動画またはiモーションを再生しようとしたときは、再生するかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと音声付きで再生されます。「NO」を選ぶと音声なしで映像のみが再生されます。映像もテロップもないiモーションの場合は、一覧画面に戻ります。
- iモーションには、再生期間、再生期限、再生回数といった再生制限が設定されている場合があります。それぞれ次の場合は再生することができません。
  - ・再生期間：再生期間前および再生期間後のとき
  - ・再生期限：再生期限後のとき
  - ・再生回数：再生可能回数が0回になったとき
- 再生期間制限、再生期限制限が設定されているiモーションを再生しようとすると、その制限についてのメッセージが表示されます。メッセージが消えると再生が始まります。
- 再生回数制限が設定されているiモーションを再生しようとすると、その制限についてのメッセージが表示されます。再生するときは、「YES」を選びます。再生を中止するときは「NO」を選びます。
- 再生制限により再生できないiモーションを再生しようとしたときは、iモーションの削除をするかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶと、再生しようとしたiモーションが削除されます。「NO」を選ぶと、再生しようとしたiモーションは削除されません。
- 長い期間電池パックを外していると、FOMA端末で保持している日付・時刻の情報がリセットされることがあります。その場合、再生期限や再生期間が決められているiモーションを再生することはできません。
- 内蔵カメラで撮影した動画をメールに添付した際、その出力先からさらに送信や出力ができなくするファイル制限(P.293)が設定されている場合があります。再生制限やファイル制限については、「iモーション情報」(P.308)で確認できます。
- 音声や音楽がないときは、「(アイコン)」は表示されず、再生画面の再生経過時間の横に「(アイコン)」が表示されます。
- 動画やiモーションの再生中に、音声電話やテレビ電話の着信があると、再生は中止されます。
- 動画やiモーションの再生中にメールやメッセージリクエスト／フリーなどを受信した場合、映像や音声が途切れることがあります。
- FOMA N900i以外で撮影した動画は正しく再生できない場合があります。

プログラム再生をします

10件まで選んでプログラム再生をすることができます。

<例：INBOXフォルダのiモーションをプログラムに設定して再生する場合>

1 ムービープレーヤーのフォルダ一覧画面で「プログラム」を反転表示して、機能メニューから「プログラム編集」を選ぶ→P.308

2 設定するプログラムの番号を選ぶ

3 フォルダを選んでプログラム設定する動画やiモーションを選ぶ

4 操作2～3 を繰り返して[完了]を押す

プログラムされた動画やiモーションを解除する場合

解除する動画やiモーションを選んで「ムービー解除」を選ぶ

5 [再生]を押してプログラム再生する

動画やiモーションの再生がはじまります。
編集したプログラムは、ムービープレーヤーを終了しても解除されません。

プログラムを解除する場合

ムービープレーヤーのフォルダ一覧画面で「プログラム」を反転表示して、機能メニューから「プログラム解除」を選ぶ

おしらせ

● プログラム再生しているときは、「Phone To機能」、「Mail To機能」、「Web To機能」(P.111、P.112、P.113)は利用できません。

動画を編集します

編集できる種類は次のとおりです。

機能名	編集内容	参照ページ
イメージ切り出し	内蔵カメラで撮影した動画から静止画を切り出す	P.313
iモーション切り出し	内蔵カメラで撮影した動画の一部を切り出す	P.315
メールサイズ切り出し	内蔵カメラで撮影した動画をメール添付できるファイルサイズに切り出す	P.316
テロップ編集	動画に新しくテロップを追加・変更する	P.317
アフレコ編集	動画に新規で音声を録音する	P.319

●動画編集中は、マルチタスク機能を利用できません。
●編集できる動画について→P.289

1 **一覧画面で編集したい動画を反転表示して、機能メニューから「iモーション編集」を選ぶ→P.308**

2 **機能メニューから編集したい機能を選んでそれぞれの操作を行う→上記表**

動画から静止画を切り出します

内蔵カメラで撮影した動画を再生中、早送り再生中、スロー再生中に一時停止させて、静止画を切り出して保存することができます。

●切り出した静止画は保存時に選択したイメージビューアの選択したフォルダに保存されます。保存した静止画はイメージビューアで表示したり、加工したりすることができます。→P.294、296

1 **機能メニューから「イメージ切り出し」を選ぶ**

動画の1コマ目を切り出したい場合は、操作4へ進みます。

2 ◉[再生]を押す

動画が再生されます。

3 切り出したい場面で◉[停止]を押して一時停止させる

早送り再生中、スロー再生中でも◉[停止]を押して一時停止させることができます。
一時停止後、◎を押して1コマごとに進めることができます。

4 ◔[確定]を押して「YES」を選ぶ

選択した場面が静止画に切り出されます。

5 ◉[保存]を押して保存するフォルダを選ぶ

ムービープレーヤー

動画の編集

動画の一部を切り出します

内蔵カメラで撮影した動画のお好きな場面を切り出して保存することができます。「ピクチャボイス」(P.258)も同様に切り出して保存することができます。

1 機能メニューから「iモーション切り出し」を選ぶ

動画の途中の場面から切り出しを始めたい場合

◉[再生]を押して切り出しを始める場面まで再生して◉[停止]を押す
再生中に◯を1秒以上押して早送り再生ができます。

2 ◑[始点]を押して動画切り出しを開始する

動画が再生され、切り出しが開始されます。
再生中に◯を1秒以上押して早送り再生ができます。

3 動画を切り出す最後の場面になったら◉[停止]を押して◑[終点]を押す

切り出した動画が再生されます。
早送り再生中、スロー再生中でも◉[停止]を押して停止させることができます。
停止後、◯を押して1コマごとに進めることができます。
中止するときはCLRを押します。

4 ◉[確定]を押す

切り出した動画を確認する場合

◑[デモ]を押す

5 ◉[保存]を押して「YES」を選ぶ

P.313の操作1で選んだ動画があるフォルダに切り出した動画が保存されます。

ムービープレーヤー
動画の編集

動画をメールに添付できるサイズに切り出します

内蔵カメラで撮影した動画を、メールに添付できるファイルサイズに切り出せます。

1 機能メニューから「メールサイズ切り出し」を選ぶ

動画の途中の場面から切り出しを始めたい場合

◉[再生]を押して切り出しを始める場面まで再生して◉[停止]を押す

再生中に◎を1秒以上押して早送り再生ができます。

2 ◔[始点]を押して動画切り出しを開始する

動画が再生され、切り出しが開始されます。
メールに添付できる最大ファイルサイズになると、自動的に再生が停止します。

3 ◉[確定]を押す

切り出した動画を確認する場合

◔[デモ]を押す

4 ◉[保存]を押して「YES」を選ぶ

P.313の操作1で選んだ動画があるフォルダに切り出した動画が保存されます。

動画のテロップを編集します

お買い上げ時	文字色：黒　背景色：白　文字サイズ：標準　文字位置：左寄せ 点滅／下線／スクロール：OFF

動画に新しくテロップを追加したり、編集することができます。

●1つの動画につき、5件のテロップを編集できます。1件につき全角で20文字までテロップを入力できます。

<例：テロップを新規作成する場合>

1 機能メニューから「テロップ編集」を選んで「新規作成」を選ぶ

動画の途中の場面からテロップを編集する場合

◉[再生]を押してテロップ表示を始める場面まで再生して◉[停止]を押す

すでにテロップがある動画を編集する場合

テロップ情報が削除される可能性があることを通知するメッセージが表示されます。テロップを編集する場合は「YES」を選びます。「編集」を選んで編集するテロップを一覧から選んでください。

テロップを追加する場合

機能メニューから「テロップ編集」を選んで「編集」を選び、機能メニューから「テロップ追加」を選ぶ

「<追加可能>」を選んでテロップを追加してください。

すでに別のテロップが登録されている場合は、テロップを追加できる位置に「<追加可能>」が複数表示されますので追加したい位置を選んでください。

2 ◐[始点]を押してテロップを入力し、◉[確定]を押す

◐[始点]を押す代わりに、機能メニューから「テロップ表示始点」を選んでもテロップ表示の始点を設定できます。

3 項目を選んでテロップを編集する

文字の入力方法について→『基本編』のP.298

文字色または背景色を変更する場合

「文字色」または「背景色」を選んで変更する色を選ぶ

そのほかの色を選ぶ場合は、◐[切替]を押して色を選びます。

文字サイズを変更する場合

「文字サイズ」を選び、文字のサイズを「標準」または「拡大」から選ぶ

文字位置を変更する場合

「文字位置」を選び、文字位置を「左寄せ」、「センタリング」、「右寄せ」から選ぶ

テロップを点滅させる場合

「点滅」を選び、「ON」を選ぶ

テロップに下線を追加する場合

「下線」を選び、「ON」を選ぶ

スクロール方法を設定する場合

「スクロール」を選び、スクロール効果の種類を「OFF」、「スクロールイン」、「スクロールアウト」、「スクロールイン・アウト」から選んで、テロップをスクロールする方向を「右から左へ」、「左から右へ」、「下から上へ」、「上から下へ」から選ぶ

---

4 編集が終わったら「設定完了」を選ぶ

---

5 ◉[再生]を押してテロップを表示する範囲を再生する

新規作成するテロップ表示の範囲を再生中に、すでに登録されているテロップの始点の位置になった場合は、その位置を終点にするかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶとテロップが新規登録されます。「NO」を選ぶと、テロップの一覧画面に戻ります。

---

6 テロップ表示を終了する場面になったら◉[停止]を押して◐[終点]を押す

◐[終点]を押す代わりに、機能メニューから「テロップ表示終点」を選んでもテロップ表示の終点を設定できます。

7 テロップ編集が終わったら、機能メニューから「テロップ編集完了」を選ぶ

テロップリストが表示された場合

[完了]を押す

テロップ編集した動画を確認する場合

機能メニューから「テロップ編集完了」を選んだ後または[完了]を押した後、[デモ]を押す

8 [確定]を押す

9 [保存]を押して「YES」を選ぶ

P.313の操作1で選んだ動画があるフォルダに編集した動画が保存されます。

登録済みのテロップの詳細を確認する場合

操作1の画面で「編集」を選んだ後、確認したいテロップを反転表示して、[詳細]を押す

登録済みのテロップを編集する場合

操作1の画面で「編集」を選んだ後、編集したいテロップを反転表示して、機能メニューから次の項目を選ぶ

文字変更　　：入力したテロップを変更します。
効果変更　　：文字色、文字位置、スクロールの方向などを変更します。→P.317
開始位置変更：テロップを表示する開始位置を変更します。
終了位置変更：テロップを表示する終了位置を変更します。

登録済みのテロップを削除する場合

操作1の画面で「編集」を選んだ後、削除したいテロップを反転表示して、機能メニューから「テロップ削除」を選ぶ

動画にアフレコを録音します

動画の音声部分を消して新たに音声を録音できます。

1 機能メニューから「アフレコ編集」を選ぶ

2 [始点]を押してアフレコの録音を始める

動画の途中の場面からアフレコを録音する場合

[再生]を押してアフレコの録音を始める場面まで再生して[始点]を押す

3 アフレコの録音が終わったら◑[終点]を押して◉[完了]を押す

4 ◉[確定]を押す

録音したアフレコを確認する場合

◑[デモ]を押す

5 ◉[保存]を押して「YES」を選ぶ

P.313の操作1で選んだ動画があるフォルダに編集した動画が保存されます。

動画やiモーションを利用します

動画やiモーションを待受画面に設定します

●動画やiモーションを待受画面に設定した場合、待受画面ではその動画やiモーションの1コマ目の画像が表示されます。

<例：「INBOX」のiモーションを設定する場合>

1 動画やiモーションの一覧画面を表示させる→P.308

2 設定したい動画やiモーションを反転表示して、機能メニューから「待受画面設定」を選ぶ

3 「YES」を選ぶ

設定した動画やiモーションを解除するときは、「画面表示設定」(『基本編』のP.177)でほかの画像などに設定を変更してください。

おしらせ

- 音声だけの動画やiモーション、テキストだけのiモーション、再生制限が設定されているiモーションは、待受画面に設定することはできません。
- 待受画面に設定された動画やiモーションはFOMA端末を開くと再生されます。この場合、再生中に可能な操作は音量調節だけで、マナーモード中には映像のみが再生されます。また、「Phone To機能」、「Mail To機能」、「Web To機能」(P.111、P.112、P.113)は利用できません。

着信音の設定をする場合

動画やiモーションの一覧画面で設定したい動画やiモーションを反転表示して、機能メニューから「着信音設定」を選びます。
設定する項目を選んでください。すでに設定されている項目には「★」マークがつきます。
設定した着信音を解除するときは「着信音選択」(『基本編』のP.163)でほかのメロディ、動画やiモーションに変更します。
動画やiモーションを設定できるのは、電話とテレビ電話の着信音のみです。

iモードメールを作成する場合

一覧画面で添付したい動画やiモーションを反転表示して、機能メニューから「iモードメール作成」を選びます。
iモードメール新規作成について→P.168
画像表示中も機能メニューからiモードメールを作成できます。
・メールに添付できない動画やiモーションのときは、「iモードメール作成」を選ぶことはできません。また、データ量などによっては、動画やiモーションをiモードメールに添付することができない場合があります。→P.162

動画を電話帳に登録する

電話帳に動画を登録して「電話帳画像着信設定」(『基本編』のP.181)を「ON」に設定すると、登録した画像が着信時に表示されます。
ムービープレーヤーの「INBOX」、「カメラ」、ユーザ作成フォルダの動画／iモーションの一覧画面で機能メニューから「電話帳iモーション登録」を選びます。「本体」を選んでから、新規で登録するときは「新規登録」を選び、「電話帳に登録する」(『基本編』のP.108)と同様の操作で登録します。追加で登録するときは「追加登録」を選び、『基本編』のP.114の操作3、4と同様の操作で追加登録します。
・100Kバイトまでの動画を登録できます。ただし、サイトなどから取り込んだiモーションや、「キャラ電撮影」で撮影した「撮影後ファイル制限」が「あり」の動画は登録できません。

Phone To機能、Mail To機能、Web To機能を利用する

再生が終わった後、画面に下線のついた電話番号やメールアドレス、URL等が表示された場合は、「Phone To機能」、「Mail To機能」、「Web To機能」(P.111、P.112、P.113)を利用できます。
また、「Phone To機能」や「Mail To機能」を利用できる場合は、電話帳に登録できます。再生が終わった後、機能メニューから「電話帳登録」を選びます。新規で登録するときは「新規登録」を選び、「電話帳に登録する」(『基本編』のP.108)と同様の操作で登録します。追加で登録するときは「追加登録」を選び、『基本編』のP.114の操作3、4と同様の操作で追加登録します。

Phone To機能の場合

Mail To機能の場合

Web To機能の場合

動画やiモーションを削除します

＜例：1件削除する場合＞

1 一覧画面で削除したい動画またはiモーションを反転表示して、機能メニューから「1件削除」を選ぶ

2 「YES」を選ぶ

フォルダ内の画像を全件削除する場合

一覧画面で機能メニューから「全削除」を選んで端末暗証番号を入力し、「YES」を選ぶ

端末暗証番号について→P.21

削除を中止する場合

「NO」を選ぶ

動画やiモーションを選択して削除します

＜例：INBOXフォルダの場合＞

1 一覧画面で機能メニューから「複数選択」を選ぶ

2 削除したい動画やiモーションを選ぶ

選択した動画やiモーションがチェックされます。

チェックされた動画やiモーションをもう一度選ぶと、選択を解除します。選択を全件解除する場合は、機能メニューから「全選択解除」を選びます。

機能メニューから「全選択」を選ぶと、フォルダ内のすべての動画やiモーションを選択できます。

3 機能メニューから「削除」を選んで「YES」を選ぶ

削除を中止する場合

「NO」を選ぶ

おしらせ

- 待受画面に設定している動画やiモーションを削除すると、その設定は解除されてお買い上げのときの状態に戻ります。

キャラ電を表示します

お買い上げ時	画像表示設定：画面サイズで表示　代替画像設定：ブンブン（Dimo）

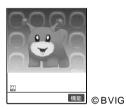
内蔵キャラ電やサイトからダウンロードしたキャラ電を表示します。

●内蔵キャラ電3件と、ダウンロードした3件の合計6件までのキャラ電を登録できます。
キャラ電→P.92
キャラ電をダウンロードする→P.93

●内蔵されているキャラ電は次のとおりです。

ブンブン（Dimo）

チカ（Chica）

ニノ（Nino）

1 Menu ▶ マルチメディア ▶「キャラ電プレーヤー」の順に選ぶ

キャラ電一覧画面が表示されます。

2 表示したいキャラ電を選ぶ

選択したキャラ電が表示されます。

画面表示サイズを変更する

機能メニューから「画像表示設定」を選んで表示サイズを「等倍表示」または「画面サイズで表示」から選ぶ

キャラ電の情報を確認する場合

キャラ電一覧画面で確認したいキャラ電を反転表示して、機能メニューから「キャラ電情報」を選ぶ

キャラ電情報ではキャラ電の初期タイトル、ファイル名、ファイルサイズ、ファイル制限、撮影後ファイル制限などの情報を確認できます。

キャラ電情報を確認したらCLRを押します。

表示したキャラ電をテレビ電話の代替画像に設定する場合

機能メニューから「代替画像設定」を選ぶ

操作1のキャラ電一覧画面でキャラ電を反転表示して、機能メニューから「代替画像設定」を選んでも設定できます。

おしらせ

- 「撮影後ファイル制限」が「あり」の場合は、「キャラ電撮影」で撮影した静止画や動画を編集したり、miniSDメモリーカードへの保存、iモードメール添付などを行うことができません。
- 別のFOMAカードに差し替えたり、FOMAカードを抜いたままFOMA端末の電源を入れた場合は、ダウンロードしたキャラ電は再生できなくなり、「代替画像設定」に設定されている場合はお買い上げのときの設定で動作します。元のFOMAカードを挿入し直すと、それらの表示や設定した動作ができるようになります。→P.19

キャラ電を操作します

キャラ電の感情やしぐさなどを表現するために、用意されているいろいろなアクションから選んで再生できます。

- キャラ電の操作をしていないときも、選択しているキャラ電の種類によって異なる特有のアクションを続けます。

アクションを再生します

1 **キャラ電を表示する****→P.324**

2 **[*]を押してアクション一覧を表示する**

一覧で表示されるアクションは、キャラ電の種類によって異なります。

機能メニューから「アクション一覧」を選んでもアクション一覧を表示できます。

アクション一覧でアクション名の右にある「1」や「#1」などは、キャラ電表示中にそのダイヤルボタンを押すと、対応するアクションを再生することができます。→P.326

アクションの詳細を表示する場合

確認したいアクションを反転表示して、[詳細]を押す

アクションの詳細を確認したら[閉]を押します。

アクションモードを切り替える場合

キャラ電表示中に機能メニューから「アクション切替」を選ぶ

[全体アクション]が表示されているときはパーツアクションモードに、[パーツアクション]が表示されているときは全体アクションモードに切り替わります。

全体アクション：
感情などキャラ電全体の動きを表現するアクションモードです。

パーツアクション：
頭や手足などのキャラ電の部分的な動きを表現するアクションモードです。

3 再生したいアクションを選ぶ

選択したアクションを再生します。

選択したアクションの再生を中止する場合

0を押す

キャラ電表示中にダイヤルボタンでアクションを選ぶ場合

キャラ電表示中の画面で次のダイヤルボタンを押してアクションを再生します。

「全体アクション」　：アクション一覧でアクション名の右にある1桁の数字（1～9）または#1～#9を押す

「パーツアクション」：アクション一覧でアクション名の右にある2桁の数字（11～99）を押す

＜例：全体アクション「怒る」を選ぶ場合＞

P.324操作2の画面で2を押す

＜例：パーツアクション「右側の手を上げる」を選ぶ場合＞

P.324操作2の画面で33を押す

音声に合わせてキャラ電の口の動きに変化をつける

キャラ電によっては表示中に音声を入力すると、音声に合わせてキャラ電も一緒に話しているような口の動きを与えることができるものもあります。

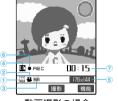
機能メニューやダイヤルボタンを押してアクションの再生が行われた場合は、音声を入力しても選択したアクションの動きが優先されます。

キャラ電を静止画／動画として保存します

キャラ電プレーヤーで再生したキャラ電を、静止画や動画に切り出して保存することができます。

●切り出された静止画はイメージビューアのINBOXフォルダに、動画はムービープレーヤーのINBOXフォルダにそれぞれ保存されます。

●撮影時の設定について→P.331

キャラ電撮影時の見かた

静止画撮影の場合

動画撮影の場合

①現在選択されているアクションモード（P.325）を示します。
- ：全体アクション
- ：パーツアクション

②撮影モード（P.328、P.329）を示します。
- ：静止画撮影
- ：動画撮影

③「動画保存設定」（P.331）の設定を示します。
- LONG：時間優先
- NOR：標準
- FINE：画質優先

④「撮影種別設定」（P.331）の設定を示します。
- ：通常
- ：映像のみ

⑤「画像サイズ設定」（P.331）に設定しているサイズが表示されます。
- 176×144：サイズ大（176×144）
- 128×96：サイズ小（128×96）

⑥撮影の状態を示します。
- STAND BY：スタンバイ
- ● REC：撮影中

⑦残り撮影時間が「分：秒」で表示されます（撮影前は非表示）。

静止画を撮影します

1 **キャラ電を表示する→P.324**

2 **機能メニューから「キャラ電撮影」を選ぶ**

機能メニュー
1キャラ電撮影
2代替画像設定
3デスクトップ貼付
4アクション一覧
5アクション切替
6キャラ電情報
7画像表示設定

静止画撮影画面が表示されます。

動画撮影に切り替える場合

「■」が表示されているときに、機能メニューから「ムービーモード」を選ぶ

アイコンが「■」に切り替わります。

キャラ電を切り替える場合

機能メニューから「キャラ電切替」を選んで切り替えるキャラ電を選ぶ

キャラ電を切り替えると、選択できるアクションや操作していないときの動きなどがすべて切り替わります。

3 **撮影したいキャラ電のアクションを選ぶ**

アクションについて→P.326

選択したアクションの再生を中止する場合

0を押す

4 **キャラ電の表示を確認して● [撮影] を押す**

撮影時にはシャッター音が鳴り、確認モード画面が表示されます。

撮影をやり直したい場合

CLRを押す

静止画撮影画面に戻りますので撮影し直してください。

撮影した静止画をすぐにiモードメールに添付して送る場合

◐ [MAIL] を押す

静止画が添付された新規iモードメールの作成画面が表示されます。→P.168

「撮影後ファイル制限」が「あり」の場合は、iモードメール添付を行うことはできません。

5 **● [保存] を押す**

撮影した静止画はイメージビューアのINBOXフォルダに保存されます。

続けて撮影する場合は、操作3～5を繰り返してください。

動画を撮影します

1 **キャラ電を表示する→P.324**

2 **機能メニューから「キャラ電撮影」を選ぶ**

3 **機能メニューから「ムービーモード」を選ぶ**

動画撮影画面が表示されます。

静止画撮影に切り替える場合

「🎥」が表示されているときに、機能メニューから「フォトモード」を選ぶ

アイコンが「📷」に切り替わります。

キャラ電を切り替える場合

機能メニューから「キャラ電切替」を選んで切り替えるキャラ電を選ぶ

キャラ電を切り替えると、選択できるアクションや操作していないときの動きなどがすべて切り替わります。

4 **キャラ電の表示を確認して◉[撮影]を押す**

撮影開始時には撮影開始音が鳴り、撮影中の映像が画面に表示されます。

撮影をやり直したい場合

CLRを押す

撮影できる最大ファイルサイズになると、自動的に撮影が停止します。

◉[終了]を押すと操作7の確認モード画面が表示されます。

5 **ダイヤルボタンを押してアクションを再生する**

アクションについて→P.326

撮影中に続けてアクションを選びます。

選択したアクションの再生を中止する場合

0を押す

6 ◉[終了]を押して撮影を終了する

撮影終了時には撮影終了音が鳴り、確認モード画面が表示されます。

撮影した動画を確認する場合

機能メニューから「再生確認」を選ぶ

撮影をやり直したいとき

CLRを押す

動画撮影画面に戻りますので撮影し直してください。

撮影した動画をすぐにiモードメールに添付して送る場合

[MAIL]を押す

動画が添付された新規iモードメールの作成画面が表示されます。

→P.168

「撮影後ファイル制限」が「あり」の場合は、iモードメール添付を行うことはできません。

7 ◉[保存]を押す

撮影した動画はムービープレーヤーのINBOXフォルダに保存されます。
続けて撮影する場合は、操作4～7を繰り返してください。

おしらせ

- キャラ電プレーヤーで動画撮影中は着信ランプは点滅しません。また、「マナーモード」に設定しているときは、シャッター音や撮影開始／終了音は鳴りません。
- キャラ電撮影後、保存する前に着信やアラーム通知などがあった場合は、撮影したデータが自動的に保存されます。
- イメージビューアやムービープレーヤーに空き容量がない場合、「キャラ電撮影」を選ぶと容量不足というメッセージが表示され、撮影できません。

キャラ電撮影の設定をします

お買い上げ時	画像サイズ設定 ：サイズ大（176×144）　撮影種別設定：通常 動画保存設定　 ：標準

静止画撮影の画像サイズを設定します。動画撮影の場合は画質の設定や、映像と音声または映像のみの撮影種別を選択することができます。
設定の内容はキャラ電撮影時の画面で確認できます。**→P.327**

●キャラ電を終了してもキャラ電撮影の設定は保持されます。

1 キャラ電撮影画面で機能メニューを表示させる→P.328

動画撮影の場合

画像サイズを設定する場合

機能メニューから「画像サイズ設定」を選んで記録サイズを選ぶ

サイズ大（176×144）：静止画や動画をQCIFサイズで保存します。
サイズ小（128×96）　：静止画をSub-QCIFサイズで保存します。

動画の撮影種別を設定する場合

機能メニューから「撮影種別設定」を選んで動画の撮影種別を選ぶ

通常　　　：映像・音声ともに撮影します。
映像のみ ：映像のみを撮影します。

動画の画像品質を設定する場合

機能メニューから「動画保存設定」を選んで動画の画像品質を選ぶ

時間優先 ：1コマごとの画質が落ちますが、撮影時間は長くなります。
標準　　　：画質、撮影時間ともに標準の設定です。
画質優先 ：1コマごとの画質は向上しますが、撮影時間は短くなります。

おしらせ

●静止画撮影の際に「画像サイズ設定」を「サイズ小（128×96）」に設定しても、動画撮影に切り替えると「サイズ大（176×144）」に切り替わります。

キャラ電を削除します

ダウンロードしたキャラ電を削除します。

●内蔵キャラ電は削除できません。

<例：1件削除する場合>

1 キャラ電一覧画面で削除したいキャラ電を反転表示して、機能メニューから「1件削除」を選ぶ→P.324

2 「YES」を選ぶ

キャラ電を全件削除する場合

一覧画面で機能メニューから「全削除」を選んで端末暗証番号を入力し、「YES」を選ぶ

端末暗証番号について→P.21

全件削除しても内蔵のキャラ電は削除されません。

削除を中止する場合

「NO」を選ぶ

メロディを再生します

内蔵メロディや効果音、サイトなどから取り込んだメロディ、iアプリやバーコードリーダーから登録したメロディを再生します。また、おしゃべり機能で録音した音声を確認することもできます。

●メロディプレーヤーのフォルダ構成やファイル形式について→P.286

メロディを選んで再生します

＜例：INBOXフォルダ内のメロディを再生する場合＞

1 ▶▶「メロディプレーヤー」の順に選ぶ

メロディプレーヤーのフォルダ一覧画面が表示されます。

「プログラム」を選ぶと10曲まで選んでプログラム再生をすることができます。→P.335

PIMロック中は、プリインストールフォルダのみが表示されます。

2 再生したいメロディがあるフォルダを選ぶ

INBOX 1/2
ホノルルの夕べ
テーマソング
アメリカンロック
赤い屋根の下
ヒット曲
ワカメのダンス
アニメの歌
湘南レース
なつかしのメロディ
Oh！香港
再生　機能

タイトル前のアイコンについて→P.288

メロディの情報を確認する場合

メロディ一覧画面で確認したいメロディを反転表示して、機能メニューから「メロディ情報」を選ぶ

メロディ情報では、メロディのタイトル、ファイル名、ファイル制限、着信音やアラーム音の設定状況などの情報を確認できます。メロディ情報を確認したらCLRを押します。

着信音の設定をする場合

メロディ一覧画面で設定したいメロディを反転表示して、機能メニューから「着信音設定」を選ぶ

設定する項目を選んでください。すでに設定されている項目には「★」マークがつきます。

メロディ再生中も機能メニューから着信音を設定できます。

設定した着信音を解除するときは「着信音選択」(『基本編』のP.163)でほかのメロディに変更します。

3 再生したいメロディを選ぶ

メロディの再生がはじまります。
「着信音量」(『基本編』のP.79)の「電話／TV電話」で設定されている音量で再生します。「消去」または「ステップ」に設定されているときは「レベル2」で再生します。

メロディプレーヤー再生中の操作について

メロディプレーヤーを再生中には次の操作を行うことができます。

操作ボタン	メロディプレーヤーの動作
◎(左右)	前後の曲の再生
◎(上)、◎(下)	音量調節
0～9、*、#、(発信)、(iモード)、(電源)、●	再生の停止
CLR	終了

●音量を調節した後、●[確定]を押すか、約2秒間待つとメロディプレーヤーの画面に戻ります。
●再生中に音量を変更しても、メロディプレーヤーを終了すると「着信音量」で設定されている音量に戻ります。

iモードメールを作成する場合

一覧画面で添付したいメロディを反転表示して、機能メニューから「iモードメール作成」を選ぶ
iモードメール新規作成について→P.168
メロディ再生中も機能メニューからiモードメールを作成できます。
メールに添付できないメロディのときは、「iモードメール作成」を選ぶことはできません。また、データ量などによっては、メロディをiモードメールに添付することができない場合があります。
→P.162

おしらせ

● マナーモード設定中に再生しようとしたときは、再生するかどうかのメッセージが表示されます。「YES」を選ぶとメロディが再生されます。
● メロディの再生中に、音声電話やテレビ電話の着信があったり、めざまし時計、スケジュール、ToDoのアラーム通知が実行されたり、ほかの機能の操作を行ったときは、再生は中止されます。
● タイトルの前に「(アイコン)」、「(アイコン)」がついているメロディは、あらかじめ再生部分が指定されていることがあります。そのため着信音などに設定したときは指定部分のみが再生されます。メロディプレーヤーではすべてのメロディを再生することができます。また、これらのメロディもファイル名やタイトルの変更を行うことができます。
● 「(アイコン)」がついていたり、メロディ情報のファイル制限が「なし」の場合でも、メール添付や赤外線通信機能による転送ができないことがあります。

プログラム再生します

お好きな曲を10曲まで選んでプログラム再生をすることができます。

<例：INBOXフォルダのメロディを選ぶ場合>

1 メロディプレーヤーのフォルダ一覧画面で「プログラム」を反転表示して、機能メニューから「プログラム編集」を選ぶ→P.333

2 設定するプログラムの番号を選ぶ

3 フォルダを選んでプログラムするメロディを選ぶ

[デモ]を押すと、メロディを再生します。

4 操作2～3 を繰り返して[完了]を押す

プログラムされたメロディを解除する場合

解除するメロディを選んで「メロディ解除」を選ぶ

5 ●[再生]を押してプログラム再生する

メロディの再生がはじまります。
編集したプログラムは、メロディプレーヤーを終了しても解除されません。

プログラムを解除する場合

メロディプレーヤーのフォルダ一覧画面で「プログラム」を反転表示して機能メニューから「プログラム解除」を選ぶ
次の場合はプログラムが解除されます。
- プログラムされたメロディを1つでも削除したとき
- プログラムされたメロディのタイトルを1つでも変更したとき
- プログラムされたメロディのファイル名を1つでも変更したとき

メロディを削除します

＜例：1件削除する場合＞

1 メロディ一覧画面で削除したいメロディを反転表示して、機能メニューから「1件削除」を選ぶ→P.333

---

2 「YES」を選ぶ

フォルダ内のすべての曲を削除する場合

メロディ一覧画面で機能メニューから「全削除」を選んで端末暗証番号を入力し、「YES」を選ぶ
端末暗証番号について→P.21

削除を中止する場合

「NO」を選ぶ

メロディを選択して削除します

＜例：INBOXフォルダの場合＞

1 メロディ一覧画面で機能メニューから「選択削除」を選ぶ→P.333

2 削除したいメロディを選ぶ

選択したメロディがチェックされます。
チェックされたメロディをもう一度選ぶと、選択を解除します。選択を全件解除する場合は、機能メニューから「全選択解除」を選びます。
機能メニューから「全選択」を選ぶと、フォルダ内のすべてのメロディを選択できます。

3 [完了]を押して「YES」を選ぶ

削除を中止する場合

「NO」を選ぶ

おしらせ

- 電話やメールなどの着信音に設定しているメロディを削除すると、「着信音選択」、「電話帳便利機能」、「グループ便利機能」の設定は解除されてお買い上げのときの状態に戻ります。

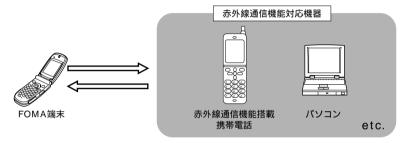
FOMA端末データ交換編

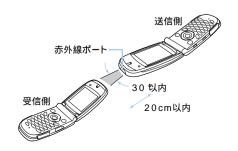
この取扱説明書で掲載している画面はイメージであるため、実際の画面とは異なる場合があります。

赤外線通信機能

赤外線通信について

「赤外線通信機能」を搭載したほかのFOMA端末やパソコンなどと、電話帳や受信メールなどのデータを送受信できます。
また、iアプリで赤外線通信を利用し、ほかの「赤外線通信機能」を搭載した機器とも連動させることができます。

●赤外線通信を利用することで、次の操作が簡単にできます。
- ほかの赤外線通信機能搭載携帯電話やパソコンと、データの送受信ができます。
- データの送受信は、「1件受信」、「1件送信」、「全件転送」(全件の送信、全件の受信)ができます。

赤外線通信をするときは

赤外線通信をするときには、次のことにご注意ください。
- 受信側のFOMA端末を先に受信状態にして、送信側のFOMA端末を20cm以内に近づけます。
- 机などの安定した台の上に、赤外線ポートが平行に向き合うように置いてください。
- 通信中はFOMA端末を動かさないでください。
- 通信中はFOMA端末の間に物を置いたり、赤外線ポートをふさいだりしないでください。
- データの送受信ができなかったときは、FOMA端末の位置を調節して再度通信を行ってください。
- 直射日光があたっている場所や蛍光灯の真下、赤外線装置の近くでは、これらの影響によって正常に通信できない場合があります。

赤外線通信利用にあたってのご注意

こんなときは赤外線通信ができません。またデータも登録できません

・FOMA端末の「赤外線通信機能」はIrMC1.1に準拠しています。IrMC1.1に準拠していない端末との赤外線通信はできない場合があります。また相手の機種によっては、IrMC1.1に準拠していても送受信できないデータがあります。
・「PIMロック」中、「オールロック」中、「セルフモード」中は、「赤外線通信機能」を使ってデータを転送できません。
・FOMAカードの電話帳、SMSは送受信できません。
・赤外線通信中、次のようなときは通信が中断されて、続けるかどうかのメッセージが表示されます。
 ・受信側で約30秒以内にデータの受信がないとき
 ・送信側で受信側の端末を検出できないとき
 「YES」を選ぶと、もう一度通信をやり直すことができます。通信をやめるときは、「NO」を選びます。このとき、約30秒以内に操作しないと、自動的に赤外線通信を終了します。
・次の場合は、1件受信したデータが登録できないことを通知するメッセージが表示されます。
 ・同じURLのブックマークを受信したとき
 ・40Kバイトを超えたSMF形式のメロディを受信したとき
 ・30Kバイトを超えたMFi形式のメロディを受信したとき
 ・ヨコ1616×タテ1212を超えるJPEG画像やヨコ640×タテ480を超えるGIF画像を受信したとき
 ・600Kバイト※を超える静止画を受信したとき
 ※：ただし、596Kバイトを超えるJPEG画像は保存できない場合があります。
 ・JPEG、GIF形式以外の静止画を受信したとき
 ・800Kバイトを超えた動画やiモーションを受信したとき
 ・MP4形式以外の動画を受信したとき
 ・同じ日付時刻で同じ繰り返し設定（なし／あり）のスケジュールのデータを受信したとき
 ・時計設定が行われていないときに、スケジュールまたはToDoのデータを受信したとき
・次のような状態（データがいっぱい）のときに同じ種別のデータを1件受信した場合は、データが登録できないことを通知するメッセージが表示されます。
 ・すでに名前や電話番号またはメールアドレスが700件登録されているときや、受信したときに700件を超えるとき
 ・すでにスケジュールが100件登録されているとき
 ・すでにToDoが100件登録されているとき
 ・すでにテキストメモが10件登録されているとき
 ・すでにブックマークが100件登録されているとき
 ・すでに保存メールが10件保存されているとき
 ・すでに受信メールが未読メールと保護メールでいっぱいのとき（データ量により件数は変わります）
 ・すでに静止画がいっぱいのとき（データ量により件数は変わります）
 ・すでに動画やiモーションがいっぱいのとき（データ量により件数は変わります）
 ・すでにメロディがいっぱいのとき（データ量により件数は変わります）
・送信する相手のFOMA端末の状態によっては、「認証できませんでした」、「送信先のデータがいっぱいです」、「送信先にデータを登録できません」などのメッセージが表示される場合があります。これらのメッセージが表示されたときは送信できません。

赤外線通信中には、こんなことができません

・受信レベルが表示されていても、赤外線通信起動中（「Ir」表示中）はほかの通信を行うことができません。
・音声通話中やテレビ電話中、iモード中、パケット通信中、64Kデータ通信中に本機能を利用することはできません。→『基本編』のP.350
・「赤外線通信機能」起動中は圏外となります。音声電話やテレビ電話、iモード、iモードメール、パケット通信などはできません。

1件送受信

1件のデータを送受信します

FOMA端末内の1件データを、ほかのFOMA端末と赤外線で送受信します。

●送受信できるデータは、次のとおりです。

・電話帳　・電話番号表示の個人データ　・スケジュール
・ToDo　・送信メール　・受信メール
・保存メール　・テキストメモ　・メロディ
・静止画　・動画　・ダウンロードした静止画
・サイトやインターネットホームページから取り込んだiモーション
・ブックマーク
※：iアプリ起動のデータを受信して利用することができます。「赤外線通信機能を利用してiアプリを起動します」→P.77

受信できる電話帳のデータ

・名前、フリガナ、電話番号、メールアドレス、郵便番号、住所、メモ、静止画、動画の各データおよびアイコンの情報です。
・受信した「電話番号表示」のデータは電話帳として登録されます。

電話帳の1件送受信について

・電話帳に登録される電話番号は、メモリ番号「010」～「699」の空いているメモリ番号の中で最も小さいメモリ番号に登録されます。「010」～「699」がすべて登録されているときは、「000」～「009」(「ツータッチダイヤル」(『基本編』のP.110))の空いているメモリ番号の中で最も小さいメモリ番号に登録されます。
・電話帳のデータを受信した場合、すでに名前や電話番号またはメールアドレスが700件登録されているときや700件を超えるときは、登録できないことを通知するメッセージが表示されます。
・電話帳に複数の電話番号およびメールアドレスが登録されているときも、すべてのデータが送受信されます。
・「ダイヤル発信制限」設定中は、電話帳のデータの送受信ができません。
・「電話番号表示」のデータは「指定発信制限」が設定中でも送信できます。
・「指定発信制限」が設定されている場合、電話帳のデータの受信はできません。
・「シークレットモード」(『基本編』のP.201)、「シークレット専用モード」(『基本編』のP.201)でシークレットデータとして登録された電話帳は、「シークレットモード」または「シークレット専用モード」が解除されて送受信されます。
・電話帳のシークレットコードは送受信できません。

赤外線通信に時間がかかるときは

・電話帳の送受信を行うと、登録されている静止画や動画も転送されるため、送受信に時間がかかることがあります。送受信の時間を短縮するために、「電話帳の画像を転送しないように設定します」(P.351)を、「しない」に設定し、電話帳の静止画や動画を転送しないようにすることができます。

おしらせ

- 電話帳を送受信する場合、受信するFOMA端末に静止画や動画を登録する空き容量がないときには電話帳に登録された静止画や動画のデータが正しく送受信できないことがあります。

データを1件受信します

1回の通信で受信できるのは1件のみです。

＜例：電話帳1件のデータを受信する場合＞

1 Menu▶▶「赤外線通信」の順に選ぶ

2 「1件受信」を選ぶ

受信モードになります。

データの受信を中止する場合
CLRまたはPWR HLDを押す

3 相手のFOMA端末からデータを送信する

送信のしかたについて→P.344
データの受信がはじまります。

通信相手がFOMA端末ではない場合
通信状況を表すバーが表示されないことがあります。

受信後、約30秒間操作しない場合
受信したデータを破棄します。

4 「YES」を選ぶ

受信したデータの登録が完了すると、登録完了を通知するメッセージが表示されます。
赤外線通信終了後、「圏外」が表示されることがあります。

受信したデータを登録しない場合
「NO」を選ぶ

おしらせ

- 保護されている受信メール、送信メールも送受信されます。
- INBOXフォルダの空き容量がないときは、ゴミ箱フォルダ内のメールを削除してINBOXフォルダに登録されます。受信したメールが空き容量より大きいときは、保護されていない既読の受信メールの最も古いものに上書きされます。
- 送信メールは、送信BOXフォルダの保護されていない最も古い送信メールに上書きされます。
- デコメールを送信する場合、送信する相手がデコメールに対応していない場合は、受信相手が正常に登録できない場合があります。
- 受信した写真(静止画)や動画のデータはINBOXフォルダに登録されます。
- 対向機の内蔵カメラで撮影した写真(静止画)や動画、加工した静止画、ダウンロードした静止画、サイトやインターネットホームページから取り込んだiモーションのデータを受信したときは、すべてINBOXフォルダに保存されます。
- 受信したブックマークのデータは、Bookmarkフォルダ一覧の「Bookmark」フォルダに保存されます。
- 受信したメロディのデータは、メロディプレーヤーのINBOXフォルダに保存されます。
- 受信したメロディは、最も小さい番号に登録されます。
- フレームのデータやFlash画像の受信はできません。

データを1件送信します

1回に送信できるのは1件のみです。

＜例：電話帳1件のデータを送信する場合＞

1 データを送信する電話帳を表示させる

2 機能メニューから「赤外線送信」を選ぶ

3 「YES」を選んでデータを送信する

相手の端末を受信状態にしておきます。→P.343
データの送信がはじまります。
送信が完了すると、通信の完了を通知するメッセージが表示されます。

中止する場合

「NO」を選ぶ

その他のデータを送信するときは

電話番号表示の個人データ

受信側のFOMA端末では電話帳に登録されます。

自局番号とiモードメールアドレスのみ

電話番号を表示

電話番号表示に登録されているすべてのデータ

電話番号表示の「全データ表示」を表示

スケジュールのデータ

開始終了時刻、スケジュール内容、繰り返し、アラーム通知設定、スケジュールアイコンの情報を送受信します。アラーム音は時刻アラーム音で登録されます。また、登録されている絵文字も送受信できますが、受信する端末によっては、正しく表示されないことがあります。

スケジュールの予定内容確認画面を表示

日付ごとのスケジュールの一覧画面を表示

アイコン別スケジュールの一覧画面で送信するスケジュールを表示

ToDoのデータ

ToDoの一覧画面または詳細画面を表示

用件、期日、完了日、カテゴリー、状態、優先度、アラーム通知設定の情報を転送します。アラーム音は時刻アラーム音で登録されます。

受信メール、送信メール、保存メールのデータ※

受信メールの詳細画面、または一覧画面で送信したいメールを表示

送信メールの詳細画面、または一覧画面で送信したいメールを表示

保存メールの一覧画面を表示

テキストメモのデータ

テキストメモの詳細画面、または一覧画面で送信したいテキストメモを表示

メロディのデータ

「メロディプレーヤー」の一覧画面を表示

ファイル制限が「あり」のメロディは送信できません。ただしOBEXで受信したデータは、ファイル制限が「あり」に設定していても送信できます。また、ユーザ作成フォルダの一覧表示から送信することもできます。

静止画のデータ

「イメージビューア」の「カメラ」または「INBOX」の一覧画面を表示

ファイル制限が「あり」の静止画（タイトルの前に 、 、 、 のついている静止画）は送信できません。ただし、内蔵カメラで撮影した写真（静止画）や、OBEXで受信したデータ、miniSDメモリーカードからインポートしたデータは、ファイル制限を「あり」に設定していても送信されます。また、ユーザ作成フォルダの一覧表示から送信することもできます。

動画またはiモーションのデータ

「ムービープレーヤー」の「カメラ」または「INBOX」の一覧画面を表示

ファイル制限が「あり」の動画またはiモーション（タイトルの前に「 、 、 、 、 、 」のついているiモーション）は送信できません。ただし、内蔵カメラで撮影した動画や、OBEXで受信したデータは、ファイル制限を「あり」に設定していても送信されます。また、ユーザ作成フォルダの一覧表示から送信することもできます。

ブックマークのデータ

「ブックマーク」の一覧画面を表示

➡ **機能メニューから「赤外線送信」を選ぶ**

※：保護されている送受信メールを送信すると、受信側では保護が解除されて通常のデータとして保存されます。iモーション取得前のiモーションメール、およびiアプリの起動指定が貼り付けられているメールは、それぞれ貼り付けられているデータを削除して送信します。メールに添付されているデータのファイル制限が「あり」の場合、そのデータも削除されて送信されます。また、静止画の形式によっては削除されて送信されるものがあります。ただし、送信メールと保存メールの場合で、添付されているのが内蔵カメラで撮影した写真（静止画）や動画のときや、OBEXで受信したデータ、miniSDメモリーカードからインポートしたデータは、ファイル制限を「あり」に設定していても送信されます。

全件転送
データをまとめて送受信します

FOMA端末内の全件のデータを、ほかのFOMA端末と赤外線で送受信できます。

●送受信できるデータは、次のとおりです。
- ・電話帳　・電話番号表示の個人データ　・スケジュール　・ToDo
- ・送信メール　・受信メール　・保存メール　・テキストメモ
- ・ブックマーク

●受信できるデータは、次のとおりです。
- ・メロディ　・写真（静止画）　・動画　・ダウンロードした静止画
- ・サイトやインターネットホームページから取り込んだiモーションのデータ

「全件転送」をする前に必ずお読みください

■ 全件転送について

・全件受信をすると、受信したデータにより上書きされ、登録されていたデータは保護メールやシークレットデータも含めてすべて削除されます。全データの受信を行う前に、大切なデータが登録されていないことをお確かめください。

■「電話帳」の「全件転送」について

・「電話帳」のデータは、メモリ番号順に送受信されます。
・送受信される「電話帳」のデータは、名前、フリガナ、電話番号、メールアドレス、郵便番号、住所、メモ、静止画、動画、グループ名およびアイコンの情報です。
・送信側の「電話番号表示」のデータは、自局番号以外がすべて転送され、受信側に上書きされます。メールアドレスも送信側のメールアドレスに上書きされますので、転送後に受信側のメールアドレスに変更してください。
・「電話帳」に複数の電話番号およびメールアドレスが登録されているときもすべてのデータが送受信されます。
・シークレットデータとして登録されている電話帳は、シークレットデータとして受信されます。
・電話帳のシークレットコードは送受信できません。

おしらせ

●「電話帳」の全件転送を行う場合、静止画は「イメージビューア」に、動画は「ムービープレーヤー」に追加保存されるため、保存可能容量を超えた静止画や動画は保存されません。
●通信状況を表すバー表示は送信した件数を目安としてお知らせします。転送するデータのサイズによっては、データが正しく転送されていてもバー表示の進み具合が遅くなることや、通信の相手側と異なって見えることがあります。
●送受信するデータ量によっては、通信に時間がかかる場合があります。
●受信メールやブックマークを送受信した場合、相手の機種によっては、フォルダ分けの設定が反映されないことがあります。
●メール連動型iアプリの受信メールフォルダは転送できません。フォルダ内のメールはすべてINBOXフォルダに登録されます。

認証パスワードについて

「全件転送」では、送信側と受信側のFOMA端末を正確に認識するために、認証パスワードを使用します。認証パスワードは、送信、受信をはじめる前にお好きな4桁の番号を決めておき、送信側と受信側で同じ番号を入力します。

おしらせ

- 認証パスワードは、「全件転送」を行うたびに入力してください。
- 認証パスワードの入力画面で、間違った番号を入力すると、「全件転送」はできません。
- 認証パスワードの入力画面で、認証パスワードを入力しないで約30秒過ぎると、送信および受信がキャンセルされて元の画面に戻ります。

データをまとめて受信します

1 Menu ▶ アクセサリ ▶「赤外線通信」の順に選ぶ

2 「全件転送」を選んで受信の準備をする

3 端末暗証番号を入力する

入力した端末暗証番号は「＿」で表示されます。
端末暗証番号について→P.21

4 「受信」を選ぶ

5 認証パスワードを入力して◉［確定］を押す

入力した認証パスワードは「＿」で表示されます。
認証パスワードについて→上記

6 「YES」を選ぶ

中止する場合
「NO」を選んで●[選択]を押す

7 通信相手のFOMA端末からデータを全件送信する

送信のしかたについて→下記

8 「YES」を選び、全件上書きをする

中止する場合
「NO」を選んで●[選択]を押す

受信が完了すると、通信完了を通知するメッセージが表示されます。

データをまとめて送信します

1 Menu▶アクセサリ▶「赤外線通信」の順に選ぶ

2 「全件転送」を選ぶ

3 端末暗証番号を入力する

入力した端末暗証番号は「＿」で表示されます。
端末暗証番号について→P.21

4 「送信」を選ぶ

5 まとめて送信するデータを選ぶ

6 認証パスワードを入力する

入力した認証パスワードは「＿」で表示されます。
認証パスワードについて→P.347

7 「YES」を選ぶ

送信がはじまります。
送信が完了すると、通信完了を通知するメッセージが表示されます。

中止する場合

「NO」を選んで◉[選択]を押す

おしらせ

●「電話帳画像転送」(P.351)を「しない」に設定しているときは、電話帳の静止画や動画を送信することはできません。

赤外線リモコン機能

赤外線リモコン機能を利用します

サイトなどからテレビやビデオなどのリモコン用iアプリのソフトをダウンロードすると、FOMA端末を赤外線リモコンとして利用できます。

●ご使用になりたい製品に該当するソフトをダウンロードしてください。ただし、ご使用になりたい製品に該当するソフトがない場合もあります。また、該当するソフトでもその製品には対応しておらずリモコン操作ができない場合があります。
●FOMA端末で利用できるリモコンのソフトは、iMenuの中のサイトからダウンロードすることができます。
●「セルフモード」(『基本編』のP.207)に設定しているときはリモコン操作ができません。

リモコン操作について

●FOMA端末の赤外線ポートを、テレビなどのリモコン受信部の正面に向けてリモコン操作をしてください。操作できる範囲は正面でおおよそ4mですが、周囲の明るさによって変わります。
●リモコン操作をしているときは、画面に「▦」が表示されます。

TVリモコンを利用します

FOMA端末には、テレビのリモコンとして利用できるiアプリのソフトが用意されています。

●「TVリモコン」には、あらかじめ20種類のリモコンデータが用意されています。ご使用のテレビに該当するリモコンデータを選んで設定してください。ただし、ご使用の製品に該当するリモコンデータがない場合があります。

●リモコンデータに該当するメーカー製のテレビでも、その製品には対応しておらずリモコン操作ができない場合があります。また、一部の機能が操作できない場合もあります。

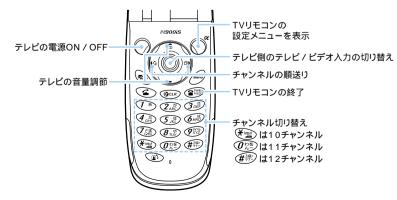
●「TVリモコン」にあらかじめ用意されているリモコンデータは、次の通りです。

・松下1/2　・ソニー　・シャープ1/2　・NEC
・アイワ1/2　・三洋1/2　・パイオニア　・JVC1/2
・フナイ1/2/3　・三菱　・東芝　・日立
・富士通ゼネラル

1 Menu ▶ iアプリ ▶「ソフト一覧」の順に選ぶ

2 「TVリモコン」を選んで● [選択]を押す

はじめてTVリモコンを起動したときや、操作したいテレビが変わったときは、ご使用のテレビメーカー(リモコンデータ)を設定します。

3 TVリモコンとして操作する

テレビメーカーを設定して、TVリモコンのデザインを変えます

ご使用のテレビに合ったリモコンデータを選んだり、TVリモコンをお好みのデザインに変更します。

1 「TVリモコン」を起動して[設定]を押す

リモコンデータを設定する場合

「メーカー設定」を選んで[選択]を押し、リモコンデータを選んで[選択]を押す

TVリモコンのデザインを変更する場合

「デザイン設定」を選んで[選択]を押し、デザインを選んで[選択]を押す

リモコン画面に戻る場合

[戻る]を押す

電話帳画像転送

電話帳の画像を転送しないように設定します

お買い上げ時	する

「赤外線通信機能」(P.340)または「データの送受信(OBEX)機能」(P.352)、miniSDメモリーカードへのエクスポート、インポート(P.365)を利用して、電話帳に登録されている静止画、動画を転送しないように設定します。

●「赤外線通信機能」や「データの送受信(OBEX)機能」を利用して電話帳の送受信を行うと、電話帳に登録されている静止画、動画も転送されるため送受信に時間がかかることがあります。送受信の時間を短縮するために、本機能で「しない」に設定し、電話帳の静止画と動画を転送しないようにできます。

1 ▶ の順に選ぶ

---

2 「電話帳画像転送」を選ぶ

「する」を選んだ場合

「赤外線通信機能」、または「データの送受信(OBEX)機能」で電話帳を送信するときに、すべてのデータを送信します。

「しない」を選んだ場合

「赤外線通信機能」、または「データの送受信(OBEX)機能」で電話帳を送信するときに、静止画と動画以外のデータを送信します。

OBEX

FOMA端末内のデータをパソコンと送受信します

FOMA端末は、データ通信用のプロトコルとして、OBEXを持っています。本データ通信（OBEXによるデータの送受信）を使ってパソコンとの間でデータを送受信できます。

●送受信できるデータは、次のとおりです。

・電話帳	・電話番号表示の個人データ	・スケジュール
・ToDo	・送信メール	・受信メール
・保存メール	・テキストメモ	・メロディ
・静止画	・動画	・ダウンロードした静止画
・取り込んだiモーション	・ブックマーク	

●FOMA端末では、次の3とおりのデータ通信方法があります。
- ・パソコンからFOMA端末にデータを1件ずつ送信する（1件書き込み）
- ・パソコンからFOMA端末にすべてのデータを一括で送信する（全件書き込み）
- ・FOMA端末からパソコンにすべてのデータを一括で送信する（全件読み出し）

●FOMA N900iには赤外線通信機能が搭載されています。赤外線通信機能（P.340）を搭載したほかのFOMA端末やパソコンなどと電話帳や受信メールなどのデータを送信したり、受信したりできます。

●OBEXによるデータ通信を行う場合、「USBモード設定」を「通信モード」に設定しておく必要があります。設定方法については「FOMA端末をminiSDリーダライタとして使います」（P.467）を参照してください。

お願い

- ・FOMA端末とパソコンの接続が正しくできているか十分に確認してください。正しく接続されていない場合、データの送受信ができないだけでなく、データが失われることがあります。
- ・FOMA端末の電池レベルがほとんど残っていない状態や電池切れの状態では、データの送受信ができないだけでなく、データが失われることがあります。FOMA端末の電池が十分残っていることを確認してください。また、パソコンの電源についても確認してください。
- ・パソコンからFOMA端末への全件書き込みの途中で送信エラーが起こると、FOMA端末内の書き込み対象のデータがすべて消去されることがあります。全件書き込みの前にケーブルの接続、FOMA端末の電池レベル、パソコンの電源の状態を確認してください。

データの送受信（OBEX）に必要な機器

データの送受信には次の機器が必要です。

項目	説明
必要な機器	・FOMA USB接続ケーブル（別売） ・USBポートが使用可能なパソコン
OS	・Windows Me、Windows 98、Windows 2000、Windows XP（各日本語版）
必要なソフト	・N900i通信設定用ファイル

データ通信用のソフトの動作環境、インストール方法については、データ通信用のソフトの取扱説明書をご覧ください。

おしらせ

- FOMA端末の「データの送受信（OBEX）機能」は、IrMC1.1に準拠しています。ただし、相手機器がIrMC1.1に準拠していてもアプリケーションによっては送受信できないデータがあります。

データの送受信利用にあたってのご注意

こんなときはデータの送受信や、登録ができません

- 通信中（音声通話やテレビ電話、データ通信）にデータの送受信はできません。また、データの送受信中にはほかの通信もできません。ただし、データの送受信開始直後などは着信を受ける場合があります。その場合、データの送受信は中止されます。
- FOMAカードの電話帳、SMSは本データ通信で送受信できません。
- 「オールロック」（『基本編』のP.200）および「PIMロック」（『基本編』のP.204）、または「セルフモード」（『基本編』のP.207）が設定されている場合、すべてのデータの送受信はできません。
- 「ダイヤル発信制限」（『基本編』のP.205）が設定されている場合、電話帳データの送受信はできません。
- 「指定発信制限」（『基本編』のP.141）が設定されている場合、電話帳データの受信はできません。
- データの大きさによってはFOMA端末で受信できない場合があります。
- データの送受信を行う前に「時計設定」（『基本編』のP.65）で日付・時刻が設定されていることを確認してください。「時計設定」の設定が行われていないときは、受信したスケジュール、ToDoのデータを登録することはできません。
- 受信したスケジュールと同じ日付時刻で同じ繰り返し設定（なし／あり）のスケジュールが登録されている場合には、受信したデータを登録することはできません。
- メールへの添付やFOMA端末外への出力が禁止されているメロディ、静止画やiモーションはパソコンに送信できません。
- 別のFOMAカードに差し替えたり、FOMAカードを抜いたままFOMA端末の電源を入れた場合は、FOMAカード動作制限が設定されたメロディ、静止画、動画やiモーションは送信できません。

電話帳の送受信について

- 電話帳のシークレットコードは送受信できません。
- 「指定発信制限」が設定されている場合、受信はできませんが、電話帳データの送信の際には、「指定発信制限」を設定した電話帳データ、「電話番号表示」のデータを送信できます。
- 「全件転送」を行うと「電話番号表示」のデータは電話帳と一緒に送信されます。
- 電話帳を全件受信すると、「電話番号表示」に登録されている個人データ（電話番号を除く）も上書きされます。
- 静止画や動画を「全件書き込み」すると、静止画、動画の電話帳への登録情報は削除されますが、イメージビューア、ムービープレーヤーのデータは削除されません。
- 電話帳のデータを受信する場合、「1件受信」のときは、メモリ番号「010」から、全件受信のときは、メモリ番号の情報に従って登録します。
- 電話帳はメモリ番号順に送信されます。
- データの大きさによっては、送受信に時間がかかる場合があります。
- 電話帳の送受信を行うと、登録されている静止画や動画も転送されるため、送受信に時間がかかることがあります。FOMA端末からパソコンに送信する場合は、送信の時間を短縮するために、「電話帳画像転送」（P.351）を「しない」に設定し、電話帳の静止画や動画を転送しないようにできます。
- 電話帳のデータを1件ずつ受信するとき（パソコンからFOMA端末（本体）へ送信するとき）は電話帳のメモリ番号「010」〜「699」の空いているメモリ番号の中で最も小さいメモリ番号に登録されます。「010」〜「699」がすべて登録されているときは、「000」〜「009」（「ツータッチダイヤル」（『基本編』のP.110））の空いているメモリ番号の中で最も小さいメモリ番号に登録されます。
- 電話帳のデータを受信した場合、すでに名前や電話番号またはメールアドレスが700件登録されているときや700件を超えるときは、登録できないことを通知するメッセージが表示されます。

こんなことにもご注意ください

- メールへの添付やFOMA端末外への出力が禁止されているデータはパソコンに送信できませんが、内蔵のカメラで撮影した写真（静止画）や動画や、OBEXで受信したデータ、miniSDメモリーカードからインポートしたデータは、ファイル制限が「あり」に設定されていても送信されます。
- データの送受信中は圏外となり、音声電話やテレビ電話、iモードやiモードメール、パケット通信などはできません。
- データの送受信終了後、しばらく「圏外」と表示される場合があります。
- 本データ通信はマルチタスク機能が使えません。ほかの機能をすべて終了させてから操作を行ってください。
- 静止画およびメロディ、動画やiモーションのデータ送受信は、OBEX規格外となるため、FOMA N900iに対応したデータ転送用のソフトが必要です。静止画、メロディ、動画やiモーションはすべてINBOXに保存されます。
- iモーション取得前のiモーションメール、およびiアプリの起動指定が貼り付けられているメールは、それぞれ貼り付けられているデータを削除して送信されます。
- フレームのデータやFlash画像は転送できません。
- メール連動型iアプリの受信メールフォルダは転送できません。フォルダ内のメールはすべてINBOXフォルダに登録されます。
- 受信メールやブックマークなどを送受信した場合、相手の機種によってはフォルダ分けの設定が反映されないことがあります。

おしらせ

- 電話帳を送受信する場合、受信するFOMA端末に静止画や動画を登録する空き容量がないときには登録された静止画や動画を登録することができません。

データを1件送信します(1件書き込み)

パソコンからFOMA端末へデータを1件ずつ送信します。

●FOMA端末からパソコンへ1件ずつ送信することはできません。

●データ送信の操作方法は、データ通信用のソフトによって異なります。詳しくは、データ転送用のソフトの取扱説明書をご覧ください。

1 パソコンでデータ通信用のソフトを使って、「1件書き込み」の操作をする

データ送信のしかたについては、データ通信用のソフトの取扱説明書をご覧ください。

2 パソコンからデータを送信する

データのサイズによっては通信状況を表すバー表示の進み具合が遅くなることがあります。

3 「YES」を選ぶ

受信を完了すると、通信の完了を通知するメッセージが表示されます。FOMA端末で受信が終わり、左画面の状態で約30秒以内に操作をしないと、受信したデータを破棄して画面を終了します。

データを全件送受信します(全件書き込み／全件読み出し)

パソコンとFOMA端末の間で全件書き込みと全件読み出しができます。

●「全件書き込み」あるいは「全件読み出し」の操作では、データ通信用のソフトとFOMA端末の両方で認証パスワードを入力する必要があります。

●データ送信の操作方法は、データ通信用のソフトによって異なります。詳しくは、データ通信用のソフトの取扱説明書をご覧ください。

＜例：FOMA端末からパソコンへデータを全件送信する場合＞

1 データを送信（全件送受信）する

データ送信のしかたについては、データ転送用のソフトの取扱説明書をご覧ください。
パソコン側でも認証パスワードの入力が必要です。
認証パスワードは4桁の数字を入力してください。

2 FOMA端末で端末暗証番号を入力する

入力した端末暗証番号は「＿」で表示されます。
端末暗証番号について→P.21

3 FOMA端末で認証パスワードを入力する

入力した認証パスワードは「＿」で表示されます。
認証パスワードについて→P.347

4 データを送信する

送信を完了すると、通信の完了を通知するメッセージが表示されます。

おしらせ

- パソコンからFOMA端末への「全件書き込み」を行うとFOMA端末のデータはすべて書き換えられます。元のFOMA端末のデータは消去されるのでご注意ください。「シークレットモード」「シークレット専用モード」で登録した電話帳、スケジュール、保護されたメールを含みます。ただし、フレームやFlash画像は消去されません。
- 次のような場合は、データを登録することができません。
  - 600Kバイトを超える静止画（静止画は596Kバイト以上の場合、登録できないことがあります）
  - 800Kバイトを超える動画
- 全件送受信の場合、通信状況を表すバー表示は送受信した件数を目安としてお知らせします。通信するデータのサイズによっては、データが正しく通信されていてもバー表示の進み具合が遅くなったり、通信の相手側と異なって見えることがあります。
- 相手の機器によっては、通信状況（バー表示）が表示されないことがあります。
- フレームのデータやFlash画像は転送できません。

miniSDメモリーカードについて

SDメモリーカードをさらに小型化した“miniSDメモリーカード”を、FOMA端末内に挿入し、外部メモリとして利用できます。さらにminiSDメモリーカードは、miniSDメモリーカードアダプタに装着して、SDメモリーカードに対応したパソコンなどでも利用できます。

- FOMA端末で撮影した静止画や動画、電話帳やメール、ブックマークなどのデータをminiSDメモリーカードにエクスポートしたり、miniSDメモリーカードに保存されているデータをFOMA端末にインポートしたり、置き換えることができます。また、miniSDメモリーカードに保存されている静止画や動画のデータなどをFOMA端末で再生することもできます。
- FOMA端末で画面表示などに設定する画像や動画として、miniSDメモリーカードに保存されている画像や動画を利用することはできません。本体にインポートしてから設定してください。
- miniSDメモリーカード装着時には「SD」が表示されます。
- miniSDメモリーカード内のデータを操作したり、データをエクスポート／インポートするときには充電ランプが緑色（色5）で点灯します。miniSDメモリーカードを入れたまま電源を入れたときや、電源を切っているときに充電器をつないだ状態でminiSDメモリーカードを入れたときなどには、充電ランプが緑色（色5）で点滅します。
- miniSDメモリーカードおよびminiSDメモリーカードアダプタは、家電製品取扱店などでお買い求めいただけます。本FOMA端末では、64MバイトまでのminiSDメモリーカードに対応しています。（2004年2月現在）
  対応バイト数についての最新情報は下記のサイトをご覧ください。
  iモード　　　：「iMenu」－「メニューリスト」－「ケータイ電話メーカー」－「みんなNらんど」
  パソコンなど　：NECモバイルホームページ　http://www.n-keitai.com
- miniSDメモリーカード（16MB）およびminiSDメモリーカードアダプタは、試供品のため無料修理保証の対象外となっております。

miniSDメモリーカード

取扱い上のご注意

※フォーマットは必ず本FOMA端末で行ってください。ほかの端末やパソコンでフォーマットしたminiSDメモリーカードは、使用できないことがあります。**→P.375**

miniSDメモリーカードを取扱う場合のご注意は、次のとおりです。

●miniSDメモリーカードに保存したデータは、別のminiSDメモリーカードやパソコンなどにもバックアップしておくことをおすすめします。miniSDメモリーカードの破損などにより、保存したデータが消失した場合、当社として責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

●miniSDメモリーカードは、FOMA端末の電源を切った状態で取り付けや取り外しを行ってください。

●miniSDメモリーカードは正しく取り付けてください。正しく取り付けられていないとご利用になれません。

●miniSDメモリーカードは、ご使用になる前にフォーマットしてください。フォーマットしないとFOMA端末からデータをエクスポートすることができません。

●miniSDメモリーカードの端子面に触れたり、水に濡らしたり、汚さないようにしてください。

●miniSDメモリーカードを曲げたり、折ったりしないでください。

●次のような操作をしているときには、miniSDメモリーカードをFOMA端末から抜いたり、FOMA端末の電源を切ったり、電池パックを取り外さないでください。
・miniSDメモリーカードをフォーマットしているとき
・データをエクスポート／インポートしているとき
・「長時間ムービー」(P.260)で撮影しているとき
・「miniSDリーダライタ」(P.466)として利用しているとき
など

●FOMA端末の電池残量が少ないときは、miniSDメモリーカードを利用することができない場合があります。

●miniSDメモリーカードを持ち運ぶときや保管する際は、miniSDメモリーカードに付属のソフトケースに入れてください。

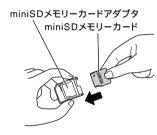
●長時間お使いになった後、取り外したminiSDメモリーカードが温かくなっている場合がありますが故障ではありません。

●強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境での使用や保管は避けてください。

miniSDメモリーカードアダプタに装着します

miniSDメモリーカードを、SDメモリーカードに対応したパソコンなどで利用するときは、miniSDメモリーカードアダプタに装着してください。

■装着のしかた

1 **miniSDメモリーカードとminiSDメモリーカードアダプタの印刷面を上にして、miniSDメモリーカードをminiSDメモリーカードアダプタの奥まで差し込む**

■取り外しかた

1 **miniSDメモリーカードの溝の部分を持って引き抜く**

おしらせ

- miniSDメモリーカードアダプタを持つときは、miniSDメモリーカードアダプタの両端を持ってください。miniSDメモリーカードアダプタの印刷面を持つと、miniSDメモリーカードアダプタが破損する場合があります。
- miniSDメモリーカードアダプタにminiSDメモリーカードが装着されていない状態でSDメモリーカード対応機器に挿入しないでください。このような使いかたをすると、機器に不具合が生じる場合があります。
- miniSDメモリーカードアダプタをSDメモリーカード対応機器に挿入する場合は、正しい方向を確認の上ご使用ください。
- miniSDメモリーカードアダプタには、miniSDメモリーカード以外のものを挿入しないでください。miniSDメモリーカードアダプタの故障や破損の原因になります。
- miniSDメモリーカードアダプタをねじったり、曲げたりしないでください。miniSDメモリーカードアダプタが破損します。

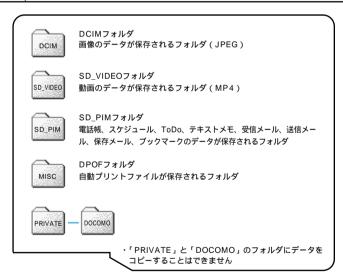
フォルダ構成について

エクスポート／インポートや上書きできるデータは、次のとおりです。

- 電話帳
- テキストメモ
- スケジュール
- ToDo
- 送信メール
- 受信メール
- 保存メール
- ブックマーク
- 静止画および動画

フォルダの構成について

miniSDメモリーカードには、保存するデータの種類別に「DCIM」、「SD_VIDEO」、「SD_PIM」のフォルダが用意されています。

フォルダ名	保存するデータの種別
DCIM	静止画データ（JPEG）
SD_VIDEO	動画データ（MP4）
SD_PIM	電話帳、スケジュール、ToDo、テキストメモ、メール、ブックマーク

おしらせ

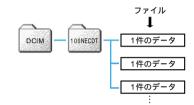
● パソコンなどからminiSDメモリーカードにデータを保存するときも、データの種類に合ったそれぞれのフォルダに保存してください。種類の違うデータをほかのフォルダに保存することはできますが、種類の違うデータはFOMA端末で認識できず表示されません。また、これらのフォルダを削除したり別のフォルダの中に移動したりすると、FOMA端末に取り付けたときにフォーマットするかどうかのメッセージが表示されることがあります。フォーマットすると、保存されていたデータはすべて削除されます。フォーマットしない場合は、削除や移動していないフォルダに保存されているデータを表示することができます。たとえば、DCIMフォルダを削除しても、SD_VIDEO、SD_PIMの各フォルダに保存されているデータは表示できます。

作成されるファイルについて

「ファイル」とは、1件または複数のデータを1つにまとめて保存したデータのことです。ファイルをコピーすると、データの種類によって保存するフォルダが自動的に選ばれ、自動的にフォルダ名、ファイル名がつけられてminiSDメモリーカードに保存されます。各フォルダに保存されるファイルは次のようになります。

■ DCIMフォルダ

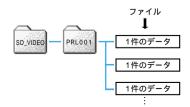
初めて静止画をエクスポートするときに自動的に作成されるフォルダで、フォルダ内にデータが保存されます。
静止画データ1件ごとに1件のファイルとなります。
作成されるフォルダ名とファイル名は次のとおりです。

- フォルダ名：nnnNECDT（nnn = 100～999）
- ファイル名：NEC_mmmm（mmmm = 0001～9999）

おしらせ

- パソコンなどからminiSDメモリーカードにファイルを保存するときも、「NEC_mmmm」のように半角の英数字でファイル名をつけてください。「NEC」の部分は、任意の英数字にすることもできます。これ以外のファイル名だと、FOMA端末では認識できず表示されません。
- 同じフォルダ内にファイル名の「mmmm」の部分が同じ静止画が複数保存されている場合、一覧表示のタイトルが「---------」と表示され、コピー、移動、削除以外の操作ができなくなります。このようなデータは、別のフォルダにコピー、移動すると自動的に新しいファイル名がつけられ、画像の表示やタイトル編集などができるようになります。

■ SD_VIDEOフォルダ

初めて動画をエクスポートするときに自動的に作成されるフォルダで、フォルダ内のPRL001フォルダにデータが保存されます。
動画データ1件ごとに1件のファイルとなります。
作成されるフォルダ名とファイル名は次のとおりです。

- フォルダ名：PRLxxx（xxx = 001～FFF：16進数）
- ファイル名：MOLxxx（xxx = 001～FFF：16進数）

おしらせ

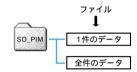
- パソコンなどからminiSDメモリーカードにファイルを保存するときも、「MOLxxx」のように半角の英数字でファイル名をつけてください。これ以外のファイル名だと、FOMA端末では認識されず表示できません。

■SD_PIMフォルダ

1件エクスポートしたデータも、全件エクスポートしたデータも、1件のファイルで保存されます。

たとえば、受信メールを全件コピーすると、作成されたファイルには受信メールのすべてのデータがまとめて保存されます。

作成されるファイル名は次のとおりです。

・ファイル名：PIMnnnnn（nnnnn = 00001～65535）

miniSDメモリーカードに保存できる件数について

miniSDメモリーカードに保存できる件数は、ご使用になるminiSDメモリーカードのメモリ容量によって変わります。1つのフォルダに保存できるファイルの最大件数および追加できるフォルダの最大件数は次のとおりです。フォルダを追加して、エクスポートする場所を変えたりすることによって、より多くのファイルを保存できます。ただし、ファイルの容量によっては最大件数まで保存できない場合があります。

フォルダ名	フォルダ最大件数	1つのフォルダに保存できるファイルの最大件数
DCIM	900件	9,999件
SD_VIDEO	4,095件	4,095件
SD_PIM	1件	65,535件

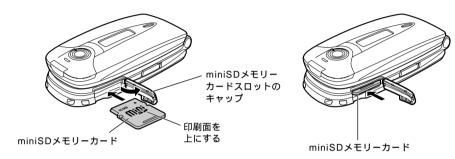
miniSDメモリーカードのメモリ容量とメモリ空き容量は「miniSDメモリーカード内のデータの情報を確認します」（P.375）で確認できますが、表示されるメモリ容量は、ご使用のminiSDメモリーカードに記載されているメモリ容量より少なくなります。

・miniSDメモリーカードの空き容量が不足している場合、電話帳、スケジュール、ToDo、テキストメモ、メール、ブックマークをエクスポートしようとすると、容量不足でエクスポートできないというメッセージが表示されます。また、静止画、動画のときは機能メニューの「エクスポート」がグレー表示となります。このようなときは、ほかのminiSDメモリーカードに交換するか、不要なデータを削除してからエクスポートし直してください。
・エクスポート先のフォルダ内のファイルが最大件数になっているときは、件数がいっぱいというメッセージが表示され、miniSDメモリーカードにエクスポートできません。
・miniSDメモリーカード内の容量がいっぱいの場合、静止画、動画のフォルダ追加やタイトル編集、コピー／移動などはできません。不要なデータを削除してから操作を行ってください。

取り付けかた／取り外しかた

miniSDメモリーカードは、FOMA端末のカードスロットに差し込んで使います。

取り付けかた

FOMA端末の電源を切った状態で取り付けてください。
miniSDメモリーカードを取り付けるときは、無理に差し込まないでください。

1 **miniSDメモリーカードスロットのキャップを開ける**

2 **miniSDメモリーカードスロットにminiSDメモリーカードを差し込み、ロックされるまで押し込む**

miniSDメモリーカードの印刷面を上にしてゆっくりと差し込んでください。
完全に奥まで押し込むとロックされます。

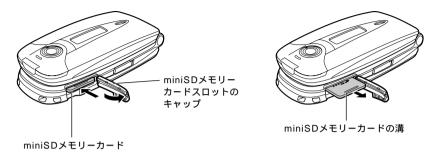
3 **miniSDメモリーカードスロットのキャップを閉じる**

miniSDメモリーカードを取り付け後、電源を入れると、ディスプレイに「SD」が表示されます。

おしらせ

- miniSDメモリーカードに不具合のある場合や、正常にフォーマットできなかった場合には「SD?」が表示されます。

取り外しかた

FOMA端末の電源を切った状態で取り外してください。
miniSDメモリーカードを取り外すときは、無理に引き抜かないでください。

1 miniSDメモリーカードスロットのキャップを開ける

2 miniSDメモリーカードを軽く押し込む

miniSDメモリーカードを押し込んで手を離すと、miniSDメモリーカードが少し出てきます。
このとき、miniSDメモリーカードが飛び出すこともありますのでご注意ください。

3 miniSDメモリーカードをゆっくりと引き抜いて取り外す

miniSDメモリーカードの溝の部分を持ち、まっすぐにゆっくりと抜いてください。

4 miniSDメモリーカードスロットのキャップを閉じる

miniSDメモリーカードを使います

FOMA端末に登録されているデータをminiSDメモリーカードにエクスポートしたり、miniSDメモリーカードからFOMA端末にデータをインポートすることができます。また、miniSDメモリーカードのデータをFOMA端末のデータに上書きすることもできます。

●データをFOMA端末からminiSDメモリーカードへコピーする操作を「エクスポート」、miniSDメモリーカードからFOMA端末にコピーする操作を「インポート」といいます。
●データのエクスポート／インポートや上書きができるのは、次のとおりです。

・電話帳　・テキストメモ　・スケジュール
・ToDo　・送信メール　・受信メール
・保存メール　・ブックマーク　・静止画および動画

エクスポートとインポートの種類について

■ 静止画、動画のエクスポート／インポート

	内容	参照ページ
エクスポート	選んだ静止画や動画のデータ1件をminiSDメモリーカードのDCIMフォルダまたはSD_VIDEOフォルダに保存します。	P.367
インポート	miniSDメモリーカードに保存されている静止画や動画の1件のデータをFOMA端末に保存します。	P.371

■ 電話帳、スケジュール、ToDo、メール、テキストメモ、ブックマークのエクスポート／インポート

	内容	参照ページ
1件エクスポート	選んだデータ1件をminiSDメモリーカードのSD_PIMフォルダに保存します。	P.367
全件エクスポート	選んだ項目のすべてのデータをminiSDメモリーカードのSD_PIMフォルダに保存します。	P.369
追加1件インポート	miniSDメモリーカードのSD_PIMフォルダに保存されている1件のデータをFOMA端末に追加登録します。	P.372
追加全件インポート、追加インポート	miniSDメモリーカードのSD_PIMフォルダに保存されている1件のファイルの全データをFOMA端末に追加登録します。	P.372
上書全件インポート、上書インポート	FOMA端末のデータを削除してminiSDメモリーカードのSD_PIMフォルダに保存されている1件のファイルの全データをFOMA端末に登録します。	P.373

おしらせ

●データの件数によっては、エクスポート／インポートに時間がかかる場合があります。
●エクスポート／インポート中は圏外となります。音声電話やテレビ電話、iモード、iモードメール、パケット通信などはできません。
●エクスポート／インポートが終わるまで、miniSDメモリーカードを抜かないでください。
●エクスポート／インポート中に◉[選択]または📞PWR HLDを押してエクスポート／インポートを中止した場合でも、データの一部がminiSDメモリカードやFOMA端末に保存されることがあります。
●同じデータをエクスポート／インポートしたときは、上書きされず別のデータとして保存されます。
●FOMA端末の電池残量が少ないときは、miniSDメモリーカードを利用することができない場合があります。また、エクスポート／インポート中に電池切れアラームが鳴ったときは中断されます。

エクスポート／インポートするデータについて

静止画、動画のデータ

	形式	データ
イメージビューア	JPEG	INBOXフォルダ、カメラフォルダ、miniSDフォルダ、ユーザ作成フォルダ内のデータ
ムービープレーヤー	MP4	INBOXフォルダ、カメラフォルダ、miniSDフォルダ、ユーザ作成フォルダ内のデータ

・miniSDメモリーカードからFOMA端末へインポートされたデータは、miniSDメモリーカード内で自動的につけられたフォルダ名、ファイル名を表示します。

おしらせ

- 静止画のエクスポート／インポート時には、必要に応じてデータを変換・圧縮しますので、ファイルサイズが変わったり、画像が劣化することがあります。
- 画像サイズがヨコ640×タテ480ドットを超える静止画の場合、画像によってはヨコ640×タテ480ドットに縮小されることがあります。
- 画像サイズがヨコ1616×タテ1212ドットを超える静止画や容量が600Kバイトを超える静止画はインポートできません。ただし、静止画によっては596Kバイトを超えると保存できない場合があります。

電話帳のデータ

件数		データ
全件	1件	名前、フリガナ、電話番号、メールアドレス、シークレット属性、グループ番号、グループ名、短縮ダイヤル、メモ、静止画、動画、メモリダイヤル番号
		－

・シークレット属性は、シークレットモードに登録してあるデータのことです。

おしらせ

- 電話帳に登録されている静止画と動画の情報は、「電話帳画像転送」(P.351)を「しない」に設定している場合は、エクスポートされません。
- 電話帳のシークレットコードは、エクスポート／インポートできません。
- 本FOMA端末は短縮ダイヤルに対応していないため、短縮ダイヤルのデータは表示されません。
- 「1件エクスポート」する場合には、シークレット属性は「なし」でエクスポートします。
- 「全件エクスポート」する場合には、電話番号表示のデータも電話帳のデータとしてエクスポートします。

スケジュールのデータ

件数		データ
全件	1件	開始日時、終了日時、内容、シークレット属性、分類、アラーム設定、繰り返し設定
		－

・シークレット属性は、シークレットモードに登録してあるデータのことです。

おしらせ

- 「1件エクスポート」する場合には、シークレット属性は「なし」でエクスポートします。

ToDoのデータ

件数		データ
全件	1件	内容、分類、完了日、期限、状態、優先順位、アラーム設定
		―

テキストメモのデータ

件数		データ
全件	1件	作成日時、最終修正日、分類、内容
		―

受信メール、送信メール、保存メール、SMSのデータ

件数		データ
全件	1件	未読／既読、メッセージタイプ、メッセージボックス、差出人、宛先、タイトル、受信／送信日時、本文、添付
		―

- 1件のエクスポート／インポートでは、受信メール、送信メールの保護は解除されます。
- ファイル制限が「あり」のメロディ（赤外線通信やOBEXで受信したデータ、miniSDメモリーカードからインポートしたデータを除く）が添付または貼り付けられているメール、iモーション取得前のiモーションメール、iアプリの起動指定が貼り付けられているメールは、メロディ、iモーションおよびiアプリの起動指定を削除してエクスポートします。

ブックマークのデータ

件数		データ
全件	1件	URL、タイトル
		―

FOMA端末からminiSDメモリーカードにデータを1件エクスポートします

■静止画、動画データの場合

- エクスポートは、INBOXフォルダ、カメラフォルダ、ユーザ作成フォルダから行うことができます。

＜例：イメージビューアの静止画データを1件エクスポートするとき＞

1 Menu ▶ マルチメディア ▶「イメージビューア」の順に選ぶ

イメージビューアについて→P.294

2 「カメラ」を選ぶ

3 エクスポートするファイルを選ぶ

ファイルの内容を確認する場合

●［表示］を押すと、ファイルの内容が表示されます。

4 機能メニューから「エクスポート」を選ぶ

➡

カメラフォルダ内のイメージファイルが、miniSDメモリーカードにエクスポートされます。
保存先フォルダの登録ファイル数が保存できる最大件数を超えている場合は、自動的に新しいフォルダが作成され、そのフォルダに保存されます。

■電話帳、スケジュール、ToDo、メール、テキストメモ、ブックマークのデータの場合

＜例：電話帳のデータを1件エクスポートするとき＞

1 Menu ▶ の順に選ぶ

2 エクスポートする電話帳を選ぶ

スケジュールのデータをエクスポートする場合
スケジュールの内容を確認します。→『基本編』のP.216

ToDoのデータをエクスポートする場合
ToDoの内容を確認します。→『基本編』のP.228

受信メール、送信メール、保存メールをエクスポートする場合
メール機能→P.134

テキストメモのデータをエクスポートする場合
テキストメモ→『基本編』のP.234

ブックマークのデータをエクスポートする場合
サイトやホームページを登録して利用します。→P.53

3 機能メニューから「1件エクスポート」を選ぶ

4 「YES」を選ぶ

データがエクスポートされます。

「1件エクスポート」を中止する場合
「NO」を選んで●[選択]を押す

FOMA端末からminiSDメモリーカードにデータをまとめて全件エクスポートします

静止画、動画のデータを全件エクスポートすることはできません。

＜例：電話帳のデータを全件エクスポートするとき＞

1 ▶「SD-PIM」の順に選ぶ

---

2 「電話帳」を反転表示させ、機能メニューから「本体からエクスポート」を選ぶ

スケジュール、ToDoのデータを全件エクスポートする場合
「スケジュール」を反転表示させ、機能メニューから「本体からエクスポート」を選ぶ

受信BOX、送信BOX、保存BOXのデータを全件エクスポートする場合
「受信BOX」、「送信BOX」、「保存BOX」を反転表示させ、機能メニューから「本体からエクスポート」を選ぶ

テキストメモのデータを全件エクスポートする場合
「テキストメモ」を反転表示させ、機能メニューから「本体からエクスポート」を選ぶ

ブックマークのデータを全件エクスポートする場合
「Bookmark」を反転表示させ、機能メニューから「本体からエクスポート」を選ぶ

---

3 端末暗証番号を入力する

端末暗証番号（P.21）を入力して●[確定]を押します。
入力した端末暗証番号は「＿」で表示されます。

---

4 「YES」を選ぶ

データがエクスポートされます。

「本体からエクスポート」を中止する場合
「NO」を選んで●[選択]を押す

miniSDメモリーカード内のデータを表示します

miniSDメモリーカードに保存されているデータを表示して、確認できます。

■静止画、動画データの場合

<例：miniSDメモリーカード内のムービープレーヤーの動画データを表示するとき>

1 Menu▶マルチメディア▶「ムービープレーヤー」の順に選ぶ

ムービープレーヤーについて→P.308

2 「miniSD」を選ぶ

3 表示させたいデータの入っているフォルダを選ぶ

4 表示させたいデータを選ぶ

5 ◉[再生]を押す

ファイルの内容が再生されます。

■電話帳、スケジュール、ToDo、メール、テキストメモ、ブックマークのデータの場合

<例：テキストメモのデータを表示するとき>

1 Menu▶アクセサリ▶「SD-PIM」の順に選ぶ

2 「テキストメモ」を選ぶ

電話帳のデータを表示する場合

「電話帳」を選ぶ

スケジュール、ToDoのデータを表示する場合

「スケジュール」を選ぶ

受信BOX、送信BOX、保存BOXのデータを表示する場合

「受信BOX」、「送信BOX」、「保存BOX」を選ぶ

ブックマークのデータを表示する場合

「Bookmark」を選ぶ

3 表示させたいデータを選ぶ

miniSDメモリーカードからFOMA端末にデータをインポートします

miniSDメモリーカードに保存されているデータを、FOMA端末にインポートすることができます。

静止画、動画のデータを全件インポートすることはできません。

●800Kバイトを超えるMP4形式のデータは、800Kバイト以下のデータに処理して保存するため、インポートに時間がかかるというメッセージが表示されます。また、その場合テロップ付きの動画データは、テロップを削除してインポートされます。

■静止画、動画データの場合

＜例：イメージビューアの静止画データを1件インポートするとき＞

1 Menu ▶ マルチメディア ▶「イメージビューア」の順に選ぶ

イメージビューアについて→P.294

2 「miniSD」を選ぶ

3 インポートしたいファイルの入っているフォルダを選ぶ

4 **インポートしたいファイルを選ぶ**

ファイルの内容を見る場合

●[表示]を押す

5 **機能メニューから「インポート」を選ぶ**

miniSDメモリーカード内のイメージファイルが、FOMA端末にコピーされます。
タイトルのないイメージファイルは「年/月/日_時:分」で、タイトルのないムービーファイルはファイル名で表示されます。

■電話帳、スケジュール、ToDo、メール、テキストメモ、ブックマークのデータの場合

<例：スケジュールのデータを1件インポートするとき>

1 Menu ▶ アクセサリ ▶ **「SD-PIM」の順に選ぶ**

2 **「スケジュール」を選ぶ**

3 **インポートしたいデータを選ぶ**

4 **機能メニューから「追加1件インポート」を選ぶ**

ファイルをまとめてインポートする場合

「追加全件インポート」を選んで●[選択]を押し、端末暗証番号(P.21)を入力して●[確定]を押す

5 **「YES」を選ぶ**

データがインポートされます。
FOMA端末の保存量を超えたデータはインポートされませんが、インポート済みのデータについてはFOMA端末に登録されます。

追加インポートを中止する場合

「NO」を選んで●[選択]を押す

miniSDメモリーカードのデータをFOMA端末に上書きします

miniSDメモリーカードに保存されているデータを、FOMA端末のデータに上書きします。上書きをすると、FOMA端末の選んだ項目のデータが削除されて、上書きしたデータに入れ替わります。上書きする前に、大切なデータが登録されていないことを確認してください。

静止画、動画のデータを上書きすることはできません。

●「指定発信制限」や「ダイヤル発信制限」設定中は電話帳の上書きインポートはできません。

●「指定着信拒否」、「指定着信許可」が設定されているデータでも、すべて上書きされて削除されます。

●上書きの途中でFOMA端末のデータがいっぱいになったときは、インポートできないというメッセージが表示され、それまで読み込んだデータで上書きされます。

＜例：電話帳のデータを上書きする場合＞

1

▶「SD-PIM」の順に選ぶ

2 「電話帳」を選ぶ

3 機能メニューから「上書インポート」を選ぶ

4 端末暗証番号を入力する

端末暗証番号（P.21）を入力して●[確定]を押します。

5 「YES」を選ぶ

データがインポートされます。

「上書インポート」を中止する場合

「NO」を選んで●[選択]を押す

miniSDメモリーカードのデータを削除します

miniSDメモリーカードに保存されているファイルを削除します。

■静止画、動画データの場合

＜例：ムービープレーヤーの動画データを削除するとき＞

1 Menu ▶ マルチメディア ▶「ムービープレーヤー」▶「miniSD」の順に選ぶ

ムービープレーヤーについて→P.308

2 削除するデータの入っているフォルダを選び、削除するデータを反転表示させる

3 機能メニューから「1件削除」を選ぶ

ファイルをまとめて削除する場合

「全削除」を選んで●[選択]を押し、端末暗証番号（P.21）を入力して●[確定]を押す

4 「YES」を選ぶ

データが削除されます。

データの削除を中止する場合

「NO」を選んで●[選択]を押す

■電話帳、スケジュール、ToDo、メール、テキストメモ、ブックマークのデータの場合

＜例：ブックマークのデータを削除するとき＞

1 Menu ▶ アクセサリ ▶「SD-PIM」▶「Bookmark」の順に選ぶ

2 機能メニューから「1件削除」を選ぶ

データをまとめて削除する場合

「全削除」を選んで●[選択]を押し、端末暗証番号（P.21）を入力して●[確定]を押す

3 「YES」を選ぶ

データが削除されます。

データの削除を中止する場合

「NO」を選んで●[選択]を押す

miniSDメモリーカード内のデータの情報を確認します

miniSDメモリーカードのメモリ容量と空き容量を確認します。

<例：イメージビューアの静止画情報を確認するとき>

1 Menu▶マルチメディア▶「イメージビューア」▶「miniSD」の順に選ぶ

イメージビューアについて→P.294

2 情報を確認するフォルダを選び、情報を確認するデータを選択する

3 機能メニューから「保存容量確認」を選ぶ

FOMA端末の空き容量と、miniSDメモリーカードの保存メモリ領域の使用済み容量と残容量を表示します。

miniSDメモリーカードを初期化します

※フォーマットは必ず本FOMA端末で行ってください。ほかの端末やパソコンでフォーマットしたminiSDメモリーカードは、使用できないことがあります。

miniSDメモリーカードをフォーマットして、FOMA端末で使用できるようにします。

- miniSDメモリーカードをフォーマットすると、保存されているデータはすべて削除されます。フォーマットをするときは、大切なデータが保存されていないことを確認してください。
- miniSDのフォーマットでは、全領域のデータ消去後、システム領域の設定を行います。
- miniSDメモリーカードが書き込み保護がかけられていたり、不具合のある場合には、miniSDのフォーマットを行うことはできません。

1

Menu▶アクセサリ▶「SD-PIM」の順に選ぶ

2 機能メニューから「miniSDフォーマット」を選ぶ

3 端末暗証番号を入力する

端末暗証番号（P.21）を入力して、●[確定]を押します。
入力した端末暗証番号は、「＿」で表示されます。

4 「YES」を選ぶ

miniSDメモリーカードがフォーマットされます。
miniSDフォーマットの途中で◐[中止]を押して中止したとき、また着信などで中止したときには、「SD」が表示されます。

「miniSDフォーマット」を中止する場合
「NO」を選んで●[選択]を押す

miniSDメモリーカードをチェックします

miniSDメモリーカードの操作をしているときに電源が切れたときには、データに不具合が生じることがあります。このような場合に、miniSDメモリーカードの状態をチェックして修復できることもあります。

●miniSDメモリーカードに、不具合のある場合は、チェックディスクを行うことはできません。

1 ▶「SD-PIM」の順に選ぶ

2 機能メニューから「miniSDチェックディスク」を選ぶ

3 「YES」を選ぶ

miniSDメモリーカードのデータをチェックします。

「miniSDチェックディスク」を中止する場合
「NO」を選んで●[選択]を押す

●データ通信編

この取扱説明書で掲載している画面はイメージであるため、実際の画面とは異なる場合があります。

FOMA端末から利用できるデータ通信について

パケット通信と64Kデータ通信

FOMA端末とパソコンを接続して利用できるデータ通信は、パケット通信と64Kデータ通信に分類されます。

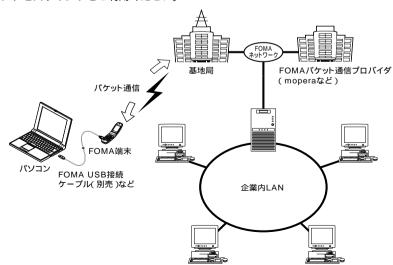
●パケット通信

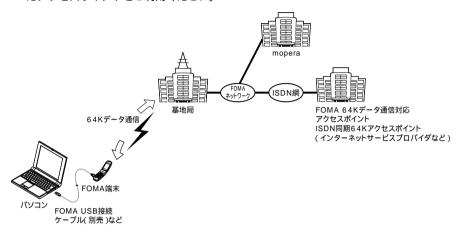
パケット通信とは、データをパケット(小包)と呼ばれる単位にして送受信する通信方式です。1つの回線を同時に複数の端末で利用できるため、効率よく通信を行うことができます。最大384kbpsという高速でデータを受信することができます。パケット通信は通信時間や距離に関係なく、送受信されたデータ量に応じて課金されますので、メールなどの文字データの送受信など、比較的少ない量のデータを高速でやり取りする場合に適しています。データ量の大きいファイルの送受信を行った場合、通信料金が高額になる恐れがありますのでご注意ください。FOMAネットワークに接続された企業内LANにアクセスし、データの送受信を行うこともできます(別途、第1種専用回線等接続サービスまたはXWave®(第2種専用回線等接続サービス)のご契約が必要となります)。

●64Kデータ通信

64kbpsの安定した通信速度でデータを送受信することができます。データ量に関係なく、接続された時間に応じて課金されますので、マルチメディアコンテンツのダウンロードなど、比較的多い量のデータを送受信する場合に適しています。

■ パケット通信をするには

パケット通信はFOMA USB接続ケーブル(別売)やFOMA Mobile Card N2(別売)を使って、FOMA端末をパソコンと接続して通信を行います。
ドコモのインターネット接続サービス「mopera」など、FOMAパケット通信に対応したアクセスポイントをご利用ください。

■ 64Kデータ通信をするには

64Kデータ通信は、FOMA USB接続ケーブル(別売)やFOMA Mobile Card N2(別売)を使って、FOMA端末をパソコンと接続して通信を行います。
ドコモのインターネット接続サービス「mopera」など、FOMA 64Kデータ通信に対応したアクセスポイントをご利用ください。

おしらせ

- FOMA端末からは、PIAFSなどのPHSサービス(32Kデータ通信および、64Kデータ通信)およびFAX通信をご利用になれません。
- 音声通話中に64Kデータ着信したときは、音声通話を切断後に64Kデータ着信に応答するか、FOMA端末の操作で64Kデータ通信を切断、もしくは転送する操作を行います。

ご利用にあたっての留意点

インターネットサービスプロバイダの利用料について

インターネットを利用する場合は、ご利用になるインターネットサービスプロバイダに対する利用料が必要になります。この利用料は、FOMAサービスの利用料とは別に直接インターネットサービスプロバイダにお支払いいただきます。利用料の詳しい内容については、ご利用のインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。
ドコモのインターネット接続サービス「mopera」は、お申し込み手続き不要、月額使用料無料です。

接続先(インターネットサービスプロバイダなど)の設定について

パケット通信と64Kデータ通信では接続先が異なります。パケット通信を行うときはパケット通信対応の接続先、64Kデータ通信を行うときはFOMA 64Kデータ通信、またはISDN同期64K対応の接続先をご利用ください。
・DoPaのアクセスポイントには接続できません。
・PIAFSなどのPHS64K/32Kデータ通信のアクセスポイントには接続できません。

ユーザ認証について

接続先によっては、接続時にユーザ認証(IDとパスワード)が必要な場合があります。その場合は、通信ソフト(ダイヤルアップネットワーク)でIDとパスワードを入力して接続してください。IDとパスワードは接続先のインターネットサービスプロバイダまたは接続先のネットワーク管理者から付与されます。詳しい内容については、そちらにお問い合わせください。

おしらせ

<パケット通信、64Kデータ通信について>

● パケット通信、64Kデータ通信の着信は、「着信履歴」(『基本編』のP.151)として記憶されます。

● ダイヤルアップ接続、切断の操作はパソコン側で行います。

●「ドライブモード」(『基本編』のP.82)の設定をしているときも、パケット通信、64Kデータ通信の着信を行います。

<パケット通信中、64Kデータ通信中にできること>

● パケット通信中、64Kデータ通信中でも、SMSの送受信ができます。

● パケット通信中に、音声電話をかけたり、受けたりすることができます。

● 64Kデータ通信中に音声電話を着信したときは、通信中のダイヤルアップ接続を切断後に音声電話に応答するか、機能メニューから着信拒否、転送でんわ、留守番電話を選ぶことができます。

<パケット通信中、64Kデータ通信中にできないこと>

● パケット通信中、64Kデータ通信中は、次の操作ができません。

・テレビ電話の利用

・iモードの利用

・FOMA端末とパソコンの間でのデータの送受信(OBEX)→P.352

・iモードメールの送受信

● 64Kデータ通信中は、次の操作ができません。

・音声電話の発信、通話

お使いになる前に

FOMA Mobile Card N2(別売)を使ってパケット通信、64Kデータ通信を行う場合は、FOMA Mobile Card N2の取扱説明書をご覧ください。

動作環境について

データ通信を利用するためのパソコンの動作環境は次のとおりです。

項 目	説 明
パソコン本体	・PC-AT互換機でCD-ROMドライブが使用できる機器 ・FOMA USB接続ケーブル(またはFOMA USB Cable)(別売)を使用する場合:USBポート(Universal Serial Bus Specification Rev1.1準拠) ・FOMA Mobile Card N2(別売)を使用する場合:PCカードスロット(PC Card Standard Type II 準拠) ・ディスプレイ解像度800×600ドット、High Color(65,536色)以上を推奨
OS	・Windows Me、Windows 98、 Windows 2000、Windows XP(各日本語版)
必要メモリ	・Windows Me、Windows 98:32MB以上※ ・Windows 2000:64MB以上※ ・Windows XP:128MB以上※
ハードディスク容量	・5MB以上の空容量※

※:必要メモリ・ハードディスク容量は、パソコンのシステム構成によって異なることがあります。

おしらせ

- 動作環境によってはご使用になれない場合があります。また、上記の動作環境以外でのご使用による問い合わせおよび動作保証は、当社では責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- FOMA端末をドコモのPDA「musea」と接続してデータ通信を行う場合、「musea」をアップデートしてご利用ください。アップデートの方法などの詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。

データカードFOMA Mobile Card N2(別売)について

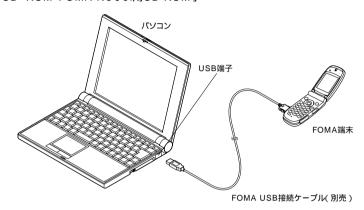
FOMAネットワークにおいて64Kデータ通信およびパケット通信をサポートするデータカードです。FOMA Mobile Card N2 の主な特徴は次のとおりです。

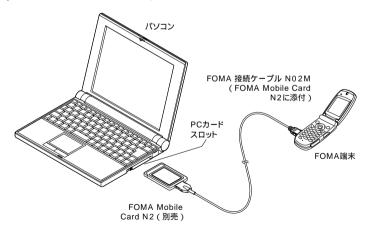
項 目	説 明
対応機種	Windows Me、Windows 98、Windows 2000、 Windows XP(各日本語版)搭載PC-AT互換機
データ通信速度	64kbps(64Kデータ通信時) 送信最大64kbps、受信最大384kbps(パケット通信時)
インターフェース	PC Card Standard Type II 準拠

必要な機器

FOMA端末とパソコン以外に次のハードウェア、ソフトウェアを使います。

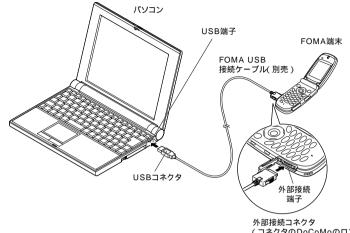
<例：FOMA USB接続ケーブルの場合>

・FOMA USB接続ケーブル（別売）
・添付CD- ROM「FOMA N900i用CD-ROM」

<例：FOMA Mobile Card N2の場合>

・FOMA Mobile Card N2（別売）
FOMA Mobile Card N2（別売）の接続と設定方法については、FOMA Mobile Card N2（別売）の取扱説明書をご覧ください。

おしらせ

● USBケーブルは専用の「FOMA USB接続ケーブル」をお買い求めください。パソコン用のUSBケーブルはコネクタ部の形状が異なるため使用できません。
● FOMA Mobile Card N2 などの外部機器を接続したまま「オールロック」（『基本編』のP.200）を設定すると、接続中の外部機器が一時的に利用できなくなります。

取り付け方法

FOMA USB接続ケーブルの取り付け方法について説明します。

1 **FOMA端末の外部接続端子の端子キャップを開ける**

2 **FOMA USB接続ケーブルのUSBコネクタを、パソコンのUSB端子に接続する**

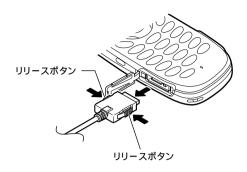
3 **FOMA端末の外部接続端子の向きを確認して、FOMA USB接続ケーブルの外部接続コネクタをまっすぐ「カチッ」と音がするまで差し込む**

FOMA USB接続ケーブルを接続するとFOMA端末に「 」が表示されます。
FOMA Mobile Card N2を接続したときは、通信中など、パソコンからFOMA Mobile Card N2に電源が供給されているときだけFOMA端末に「 」が表示されます。

おしらせ

- FOMA USB接続ケーブルのコネクタは無理に差し込まないでください。各コネクタは、正しい向き、正しい角度で差し込まないと接続できません。正しく差し込んだときは、強い力を入れなくてもスムーズに差し込めるようになっています。うまく差し込めないときは、無理に差し込まず、もう一度コネクタの形や向きを確認してください。
- FOMA端末に表示される「 」は、パケット通信または64Kデータ通信の通信設定ファイルのインストールを行い、パソコンとの接続が認識されたときに表示されます。通信設定ファイルのインストール前には、パソコンとの接続が認識されず、「 」も表示されません。
  データ通信は、FOMA端末の「USBモード設定」（P.467）を「通信モード」に設定していないと、利用できません。

取り外し方法

FOMA USB接続ケーブルの取り外し方法について説明します。

1 **FOMA USB接続ケーブルの外部接続コネクタのリリースボタンを押しながら、まっすぐ引き抜く**

2 **パソコンのUSB端子からFOMA USB接続ケーブルを引き抜く**

3 **FOMA端末の外部接続端子の端子キャップを閉じる**

おしらせ

- FOMA USB接続ケーブルは無理に取り外さないでください。故障の原因となります。
- FOMA USB接続ケーブルの取り付け・取り外しは、連続して行わないでください。一度、取り付け・取り外しを行った場合は間隔をおいてから再び行ってください。

手順を確認します

ここでは、データ通信の接続から設定完了までの流れを説明します。接続をする前に一度読んで、作業内容の確認をしてください。

- データ通信ではダイヤルアップ接続によって、FOMAデータ通信に対応したインターネットサービスプロバイダやLANに接続できます。
- データ通信を行うには、N900i通信設定ファイル(ドライバ)をインストールし、「ダイヤルアップネットワーク」の設定を行う必要があります。

添付の「FOMA N900i用CD-ROM」について

- 通信設定ファイル（ドライバ）とFOMA PC設定ソフトが入っています。
- N900i通信設定ファイルとは、FOMA端末とパソコンをFOMA USB接続ケーブル（別売）で接続して、パケット通信、64Kデータ通信やデータ転送（OBEX）を行うときに必要なソフトウェア（ドライバ）です。N900i通信設定ファイルをインストールすることで、Windowsに各ドライバが組み込まれます。
  FOMA PC設定ソフトを使うと、パケット通信、64Kデータ通信の設定やダイヤルアップ作成を簡単に行うことができます。

おしらせ

- FOMA PC設定ソフトを使わずに、パケット通信や64Kデータ通信の設定をすることもできます。
  ダイヤルアップネットワークの設定→P.422

設定完了までの流れ

パケット通信および64Kデータ通信を利用する場合の準備について説明します。

■FOMA USB接続ケーブル（別売）を使う場合

※：「mopera」はお申し込み手続き不要のプロバイダです。簡単にインターネットに接続をしたいという方には、「mopera」での通信の設定をおすすめします。

おしらせ

- 「各種設定前の準備」(P.401)で「FOMA N900i」が表示されていないときには、インストールに失敗しています。
  通信設定ファイルをアンインストールし(P.394)、再度インストールしてください。
- 何らかの原因により、パソコンがFOMA端末を認識できなくなった場合は、通信設定ファイルをアンインストールし(P.394)、再度インストールしてください。
- 自動検索の設定などで、誤って異なるOSのドライバをインストールすると、正しく動作しません。一度、通信設定ファイルをアンインストールしてから、正しくインストールし直してください。

■FOMA Mobile Card N2(別売)を使う場合

パソコンとの接続／FOMA Mobile Card N2通信設定ファイル(ドライバ)のインストール

FOMA Mobile Card N2を使ってパソコンとFOMA端末を接続します。
次に、FOMA Mobile Card N2通信設定ファイルをインストールします。
FOMA Mobile Card N2に添付の取扱説明書を参照してください。

<FOMA PC設定ソフトを使って接続先の設定をする場合>

FOMA PC設定ソフトのインストール

FOMA PC設定ソフトを使えるようにします。
「FOMA PC設定ソフトをインストールします」(P.406)を参照してください。

設定する

FOMA PC設定ソフトを使って64Kデータ通信の設定を行い、設定した接続先に正常に接続できるかを確認します。「設定した通信を実行します」(P.421)を参照してください。

接続と切断

接続します。→P.427
切断します。→P.428

<FOMA PC設定ソフトを使わない場合>

設定する

FOMA Mobile Card N2に添付の取扱説明書を参照してください。

接続と切断

接続します。→P.460
切断します。→P.462

パソコンの設定をします

ここでは、パソコンとの接続から、N900i通信設定ファイル(ドライバ)をインストールするまでの手順を説明します。

FOMA端末とパソコンを接続します

1 **FOMA USB接続ケーブルをパソコンのUSB端子に接続する**

2 **Windowsを起動して、「FOMA N900i用CD−ROM」をパソコンにセットする**

3 **「終了」をクリックして、「FOMA N900iご利用にあたって」画面を終了させる**

この画面は、「FOMA N900i用CD-ROM」をパソコンにセットすると自動的に表示されますが、お使いのパソコンの設定によっては表示されないことがあります。その場合は、そのまま操作4へ進みます。
N900i通信設定ファイルのインストール中にこの画面が表示された場合も「終了」をクリックします。

4 **FOMA端末の電源を入れて、パソコンと接続したFOMA USB接続ケーブルをFOMA端末に接続する**

Windows Me、Windows 98の場合
「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示される

Windows 2000、Windows XPの場合
「新しいハードウェアの検索ウィザード」画面が表示される

おしらせ

● USBケーブルは専用の「FOMA USB接続ケーブル」をお買い求めください。パソコン用のUSBケーブルはコネクタ部の形状が異なるため使用できません。

N900i通信設定ファイル(ドライバ)をインストールします

●N900i通信設定ファイルをインストールするときは、必ずすべてのドライバ(P.393)を一度にインストールしてください。インストールの途中でパソコンからFOMA USB接続ケーブルを抜いたときや、「キャンセル」をクリックしてインストールを中止した場合は、N900i通信設定ファイルが正常にインストールできなくなることがあります。このような場合には、アンインストール(P.394)の手順にしたがってN900i通信設定ファイルをいったん削除してから、再度インストールし直してください。

●Windows 2000またはWindows XPでN900i通信設定ファイルのインストールを行う場合は、必ずAdministrator権限を持ったユーザーアカウント、コンピュータの管理者のアカウントで行ってください。それ以外のアカウントでインストールを行うとエラーとなります。Administrator権限、コンピュータの管理者のアカウントの設定操作については、各パソコンメーカー、マイクロソフト社にお問い合わせください。

●N900i通信設定ファイルのインストール手順は、OSによって異なります。ご利用になるパソコンのOSに合った説明を参照してください。
Windows Me、Windows 98の場合は下記を参照してください。
Windows 2000の場合はP.390へ、Windows XPの場合はP.392へ進みます。

Windows Me／Windows 98の場合

1 **FOMA端末にFOMA USB接続ケーブルを接続する**

P.387の操作4でFOMA USB接続ケーブルをFOMA端末に接続すると、自動的に「新しいハードウェアの追加ウィザード」の画面が表示されます。

Windows 98の場合

「次へ」をクリックする

---

2 **「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選んで「次へ」をクリックする**

Windows 98の場合

「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選んで「次へ」をクリックする

3 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選んで「検索場所の指定」をチェックし、「参照」をクリックして検索するフォルダを指定し、「次へ」をクリックする

フォルダは、「<CD-ROMドライブ名>:\USB Driver\Win98」を指定します。CD-ROMドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。右の画面ではCD-ROMドライブ名が「E」です。
ドライバはWindows 98と共通です。

Windows 98の場合

「検索場所の指定」をチェックしてフォルダを指定し「次へ」をクリックする
「更新されたドライバ(推奨)」を選んで「次へ」をクリックする

---

4 ドライバ名を確認して、「次へ」をクリックする

ここでは「FOMA N900i」と表示されます。

---

5 「新しいハードウェアのインストールが完了しました。」と表示されたら、「完了」をクリックする

Windows 98の場合

「新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」と表示されます。

---

6 ほかのドライバもインストールする

操作1〜5を参考にして、ほかのドライバ(P.393)をすべてインストールします。
操作5の終了後、「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が出なくなれば、ドライバのインストールは終了です。「インストール後の確認をします」(P.393)に進みます。

Windows 2000の場合

1 FOMA端末にFOMA USB接続ケーブルを接続する

P.387の操作4でFOMA USB接続ケーブルをFOMA端末に接続すると、自動的に右の画面が表示されます。

2 「次へ」をクリックする

3 「デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選んで「次へ」をクリックする

4 「場所を指定」をチェックして「次へ」をクリックする

5 検索するフォルダを指定し、「OK」をクリックする

フォルダは、「＜CD-ROMドライブ名＞：＼USB Driver＼Win2000」を指定します。CD-ROMドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。右の画面ではCD-ROMドライブ名が「E」です。

6 ドライバ名を確認して「次へ」をクリックする

ここでは「FOMA N900i」と表示されます。

7 「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」と表示されたら、「完了」をクリックする

8 ほかのドライバもインストールする

操作1～7を参考にして、ほかのドライバ（P.393）をすべてインストールします。
操作7の終了後、「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が出なくなれば、ドライバのインストールは終了です。「インストール後の確認をします」（P.393）に進みます。

Windows XPの場合

1 FOMA端末にFOMA USB接続ケーブルを接続する

P.387の操作4でFOMA USB接続ケーブルをFOMA端末に接続すると、「新しいハードウェアの検索ウィザード」画面が表示されます。

2 「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」を選んで「次へ」をクリックする

3 「次の場所で最適のドライバを検索する」を選んで、「リムーバブルメディア(フロッピー、CD-ROMなど)を検索」のチェックを外し、「次の場所を含める」をチェックして検索するフォルダを指定し、「次へ」をクリックする

フォルダは「<CD-ROMドライブ名>:\USB Driver\Win2000」を指定します。
CD-ROMドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。右の画面ではCD-ROMドライブ名が「E」です。
ドライバはWindows 2000と共通です。

4 「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」と表示されたら、「完了」をクリックする

5 ほかのドライバもインストールする

操作1～4を参考にして、ほかのドライバ(P.393)をすべてインストールします。
操作4の終了後、「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が出なくなればドライバのインストールは終了です。
すべてのドライバのインストールが完了すると、タスクバーのインジケータから「新しいハードウェアがインストールされ、使用準備ができました。」というメッセージが数秒間表示されます。次の「インストール後の確認をします」(P.393)に進みます。

インストール後の確認をします　<デバイス名／ドライバ名>

N900i通信設定ファイルが正しくインストールされていることを確認します。

1 Windowsのコントロールパネルを開く

Windows Me、Windows 98、Windows 2000の場合

「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を選ぶ

Windows XPの場合

「スタート」→「コントロールパネル」を選ぶ

2 コントロールパネル内の「システム」を開く

Windows Meの場合

コントロールパネルに「システム」アイコンが表示されないときは「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックする

Windows XPの場合

「パフォーマンスとメンテナンス」から「システム」アイコンをクリックする

3 デバイスマネージャを開く

Windows Me、Windows 98の場合

「デバイスマネージャ」タブをクリックする

Windows 2000、Windows XPの場合

「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックする

4 各デバイスをクリックしてインストールされたドライバ名を確認する

「ポート（COMとLPT）」、「ユニバーサルシリアルバス（USB）コントローラ」、「モデム」の下にすべてのドライバ名が表示されていることを確認します。
ドライバ名を確認したら、「FOMA PC設定ソフトについて」（P.396）へ進みます。

（Windows Me）

（Windows 98）

(Windows 2000)

(Windows XP)

デバイス名	ドライバ名
ポート(COM/LPT)	・FOMA N900i Command Port ・FOMA N900i OBEX Port
モデム	・FOMA N900i
ユニバーサルシリアルバス(USB)コントローラ、またはUSB(Universal Serial Bus)コントローラ	・FOMA N900i ・FOMA N900i Command※ ・FOMA N900i Modem※ ・FOMA N900i OBEX※

※:Windows Me/98のみ

おしらせ

- 上記の確認を行った際、すべてのドライバ名が表示されない場合や、間違って違うOS用の通信設定ファイルをインストールした場合は、アンインストール(下記)の手順にしたがってN900i通信設定ファイルをいったん削除してから、再度インストールしてください。

N900i通信設定ファイル(ドライバ)アンインストール手順

ドライバのアンインストールが必要な場合(Windowsをバージョンアップした場合など)は、次の手順で行ってください。ここではWindows XPを例にしてアンインストールを説明します。

1 **FOMA端末とパソコンがFOMA USB接続ケーブルで接続されている場合は、FOMA USB接続ケーブルを取り外す**

2 **Windowsを起動して、「FOMA N900i用CD-ROM」をパソコンにセットする**

3 「終了」をクリックして、「FOMA N900iご利用にあたって」画面を終了させる

この画面は「FOMA N900i用CD- ROM」をパソコンにセットすると自動的に表示されますが、お使いのパソコンの設定によっては表示されないことがあります。その場合は、そのまま操作4に進みます。

4 アンインストールプログラムを検索して実行する

「スタート」→「マイコンピュータ」を開き、CD- ROMアイコンを右クリックし、「開く」を選んで、CD- ROM内の「USB Driver」フォルダを開く
「UnInst」フォルダを開く

5 「n900i _un.exe」をダブルクリックして、アンインストールプログラムを実行する

お使いのパソコンの設定によって「n900i_un」と表示されることがあります。

6 「OK」をクリックしてアンインストールする

アンインストールを中止する場合は「キャンセル」をクリックします。

7 「はい」をクリックしてWindowsを再起動する

以上でアンインストールは終了です。
「いいえ」をクリックした場合は、手動で再起動をしてください。

FOMA PC設定ソフトについて

FOMA端末をPCに接続してパケット通信や64Kデータ通信を行うには、通信に関するさまざまな設定が必要です。FOMA PC設定ソフトを使うと、簡単な操作で以下の設定ができます。

●FOMA PC設定ソフトを使わずに、パケット通信や64Kデータ通信を設定することもできます。→P.422

●FOMA Mobile Card N2(別売)の接続と設定方法については、FOMA Mobile Card N2の取扱説明書をご覧ください。

かんたん設定

ガイドにしたがい操作することで、「FOMAデータ通信用ダイヤルアップの作成」を行い、同時に「W-TCPの設定」などを自動で行います。

W-TCPの設定

「FOMA パケット通信」を利用する前に、パソコン内の通信設定を最適化します。
通信性能を最大限に活用するには、W-TCP設定による通信設定の最適化が必要となります。

FOMA端末とパソコンとの接続については、P.387を参照してください。

接続先(APN)の設定

パケット通信を行う際に必要な接続先(APN)の設定を行います。
FOMAパケット通信の接続先には、64Kデータ通信と異なり通常の電話番号は使用しません。あらかじめ接続先毎に、FOMA端末にAPN(Access Point Name)と呼ばれる接続先名を登録し、その登録番号(cid)を接続先電話番号欄に指定して接続します。moperaについてはAPN:mopera.ne.jpがcidの1番に登録されていますが、その他のプロバイダや企業内LANに接続する場合はAPN設定が必要になります。
cid [Context Identifier]…パケット通信の接続先(APN)に対応した番号のこと。FOMA端末にAPN登録をするときに設定します。

おしらせ

● 本FOMA端末に同梱されていないW-TCP環境設定ソフト、FOMAデータ通信設定ソフトがすでにインストールされている場合は、本FOMA端末のFOMA PC設定ソフトのインストールを行う前にそれらのソフトをアンインストールしてください。

FOMA PC設定ソフトのインストールからインターネット接続までの流れ

STEP 1
ソフトの
インストール

FOMA PC設定ソフトをインストールします

- インストール方法は、P.398を参照してください。
- 「旧W-TCP設定ソフト」および「旧APN設定ソフト」がインストールされている場合は、「FOMA PC設定ソフト」のインストールを行う前にあらかじめそれらのソフトをアンインストールしてください。
  「旧W-TCP設定ソフト」および「旧APN設定ソフト」がインストールされている場合、「FOMA PC設定ソフト」のインストールはできません。

STEP 2
設定前の
準備

各種設定前の準備をします

- 各種設定の前にFOMA端末とパソコンが接続され、かつ正しく認識されていることを確認してください。
- 「FOMA端末とパソコンの接続方法」については、P.383を参照してください。
- 「FOMA端末をパソコンに正しく認識させる方法」については、「パソコンの設定をします」(P.387)を参照してください。
- FOMA端末がパソコンに正しく認識されていない場合、各種設定および通信を行うことができません。その場合はP.388を参照して通信設定ファイルのインストールを行ってください。

STEP 3
各種
設定作業

ご利用の通信に対応した設定をします

- かんたん設定「moperaを利用したパケット通信設定方法」は、P.403を参照してください。
- かんたん設定「その他のプロバイダを利用したパケット通信設定方法」は、P.406を参照してください。
- かんたん設定「moperaを利用した64Kデータ通信設定方法」は、P.409を参照してください。
- かんたん設定「その他のプロバイダを利用した64Kデータ通信設定方法」は、P.411を参照してください。
- その他の設定は、P.418以降を参照してください。

STEP 4
接 続

インターネットに接続します

- 接続方法は、P.413を参照してください。

インストールをする前に

動作環境を確認してください。

●FOMA PC設定ソフトは、以下の動作環境でご利用ください。

項 目	必要環境
パソコン本体	・PC-AT互換機
OS	・Windows Me、Windows 98、 Windows 2000、Windows XP(各日本語版)
必要メモリ	・Windows Me、Windows 98：32MB以上※ ・Windows 2000：64MB以上※ ・Windows XP：128MB以上※
ハードディスク容量	・5MB以上の空容量※

※：必要メモリ・ハードディスク容量は、パソコンのシステム構成によって異なることがあります。

FOMA PC設定ソフトをインストールします

●Windows 2000、Windows XPで「FOMA PC設定ソフト」のインストールを行う場合は、必ずAdministrator権限を持ったユーザーアカウントで行ってください。

●Administrator権限の設定操作については、各パソコンメーカー、マイクロソフト社にお問い合わせください。

1 添付のCD-ROMをパソコンにセットし、「FOMA PC設定ソフトのインストール」をクリックする

「FOMA N900iご利用にあたって」画面が自動的に表示されます。何らかの原因によりCD-ROMが自動再生されない場合は、「マイコンピュータ」からCD-ROMアイコンを右クリックし、「開く」を選んで「start. exe」をダブルクリックします。次に「FOMA PC設定ソフトのインストール」をクリックします。

2 「次へ」をクリックする

セットアップをはじめる前に、現在使用中または常駐しているほかのプログラムがないことを確認してください。使用中のプログラムがあった場合は、「キャンセル」をクリックし、使用中のプログラムを終了させた後、インストールを再開してください。
「旧W-TCP設定ソフト」および「旧APN設定ソフト」がインストールされているという画面が出た場合は、P.401を参照してください。

3 「FOMA PC設定ソフト」の使用許諾契約書の内容を確認の上、契約内容に同意する場合は「はい」をクリックする

「いいえ」をクリックすると、インストールは中止されます。

4 「次へ」をクリックする

セットアップ後、タスクトレイに「W-TCP設定」常駐の可否を選択できます。
「W-TCP通信」の最適化の設定・解除を操作する機能で、常駐をおすすめします。
特に問題がない場合は「タスクトレイに常駐する」を☑にしたまま「次へ」をクリックして、インストールを続行してください。「タスクトレイに常駐する」のチェックを外して設定した場合でもFOMA PC設定ソフトの「メニュー」、「W-TCP設定をタスクトレイに常駐させる」を選択することにより設定を変更できます。
（参考）：「タスクトレイに常駐する」設定が有効になっている場合は選択できません。

デスクトップ右下（通常）のタスクトレイに表示されます。

5 インストール先を確認し、「次へ」をクリックする

変更がある場合は「参照」をクリックし、任意のインストール先を指定して「次へ」をクリックしてください。
ハードディスクスペースの問題などで、違うドライブにインストールすることもできますが、通常はそのままお進みください。

6 プログラムフォルダのフォルダ名を確認し、「次へ」をクリックする

変更がある場合は新規フォルダ名を入力し、「次へ」をクリックしてください。

7 「完了」をクリックする

セットアップを完了すると、「FOMA PC設定ソフト」の操作画面が起動します。このまま各種設定をはじめられます。

FOMA PC設定ソフトインストール時の注意

＜「旧W-TCP設定ソフト」がインストールされている場合＞

- 「旧W-TCP設定ソフト」がインストールされている場合、この画面が表示されます。
- 「アプリケーション（プログラム）の追加と削除」から「旧W-TCP設定ソフト」を削除してください。

＜「旧APN設定ソフト」がインストールされている場合＞

- 「旧APN設定ソフト」がインストールされている場合、この画面が表示されます。
- 「はい」をクリックすると、「旧APN設定ソフト」のアンインストールが自動的に行われた後、FOMA PC設定ソフトがインストールされます。

＜「FOMA PC設定ソフト」がすでにインストールされている場合＞

- すでにFOMA PC設定ソフトがインストールされている場合、この画面が表示されます。
- 「はい」をクリックすると、FOMA PC設定ソフトのアンインストールが自動的に行われた後、FOMA PC設定ソフトがインストールし直されます。

＜インストール途中で「キャンセル」を押した場合＞

- セットアップ途中で「キャンセル」や「いいえ」をクリックし、先へ進まない命令を出した場合、この画面が表示されます。インストールを継続する場合は「継続」を、意図的に中止する場合は、「中止」をクリックしてください。

各種設定前の準備

通信設定をする前に、FOMA端末がFOMA USB接続ケーブルまたはFOMA Mobile Card N2によりご利用のパソコンに接続され、かつパソコンのデバイス上に通信設定ファイルが正しく認識されている必要があります。

1 FOMA端末がパソコンに接続されているか確認する

FOMA端末とパソコンの接続方法については、P.387を参照してください。

2 FOMA端末がパソコンに正しく認識されているか確認する

（1）Windowsのコントロールパネルを開く

＜Windows Me、Windows 98、Windows 2000の場合＞
「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を選ぶ
＜Windows XPの場合＞
「スタート」→「コントロールパネル」を選ぶ

認識されるとこのように表示されます

（2）コントロールパネル内の「システム」を開く

＜Windows XPの場合＞
「パフォーマンスとメンテナンス」から「システム」アイコンをクリックする
コントロールパネルに「システム」アイコンが表示されないときは「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックする

（3）デバイスマネージャを開く

＜Windows Me、Windows 98の場合＞
「デバイスマネージャ」タブをクリックする
＜Windows 2000、Windows XPの場合＞
「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックする

FOMA端末をはじめてPCに接続した場合、以下のウィザードが開始されます。

●FOMA端末のデバイス登録●

FOMAデータ通信を利用するには、ご利用のパソコン側に、FOMA端末が「通信デバイス」として登録されている必要があります。P.388を参照して通信設定ファイルのインストールを完了してください。
FOMA端末がCOM20より大きい番号として認識されている場合は、「FOMA PC設定ソフト」は動作しません。

各種設定の方法

FOMA PC設定ソフトは、お客様の選択した「接続方法」および「接続先プロバイダ」の情報にしたがい、表示される設問に対する選択・入力を進めていくと、簡単にFOMA用ダイヤルアップを作成できます。

1 「スタート」→「プログラム」→「FOMA PC設定ソフト」の順に開く

Windows XPの場合

「スタート」→「すべてのプログラム」→「FOMA PC設定ソフト」を開く

FOMA PC設定ソフトを起動すると下図の操作画面が表示されます。

「moperaを利用したパケット通信設定方法」(下記)
「その他のプロバイダを利用したパケット通信設定方法」→P.406
「moperaを利用した64Kデータ通信設定方法」→P.409
「その他のプロバイダを利用した64Kデータ通信設定方法」→P.411

この設定ソフトでは、お客様の選択した「接続方法」および「接続先プロバイダ」の情報にしたがい、表示される設問に対する選択・入力を進めていくと、簡単にFOMA用ダイヤルアップを作成できます。

かんたん設定「moperaを利用したパケット通信設定方法」

- 最大384kbpsの高速パケット通信の設定を行います。プロバイダは、ドコモのインターネット接続サービスmoperaを利用します。
  高速パケット通信：受信最大384kbps、送信最大64kbps(一部機種を除く)の高速パケット通信が可能です。送受信したデータ量に応じて課金されますので、時間を気にせずデータ通信ができます。通信環境や輻輳状態の影響により通信速度が変化するベストエフォートによる提供です。
- 「パケット通信」を利用して画像を含むホームページの閲覧、ファイルのダウンロードなどのデータ量の多い通信を行うと、通信料が高額となりますのでご注意ください。

1 「かんたん設定」をクリックする

2 「パケット通信」を選んで「次へ」をクリックする

3 「mopera接続」を選んで「次へ」をクリックする

mopera以外のプロバイダをご利用のお客様は、P.406を参照してください。

4 「OK」をクリックする

パソコンに接続されたFOMA端末から接続先(APN)設定を取得します。しばらくお待ちください。

5 接続名を入力し、「次へ」をクリックする

現在作成している接続の名前を自由に設定できます。わかりやすい名前を「接続名」欄にご入力ください。
接続名は、大文字・小文字等に注意し、正確に入力してください。
入力禁止文字 \ /:＊?!<>｜ ”(半角のみ)は使用できません。

6 ユーザー名･パスワードを設定し、「次へ」をクリックする

mopera接続の場合は、ユーザー名・パスワード入力が省略できます。

(Windows XP、Windows 2000)

(Windows Me、Windows 98)

Windows XPおよびWindows 2000の場合はユーザーの選択をしてください。
ユーザー名・パスワードの設定は、プロバイダから提供された各種情報を、大文字・小文字等に注意し、正確に入力してください。

7 「最適化を行う」をチェックし、「次へ」をクリックする

「パケット通信」に必要な「W-TCP設定」を最適化します。すでに最適化されている場合には、この画面は表示されません。
設定変更を有効にするためには、パソコンを再起動する必要があります。

8 設定情報を確認し、「完了」をクリックする

設定された内容が一覧で表示されます。設定内容に誤りがないことを確認してください。「デスクトップにダイヤルアップのショートカットを作成する」をチェックすれば自動的にショートカットが作成されます。
設定内容を変更する場合は「戻る」をクリックしてください。

9 「OK」をクリックする

設定変更を有効にするためには、パソコンを再起動する必要があります。再起動の選択画面が表示された場合は「はい」をクリックしてください。
設定した通信を実行します。→P.413

かんたん設定「その他のプロバイダを利用したパケット通信設定方法」

●最大384kbpsの高速パケット通信の設定を行います。
高速パケット通信：受信最大384kbps、送信最大64kbps（一部機種を除く）の高速パケット通信が可能です。送受信したデータ量に応じて課金されますので、時間を気にせずデータ通信ができます。通信環境や輻輳状態の影響により通信速度が変化するベストエフォートによる提供です。
●「パケット通信」を利用して画像を含むホームページの閲覧、ファイルのダウンロードなどのデータ量の多い通信を行うと、通信料が高額となりますのでご注意ください。

1 「かんたん設定」をクリックする

2 「パケット通信」を選んで「次へ」をクリックする

3 「その他」を選んで「次へ」をクリックする

4 「OK」をクリックする

パソコンに接続されたFOMA端末から接続先（APN）設定を取得します。
しばらくお待ちください。

5 パケット通信設定を行う

端末設定取得が完了すると、「パケット通信設定」画面が表示されます。
「接続名」の空欄に任意の接続名を入力してください。
接続名は、大文字・小文字等に注意し、正確に入力してください。
入力禁止文字 ＼/:＊?!<>｜ ”(半角のみ)は使用できません。
「発信者番号通知を行う」をチェックすると、通信実行時に発信者番号を通知します。
「接続先（APN）の選択」欄には標準でmoperaに接続するためのAPN:mopera.ne.jpが設定されています。

6 接続先（APN）設定をする

番号（cid）の1番にはあらかじめ「mopera.ne.jp」が設定されています。
「追加」をクリックして表示される「接続先（APN）の追加」画面で、ご利用のプロバイダのFOMAパケット通信に対応した接続先（APN）を正しく入力し、「OK」をクリックしてください。「接続先（APN）設定」画面に戻ります。
接続先には、半角文字で英数字、ハイフン(-)、ピリオド(.)のみ入力できます。
cidは10番目まで登録できます。

7 高度な設定（TCP/IPの設定）をする

「パケット通信設定」において、「詳細情報の設定」をクリックすると、「IPアドレス」・「ネームサーバー」の設定画面が表示されます。ご加入のプロバイダや、社内LAN等のダイヤルアップ情報として入力が必要な場合は、入力指示情報を元に、各種アドレスを登録してください。

8 接続先を選択し、「OK」をクリックする

操作5の画面に戻ります。
「接続先（APN）の選択」には、操作6で設定した接続先（APN）が表示されます。

9 「接続先（APN）の選択」で接続先（APN）を確認して「次へ」をクリックする

10 ユーザー名・パスワードを設定し、「次へ」をクリックする

Windows XPおよびWindows 2000の場合はユーザーの選択をしてください。

（Windows XP、Windows 2000）

（Windows Me、Windows 98）

ユーザー名・パスワードの設定は、プロバイダから提供された各種情報を、大文字・小文字等に注意し、正確に入力してください。

11 「最適化を行う」をチェックし、「次へ」をクリックする

「パケット通信」に必要な「W-TCP設定」を最適化します。すでに最適化されている場合には、この画面は表示されませんので、操作12に進みます。

12 設定情報を確認し、「完了」をクリックする

設定された内容が一覧で表示されます。設定内容に誤りがないことを確認してください。
「デスクトップにダイヤルアップのショートカットを作成する」をチェックすれば自動的にショートカットが作成されます。
設定内容を変更する場合は「戻る」をクリックしてください。

13 「OK」をクリックする

設定変更を有効にするためには、パソコンを再起動する必要があります。再起動の選択画面が表示された場合は「はい」をクリックしてください。
設定した通信を実行します。→P.413

かんたん設定「moperaを利用した64Kデータ通信設定方法」

●通信速度64kbpsの64Kデータ通信の設定を行います。プロバイダは、ドコモのインターネット接続サービスmoperaを利用します。
●64Kデータ通信は接続していた時間に応じて課金されます。64kbpsの安定した通信速度によって快適なインターネットアクセスが実現できます。

1 「かんたん設定」をクリックする

2 「64Kデータ通信」を選んで「次へ」をクリックする

3 「mopera接続」を選んで「次へ」をクリックする

mopera以外のプロバイダをご利用のお客様は、P.411を参照してください。

4 接続名の入力とモデムを選択し、「次へ」をクリックする

「64Kデータ通信設定」画面になります。現在作成している接続の名前を自由に設定できます。わかりやすい名前を「接続名」欄にご入力ください。
接続名は、大文字・小文字等に注意し、正確に入力してください。
入力禁止文字 \/:＊?!<>｜ ”(半角のみ)は使用できません。
FOMA USB接続ケーブルを使う場合、モデム名は「FOMA N900i」を選択します。

5 ユーザー名・パスワードを設定し、「次へ」をクリックする

mopera接続の場合は、ユーザー名・パスワード入力が省略できます。

(Windows XP、Windows 2000)

(Windows Me、Windows 98)

Windows XPおよびWindows 2000の場合はユーザーの選択をしてください。
ユーザー名・パスワードの設定は、プロバイダから提供された各種情報を、大文字・小文字等に注意し、正確に入力してください。

6 設定情報を確認し、「完了」をクリックする

設定された内容が一覧で表示されます。設定内容に誤りがないことを確認してください。
「デスクトップにダイヤルアップのショートカットを作成する」をチェックすれば自動的にショートカットが作成されます。
設定内容を変更する場合は「戻る」をクリックしてください。

7 「OK」をクリックする

設定した通信を実行します。→P.413

かんたん設定「その他のプロバイダを利用した64Kデータ通信設定方法」

●通信速度64kbpsの64Kデータ通信の設定を行います。
●64Kデータ通信は接続していた時間に応じて課金されます。64kbpsの安定した通信速度によって快適なインターネットアクセスが実現できます。

1 「かんたん設定」をクリックする

2 「64Kデータ通信」を選んで「次へ」をクリックする

3 「その他」を選んで「次へ」をクリックする

4 ダイヤルアップ情報を入力し、「次へ」をクリックする

moperа以外のISDN同期64Kアクセスポイントを持つサービスプロバイダに接続する場合は、ダイヤルアップ作成時に、次の項目を登録します。

(1)接続名(任意)
(2)モデムの選択(FOMA N900i)
(3)電話番号

接続名は、大文字・小文字等に注意し、正確に入力してください。
入力禁止文字 \/:＊?!<>｜”(半角のみ)は使用できません。

FOMA USB接続ケーブルを使う場合、モデム名は「FOMA N900i」を選択します。

プロバイダ情報を元に正しく入力してください。電話番号は、大文字・小文字等に注意し、半角文字で正確に入力してください。
「発信者番号通知を行う」をチェックすると、通信実行時に発信者番号を通知します。

5 高度な設定(TCP/IPの設定)をする

「詳細情報の設定」をクリックすると「IPアドレス」、「ネームサーバー」の設定画面が表示されます。ご加入のプロバイダや、社内LAN等のダイヤルアップ情報として入力が必要な場合は、入力指示情報を元に、各種アドレスを登録してください。

6 ユーザー名・パスワードを設定し、「次へ」をクリックする

Windows XPおよびWindows 2000の場合はユーザーの選択をしてください。

(Windows XP、Windows 2000)

(Windows Me、Windows 98)

ユーザー名・パスワードの設定は、プロバイダから提供された各種情報を、大文字・小文字等に注意し、正確に入力してください。

7 設定情報を確認し、「完了」をクリックする

設定された内容が一覧で表示されます。設定内容に誤りがないことを確認してください。
「デスクトップにダイヤルアップのショートカットを作成する」をチェックすれば自動的にショートカットが作成されます。
設定内容を変更する場合は「戻る」をクリックしてください。

8 「OK」をクリックする

次の手順で設定した通信を実行します。→下記

設定した通信を実行します

FOMA PC設定ソフトで設定した通信の実行や切断について説明しています。

●USB接続ケーブルでデータ通信をする場合、ダイヤルアップアイコンからの発信は、アイコン作成時のFOMA端末のみ有効です。
したがって、異なるFOMA端末を接続する場合は、再度、通信設定ファイルのインストールが必要となります。

1 デスクトップの接続アイコンをダブルクリックする

2 「ダイヤル」をクリックし、接続を実行する

moperaを選んだ場合は「ユーザー名」・「パスワード」とも空欄のまま、「ダイヤル」をクリックしてください。その他のプロバイダやダイヤルアップ接続の場合は、「ユーザー名」・「パスワード」を入力し、「ダイヤル」をクリックしてください。
「パスワードを保存する」をチェックすると、次回からは入力の必要がなくなります。

3 接続されたことを確認し、「OK」をクリックする

通常の状態で、ダイヤルアップを接続すると、右のような接続画面が表示されます。
以前に「接続」のメッセージを表示しない設定にしてあると、この画面は表示されません。

● パケット通信中には、通信状態によってFOMA端末にアイコンが表示されます。
(通信中、データ送信中)
(通信中、データ受信中)
(通信中、データ送受信なし)
(発信中、または切断中)
(着信中、または切断中)

● 64Kデータ通信中には、FOMA端末に「」が表示されます。

おしらせ

●パソコンに表示される通信速度は、実際の通信速度とは異なる場合があります。

切断のしかた

インターネットブラウザを終了しただけでは切断されていない場合がありますので、次の操作で確実に切断してください。

1 タスクトレイのダイヤルアップアイコンをダブルクリックする

接続の画面が表示されます。

ダイヤルアップアイコン

2 「切断」をクリックする

おしらせ

●パソコンに表示される通信速度は、実際の通信速度とは異なる場合があります。

こんなときには

●ネットワークに接続できない(ダイヤルアップ接続ができない)場合は、まず次の項目について確認してください。

現　象	チェックする箇所
「FOMA N900i」がパソコン上で認識できない	・お使いのパソコンが動作環境(P.381、P.398)を満たしているかを確認してください。 ・N900i通信設定ファイルがインストールされているか確認してください。 ・FOMA端末がパソコンに接続され、電源が入っているか確認してください。 ・FOMA USB接続ケーブルがしっかりと接続されていることを確認してください。
相手先に接続できない	・ID(ユーザー名)やパスワードの設定が正しいかどうか確認してください。 ・FOMA USB接続ケーブルがしっかりと接続されていることを確認してください。 ・接続先が発信者番号の通知を要求する場合は、電話番号に「184」を付加していないかどうかを確認してください。 ・モデムのプロパティで「フロー制御を使う」にチェックが付いていることを確認してください。 ・接続先のAPNが正しいかどうかを確認してください。 ・上記の確認を行っても相手先に接続できない場合は、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者に設定方法などについてご相談ください。

FOMA PC設定ソフトアンインストール手順

FOMA PC設定ソフトのアンインストール手順を説明します。

1 アンインストールを実行する前に

「FOMA PC設定ソフト」をアンインストールする前に、FOMA用に変更された内容を元に戻す必要があります。

(1) タスクトレイに常駐している「W-TCP設定」を常駐させないようにする

デスクトップ右下のタスクトレイの「W-TCPアイコン」を右クリックして「常駐させない」をクリックする。

(2) 起動中のプログラムを終了させる

「FOMA PC設定ソフト」や「W-TCP設定」が起動中にアンインストールを実行しようとすると、右のような画面が表示されます。アンインストールプログラムを中断し、それぞれのプログラムを終了させてください。

2 Windowsの「アプリケーションの追加と削除」を起動する

Windows Me、Windows 98、Windows 2000の場合

「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「アプリケーションの追加と削除」アイコンをクリックする

Windows Me、Windows 98の場合は、「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」が表示されます。

Windows XPの場合

「スタート」→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」アイコンをクリックする

3 「FOMA PC設定ソフト」を選択して「変更と削除」をクリックする

4 削除するプログラム名を確認し、「はい」をクリックする

アンインストールが開始されます。

5 「OK」をクリックする

「FOMA PC設定ソフト」のアンインストールが終了します。

おしらせ

●「W-TCP最適化」の解除
「W-TCP最適化」がされている場合は右の画面が出ます。アンインストールする場合は「はい」をクリックしてください。

W-TCP最適化の解除は再起動後に行われます。

W-TCPの設定

「W-TCP設定」はFOMAネットワークで「パケット通信」を行う際に、TCP/IPの伝送能力を最適化するための「TCPパラメータ設定ツール」です。FOMA端末の通信性能を最大限に活用するには、このソフトウェアによる通信設定が必要です。

最適化の設定と解除

＜Windows XPの場合＞

Windows XPの場合は、ダイヤルアップごとの最適化設定が可能です。

1 プログラムを起動する

(1)「FOMA PC設定ソフト」から操作する場合

プログラム起動後、「マニュアル設定」の「W-TCP設定」をクリックする

(2) タスクトレイから操作する場合

デスクトップ右下のタスクトレイの「W-TCPアイコン」をクリックし、プログラムを起動する

2 次の操作を行う

(1) システム設定が最適化されていない場合

「最適化を行う」をクリックする

「W-TCP(ダイヤルアップ)設定」画面が表示されます。最適化するダイヤルアップを選んで「実行」をクリックすると、システム設定、ダイヤルアップ設定それぞれの最適化が実行される。

現在開いているすべてのプログラムを終了させ画面表示にしたがってパソコンを再起動してください。システム設定は、再起動した後、最適化が有効になります。

(2) システム設定が最適化されている場合

「W-TCP(ダイヤルアップ)設定」画面が表示される。
内容の変更等がある場合は設定を行ってください。

現在開いているすべてのプログラムを終了させ画面表示にしたがってパソコンを再起動してください。システム設定は、再起動した後、最適化が有効になります。

(3) 最適化を解除する場合

「システム設定」をクリックする
「W-TCP設定」画面が表示されます。
「最適化を解除する」をクリックしてください。現在開いているすべてのプログラムを終了させ、画面表示にしたがってパソコンを再起動した後、最適化解除が有効となります。

<Windows Me、Windows 2000、Windows 98の場合>

1 プログラムを起動する

(1)「FOMA PC設定ソフト」から操作する場合

プログラム起動後、「マニュアル設定」の「W-TCP設定」をクリックする

(2) タスクトレイから操作する場合

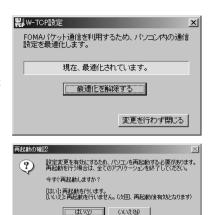
デスクトップ右下のタスクトレイの「W-TCPアイコン」をクリックし、プログラムを起動する

2 次の操作を行う

(1) 最適化されていない場合

「W-TCP設定」画面で「最適化を行う」をクリックし、現在開いているすべてのプログラムを終了させ、最適化設定を有効にするために、再起動を実行する

（2）最適化されている場合

「W-TCP設定」画面で「現在、最適化されています。」と表示される。
FOMA端末以外での通信等の理由から設定を解除する場合は、「最適化を解除する」をクリックしてください。現在開いているすべてのプログラムを終了させ、最適化解除を有効にするために、再起動を実行してください。

接続先（APN）の設定

パケット通信の接続先（APN）を設定します。最大10件まで設定でき、cid（登録番号）の1～10に登録して管理します。

●APN設定（FOMAパケット通信の接続先）は、FOMA端末に登録される情報であるため、異なるFOMA端末を接続する場合は、再度APN登録をする必要があります。
●PC上のAPNを継続利用する場合は、同一APN設定（cid設定）番号を端末に登録してください。
●初期状態ではAPN1にmoperaが設定されています。

1 「FOMA PC設定ソフト」起動後、「接続先（APN）設定」をクリックする

2 FOMA端末設定取得画面で「OK」をクリックする

接続されたFOMA端末に自動的にアクセスして登録されている接続先（APN）情報を読み込みます。
FOMA端末が接続されていない場合は起動しません。

3 接続先（APN）の設定をする

接続先（APN）の追加・編集・削除

- **接続先（APN）を追加する場合**
  「接続先（APN）設定」画面で、「追加」をクリックする
- **登録済みの接続先（APN）を編集する場合**
  「接続先（APN）設定」画面で、対象の接続先（APN）を一覧から選択して「編集」をクリックする
- **登録済みの接続先（APN）を削除する場合**
  「接続先（APN）設定」画面で、対象の接続先（APN）を一覧から選択して「削除」をクリックする
  番号（cid）の1 に登録されている接続先（APN）は削除できません。

ファイルへの保存

FOMA端末に登録された接続先（APN）設定のバックアップを取ったり、編集中の接続先（APN）設定を保存する場合は、ツールバーの「ファイル」メニューからの操作で、接続先（APN）設定の保存ができます。

ファイルからの読み込み

保存された接続先（APN）設定を再編集したり、FOMA端末に書き込んだりする場合には、ツールバーの「ファイル」メニューからの操作で、パソコンに保存されている接続先（APN）設定を読み込むことができます。

FOMA端末への接続先（APN）情報の書き込み

「接続先（APN）設定」画面で「FOMA端末へ設定を書き込む」をクリックすると、表示されている接続先（APN）設定をFOMA端末に書き込むことができます。

ダイヤルアップ作成機能

「接続先（APN）設定」画面で追加・編集された接続先（APN）を選択して「ダイヤルアップ作成」をクリックします。
FOMA端末設定書き込み画面が表示されますので、「はい」をクリックしてください。接続先（APN）への書き込み終了後、「パケット通信用ダイヤルアップの作成」画面が表示されます。
任意の接続名を入力して「アカウント・パスワードの設定」をクリックしてください。moperaの場合は不要です。
ユーザー名とパスワードを入力して（Windows XP、Windows 2000の場合は使用可能ユーザーの選択をして）[OK]をクリックしてください。

ご利用のプロバイダより、IPおよびDNS情報の設定が指示されている場合は、「パケット通信用ダイヤルアップの作成」画面で「詳細情報の設定」をクリックし、必要な情報を登録して、「OK」をクリックしてください。
設定入力後、「FOMA端末へ設定を書き込む」をクリックして上書きを確認してから、書き込みを実行してください。

ダイヤルアップネットワークの設定

FOMA PC設定ソフトを使わずに、パケット通信／64Kデータ通信のダイヤルアップ接続の設定を行う方法について説明します。次のような流れになります。

●FOMA Mobile Card N2（別売）の接続と設定方法については、FOMA Mobile Card N2（別売）の取扱説明書をご覧ください。

パケット通信の設定方法	64Kデータ通信の設定方法

取り付け方法→P397
通信設定ファイル（ドライバ）をインストールします。→P.402

COMポートの確認

COMポートを確認します。→P.437

APNの設定

接続先（APN）の設定をします。→P.442
・接続先がmoperaの場合、この設定は不要です。

発信者番号の設定

発信者番号の通知／非通知を設定します。→P.445

その他の設定

その他の設定をします。（ATコマンド）→P.464

ダイヤルアップネットワークの設定

・設定内容の詳細についてはインターネットサービスプロバイダやネットワーク管理者にお問い合わせください。
・Windows Meをお使いの場合
　接続先を設定します→P.447
・Windows 98をお使いの場合
　接続先を設定します→P.447
・Windows 2000をお使いの場合
　接続先を設定します→P.450
・Windows XPをお使いの場合
　接続先を設定します→P.456

接続する→P.460

ATコマンドについて

● ATコマンドとは、モデム制御用のコマンドです。FOMA端末はATコマンドに準拠し、さらに拡張コマンドの一部や独自のATコマンドをサポートしています。
● ATコマンドを入力することによって、「データ通信」やFOMA端末の詳細な設定、設定内容の確認(表示)をすることができます。

おしらせ

● 64Kデータ通信のアクセスポイントとして、ドコモのインターネット接続サービス「mopera」をご利用になる場合は、接続先の番号を「＊9601」に設定します。
●「発信者番号の通知／非通知」は必要に応じて設定してください。moperaをご利用になる場合は、「通知」になる設定にする必要があります。
●「その他の設定」は必要に応じて設定してください。お買い上げ時のままでも利用できます。
● 設定内容の詳細については、インターネットサービスプロバイダやネットワーク管理者にお問い合わせください。
● FOMA端末で次の設定を行っている場合は、ダイヤルアップ接続はできません。
  ・オールロック→『基本編』のP.200
  ・ダイヤル発信制限→『基本編』のP.205
  ・セルフモード→『基本編』のP.207

COMポートを確認します

●接続先(APN)の設定を行う場合、N900i通信設定ファイルのインストール後に組み込まれた「FOMA N900i」(モデム)に割り当てられたCOMポート番号を指定する必要があります。ここではCOMポート番号の確認方法について説明します。ここで確認したCOMポートは接続先(APN)の設定(P.428)で使用します。
●ドコモのインターネット接続サービス「mopera」をご利用になる場合、接続先(APN)の設定(P.428)が不要なため、モデムの確認をする必要はありません。「発信者番号の通知／非通知を設定します」(P.431)へ進んでください。

接続先について<APN／cid>

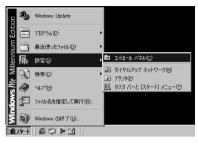
- パケット通信の接続先には、64Kデータ通信と異なり、通常の電話番号を使用しません。接続には電話番号の代わりにAPN(P.428)を設定して接続します。
- APN設定とは、パソコンからパケット通信用の電話帳を登録するようなもので、登録するときは、1から10の登録番号(cid)を付与して登録し、その登録番号(cid)を接続先番号の一部として使用します。※1
- APNは「cid(1～10までの管理番号)」によって管理されます。接続する接続先番号を「＊99＊＊＊<cid番号>＃」とするとcid番号の接続先に接続します。
- cid番号の1番には、moperaに接続するためのAPN:mopera.ne.jpがあらかじめ登録されているので、接続先番号を「＊99＊＊＊1＃」とすると、簡単にmoperaを利用することができます。※2
- APN設定は、携帯電話に相手先情報(電話番号など)を登録するのと同じように接続先をFOMA端末に登録します。携帯電話の電話帳と比較すると以下のようになります。

		APN設定	携帯電話の電話帳
登録するデータ		APN	電話番号
		cid	電話帳のメモリ番号
		―	相手の名前
登録のしかた	パソコンを使って登録する	○(FOMA PC設定ソフトなどを使用)	○(専用ソフトが必要)
	携帯電話を使って登録する	×(確認もできません)	○
使いかた		cidを指定して接続	電話帳から探してかける
		―	FOMA端末のダイヤルボタンから直接電話番号を入力してかける

※1：「ダイヤルアップネットワーク」の電話番号欄にAPNを入力して接続するのではなく、FOMA端末側に接続先(インターネットサービスプロバイダ)についてあらかじめAPN設定を行います。

※2：ほかのインターネットサービスプロバイダなどに接続する場合は、APNを設定し、cid番号の2番以降に登録してください。APNの設定と登録方法については、P.428を参照してください。

■Windows Me／98でCOMポートを確認する場合

1 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を開く

2 コントロールパネル内の「モデム」を開く

コントロールパネルに「モデム」アイコンが表示されないときは「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックします。

3 「FOMA N900i」がセットアップされていることを確認して、「検出結果」タブをクリックする

4 「FOMA N900i」が設定されているCOMポートを確認して、「OK」をクリックする

確認したCOMポート番号は接続先（APN）の設定（P.428）で使用します。

プロパティ画面に表示される内容およびCOMポートの番号は、お使いのパソコンによって異なります。

■Windows 2000でCOMポートを確認する場合

1 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を開く

2 コントロールパネル内の「電話とモデムのオプション」を開く

3 「所在地情報」画面が表示された場合は、「市外局番」を入力して、「OK」をクリックする

4 「モデム」タブをクリックして「FOMA N900i」の「接続先」欄のCOMポートを確認し、「OK」をクリックする

確認したCOMポート番号は、接続先（APN）の設定（P.428）で使用します。

プロパティ画面に表示される内容およびCOMポートの番号は、お使いのパソコンによって異なります。

■Windows XPでCOMポートを確認する場合

1 「スタート」→「コントロールパネル」を開く

2 コントロールパネル内の「プリンタとその他のハードウェア」から、「電話とモデムのオプション」を開く

3 「所在地情報」画面が表示された場合は、「市外局番／エリアコード」を入力して「OK」をクリックする

4 「モデム」タブをクリックして「FOMA N900i」の「接続先」欄のCOMポートを確認し、「OK」をクリックする

確認したCOMポート番号は、接続先（APN）の設定（下記）で使用します。

プロパティ画面に表示される内容およびCOMポートの番号は、お使いのパソコンによって異なります。

接続先（APN）を設定します

お買い上げ時	cid1：mopera.ne.jp　cid2～10：設定なし

設定を行うためには、ATコマンドを入力するための通信ソフトが必要です。ここではWindows標準添付の「ハイパーターミナル」を使った設定方法を説明します。

●パケット通信を行う場合の接続先（APN）を設定します。接続先（APN）は最大10 件設定でき、登録番号cid1～cid10（P.424）を付けて管理します。

●cid1には、すでにドコモのインターネット接続サービス「mopera」に接続するためのAPN、「mopera.ne.jp」があらかじめ設定されていますので、cidを設定するときは、2～10の番号に設定することをおすすめします。

●登録したcid はダイヤルアップ接続設定での接続番号となります。

●mopera 以外の接続先（APN）については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者にお問い合わせください。

●P.430の操作6以降、「ハイパーターミナル」で入力したATコマンドが見えないことがあります。このようなときは、
ATE1↵
と入力すれば、以降に入力するATコマンドが見えるようになります。

<例：Windows XPの場合>

1 FOMA端末とFOMA USB接続ケーブルを接続する

2 FOMA端末の電源を入れてFOMA端末と接続したFOMA USB接続ケーブルをパソコンに接続する

3 パソコンで、「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ハイパーターミナル」をクリックしてハイパーターミナルを起動する

Windows Me、Windows 2000の場合

「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ハイパーターミナル」の順に開く

Windows 98の場合

「ハイパーターミナル」を開いた後、「Hypertrm.exe」をダブルクリックする

4 「名前」欄に任意の名前を入力して「OK」をクリックする

ここでは例として「sample」と入力します。

5 「接続方法」から「FOMA N900i」を選択し、[OK]をクリックする

「FOMA N900i」のCOMポートを選べる場合

COMポートのプロパティが表示されるので「OK」をクリックする

ここでは例として「COM3」を選びます。実際に「接続方法」で選ぶ「FOMA N900i」のCOMポート番号は、P.423の「COMポートを確認します」を参照して確認してください。

「FOMA N900i」のCOMポートを選べない場合

「キャンセル」をクリックして「接続の設定」画面を閉じ、次の操作を行ってください。

(1)「ファイル」→「プロパティ」を選ぶ
(2)「sampleのプロパティ」画面の「接続の設定」タブの「接続方法」欄で「FOMA N900i」を選ぶ
(3)「国/地域番号と市外局番を使う」のチェックをはずす
(4)「OK」をクリックする

6 接続先(APN)を入力して↵を押す

AT+CGDCONT=<cid>,"PPP","APN"の形式で入力する
<cid>:2〜10までのうち任意の番号を入力する

すでにcidが設定してある場合は設定が上書きされますので注意してください。
"APN": 接続先(APN)を" "で囲んで入力します。
"PPP": そのまま"PPP"と入力します。
「OK」と表示されれば、接続先(APN)の設定は完了です。

例:cidの2番にXXX.abcというAPNを設定する場合
AT+CGDCONT=2,"PPP","XXX.abc"
↵と入力します。

7 「OK」と表示されることを確認し、「ファイル」メニューを開き、「ハイパーターミナルの終了」をクリックしてハイパーターミナルを終了する

「セッションsampleを保存しますか?」と表示されますが、特に保存する必要はありません。

おしらせ

ATコマンドで接続先（APN）設定をリセットする場合

・リセットを行った場合、cid=1の接続先（APN）設定のみ「mopera.ne.jp」（初期値）に戻り、cid=2～10の設定は未登録となります。
＜入力方法＞
AT＋CGDCONT=↵（すべてのcidをリセットする場合）
AT＋CGDCONT=〈cid〉↵（特定のcidのみリセットする場合）

ATコマンドで接続先（APN）設定を確認する場合

・現在の設定内容を表示させます。
＜入力方法＞
AT＋CGDCONT?↵

ATコマンドを入力しても画面に何も表示されない場合

＜入力方法＞
ATE1↵

発信者番号の通知／非通知を設定します

お買い上げ時 | **通知**

●パケット通信を行うときに、通知／非通知設定（接続先にお客様の発信者番号を通知する、しないの設定）を行うことができます。発信者番号はお客様の大切な情報なので、通知する際には十分にご注意ください。
●発信者番号の通知／非通知設定は、ダイヤルアップ接続を行う前にATコマンドで設定できます。
●発信者番号の通知／非通知、または「設定なし」（初期値）に戻すには＊DGPIRコマンド（P.451）で設定します。

1 「ハイパーターミナル」を起動する

2 パケット通信時の発信者番号の通知（186）／非通知（184）を設定する

「AT＊DGPIR=<n>」の形式で入力します。

発信／着信応答のときに自動的に184（非通知）を付ける場合
AT＊DGPIR=1↵
と入力する

発信／着信応答のときに自動的に186（通知）を付ける場合
AT＊DGPIR=2↵
と入力する

3 「OK」と表示されることを確認し、「ファイル」メニューの「ハイパーターミナルの終了」をクリックする

ダイヤルアップネットワークでの186(通知)／184(非通知)設定について

ダイヤルアップネットワークの設定でも、接続先の番号に186／184を付けることができます。

＊ DGPIRコマンド、ダイヤルアップネットワークの設定の両方で186／184の設定を行った場合、次のようになります。

ダイヤルアップネットワークの設定(cid＝1の場合)	＊DGPIRコマンドによる通知／非通知設定	発信者番号の通知／非通知
＊99＊＊＊1#	設定なし	通知
	非通知	非通知
	通知	通知
184＊99＊＊＊1#	設定なし	非通知(ダイヤルアップネットワークの通知184が優先される)
	非通知	
	通知	
186＊99＊＊＊1#	設定なし	通知(ダイヤルアップネットワークの通知186が優先される)
	非通知	
	通知	

おしらせ

- DGPIRコマンドによる通知／非通知設定を「設定なし」に戻すには、「AT＊DGPIR=0」と入力してください。
- ドコモのインターネット接続サービスmoperaをご利用になる場合は、発信者番号を「通知」に設定する必要があります。

ダイヤルアップの設定を行います

ここでは、<cid>=1を使いドコモのインターネット接続サービス「mopera」へ接続する場合の接続先の設定を説明しています。

●mopera以外のプロバイダに接続する場合の設定内容については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者へお問い合わせください。

Windows Me／Windows 98でダイヤルアップの設定を行います

1 **「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ダイヤルアップネットワーク」の順に開く**

2 **「ダイヤルアップネットワークへようこそ」画面が表示されたら、「次へ」をクリックする**

この画面はダイヤルアップネットワークをはじめて起動したときのみ表示されます。「次へ」をクリックして操作4に進んでください。2回目以降は、この画面は表示されず、操作3の「ダイヤルアップネットワーク」画面が表示されます。

3 **ダイヤルアップネットワーク内の「新しい接続」をダブルクリックする**

4 「接続名」欄に任意の名前を入力して、「次へ」をクリックする

「モデムの選択」欄が「FOMA N900i」になっていることを確認します。「FOMA N900i」になっていない場合は、「FOMA N900i」を選択します。

5 「電話番号」欄に接続先の番号を入力して、「次へ」をクリックする

「市外局番」欄には何も入力しません。

6 接続名（任意の名前）を確認して、「完了」をクリックする

7 「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ダイヤルアップネットワーク」を開く

8 作成したダイヤルアップのアイコンを選択して、「ファイル」メニューの「プロパティ」を開く

9 「全般」タブで「電話番号」および「接続方法」を確認する

「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」のチェックを外す

「接続方法」欄が「FOMA N900i」になっていることを確認します。「FOMA N900i」になっていない場合は、「FOMA N900i」を選択します。

10 「ネットワーク」タブをクリックして各種設定を行う

「ダイヤルアップサーバーの種類」欄は、「PPP：インターネット、Windows 2000/NT、 Windows Me」を選択する

コンポーネントは「インターネットプロトコル(TCP/IP)」のみをチェックします。

Windows 98の場合

「サーバーの種類」タブをクリックして各種設定を行う

「ダイヤルアップサーバーの種類」欄には「PPP：インターネット、Windows NT Server、Windows 98」を選択してください。

コンポーネントは「インターネットプロトコル(TCP/IP)」のみをチェックします。

11 「セキュリティ」タブをクリックして、ユーザー名とパスワードを入力せずに「OK」をクリックする

moperaに接続する場合、ユーザー名とパスワードの入力は不要です。
mopera以外のプロバイダに接続する場合は、右画面のように「ユーザー名」、「パスワード」欄については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者から指定されたとおり設定します。

Windows 98の場合
「OK」をクリックする

Windows 2000でダイヤルアップの設定を行います

1 「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」の順に開く

2 ネットワークとダイヤルアップ接続内の「新しい接続の作成」をダブルクリックする

3 「所在地情報」画面が表示された場合は、「市外局番」を入力して「OK」をクリックする

「所在地情報」画面は操作2で「新しい接続の作成」をはじめて起動したときのみ表示されます。2回目以降は、この画面は表示されず、「ネットワークの接続ウィザード」画面が表示されるので、操作5に進んでください。

4 「電話とモデムのオプション」画面が表示されてから、「OK」をクリックする

5 「ネットワークの接続ウィザード」画面が表示されてから、「次へ」をクリックする

6 「インターネットにダイヤルアップ接続する」を選んで、「次へ」をクリックする

7 「インターネット接続を手動で設定するか、またはローカルエリアネットワーク(LAN)を使って接続します」を選んで、「次へ」をクリックする

8 「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」を選んで、「次へ」をクリックする

9 「インターネットへの接続に使うモデムを選択する」欄が、「FOMA N900i」になっていることを確認して、「次へ」をクリックする

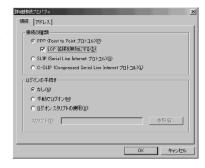
「FOMA N900i」になっていない場合は、「FOMA N900i」を選ぶ

「FOMA N900i」以外のモデムがインストールされていない場合は、この画面は表示されません。

10 「電話番号」欄に接続先の番号を入力して、「詳細設定」をクリックする

「市外局番とダイヤル情報を使う」のチェックを外してください。

11 「接続」タブの中を画面例のように設定して、「アドレス」タブをクリックする

mopera以外のプロバイダに接続する場合は、「接続の種類」、「ログオンの手続き」については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者から指定されたとおり設定します。

12 「アドレス」タブのIPアドレスおよびDNS（ドメインネームサービス）アドレスを画面例のように設定して、「OK」をクリックする

mopera以外のプロバイダに接続する場合、「IPアドレス」、「ISPによるDNS（ドメインネームサービス）アドレスの自動割り当て」については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者から指定されたとおり設定します。

13 操作10の画面に戻るので、「次へ」をクリックする

14 「ユーザー名」、「パスワード」欄に何も入力せずに、「次へ」をクリックする

ユーザー名、パスワードを空白のままにしておくかという確認画面が続けて表示されるので、画面ごとに「OK」をクリックします。
moperaに接続する場合、ユーザー名とパスワードの入力は不要です。
mopera以外のプロバイダに接続する場合、右画面のように「ユーザー名」、「パスワード」欄については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者から指定されたとおり設定します。

15 「接続名」欄に任意の名前を入力して、「次へ」をクリックする

16 「いいえ」を選んで、「次へ」をクリックする

17 「今すぐインターネットに接続するにはここを選び[完了]をクリックしてください」のチェックを外して、「完了」をクリックする

18 作成したダイヤルアップのアイコンを選択して、「ファイル」メニューの「プロパティ」をクリックする

19 「全般」タブで設定を確認する

パソコンに2台以上モデムが接続されている場合は、「接続の方法」欄で「モデム－FOMA N900i」にチェックが付いていることを確認し、チェックが付いていない場合には、チェックを付ける

「ダイヤル情報を使う」にチェックが付いていないことを確認します。チェックが付いている場合には、チェックを外します。

20 「ネットワーク」タブをクリックして各種設定を行う

「呼び出すダイヤルアップサーバーの種類」欄は、「PPP：Windows 95/98/NT4/2000, Internet」を選択する

コンポーネントは「インターネットプロトコル（TCP/IP）」のみをチェックします。

21 「設定」をクリックする

22 すべてのチェックを外して、「OK」をクリックする

23 操作20の画面に戻るので「OK」をクリックする

Windows XPでダイヤルアップの設定を行います

1 「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「新しい接続ウィザード」の順に開く

2 「新しい接続ウィザード」画面が表示されたら、「次へ」をクリックする

3 「インターネットに接続する」を選んで、「次へ」をクリックする

4 「接続を手動でセットアップする」を選んで、「次へ」をクリックする

5 「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」を選んで、「次へ」をクリックする

6 「デバイスの選択」画面が表示された場合は、「モデム－FOMA N900i(COMx)」を選んで「次へ」をクリックする

「デバイスの選択」画面は、複数のモデムが存在するときのみ表示されます。
(COMx)は、「COMポートの確認」(P.423)で表示されるCOMポートの番号です。

7 「ISP名」欄に任意の名前を入力して、「次へ」をクリックする

8 「電話番号」欄に接続先の番号を入力して、「次へ」をクリックする

電話番号はmoperaへ接続する場合の例です。実際にはお客様がお使いになる接続先番号を入力します。

9 「ユーザー名」、「パスワード」、「パスワードの確認入力」欄には何も入力せずに、「次へ」をクリックする

moperaに接続する場合、ユーザー名とパスワードの入力は不要です。
mopera以外のプロバイダに接続する場合は、右画面のように「ユーザー名」、「パスワード」、「パスワードの確認入力」欄にプロバイダまたはネットワーク管理者から指定されたユーザー名とパスワードを入力してください。

10 「完了」をクリックする

新しく作成した接続ウィザードが表示されます。

11 「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワーク接続」を開く

12 作成したダイヤルアップのアイコンを選択して、「ファイル」メニューの「プロパティ」を開く

13 「全般」タブで設定を確認する

パソコンに2台以上のモデムが接続されている場合は、「接続の方法」欄で「モデム－FOMA N900i」にチェックが付いていることを確認し、チェックが付いていない場合には、チェックを付ける

「ダイヤル情報を使う」にチェックが付いていないことを確認します。チェックが付いている場合には、チェックを外します。

14 「ネットワーク」タブをクリックして、各種設定を行う

「呼び出すダイヤルアップサーバーの種類」欄は、「PPP:Windows 95/98/NT4/2000,Internet」を選ぶ

「この接続は次の項目を使用します」欄は、「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選びます。「QoSパケットスケジューラ」は設定変更ができませんので、そのままにしておいてください。

15 「設定」をクリックする

16 すべてのチェックをはずして「OK」をクリックする

17 操作14の画面に戻るので「OK」をクリックする

ダイヤルアップ接続を実行します

ここでは、設定したダイヤルアップを使って、パケット通信／64Kデータ通信のダイヤルアップ接続をする方法について説明しています。

＜例：Windows Meの場合＞

1 **FOMA USB接続ケーブルでFOMA端末とパソコンを接続する**

取り付け方法→P.383

2 **［スタート］→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」の順に選んで「ダイヤルアップネットワーク」を開く**

3 **接続先のアイコンを選び、「接続」を開く**

4 各項目を確認して「接続」をクリックする

「電話番号」には、ダイヤルアップネットワークに設定した接続先の番号が表示されます。
接続先がmoperaの場合は、「ユーザー名」・「パスワード」の入力は不要です。
mopera以外のプロバイダに接続する場合は、「ユーザー名」、「パスワード」欄にプロバイダまたはネットワーク管理者から指定されたユーザー名とパスワードを入力してください。

＜接続中の状態を示す画面が表示されます＞

この間にユーザー名、パスワードの確認やログオン処理が行われます。

＜接続の完了＞

ブラウザソフトを起動してホームページを閲覧したり、電子メールなどを利用することができます。
この画面が表示されない場合は、接続先の設定を再度確認してください。

＜例：Windows XPの場合＞

1 「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワーク接続」を開く

---

2 接続先を開く

P.443の操作7で設定したISP名のダイヤルアップの接続先アイコンを選んで「ネットワークタスク」→「この接続を開始する」を選ぶか、接続先のアイコンをダブルクリックする

---

3 内容を確認して「ダイヤル」をクリックする

右の画面はmoperaに接続する場合の例です。moperaに接続する場合、ユーザー名とパスワードの入力は不要です。

＜接続中の状態を示す画面が表示されます＞

この間にユーザー名、パスワードの確認などのログオン処理が行われます。
接続が完了すると、タスクバーのインジケータから「(接続先名)に接続しました」というポップアップのメッセージが表示されます。

＜接続の完了＞

接続が完了すると、デスクトップ右下のタスクバーのインジケータから、右のようなメッセージが数秒間表示されます。
ブラウザソフトを起動してホームページを閲覧したり、電子メールなどを利用することができます。
この画面が表示されない場合は、接続先の設定を再度確認してください。
通信状態については、P.414を参照してください。

切断のしかた

インターネットブラウザを終了しただけでは、通信回線が切断されない場合があります。次の操作で確実に切断してください。ここではWindows Meを例に説明します。

1 タスクトレイのダイヤルアップアイコンをダブルクリックする

接続の画面が表示されます。

ダイヤルアップアイコン

2 「切断」をクリックする

おしらせ

- パソコンに表示される通信速度は実際の通信速度とは異なる場合があります。

ATコマンド一覧

FOMA端末で使用できるATコマンド

●ATコマンド一覧では、次の略を使用しています。
[&F] ：AT&Fコマンドで設定が初期化されるコマンドです。
[&W] ：AT&Wコマンドで設定が保存されるコマンドです。ATZコマンドで設定値を呼び戻すことができます。

モデムポートコマンド一覧

FOMA N900i(モデム)で使用できるコマンドです。

AT コマンド	概 要	パラメータ/説明	コマンド実行例
AT%V	FOMA 端末のバージョンを表示します。	―	AT%V Ver1.00 OK
AT&C *n* [&F] [&W]	DTE への回路CD 信号の動作条件を選びます。	*n*=0 ： CD は常にON *n*=1 ： CD は相手モデムのキャリアに応じて変化する(初期値)	AT&C1 OK
AT&D *n* [&F] [&W]	DTE から受け取る回路ER信号がON ／OFF 遷移したときの動作を選びます。	*n*=0 ： ERの状態を無視する(常にONとみなします) *n*=1 ： ERがONからOFF に変化すると、オンラインコマンド状態になる *n*=2 ： 回線を切断しERがONからOFFに変化すると、オフラインコマンド状態になる(初期値)	AT&D1 OK
AT&F *n*	すべてのレジスタを工場出荷時の設定値に戻します。通信中に本コマンドが入力された場合、回線切断処理を行います。	*n*=0のみ指定可能(省略可)	―
AT&S *n* [&F] [&W]	DTEへ出力するデータセットレディ信号の制御を設定します。	*n*=0 ：DR は常にON (初期値) *n*=1 ：DR は回線接続時(通信呼確立時)にON	AT&S0 OK
AT&W *n*	現在の設定値を記憶します。	*n*=0のみ指定可能(省略可)	―
AT *DGANSM=*n*	パケット着信呼に対する着信拒否／許可設定のモードを設定します。本コマンドによる設定は、設定コマンド入力後のパケット通信着信呼に対し有効となります。	*n*=0 ：着信拒否設定(AT*DGARL)および着信許可設定(AT*DGAPL)を無効にする(初期値) *n*=1 ：着信拒否設定を有効にする *n*=2 ：着信許可設定を有効にする AT *DGANSM? ：現在の設定値を表示する	AT *DGANSM=0 OK AT *DGANSM? *DGANSM:0 OK

AT コマンド	概 要	パラメータ/説明	コマンド実行例
AT ＊DGAPL=*n*[,cid]	パケット着信呼に対して着信許可を行うAPNを設定します。APNの設定は、AT+CGDCONTで定義された<cid>パラメータを用います。	*n*=0 ：<cid>で定義されたAPNを着信許可リストに追加する *n*=1 ：<cid>で定義されたAPNを着信許可リストから削除する <cid> が省略された場合には、すべてのcid に適用する AT ＊DGAPL? ：着信許可リストを表示する	AT ＊DGAPL =0,1 OK AT ＊DGAPL? ＊DGAPL:1 OK AT ＊DGAPL =1 OK AT ＊DGAPL? OK
AT ＊DGARL=*n* [,cid]	パケット着信呼に対して着信拒否を行うAPNを設定します。APN設定は、+CGDCONT で定義された<cid>パラメータを用います。	*n*=0 ：<cid>で定義されたAPNを着信拒否リストに追加する *n*=1 ：<cid>で定義されたAPNを着信拒否リストから削除する <cid> が省略された場合には、すべてのcid に適用する AT ＊DGARL? ：着信拒否リストを表示する	AT ＊DGARL =0,1 OK AT ＊DGARL? ＊DGARL:1 OK AT ＊DGARL =1 OK AT ＊DGARL? OK
AT ＊DGPIR=*n*	本コマンドの設定は、パケット通信の発信時、着信時の通知・非通知設定が有効となります。 ダイヤルアップネットワークでの設定でも、接続先の番号に186(通知)/184(非通知)を付けることができます。(P.431)	*n*=0 ：APNをそのまま使用する(初期値) *n*=1 ：APNに"184"を付加して使用する(常に非通知) *n*=2 ：APNに"186"を付加して使用する(常に通知) AT ＊DGPIR? ：現在の設定値を表示する	AT ＊DGPIR =0 OK AT ＊DGPIR? ＊DGPIR:0 OK
+++	オンラインデータモードのとき、エスケープシーケンスが実行されると回線を切断することなくオンラインコマンド状態に移行します。	―	(オンラインデータモード) +++(表示は見えない) OK
AT+CEER	直前の呼の切断理由を表示します。	<report> 切断理由一覧(P.465)	AT+CEER +CEER:36 OK
AT+CGDCONT	パケット発信時の接続先(APN)を設定します。	P.459	P.459
AT+CGEQMIN	PPP パケット通信確立時にネットワーク側から通知されるQoS(サービス品質)を許容するかどうかの判定基準値を登録します。	AT+CGEQMIN=[パラメータ](P.460) AT+CGEQMIN=? ：設定可能な値のリストを表示する AT+CGEQMIN? ：現在の設定値を表示する	P.460
AT+CGEQREQ	PPP パケット通信の発信時にネットワークへ要求するQoS(サービス品質)を設定します。	AT+CGEQREQ =[パラメータ](P.461) AT+CGEQREQ=? ：設定可能な値のリストを表示する AT+CGEQREQ? ：現在の設定値を表示する	P.461
AT+CGMR	FOMA 端末のバージョンを表示します。	―	AT+CGMR 12345XXXXXXXXXX OK

AT コマンド	概 要	パラメータ/説明	コマンド実行例
AT+CGREG=*n* [&F] [&W]	ネットワーク登録状態を通知するかどうかを設定します。 応答される通知により圏内／圏外を表示します。	*n*=0 ：通知なし(初期値) *n*=1 ：通知あり。圏内・圏外が切り替わったときに通知する AT+CGREG? ：現在の設定値を表示する +CGREG：<*n*>,<stat> *n* ：設定値 stat： 0：パケット圏外 1：パケット圏内 4：不明 5：パケット圏内(ローミング中)	AT+CGREG=1 OK(通知ありに設定) AT+CGREG? +CGREG:1,0 OK (圏外を意味しています) (圏外から圏内に移動した場合) +CGREG:1
AT+CGSN	FOMA 端末の製造番号を表示します。	ー	AT+CGSN 12345XXXXXXXXXX OK
AT+CMEE=*n* [&F] [&W]	FOMA端末のエラーレポートの有無の設定を行います。	*n*=0 ：通常のERROR リザルトを用いる(初期値) *n*=1 ：+CME ERROR:<err>リザルトコードを使用し、<err>は数値を用いる *n*=2 ：+CME ERROR:<err>リザルトコードを使用し、<err>は文字を用いる AT+CMEE? ：現在の設定値を表示する 右記はFOMA 端末や接続に異常がある場合のコマンドの実行例です。	AT+CMEE=0 OK AT+CNUM ERROR AT+CMEE=1 OK AT+CNUM +CME ERROR ：10 AT+CMEE=2 OK AT+CNUM +CME ERROR ：SIM not inserted
AT+CNUM	FOMA 端末の自局電話番号を表示します。	number ：電話番号 type ： 129 もしくは145 129 ：国際アクセスコード+を含まない 145 ：国際アクセスコード+を含む	AT+CNUM +CNUM:,"+8190XXXXXXXX",145 OK
AT+CR=*n* [&F] [&W]	回線接続時にCONNECTのリザルトコードを表示する前に、ベアラサービス種別を表示します。	*n*=0 ：表示しない(初期値) *n*=1 ：表示する <serv>：パケット通信を意味する"GPRS"のみ表示する(回線種別により"SYNC","AV32K","AV64K"を表示) AT+CR? ：現在の設定値を表示する	AT+CR =1 OK ATD ＊99 ＊＊＊1# +CR ：GPRS CONNECT
AT+CRC=*n* [&F] [&W]	着信時に拡張リザルトコードを使用するかどうかを設定します。	*n*=0 ：+CRING を使用しない(初期値) *n*=1 ：+CRING.<type>を使用する +CRING の書式は次のとおり +CRING ：GPRS"PPP",,"<APN>" AT+CRC? ：現在の設定値を表示する	AT+CRC=0 OK AT+CRC? +CRC ：0 OK
AT+CREG=*n* [&F] [&W]	圏内・圏外情報の表示に関するリザルト表示の有無を設定します。 ・OS によっては設定できない場合があります。	*n*=0 ：通知なし(初期値) *n*=1 ：通知あり。圏内・圏外が切り替わったときに通知する AT+CREG? ：現在の設定値を表示する +CREG ：<*n*>,<stat> *n* ：設定値 stat ： 0 ： 音声圏外 1 ： 音声圏内 4 ： 不明 5 ：音声圏内(ローミング中)	AT+CREG=1 OK (通知ありに設定) AT+CREG? +CREG ：1,0 OK (圏外を意味しています) (圏外から圏内に移動した場合) +CREG ：1

AT コマンド	概 要	パラメータ/説明	コマンド実行例
AT+GMI	メーカー名(NEC)を表示します。	—	AT+GMI NEC OK
AT+GMM	FOMA端末の製品名(FOMA N900i)を表示します。	—	AT+GMM FOMA N900i OK
AT+GMR	FOMA端末のバージョンを表示します。	—	AT+GMR Ver1.00 OK
AT+IFC=*n,m* [&F] [&W]	フロー制御方式を選びます。	*n* ：DCE by DTE *m*：DTE by DCE 0：フロー制御なし 1：XON ／XOFF フロー制御 2：RS ／CS（RTS/CTS）フロー制御 初期値はn,m=2.2 AT+IFC?：現在の設定値を表示する	AT+IFC=2,2 OK
AT+WS46=*n* [&F] [&W]	FOMA端末の無線通信網を選びます。	*n*=22 ：W- CDMA（Wideband CDMA）のみ指定可能(初期値)	AT+WS46=22 OK
ATA	FOMA端末が着信したモードにしたがって着信処理を行います。	—	RING ATA CONNECT
A/	直前に実行したコマンドを再実行します。またキャリッジリターンは不要です。	—	A/ OK
ATD	FOMA端末に対してパラメータ、ダイヤルパラメータの指定にしたがって自動発信処理を行います。	ATD*99***<cid># ：パケット通信 <cid>1～10：＋CGDCONT設定したAPNを表す。 AT+CBST=116,1,0 設定時 ATD<電話番号> ：64K通信 AT+CBST=131,1,0 設定時 ATD<電話番号> ：AV32K通信 AT+CBST=134,1,0 設定時 ATD<電話番号> ：AV64K通信	<パケット通信> ATD*99***1# CONNECT <64K通信> AT+CBST=116,1,0 OK ATD090XXXXXXXX CONNECT <AV32K通信> AT+CBST=131,1,0 OK ATD090XXXXXXXX CONNECT <AV64K通信> AT+CBST=134,1,0 OK ATD090XXXXXXXX CONNECT
ATE *n* [&F] [&W]	コマンドモードにおいてDTEに対するエコーバックの有無を指定します。	*n*=0 ：エコーバックなし *n*=1 ：エコーバックあり(初期値)	ATE1 OK
ATH *n*	FOMA端末に対してオンフック動作を行います。	*n*=0 ：回線を切断する(省略可)	(パケット通信中) +++ ATH NO CARRIER
ATI *n*	認識コードを表示します。	*n*=0 ：「NTT DoCoMo」を表示する *n*=1 ：製品名を表示する(+GMMと同じ) *n*=2 ：PPPパケット機能のバージョンを表示する(+GMR と同じ)	ATI0 NTT DoCoMo OK ATI1 FOMA N900i OK

AT コマンド	概 要	パラメータ/説明	コマンド実行例
ATO *n*	通信中にオンラインコマンドモードから、オンラインデータモードに戻ります。	*n*=0 ：オンラインコマンドモードからオンラインデータモードに戻す（省略可）	ATO CONNECT
ATQ *n* [&F] [&W]	DTEへのリザルトコードを表示するかどうか設定します。	*n*=0 ：リザルトコードを表示する（初期値） *n*=1 ：リザルトコードを表示しない	ATQ0 OK ATQ1 （このとき、OKは応答されません）
ATS0=*n* [&F] [&W]	FOMA端末が自動着信するまでの呼び出し回数を設定します。	*n*=0 ：自動受信しない（初期値） *n*=1-255 ：指定したリング回数で自動受信する ATS0?：現在の設定値を表示する	ATS0=0 OK ATS0? 000 OK
ATS2=*n* [&F]	エスケープキャラクタの設定を行います。	*n*=43 ：初期値 *n*=127 ：エスケープ処理は無効 ATS2? ：現在の設定値を表示する	ATS2=43 OK ATS2? 043 OK
ATS3=*n* [&F]	キャリッジリターン（CR）キャラクタの設定を行います。	*n*=13 ：初期値（n=13 のみ指定可） ATS3? ：現在の設定値を表示する	ATS3=13 OK ATS3? 013 OK
ATS4=*n* [&F]	ラインフィード（LF）キャラクタの設定を行います。	*n*=10 ：初期値（n=10 のみ指定可） ATS4?：現在の設定値を表示する	ATS4=10 OK ATS4? 010 OK
ATS5=*n* [&F]	バックスペース（BS）キャラクタの設定を行います。	*n*=8 ：初期値（n=8 のみ指定可） ATS5?：現在の設定値を表示する	ATS5=8 OK ATS5? 008 OK
ATS7=*n* [&F] [&W]	発信時、設定時間以内に接続できなければ、回線を切断します。	*n*=1 ～120（初期値は60）（単位：秒）121 ～255 の指定は120 とみなす ATS7?：現在の設定値を表示する	ATS7=60 OK ATS7? 060 OK
ATV *n* [&F] [&W]	すべてのリザルトコードを数字表記または英文字表記に設定します。	*n*=0 ：リザルトコードを数値で返送する *n*=1 ：リザルトコードを文字で返送する（初期値）	ATV1 OK
ATX *n* [&F] [&W]	接続時のCONNECT 表示に速度表示の有無を設定します。 また、ビジートーン、ダイヤルトーンの検出を行います。	*n*=0 ：ダイヤルトーン検出なし、ビジートーン検出なし、速度表示なし *n*=1 ：ダイヤルトーン検出なし、ビジートーン検出なし、速度表示あり *n*=2 ：ダイヤルトーン検出あり、ビジートーン検出なし、速度表示あり *n*=3 ：ダイヤルトーン検出なし、ビジートーン検出あり、速度表示あり *n*=4 ：ダイヤルトーン検出あり、ビジートーン検出あり、速度表示あり（初期値）	ATX1 OK

AT コマンド	概 要	パラメータ/説明	コマンド実行例
ATZ	設定を不揮発メモリの内容にリセットします。 通信中に本コマンドが入力された場合、回線切断処理を行います。	−	(オンラインコマンドモード時) ATZ NO CARRIER (オフラインコマンドモード時) ATZ OK
AT\S	現在設定されている各コマンド、S レジスタの内容を表示します。	−	AT\S E1 Q0 V1 X4 &C1 &D2 &S0 \ V0 S000=000 S002=043 S003=013 S004=010 S005=008 S006=005 S007=060 S008=003 S010=001 OK
AT\V *n* [&F] [&W]	接続時の応答コード仕様を選びます。	*n*=0 ： 拡張リザルトコードを使用しない(初期値) *n*=1 ： 拡張リザルトコードを使用する	AT\V0 OK

AT コマンド	概 要	パラメータ/説明	コマンド実行例
AT+CPIN	FOMA端末にPINコードを入力します。	書式 ： AT+CPIN="<pin>","<newpin>" FOMA端末のPIN1コード、PIN2コードおよびPINロック解除コードを入力するためのコマンドです。 <pin>に入力するのは、FOMA端末がPIN1コードを入力する画面ではPIN1コードに、PIN2コードを入力する画面ではPIN2コードになります。PIN1コードまたはPIN2コードがPINロック状態になり、その解除のためにPINロック解除コードを入力する場合には、<pin>にPINロック解除コードを入力し、<newpin>にロックされたPIN1コードまたはPIN2コードの新しいコードを入力します。PINコード変更を目的として本コマンドを使用しないでください。<pin>と<newpin>は" "で囲んでください。 右記はPINコード「1234」、PINロック解除コード「12345678」の入力例です。	(+CPIN?入力時に、+CPIN:READYが応答される状態) AT+CPIN="1234" ERROR (+CPIN?入力時に、+CPIN:READYが応答される状態) AT+CPIN="12345678", "1234" ERROR (+CPIN?入力時に、+CPIN:SIM PINが応答される状態) AT+CPIN="1234" OK (+CPIN?入力時に、+CPIN:SIM PIN2が応答される状態) AT+CPIN="1234" OK (+CPIN?入力時に、+CPIN:PUKが応答される状態:PINロック状態) AT+CPIN="12345678", "1234" OK (+CPIN?入力時に、+CPIN:PUK2が応答される状態:PINロック状態) AT+CPIN="12345678", "1234" OK AT+CPIN? +CPIN:READY OK AT+CPIN=? OK
AT+CLIP=*n*	64Kデータ通信の着信時に、相手の発信番号をパソコンに表示できます。	*n*=0： リザルトを出さない(初期値) *n*=1： リザルトを出す リザルト：+CLIP(*n*、*m*) *m*=0：発信時に相手に番号を通知しないNW設定 *m*=1：発信時に相手に番号を通知するNW設定 *m*=2：不明	AT+CLIP=0 OK AT+CLIP=? +CLIP:(0.1) OK (+CLIP=1設定時に着信) RING +CLIP: "090XXXXXXXX",177, "123",136

AT コマンド	概 要	パラメータ/説明	コマンド実行例
AT+CLIR=*n*	64Kデータ通信の発信時に、電話番号を相手に通知するかどうかを設定します。	*n*=0： CLIRサービスの契約に従い、発番通知される(されない) *n*=1： 通話相手に番号発信しない *n*=2： 通話相手に番号発信する(初期値) リザルト：+CLIR(*n*、*m*) *m*=0：CLIRは起動していない(常時通知) *m*=1：CLIRは起動している(常時非通知) *m*=2：不明 *m*=3：CLIR テンポラリーモード(非通知デフォルト) *m*=4：CLIR テンポラリーモード(通知デフォルト)	AT+CLIR=0 OK AT+CLIR? +CLIR:0,1 OK AT+CLIR=? +CLIR:(0-2) OK
AT+CGREG=*n*	ネットワーク登録状態を通知するかどうかを設定します。通知される内容は圏内/圏外です。	*n*=0 ：通知なし(初期値) *n*=1 ：通知あり。圏内・圏外が切り替わったときに通知する AT+CGREG? ：現在の設定値を表示する +CGREG：<*n*>,<stat> *n* ：設定値 stat： 0：パケット圏外 1：パケット圏内 4：不明 5：パケット圏内(ローミング中)	AT+CGREG=0 OK AT+CGREG? +CGREG:0,1 OK AT+CGREG=? +CGREG:(0,1) OK
ATS30=*n*	ユーザーデータの送受信が無い場合、この時間で切断します。	*n*=0： 不活動タイマオフ(初期値) *n*=0～255	ATS30=0 OK ATS30? 000 OK ATS30=? ERROR
ATS103=*n*	着サブアドレスキャラクタを設定します。	*n*=0：＊ *n*=1：/(初期値) *n*=2：¥(¥マークあるいはバックスラッシュ)	ATS103=0 OK ATS103? 000 OK ATS103=? ERROR
ATS104=*n*	発サブアドレスキャラクタを設定します。	*n*=0：# *n*=1：%(初期値) *n*=2：&	ATS104=0 OK ATS104? 000 OK ATS104=? ERROR

AT コマンド	概 要	パラメータ/説明	コマンド実行例
AT∗DANTE	移動機のアンテナ本数を表示します。	＝0：移動機のアンテナが圏外 ＝1：移動機のアンテナが1本 ＝2：移動機のアンテナが2本 ＝3：移動機のアンテナが3本	AT∗DANTE ∗DANTE:3 OK AT∗DANTE＝? ∗DANTE:(0-3) OK
AT∗DRPW	移動機の受信電力指標値を表示します。	−	AT∗DRPW ∗DRPW:0 OK AT∗DRPW=? ∗DRPW:(0-75) OK

■ AT コマンドの補足説明

■ 動作しないコマンド

次のコマンドは、エラーにはなりませんがコマンドの動作はしません。

- AT（AT のみの入力）
- ATT（トーン設定）
- ATP（パルス設定）
- ATS6（ダイヤルするまでのポーズ時間設定）
- ATS8（カンマダイヤルによるポーズ時間設定）
- ATS10（自動切断遅延時間設定）

■ コマンド名：+CGDCONT [M]

・概要

パケット発信時の接続先（APN）の設定を行います。
本コマンドは設定コマンドですが、&Wにより書き込まれる不揮発メモリには記憶されません。&F、Zによるリセットも行われません。

・書式

+CGDCONT=[<cid>[,"PPP"[,"<APN>"]]]

・パラメータ説明

パケット発信時の接続先（APN）を設定します。設定例は次のコマンド実行例を参照してください。

<cid>※　：1 ～10
<APN>※ ：任意

※：<cid>は、FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。FOMA端末では1 ～10 が登録できます。<cid>=1 にはmopera.ne.jpが初期値として登録されていますが、書き換えは可能です。
<APN>は、接続先を示す接続先ごとの任意の文字列です。

・パラメータを省略した場合の動作

+CGDCONT=　：すべての<cid>に対し初期値を設定します。
+CGDCONT=<cid>　：指定された<cid>を初期値に設定します。
+CGDCONT=?　：設定可能な値のリスト値を表示します。
+CGDCONT?　：現在の設定を表示します。

・コマンド実行例

abc というAPN名を登録する場合のコマンド（cid が3の場合）

```
AT+CGDCONT=3,"PPP","abc"
OK
```

■ コマンド名：+CGEQMIN=[パラメータ] [M]

・概要

PPPパケット通信確立時にネットワーク側から通知されるQoS（サービス品質）を許容するかどうかの判定基準値を登録します。
設定パターンは、次のコマンド実行例に記載されている4 パターンが設定できます。
本コマンドは設定コマンドですが、&Wにより書き込まれる不揮発メモリには記憶されません。&F、Zによるリセットも行われません。

・書式

+CGEQMIN=[<cid>[,,<Maximum bitrate UL>[,<Maximum bitrate DL>]]]

・パラメータ説明

<cid>※ ： 1 ～10
<Maximum bitrate UL>※ ： なし（初期値）または64
<Maximum bitrate DL>※ ： なし（初期値）または384

※：<cid>は、FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。FOMA端末では1～10が登録できます。<Maximum bitrate UL>および<Maximum bitrate DL>は、FOMA端末と基地局間の上りおよび下り最低通信速度[kbps] の設定です。なし（初期値）の場合はすべての速度を許容しますが、64および384を設定した場合はこれらの値以外での速度の接続は許容しないため、パケット通信がつながらない場合がありますのでご注意ください。

・パラメータを省略した場合の動作

+CGEQMIN= ： すべての<cid>に対し初期値を設定します。
+CGEQMIN=<cid> ： 指定された<cid>を初期値に設定します。

・コマンド実行例

次の4パターンのみ設定できます。（1）の設定が各cid に初期値として設定されています。

（1）上り/下りすべての速度を許容する場合のコマンド（cid が2の場合）
AT+CGEQMIN=2
OK
（2）上り64kbps/下り384kbpsの速度のみ許容する場合のコマンド（cid が3の場合）
AT+CGEQMIN=3,,64,384
OK
（3）上り64kbps/下りはすべての速度を許容する場合のコマンド（cid が4の場合）
AT+CGEQMIN=4,,64
OK
（4）上りすべての速度/下り384kbps の速度のみ許容する場合のコマンド（cid が5の場合）
AT+CGEQMIN=5,,,384
OK

■ コマンド名：+CGEQREQ=[パラメータ] [M]

・概要

PPP パケット通信の発信時にネットワークへ要求するQoS（サービス品質）を設定します。

設定は次のコマンド実行例に記載されている1パターンのみで初期値としても設定されています。

本コマンドは設定コマンドですが、&Wにより書き込まれる不揮発メモリには記憶されません。&F、Zによるリセットも行われません。

・書式

+CGEQREQ=[<cid>]

・パラメータ説明

<cid>※　：1 ～10

※：<cid>は、FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。FOMA端末では1～10が登録できます。

・パラメータを省略した場合の動作

+CGEQREQ=　　　：すべての<cid>に対し初期値を設定します。
+CGEQREQ=<cid>　：指定された<cid>を初期値に設定します。

・コマンド実行例

次の1パターンのみ設定できます。各cidに初期値として設定されています。

上り64kbps/下り384kbpsの速度で接続を要求する場合のコマンド（cidが3の場合）

AT+CGEQREQ=3
OK

モデムポートコマンドの設定値の保存について

AT＋CGDCONTコマンドによる接続先（APN）設定（P.428）、AT＋CGEQMIN／AT＋CGEQREQコマンドによるQoS設定、AT＊DGAPL／AT＊DGARL／AT＊DGANSMコマンドによる着信許可・拒否設定およびAT＊DGPIRコマンドによるパケット通信の番号通知／非通知の設定を除き、ATコマンドによる設定は、FOMA端末の電源OFF／ON時に初期化されてしまいますので、ご注意ください。なお、[&W]がついているコマンドについては、設定後に

AT&W ↵

と入力することにより保存できます。このとき、[&W]がついているほかの設定値も同時に保存されます。これらの値は、電源OFF／ON後であっても、

ATZ ↵

と入力することにより、設定値を呼び戻すことができます。

リザルトコード

■ データ通信に関するリザルトコード

数字表示	文字表示	意　味
0	OK	正常に実行しました。
1	CONNECT	相手と接続しました。
2	RING	着信が来ています。
3	NO CARRIER	回線が切断されました。
4	ERROR	コマンドを受け付けることができません。
5	NO DIALTONE	ダイヤルトーンの検出ができません。
6	BUSY	話中音の検出中です。
7	NO ANSWER	接続完了タイムアウト。
100	RESTRICTION	ネットワークが規制中です。
101	DELAYED	リダイヤル発信規制中です。

■ 拡張リザルトコード

数字表示	文字表示	意　味
5	CONNECT 1200	FOMA端末－PC間速度1,200bpsで接続しました。
10	CONNECT 2400	FOMA端末－PC間速度2,400bpsで接続しました。
11	CONNECT 4800	FOMA端末－PC間速度4,800bpsで接続しました。
13	CONNECT 7200	FOMA端末－PC間速度7,200bpsで接続しました。
12	CONNECT 9600	FOMA端末－PC間速度9,600bpsで接続しました。
15	CONNECT 14400	FOMA端末－PC間速度14,400bpsで接続しました。
16	CONNECT 19200	FOMA端末－PC間速度19,200bpsで接続しました。
17	CONNECT 38400	FOMA端末－PC間速度38,400bpsで接続しました。
18	CONNECT 57600	FOMA端末－PC間速度57,600bpsで接続しました。
19	CONNECT 115200	FOMA端末－PC間速度115,200bpsで接続しました。
20	CONNECT 230400	FOMA端末－PC間速度230,400bpsで接続しました。
21	CONNECT 460800	FOMA端末－PC間速度460,800bpsで接続しました。

■ 通信プロトコルリザルトコード

数字表示	文字表示	意　味
1	PPPoverUD	PPPoverUDで接続(BC=UDI、+CBST=116,1,0)
2	AV32K	AV(テレビ電話)[32K] で接続
3	AV64K	AV(テレビ電話)[64K] で接続
5	PACKET	PACKETで接続

おしらせ

- ATV *n*コマンド（P.454）が*n*=1に設定されている場合には文字表示形式（初期値）、*n*=0に設定されている場合には数字表示形式でリザルトコードが表示されます。
- 従来のRS-232Cで接続するモデムとの互換性を保つため通信速度の表示はしますが、FOMA端末ーPC間はUSB接続ケーブルで接続されているため、実際の接続速度と異なります。
- 「RESTRICTION」（数字表示：100）が表示された場合には、通信ネットワークが混雑しています。しばらくしてから接続し直してください。

リザルトコード表示例

■ **ATX0が設定されている場合**

AT\V *n*コマンド(P.455)の設定に関係なく接続完了の際にCONNECTのみの表示となります。

文字表示例 ：ATD＊99＊＊＊1#
CONNECT

数字表示例 ：ATD＊99＊＊＊1#
1

■ **ATX1が設定されている場合**

・ATX1、AT\V0が設定されている場合(初期値)
接続完了のときに、CONNECT <FOMA端末－PC間の速度>の書式で表示します。

文字表示例 ：ATD＊99＊＊＊1#
CONNECT 460800

数字表示例 ：ATD＊99＊＊＊1#
1　21

・ATX1、AT\V1が設定されている場合※
接続完了のときに、次の書式で表示します。
CONNECT <FOMA端末－PC間の速度> PACKET <接続先APN> / <上り方向(FOMA端末→無線基地局間)の最高速度> / <下り方向(FOMA端末←無線基地局間)の最高速度>
次の例は、mopera.ne.jpに、送信最大64kbps、受信最大384kbpsで接続したことを表します。

文字表示例 ：ATD＊99＊＊＊1#
CONNECT 460800 PACKET mopera.ne.jp /64/384

数字表示例 ：ATD＊99＊＊＊1#
1　21　5

※：ATX1、AT\V1を同時に設定した場合、ダイヤルアップ接続が正しく行えない場合があります。AT\V0だけでのご利用をおすすめします。

切断理由一覧

リクエストの内容に関する切断理由は、次の通りです。

■ パケット通信

値	理　　由
27	APNが存在しないか、もしくは正しくありません。
30	ネットワークより切断されました。
33	要求したサービスオプションは申し込まれていません。
36	正常に切断されました。

■ 64Kデータ通信

値	理　　由
1	指定した番号は存在しません。
16	正常に切断されました。
17	相手側が通信中のため、通信ができません。
18	発信しましたが、指定時間内に応答がありませんでした。
19	相手側が呼出中のため通信ができません。
21	相手側が通信を拒否しました。
63	ネットワークのサービスおよびオプションが有効ではありません。
65	提供されていない伝達能力を指定しました。
88	端末属性の異なる端末に発信したか、または着信を受けました。

miniSDリーダライタとして利用します

miniSDメモリーカードをFOMA端末に挿入した状態で、パソコンのminiSDリーダライタとして利用でき、miniSDメモリーカード内のデータを見ることができます。

USBモード設定	内容
通信モード	外部接続端子をパケット通信、64Kデータ通信、データの送受信（OBEX）用に使います。
miniSDモード	外部接続端子をminiSDメモリーカードのリードライト用に使います。FOMA端末からminiSDメモリーカードへのエクスポート／インポート、メモリ内のデータ表示、フォーマットなどはできません。

FOMA端末をminiSDリーダライタとして利用するためには、次の機器が必要です。

項目	説明
パソコン	・FOMA USB接続ケーブル（別売）が使用できるUSBポート（Universal Serial Bus Specification Rev1.1準拠）が使用可能なパソコン
対応OS	・Windows Me、Windows 2000、Windows XP（各日本語版）

お願い

・FOMA端末とパソコンの接続が正しくできているか十分に確認してください。正しく接続されていない場合、データの送受信ができないだけでなく、データが失われることがあります。
・FOMA端末の電池レベルがほとんど残っていない状態や電池切れの状態では、データの送受信ができないだけでなく、データが失われることがあります。FOMA端末の電池が十分残っていることを確認してください。また、パソコンの電源についても確認してください。
・パソコンからFOMA端末へデータをコピー中の着信/充電ランプが点滅している状態では、FOMA USB接続ケーブルを抜かないでください。データの送受信ができないだけでなく、データが失われることがあります。

FOMA端末をminiSDリーダライタとして使います

お買い上げ時 | 通信モード

●パソコン、FOMA端末のどちらでフォーマットしてもminiSDリーダライタとして利用できますが、FOMA端末からminiSDメモリーカードを利用する場合は、パソコンと接続しないでFOMA端末からフォーマットしないと、使用できません。
●本機能は、赤外線通信などのデータ送受信(OBEX)や、パソコンとFOMA端末を接続して行うデータ通信と同時に利用することはできません。
●デバイスドライバは、OS標準のものをご利用ください。

1 Menu ▶ 各種設定 ▶「その他」▶「USBモード設定」

2 「miniSDモード」を選ぶ

3 FOMA端末とパソコンを、FOMA USB接続ケーブルで接続する

「miniSDモード」中には「SD」がデータの送受信中には「」が表示されます。
パソコンのマイ コンピュータに、miniSDメモリーカードがストレージメモリとして表示されます。FOMA端末とminiSDメモリーカードの間でデータの送受信中には、パソコンにリーダライタとして認識されません。
取り付け方法→P.383

「miniSDモード」を解除する場合

FOMA USB接続ケーブルを外してから、「通信モード」に切り替えてください。
取り外し方法→P.384

おしらせ

● miniSDメモリーカードをFOMA端末からフォーマットするには、FOMA USB接続ケーブルを外し、「通信モード」に切り替えてから「miniSDフォーマット」(P.375)を行ってください。
●「miniSDモード」のまま、パソコンからminiSDメモリーカードをフォーマットすることもできますが、FOMA端末からは利用できなくなります。
● FOMA端末からminiSDメモリーカードのデータを参照したり、FOMA端末とminiSDメモリーカードの間でデータをやりとりしている間は、「miniSDモード」に切り替えできません。
●「長時間ムービー」で動画を撮影している間は、「miniSDモード」に切り替えできません。
● FOMA端末で認識できないデータを、miniSDメモリーカードに書き込んでも、FOMA端末から見ることはできません。

付録

データリンクソフトのご紹介

■データリンクソフトのご紹介

NECのインターネットホームページ「NECワイワイもばいる」からFOMA専用のデータリンクソフトをダウンロードしてご利用いただけます。

・NECモバイルホームページ

http://www.n-keitai.com/

「FOMA Nシリーズ　データリンクソフト」

（FOMA端末のインターネット機能ではダウンロードできません。ダウンロードするにはパソコンをお使いください。また使用料金は無料です。ダウンロード時に別途通信料が必要となります。）

・特長

電話帳、スケジュール、メール、メロディ、写真（静止画）、動画やiモーションなどのデータをパソコンとの間で送受信することができます。

・動作環境および注意事項

パソコンとの接続には「FOMA USB接続ケーブル（別売）」が必要となります。赤外線通信では使用できません。その他の動作環境・対応OSについては、データ通信の「動作環境について」（P.381）と同様となりますので、こちらを参照してください。

また、データリンクソフトは、データ転送にOBEX（Object Exchange）を使用しておりますので、「データの送受信（OBEX）」（P.352）も併せてご覧ください。

なお、iモード・iアプリにてダウンロードした情報は、著作権法によりデータリンクソフトでもFOMA端末外に転送することができません。また、FOMA端末外への出力が禁止されているデータも転送することができません。

■データリンクソフトに関するお問い合わせ

NEC（NECモバイルターミナル営業本部）
0120-102-001
受付時間：平日 午前 9：00～12：00 午後 1：00～5：00
（土・日・祝日・NEC所定の休日を除く）

用語一覧

本書で使用しております用語についてはこちらをご覧ください。

・**Administrator権限、コンピュータの管理者**

Windows 2000およびWindows XPのシステムのすべてにアクセスできる権限のことを指しています。Windows 2000、Windows XPの場合、この権限を持たないユーザーはシステムへのアクセスが限定されているため、ドライバのインストールができません。Windows 2000では、「Administrator権限」と呼びます。Windows XPでは、「コンピュータの管理者」または「Administrator権限」と呼びます。

・**APN**

Access Point Nameの略です。接続先のインターネットサービスプロバイダや企業内LANを識別します。「mopera.ne.jp」のような文字列で表します。

- **cid**
  FOMA端末にあらかじめ登録したAPNの登録番号です。FOMA端末では、1から10までの10件を登録できます。FOMA端末内の電話帳のメモリ番号に相当します。
- **DNS**
  Domain Name System(Service)の略です。「nttdocomo.co.jp」のような人間が理解しやすい名前を、コンピュータが管理しやすい数字で表したアドレスに変換するシステム、またはそのサービスのことです。
- **DPOF**
  Digital Print Order Formatの略です。画像のプリント枚数などの指定情報をminiSDメモリーカードに記録することができます。
- **IrDA**
  Infrared Data Associationの略です。赤外線を用いたデータ通信の規格の制定、促進を行う国際的な組織です。
- **IrMC**
  Ir Mobile Communicationsの略です。IrDA(Infrared Data Association)が定めた規格で、電話帳、スケジュール、メール、テキストメモ等のデータ交換方法が定められています。また、機器間の通信には、OBEX規格を使用することが規定されています。
- **QoS**
  Quality of Serviceの略でネットワークのサービス品質のことです。FOMA端末のパケット通信のQoS設定では、どんな速度でも接続するか、あるいは最高速度(上り64kbps、下り384kbps)のみ接続するかを設定できます(接続後の速度は可変します)。
- **USBストレージメモリ**
  USBコネクタに接続して使用する、持ち歩き可能な記憶媒体の総称です。
  携帯電話をUSBコネクタに接続してminiSDメモリーカードをストレージメモリとして使用することができます。
- **W-TCP**
  FOMAネットワークでパケット通信を行う際に、TCP/IPの伝送能力を最大限に生かすためのTCPパラメータです。FOMA端末の通信性能を最大限に活用するには、この通信設定が必要です。
- **書き換え**
  インターネットを通じてサーバと情報をやりとりするときに第三者が勝手に情報の内容を変えてしまうことです。
- **キャッシュ**
  表示したインターネットホームページなどのデータを一時的に記憶するFOMA端末内の場所です。
- **バイト**
  データ量を表すときの単位です。半角1文字分が1バイト、全角1文字分が2バイトとしてカウントされます。FOMA端末では、文字入力画面で入力できる残文字数をバイト数で表示します。バイトの単位には「K」(キロ)や「M」(メガ)なども使用され、1,024バイト=1Kバイト、1,024Kバイト=1Mバイトとなります。

フォトフレーム／マーカースタンプ一覧

■ フォトフレーム

スライムいっぱい！

シャーク

ハート

ウッドフレーム

バブル

■ マーカースタンプ

十字		ココ	
ハート1		1番	
ハート2		2番	
チュッ		3番	
涙		飲み会	
炎		マル	
稲妻		バツ	
ゴメン		人	
音符		車	
花		スヤスヤ	
LOVE		ハテナ	
怒り		ビックリ	
右		キラキラ	
下		渦	
左		パンチ	
上		鼻	

デコメールイメージ一覧

ありがとう

大漁

おめでとう！

ラブラブ

ばいばい

ごめんなさい

ブヒー！

また明日

ひよこ

ダンス

困ったときには

故障かな？と思ったら、まずチェック！

現象	チェックする箇所	参照ページ
メールを受信したときにメールに設定した着信音と違う着信音が鳴る メールを受信したときにメールに設定した着信イルミネーションの色と違う色で点滅する	●メールアドレスにメール着信音（またはメールイルミネーション）を設定した相手からのメールを受信したときは、そのメールアドレスに設定された着信音が鳴ります（またはイルミネーションが点滅します）。 ●グループにメール着信音（またはメールイルミネーション）を設定した相手からのメールを受信したときは、そのグループに設定された着信音が鳴ります（またはイルミネーションが点滅します）。 ●グループにもメールアドレスにもメール着信音（またはメールイルミネーション）を設定した相手からのメールを受信したときは、メールアドレスに設定された着信音が鳴ります（またはイルミネーションが点滅します）。 ●SMSの受信時は、電話帳の電話番号に設定されたメール着信音（またはメールイルミネーション）が有効となります。	基本編のP.120
	●複数のメールを受信したとき、最後に受信したメールがメールアドレスにメール着信音（またはメールイルミネーション）を設定している相手からのメールのときは、そのメールアドレスに設定されている着信音が鳴ります（またはイルミネーションが点滅します）。	－
	●メールの送信元のメールアドレス（受信メールの詳細画面に表示されるメールアドレス）を電話帳に正しく登録し、そのアドレスにメール着信音またはメールイルミネーションを設定していますか。 ●相手のメールアドレスが「電話番号@docomo.ne.jp」のときは、電話帳のメールアドレスには電話番号のみを登録し、そのメールアドレスにメール着信音またはメールイルミネーションを設定してください。	基本編のP.120
SMSを受信したときに電話帳に登録した名前が表示されない	●電話帳の電話番号欄（☎）に送信元の電話番号を正しく登録していますか。	基本編のP.108
メールが自動振り分けされない	●相手のメールアドレスが「電話番号@docomo.ne.jp」のときは、自動振分け設定には電話番号のみを登録してください。 ●相手のメールアドレスが「電話番号@docomo.ne.jp」以外のときは自動振分け設定にはドメイン名まですべて登録しないと振り分けされません。	P.203
メールを自動で受信しない	●メール設定の「メール選択受信設定」で「ON」を設定していませんか。「OFF」に設定してください。	P.224

現象	チェックする箇所	参照ページ
「フォント設定」で設定を変更しても、サイトや画面メモ、メッセージリクエスト／フリー、iモードメールの本文のフォントの太さが変更されない	●サイトや画面メモ、メッセージリクエスト／フリー、iモードメールの本文には「フォント設定」の「文字パターン」は反映されますが、「太さ」の設定は適用されません。	基本編のP.190
iモード、iモードメール、iアプリが使えない	●PIMロックを設定していませんか。	基本編のP.204
iモード、iモードメール、iアプリに接続できない	●「接続先選択」を「iモード」以外に設定していませんか。	P.128
	●iモードを途中からご契約いただいた場合は、FOMA端末の電源を一度切ってから、再度電源を入れ直してください。	－
メールを受信しても着信動作(着信音鳴動、バイブレータ、着信ランプの点灯)が行われない	●「メール／メッセージ鳴動」を「OFF」に設定していませんか。	P.233
	●「受信表示設定」を「操作優先」に設定していませんか。	P.224
送信したメールが送信BOXに残らない	●「Dimo 絵文字メール」のようなメール連動型iアプリのフォルダに「全件振分け」を設定していませんか。 メール連動型iアプリのフォルダを反転表示して機能メニューから「フォルダ内表示」を選んで確認してください。	P.206 P.207
受信したメールが受信BOXに残らず、「 」が消えない	●受信BOXの中の「Dimo 絵文字メール」のようなメール連動型iアプリのフォルダに「 」が表示されていませんか。またはメール連動型iアプリのフォルダに「全件振分け」を設定していませんか。 該当するメール連動型iアプリのフォルダを反転表示して機能メニューから「フォルダ内表示」を選んで確認してください。	P.68 P.182
内蔵カメラで撮影すると画像がちらつく	●室内で撮影する場合、蛍光灯などの影響で画面がちらつくことがあります。「画像チューニング」の設定を変更することにより、画面のちらつきを軽減することができる場合があります。	P.251 P.260
内蔵カメラで撮影した静止画や動画が白っぽくなる	●「画像チューニング」の設定を「モード1(50Hz地域)」または「モード2(60Hz地域)」に変更したまま屋外などの明るい場所で撮影していませんか。 「画像チューニング」の設定を「自動」に戻してください。	P.251 P.260
外側レンズを使用して内蔵カメラで撮影した静止画や動画がぼやけてしまう	●外側レンズのレンズ切替スイッチを通常撮影時は●(標準レンズ)に、接写撮影時は (マクロレンズ)に切り替えてください。	P.275
画像表示しようとすると「 」が表示される デモやプレビューで「 」が表示される	●画像データが壊れている場合は「 」が表示されることがあります。	－
ボタンを押したときの画面の反応が遅い	miniSDリーダライタ機能で容量の大きいデータをやり取りしたときに起こる場合があります。	－
チャンスキャプチャで撮影したときに撮影時間が短くなる	チャンスキャプチャの撮影時には、動画データとともに管理用データを保存するため、撮影可能な時間が短くなる場合があります。	－

エラーメッセージ一覧表

●操作中にエラーメッセージが表示された場合は、次の表を参考にして対処してください。
エラーメッセージは英数字、50音順に記載しています。
エラーメッセージの中の「(数字)」は、iモードセンターより送信されたエラーを区別するためのコードです。

●基本機能およびネットワークサービスに関するエラーメッセージについては『基本編』に記載しています。こちらも合わせてご覧ください。

エラーメッセージ	説明／対処方法	参照ページ
「FOMAカードが異なるため起動できませんでした」	●FOMAカード動作制限機能によって制限されているiアプリを自動起動しようとした場合に表示されます。	P.19
「FOMAカードが異なるためご利用できません」	●FOMAカード動作制限機能により保護されているデータのデスクトップアイコンを選んで実行しようとしたときに表示されます。 ●FOMAカード動作制限機能により保護されている画面メモ、メッセージリクエストまたはメッセージフリーを選んで実行しようとしたときに表示されます。	P.19
「FOMAカードが異なるため指定されたソフトが起動できませんでした」	●FOMAカード動作制限機能によって制限されているiアプリを指定して起動しようとした場合に表示されます。	P.19
「FOMAカードのSMSがいっぱいになりました」	●FOMAカードがいっぱいになり、これ以上FOMAカードにSMSを保存することができません。保存したいときは「」が消えるまで、FOMAカード内の不要なSMSを削除してください。	P.212
「FOMAカード読み込み中です起動できません」	●FOMAカードを読み込み中にFOMAカードに関係した操作をしようとしたときに表示されます。しばらくたってから操作し直してください。	基本編のP.130
「FOMAカードを挿入してください」	●FOMAカードが正しく差し込まれていないか、破損している可能性があるときに表示されます。FOMAカードが正しく差し込まれているかご確認ください。	基本編のP.51
「iアプリTo設定されていません」	●サイト、メール、赤外線通信機能、バーコードリーダーからソフトを起動しようとしたときに、指定されたソフトが連携許可されていないため、起動できません。	P.77 P.226
「iモーション再生サイズを超えています」	●標準タイプのiモーションを取り込むときに、iモーションのサイズが300Kバイトを超えているため取り込みができない場合に表示されます。 ●iモードメールに添付されたiモーションが100Kバイトを超えているため取り込みができない場合に表示されます。	P.119
「iモーション再生サイズを超えました」	●標準タイプのiモーションを取り込むときに、iモーションのサイズが300Kバイトを超えているため取り込みが完了しなかった場合に表示されます。 ●iモードメールに添付されたiモーションが100Kバイトを超えているため取り込みができない場合に表示されます。	P.119
「iモーション最大サイズを超えています」	●ストリーミングタイプのiモーションを取り込むときに、iモーションのサイズが2Mバイトを超えているため取り込みができない場合に表示されます。	P.119

エラーメッセージ	説明／対処方法	参照ページ
「iモーション最大サイズを超えました」	●ストリーミングタイプのiモーションを取り込むときに、iモーションのサイズが2Mバイトを超えているため取り込みが完了しなかった場合に表示されます。	P.119
「iモード問い合わせがすべて無効に設定されています」	●「iモード問い合わせ設定」がすべて「問い合わせしない」に設定されているためiモード問い合わせができません。「iモード問い合わせ設定」で問い合わせる項目を指定してください。	P.127
「miniSDが挿入されていません」	●miniSDメモリーカードがFOMA端末に取り付けられていないか、正しく取り付けられていない可能性があります。miniSDメモリーカードをFOMA端末に正しく取り付けてください。	P.363
「miniSDの交換またはチェックディスクをおすすめします」	●miniSDメモリーカードのチェックディスクを行ってください。	P.376
「PIMロック設定中です」	●PIMロック設定中に、禁止されている操作をしようとしたときに表示されます。	基本編のP.204
「PINロック解除コードがロックされています」	●PINロック解除コードがロックされているときに、電源を入れたりFOMAカードに関係した操作をしようとしたときに表示されます。当社窓口までお問い合わせください。	基本編のP.198
「SSL通信が切断されました」	●SSL通信に対応したサイトやインターネットホームページに接続できなかったときに表示されます。再度接続し直してください。	―
「SSL通信が無効です」	●SSL通信の認証中にエラーが発生してSSL通信が切断されたときに表示されます。	―
「SSL通信が無効に設定されています」	●「証明書」の設定で「無効」にした証明書を受信したときに表示されます。証明書の内容を確認し、証明書を有効に設定してから再度接続し直してください。	P.130
「URLが長すぎて登録できません」	●URLが登録可能文字数を超えるため、ブックマークやホームURLへの登録ができません。	―
「URLが長すぎて貼り付けできません」	●URLが貼り付け可能文字数を超えるため、デスクトップアイコンの貼り付けやiモードメール作成ができません。	―
「URLに誤りがあります」	●URL入力や「ホームURL設定」のホームURL入力のとき、「http://」または「https://」以外ではじまるURLを入力したり、何も入力されていない状態で「OK」を選んだときに表示されます。URLを入力し直してください。	P.63
「応答がありませんでした(408)」	●サイトからの応答がなく、通信が中断されました。もう一度接続してみてください。	―
「画像に誤りがあり正しく動作しません」	●画像データに誤りがあるため、Flash画像を表示できなくなったときに表示されます。	―
「携帯電話情報を送信しますか？」	●サイトやインターネットホームページを閲覧中に表示されることがあります。「YES」を選ぶと、携帯電話情報が送信されます。送信したくないときは「NO」を選びます。送信される携帯電話情報は、お客様のFOMA端末の製造番号、FOMAカードの識別番号です。これらの情報はインターネットを経由してIP（情報サービス提供者）に送信されるため、場合によっては第三者に知得されることがあります。	P.44
「圏外です」	●サービスエリア外や電波が届かないところで、iモードのサービスを利用しようとしたときに表示されます。「Y.ıll」が表示されるところまで移動してiモードのサービスをご利用ください。	P.32

エラーメッセージ	説明／対処方法	参照ページ
「容量不足のためエクスポートできません」「容量不足のため保存できません」	●miniSDメモリーカード内のデータ容量がいっぱいです。miniSDメモリーカード内のデータを消去してからエクスポートし直してください。	P.374
「このiモーションは再生可能回数が終了しました」	●再生回数が終了したiモーションのデスクトップアイコンを選んで実行しようとしたときに表示されます。	−
「このiモーションは再生期限が切れました」	●再生期間または再生期限が終了したiモーションのデスクトップアイコンを選んで実行しようとしたときに表示されます。	−
「このiモーションを再生するためにはiモーションタイプ設定を変更してください」	●「iモーションタイプ設定」を「標準タイプ」に設定しているときに、ストリーミングタイプのiモーションを取り込もうとした場合に表示されます。	P.119
「このカードは使用できません」	●本FOMA端末に対応していないminiSDメモリーカードです。対応しているminiSDメモリーカードを使用してください。	P.357
「このカードは認識できません」	●本FOMA端末で使用できないFOMAカードが差し込まれている可能性があるときに表示されます。正しいFOMAカードが差し込まれているかご確認ください。	基本編のP.51
「このサイトとのSSL通信は無効です」	●書き換えられたSSL証明書を受信したときに表示されます。このサイトとはSSL通信できません。	−
「このサイトの安全性が確認できません　接続しますか？」	●サポート外のSSL証明書を受信したときに表示されます。接続するときは「YES」を選びます。接続しないときには「NO」を選びます。	P.46
「このサイトは安全でない可能性があります　接続しますか？」	●期限切れまたは有効期間前のSSLサーバ証明書を受信したときに表示されます。接続するときは「YES」を選びます。接続しないときには「NO」を選びます。	P.46
	●「時計設定」が行われていない場合にSSL通信に対応したサイトやインターネットのホームページに接続しようとしたときに表示されます。「時計設定」を行ってください。	基本編のP.65
「この接続先の安全性が確認できません　接続しますか？」	●端末内のSSLルート証明書が期限切れの場合に表示されます。接続するときは「YES」を選びます。接続しないときには「NO」を選びます。	P.46
	●「時計設定」が行われていない場合に、SSL通信に対応したサイトやインターネットホームページに接続しようとしたときに表示されます。「時計設定」を行ってください。	基本編のP.65
	●SSL通信に対応したサイトやインターネットホームページに接続中に、クライアント証明書の送付要求があったときに表示されます。	P.50
「この接続先は安全でない可能性があります　接続しますか？」	●SSL証明書のCNが一致しないときに表示されます。接続するときは「YES」を選びます。接続しないときには「NO」を選びます。	P.47
「このデータは再生できない可能性があります」	●MP4（Mobile MP4）形式以外のiモーションを取り込んだときに表示されます。	−
「このデータを取得するためには時計設定をしてください」	●「時計設定」が行われていないときに、再生期限制限または再生期間制限付きのiモーションのデータを取得しようとした場合に表示されます。「時計設定」を行ってください。	基本編のP.65
「サービス未契約です」	●iモードをご契約いただいていないため、iモードのサービスをご利用になれません。iモードをご利用になるにはお申し込みが必要です。	−
「再生可能回数が終了しました　削除しますか？」	●再生回数が終了したiモーションを再生しようとしたときに表示されます。「YES」を選ぶと、そのiモーションは削除されます。	−

エラーメッセージ	説明／対処方法	参照ページ
「再生可能期限が切れたため再生できません」	●iモーションの再生可能期限または再生可能期間が過ぎているため再生できません。	－
「再生可能期限が切れました　削除しますか？」	●再生可能期間が過ぎているiモーションを再生しようとしたときに表示されます。「YES」を選ぶと、そのiモーションは削除されます。	－
「再生可能日前です　再生できません」	●再生期間が設定されているiモーションを、再生可能期間前に再生しようとしたときに表示されます。	－
「再生制限データに誤りがあるため取得できません」	●iモーションの再生制限データに誤りがあるために、このiモーションは取得できません。	－
「最大サイズを超えたため受信できません(452)」	●受信するデータが最大サイズを超えているため受信できない場合に表示されます。	－
「最大サイズを超えたので中断しました」	●サイトやインターネットホームページで受信したデータが１ページの最大サイズを超えたため、受信を中断し、取得したところまでのデータを表示します。 ●メロディやダウンロード辞書、キャラ電を取り込み中に最大サイズを超えた場合に表示されます。	－
「最大サイズを超えるため表示できません」	●iモードメールに添付された画像が表示可能サイズを超えているため表示することができません。	－
「サイトが移動しました(301)」	●サイトが移動したため、URLが変更されています。ブックマークやデスクトップアイコン、ホームURLに登録されている場合は登録し直してください。	P.53 P.60 基本編の P.170
「サイトに接続できませんでした(403)」	●何らかの原因でサイトに接続できませんでした。もう一度接続してみてください。	－
「削除される添付ファイルがあります」	●転送するiモードメールに、メールへの添付やFOMA端末外への出力が禁止されているファイルが添付されています。◉［選択］を押すと、ファイルが削除された状態でiモードメール編集画面が表示されます。	－
「作成可能サイズを超えるため一部削除されます」	●宛先、題名、本文のいずれか、または複数のデータが最大サイズを超えているため、超えた部分が削除されて新規メール作成画面が表示されます。	－
「指定サイトがみつかりません(404)」	●サイトが見つかりませんでした。サイトが存在しない可能性があります。	－
「指定サイトに表示データがありません(204)」	●接続したサイトなどに表示するデータがない場合に表示されます。	－
「指定されたiモーションがありません」	●削除された動画やiモーションのデスクトップアイコンを選んで実行しようとしたときに表示されます。	－
「指定されたイメージがありません」	●削除された画像のデスクトップアイコンを選んで実行しようとしたときに表示されます。	－
「指定されたキャラ電がありません」	●削除されたキャラ電のデスクトップアイコンを選んで実行しようとしたときに表示されます。	－
「指定されたソフトがありません」	●削除されたiアプリのソフトのデスクトップアイコンを選んで実行しようとしたときに表示されます。 ●メール、赤外線通信機能、バーコードリーダーからのiアプリ起動時に、該当するソフトがない場合に表示されます。	－
「指定されたソフトが起動できません」	●赤外線通信機能、バーコードリーダーからソフトを起動しようとした場合、指定したソフトが起動できなかったときに表示されます。	－
「指定されたソフトが起動できませんでした」	●サイト、メールからソフトを起動しようとした場合、指定したソフトが起動できなかったときに表示されます。	－
「指定されたメロディがありません」	●削除されたメロディのデスクトップアイコンを選んで実行しようとしたときに表示されます。	－

エラーメッセージ	説明／対処方法	参照ページ
「指定したサイトへは接続できませんでした(504)」	● 何らかの原因でサイトに接続できませんでした。もう一度接続してみてください。	－
「指定の宛先には送信できません」	● 宛先に「,」やスペースが含まれているため送信できません。「,」やスペースを削除してください。 ● 受信したメールのメールアドレスが半角50文字を超えるため、メールを返信することができません。 ● 宛先が20桁を超えるため、または数字と「#」「*」以外の文字およびスペースを含むためSMSを送信できません。数字または「#」「*」以外の文字やスペースを削除してください。	－
「指定発信制限設定中です」	● 指定発信制限設定中に、禁止されている操作をしようとしたときに表示されます。	基本編のP.141
「しばらくお待ちください」	● 発信規制中です。しばらくたってからiモードをご利用ください。	－
「すでに他の機能が起動中です　起動できません」 「すでに他の機能が起動中です　設定できません」	● ほかの機能が起動しているときに、利用できない操作をしようとしたときに表示されます。	－
「セキュリティエラーのためiアプリ待受画面を終了しました」 「セキュリティエラーのため終了しました」	● 許可されていない動作を実行しようとしたため、iアプリやiアプリ待受画面（iアプリDXを含む）が終了しました。	P.88 P.90
「セキュリティが設定されているため削除できません」	● 受信BOX／送信BOX全体またはメール連動型iアプリで利用しているフォルダにセキュリティがかかっているため、メール連動型iアプリを削除できません。メール連動型iアプリを削除する場合には、メールのセキュリティを解除してください。	P.219
「セキュリティ設定中のためダウンロードできません」	● 受信BOX／送信BOX全体またはメール連動型iアプリで利用しているフォルダにセキュリティがかかっているため、メール連動型iアプリをバージョンアップできません。メール連動型iアプリをバージョンアップする場合には、メールのセキュリティを解除してください。	P.219
（赤外線通信中に） 「接続相手が見つかりません　続けますか？」	● 接続相手を発見/認識できません。赤外線ポートを平行に置いてください。「YES」を選んで◉［選択］を押すともう一度やり直すことができます。	P.340
「接続が中断されました」	● 電波が弱いため、iモードが中断されました。電波の強い場所に移動してからiモードのサービスをご利用ください。	P.32
	● 電波が強く「」マークが表示されているのにこのメッセージが表示される場合には、接続したサイトなどが非常に混みあっています。しばらくたってから接続してください。	－
「接続できません」	● 接続先の設定が正しくないときに表示されます。iモード通信設定の「接続先選択」で接続先を正しく設定し直してください。	P.128
	● 何らかの原因でiモードに接続できませんでした。もう一度接続してみてください。	－
「設定時間内に接続できませんでした」	● 「接続待ち時間設定」で設定した接続待ち時間となったため、サイトへの接続、メールの送信などが中断されました。しばらくたってからサイトへの接続やメール送信などを行ってください。	P.126

エラーメッセージ	説明／対処方法	参照ページ
「セルフモード設定中です」	●セルフモード設定中に、禁止されている操作をしようとしたときに表示されます。	基本編のP.207
「送信できない宛先があります」	●複数の宛先にiモードメールを返信するときに、返信できない宛先がある場合に表示されます。	－
「そのソフトは最新です」	●ソフトが更新されていないためバージョンアップができません。	－
「ソフトに誤りがあります」	●ソフトのデータが不正のためダウンロードやバージョンアップができません。	－
「ソフトに誤りがあるためダウンロードできません」	●ソフトのデータが不正のためダウンロードやバージョンアップができません。	－
「ソフトに継続動作できない障害が発生しました」	●ソフト実行中に動作を継続できないエラーが発生したときに表示されます。	－
「対応機種ではありません」	●取得しようとしたソフトが本FOMA端末に対応していないため、ダウンロードできません。	－
「対応していないコンテンツがあります」	●バーコードリーダーで読み取った情報に、本FOMA端末で対応していないコンテンツが含まれているため認識できません。	－
「対応ソフトが削除されています　フォルダ内表示を参照してください」	●選んだメールフォルダに対応するメール連動型iアプリが削除されているため、ソフトを起動できません。機能メニューからフォルダ内のメールを参照してください。	P.141 P.143
「ダイヤル発信制限設定中です」	●ダイヤル発信制限設定中に、禁止されている操作をしようとしたときに表示されます。	基本編のP.205
「ダウンロードできませんでした」	●メロディ、キャラ電、ダウンロード辞書をダウンロードしたときに、通信エラーが起きた場合やデータ不正の場合などに表示されます。	－
「端末暗証番号が違います」 「端末暗証番号は4～8桁です」	●端末暗証番号の入力が必要な機能で、端末暗証番号を間違えたときに表示されます。正しい端末暗証番号を入力してください。端末暗証番号を万一お忘れになったときは、FOMA端末、およびご契約されたご本人であるかどうかが確認できるもの（運転免許証など）を、当社窓口までご持参いただくことが必要になります。	P.21
「通信が許可されていません」	●「通信設定」を「通信しない」に設定しているとき、ソフトのダウンロード時や起動時に表示されます。「通信設定」を「起動ごとに確認」または「通信する」に設定してください。	P.81
「通話中です　切り替えできません」	●通話中にタスクメニューを表示させ、利用できない機能を選んだときに表示されます。	－
「データ取得できませんでした」	●iモーションを取り込もうとしたときに通信エラーが起きた場合などに表示されます。	－
「デスクトップがいっぱいです」	●すでに待受画面にデスクトップアイコンが15件貼り付けられているときに、デスクトップアイコンを貼り付けようとした場合に表示されます。不要なデスクトップアイコンを削除してから貼り付けを行ってください。	基本編のP.175
「添付のファイルはiモードに送信できません」	●大容量画像を添付したメールはiモード端末に送信できません。	－
「添付ファイルが削除されます」	●受信したiモードメールを引用返信しようとしたときに、元のiモードメールに添付ファイルがある場合に表示されます。◉[選択]を押すと、添付ファイルが削除されます。	－
「添付ファイルを登録できません」	●赤外線通信、OBEX通信で登録できない添付ファイル付きメールを受信したときに表示されます。	－

エラーメッセージ	説明／対処方法	参照ページ
「時計設定を行ってください」	●「時計設定」の設定が行われていないときに、「時計設定」が行われていないと利用できない操作をしようとしたときに表示されます。「時計設定」の設定後、操作してください。	基本編のP.65
「入力データまたはURLが長すぎます」	●テキストボックスなどで入力した文字やURLなどの文字数が多すぎて送信することができません。文字数を減らしてから送信し直してください。	P.35
「入力データをご確認ください(205)」	●サイトやインターネットホームページで入力を行い送信した後に表示されます。◉[選択]を押すと入力した文字や設定が取り消されます(設定・入力した内容は送信されています。送信を取り消す操作ではありません)。	P.34
「認証タイプに未対応です(401)」	●認証できないときに表示されます。◉[選択]を押すと元のページに戻ります。	－
「認証を中止しました(401)」	●認証画面で「Cancel」ボタンを押したときに表示されます。	P.37
「パスワードをご確認ください(401)」	●「認証」や「再認証」の画面で認証できないときに表示されます。もう一度認証するときは、「YES」を選びます。	P.37
「非対応データのため取得できません」	●iモーション以外のデータや非対応のiモーションを取り込もうとしたときに表示されます。	－
「フォトが大きすぎるため作成できません」	●内蔵カメラの「フォトモード」で撮影を行い、機能メニューで「iモードメール作成」を選んだとき、その写真がメールに添付できるサイズを超えている場合に表示されます。	P.162
「編集中のため削除できません」	●保存BOXに保存されているメールを編集中に、そのメールを削除しようとしたときに表示されます。	－
「保存済みです」	●データ取得完了画面でiモーションを連続して保存しようとしたときに表示されます。	－
「保存メールがいっぱいです」	●保存メールがすでに10件あるため新規メールや新規SMSを作成することができません。保存メールを編集して送信するか、削除してから作成し直してください。	P.155 P.212
「本機で使用できるフォーマットがされていません」	●miniSDメモリーカードがフォーマットされていないなどの異常です。miniSDメモリーカードをフォーマットし直してください。	P.375
「本文編集できません」	●添付したファイルが全角5,000文字分のため本文の編集ができません。	P.162
「ムービーが大きすぎるため作成できません」	●内蔵カメラの「ムービーモード」で撮影を行い、機能メニューで「iモードメール作成」を選んだとき、その動画がメールに添付できるサイズを超えている場合に表示されます。	P.260
「無効なデータを受信しました(XXX)」 「無効なデータを受信しました」	●受信したデータにエラーがあるため表示できません。受信したデータは破棄されます。なお、"XXX"にエラーの内容を示す番号が表示されることがあります。	－
「メモリ不足です」	●メモリが不足したため、ソフトを実行できません。	－
「メモリ不足です　iモードメニューに戻ります」	●メモリが不足したため処理を中断します。◉[選択]を押すとiモードメニューに戻ります。	－
「メモリ不足です　送信プレビューに移り再編集してください」	●デコメールには最大10件の画像を挿入できますが、操作によっては画像を10件挿入できないことがあり、その場合に表示されます。「YES」を選んで送信プレビューを表示させ、◉[確定]を押して新規メール画面を表示させてから再度本文編集を行ってください。	－

エラーメッセージ	説明／対処方法	参照ページ
「文字数がオーバーします　作成可能サイズまで本文を削除してください」	●引用返信／転送するiモードメールの本文と冒頭文／署名／引用符の合計が全角5,000文字を超えるため冒頭文／署名／引用符を自動貼り付けできません。全角5,000文字以下になるまで本文を削除してください。	―
「文字数がオーバーするため署名を貼り付けできません」	●本文と署名の合計が全角5,000文字分を超えるため貼り付けできません。全角5,000文字以下になるまで本文を削除してください。	―
「文字数がオーバーするため冒頭文を貼り付けできません」	●本文と冒頭文の合計が全角5,000文字分を超えるため貼り付けできません。全角5,000文字以下になるまで本文を削除してください。	―
「ユーザ証明書がありません　継続しますか？」	●ユーザ証明書がダウンロードされていないため、FirstPass対応サイトが表示できません。	P.48
「ユーザ証明書の有効期限が切れています　継続しますか？」	●ユーザ証明書の有効期限が切れているため、FirstPass対応サイトが表示できません。	P.48
「ユーザ証明書を送信します　継続しますか？」	●ドコモCA証明書が無効化設定されているため、SSL対応サイトが表示できません。 ●CA証明書またはドコモCA証明書の有効期限が切れているため、SSL対応サイトが表示できません。	―
「容量がいっぱいです　空きがないためこれ以上受信できません」	●受信BOXがいっぱいで、iモードメールやSMSを受信できません。「 」が表示されなくなるまで不要になったメールを削除するか保護解除を行い、iモード問い合わせとSMS問い合わせを行ってください。	P.180 P.197 P.211 P.212
「容量不足のため取得できません」	●iモードメールに添付された動画／iモーションのデータ取得時に、受信BOXの空き容量がない場合に表示されます。不要になったメールを削除するか保護解除を行い、空き容量を増やしてください。	P.211 P.212
「書き込みできませんでした」 「読み込みできませんでした」	●何らかの原因でエクスポート／インポートすることができませんでした。新しいminiSDメモリーカードと交換してエクスポート／インポートし直してください。	―
「履歴表示OFF設定中です」	●「履歴表示設定」が「OFF」に設定されているため、受信アドレス一覧または送信アドレス一覧を利用することができません。「履歴表示設定」を「ON」に設定すると利用できます。	基本編のP.206

索引

マナーもいっしょに携帯しましょう

FOMA端末を使用する場合は、周囲の方の迷惑にならないように注意しましょう。

こんな場合は必ず電源を切りましょう

■ 使用禁止の場所にいる場合
携帯電話を使用してはいけない場所があります。以下の場所では、必ずFOMA端末の電源を切ってください。
・航空機内　・病院内
※医用電気機器を使用している方がいるのは病棟内だけではありません。ロビーや待合室などでも、必ず電源を切ってください。

■ 運転中の場合
FOMA端末を使用しながら運転すると、事故の原因になります。
※運転中、電源を切りたくない場合は、ドライブモードを設定してください。

■ 満員電車の中など、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着した方が近くにいる可能性がある場合
植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器に悪影響を与えるおそれがあります。

■ 劇場・映画館・美術館など公共の場所にいる場合
静かにすべき公共の場所でFOMA端末を使用すると、周囲の方への迷惑になります。

使用する場所や声・着信音の大きさに注意しましょう

■ レストランやホテルのロビーなどの静かな場所でFOMA端末を使用する場合は、声の大きさなどに気をつけましょう。

■ 街の中では、通行の妨げにならない場所で使用しましょう。

プライバシーを守りましょう

カメラ付き携帯電話を利用して撮影や画像送信を行う際は、プライバシー等にご配慮ください。

こんな機能が公共のマナーを守ります

かかってきた電話に応答しない設定や、FOMA端末から鳴る音をすべて消す設定など、便利な機能があります。

【マナーモード／オリジナルマナーモード】
ボタン確認音・着信音などFOMA端末から鳴る音を消します（マナーモード）。マナーモードに伝言メモ機能の有無の設定やバイブレータ・着信音の設定の変更もできます（オリジナルマナーモード）。

【ドライブモード】
電話をかけてきた相手に、運転中のため電話に出られないことを知らせるガイダンスを流し、電話を切ります。電話がかかってきても着信音が鳴らないので安全に運転できます。

【バイブレータ】
電話がかかってきたことを、振動で知らせます。

【伝言メモ機能】
電話に出られない場合に、電話をかけてきた相手の用件を録音します。
そのほかにも、留守番電話サービス（『基本編』のP.271）、転送でんわサービス（『基本編』のP.276）などのオプションサービスが利用できます。

マナーもいっしょに携帯しましょう。

◯公共の場所で携帯電話をご利用の際は、周囲の方への心くばりを忘れずに。

販売元　NTT DoCoMo グループ

株式会社NTTドコモ北海道
株式会社NTTドコモ
株式会社NTTドコモ北陸
株式会社NTTドコモ中国
株式会社NTTドコモ九州
株式会社NTTドコモ東北
株式会社NTTドコモ東海
株式会社NTTドコモ関西
株式会社NTTドコモ四国

製造元 日本電気株式会社

大豆油インキを
使用しています

Li-ion

環境保全のため、不要になった電池はNTT DoCoMoまたは代理店、
リサイクル協力店等にお持ちください。

'04.4（3版）
MDT-000049-JAA1